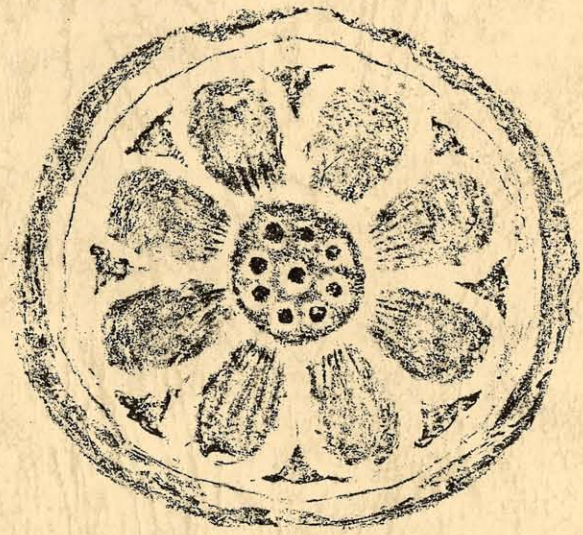
富山市埋蔵文化財調査報告125

富山市栃谷南遺跡
（とちだにみなみ）

発掘調査報告書Ⅲ



2002

富山市教育委員会

例　言

1．　本書は、富山市栃谷地内に所在する栃谷南遺跡の発掘調査報告書である。

2．　発掘調査は、個人住宅建設に伴うもので、平成10年度に富山市教育委員会が調査主体となって実施した。あわせて同年度に遺跡の広がりを確認する試掘確認調査を実施した。平成13年度には、市史跡となった栃谷南遺跡の保存を目的とした発掘調査及び試掘確認調査を実施した。

3．　本報告書は、平成10年度以降に行った発掘調査や試掘確認調査及び出土品整理を総括した調査報告書である。

4．　調査は、平成10年度は富山市教育委員会生涯学習課（課長 菊川順良）、平成11～13年度は富山市教育委員会埋蔵文化財センター（所長 藤田富士夫）が主体となり、国庫補助金・県費補助金を受けて実施した。

5．　調査にあたり文化庁記念物課、富山県教育委員会文化財課、富山県埋蔵文化財センター、(財)富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所から指導を得た。

6．　現地調査期間・面積・調査担当・出土品整理

〈平成10年度〉　発掘調査：平成10年４月２日～平成11年１月16日　600㎡
担当者：富山市教育委員会　生涯学習課　学芸員　鹿島昌也
同　原田幸子
試掘確認調査：平成11年２月22日～平成11年３月31日　320㎡（対象17,197㎡）
担当者：富山市教育委員会　生涯学習課　学芸員　鹿島昌也
〈平成11年度〉出土品整理：有限会社 山武考古学研究所へ委託（遺物実測、トレース）
監理：富山市教育委員会　埋蔵文化財センター　学芸員　鹿島昌也
〈平成12年度〉出土品整理：株式会社 上智へ委託（遺物実測、トレース）
監理：富山市教育委員会　埋蔵文化財センター　学芸員　鹿島昌也
〈平成13年度〉　発掘調査：平成13年11月19日～平成14年３月29日　50㎡
担当者：富山市教育委員会　埋蔵文化財センター　学芸員　鹿島昌也
嘱託　安達志津
試掘確認調査：平成13年12月26日～平成14年２月８日258.5㎡（対象16,857㎡）
担当者：富山市教育委員会　埋蔵文化財センター　学芸員　小林高範
同　小黒智久
嘱託　安達志津

7．　調査にあたっては土地所有者や地元栃谷自治会の協力と理解が得られ、平成11年７月富山市土地開発公社によって1,425㎡について公有化を行った。また同年12月に「栃谷南遺跡保存委員会」を設置し、遺跡の保存方法を検討し、遺跡保存の基本理念・基本構想が答申された。

8．　自然科学的分析調査はパリノサーヴェイ株式会社、株式会社吉田生物研究所に委託した。また、大谷女子大学教授三辻利一氏には須恵器等の胎土分析を行っていただき、さらに富山大学理学部（酒井英男教授）の協力を得て地中レーダ探査を実施した。その成果をⅢ章ⅳ）に掲載した。

9．　遺構記号は、溝跡：SD、土坑：SK、井戸：SE、柱穴：P、粘土採掘穴・竪穴状遺構：SXとする。

10．　出土品及び原図・写真類は、富山市教育委員会が保管している。

11．　本書の執筆（Ⅰ～Ⅲ章ⅱ、Ⅳ章）及び編集は、鹿島が行った。また、Ⅲ章ⅲ）附編・１は氷見市教育委員会廣瀬直樹氏から玉稿を賜り、附編・２を藤田が執筆した。

目　次

Ⅰ遺跡の位置と環境 …… 1

Ⅱ調査の経緯と経過 …… 4

ⅰ）９年度……4　ⅱ）10年度……4　ⅲ）11～12年度……4　ⅳ）遺跡保存に向けて……5

ⅴ）13年度……5

Ⅲ調査の概要 …… 6

ⅰ）平成10・11・13年度試掘確認調査区 …… 6

ⅱ）平成10・13年度発掘調査区 …… 9

1．調査概要 …… 9

2．遺構と遺物 …… 10

遺物観察表 …… 80

ⅲ）附編

1．口縁部計測法における栃谷南遺跡出土須恵器小考　廣瀬　直樹 …… 100

2．古代婦負郡の「郷」擬定と栃谷南遺跡の位置　藤田富士夫 …… 103

ⅳ）自然科学分析

1．高岡市周辺の遺跡から出土した須恵器・瓦の蛍光Ｘ線分析

大谷女子大学　三辻　利一 …… 109

2．栃谷南遺跡における地中レーダ探査　富山大学大学院人文学科　岸田　徹 …… 110

富山大学理学部　酒井　英男

3．栃谷南遺跡の自然科学分析(1)　パリノ・サーヴェイ株式会社 …… 112

4．栃谷南遺跡の自然科学分析(2)　パリノ・サーヴェイ株式会社 …… 120

5．栃谷南遺跡の透彫り品について　株式会社　吉田生物研究所 …… 122

Ⅳまとめ …… 124

写真図版 …… 132

Ⅰ　遺跡の位置と環境

栃谷南遺跡は、富山市の中心部から西へ約８kmの富山市栃谷地内に位置する。東に呉羽山丘陵、西に射水丘陵を望む境野新扇状地扇端部に形成された水田地帯のほぼ中央部に位置する。標高は約15ｍを測り富山湾からは8.5km距離に位置する。

調査地の西約700ｍの射水郡小杉町境には鍛治川が流れる。この河川は、富山市三熊付近に源を発し、北流して新湊市の放生津潟に注ぐ。鍛治川の名称は富山市中老田の真言宗乗福寺の縁起を記した伝本によれば、寺院創建の頃仏具を鋳造するため上流部で鉱床を掘削させたところ鍛冶屋が多数できた事によるとされている。富山市山本地内には県指定天然記念物「舟つなぎの椎の木」がある。また中老田地内の乗福寺境内北西の川縁に近世まで舟付場が存在し、現在でも「舟場」という屋号が残るなど鍛治川周辺が早くから開かれ、舟運による交通が盛んだったことをうかがわせている。

昭和44年から実施された古沢地区土地改良事業のため、現在では南から北に向って緩やかに傾斜する水田地帯となっているが、事業施工前の地形は射水丘陵東部から派生する尾根が南北に走り、その谷筋には、大小の池や堤が形成され、起伏に富んだ地形を呈していた。

周辺の呉羽山丘陵～射水丘陵一帯にかけては、県内で最も遺跡が集中する地域の一つに数えられる。

旧石器時代の遺跡は扇状地扇頂部に近い平岡遺跡や境野新遺跡、杉谷６７遺跡、向野池遺跡などがあり、東山型石刃技法によるナイフ形石器や瀬戸内系横長剥片剥離技法の石器が出土している。向野池遺跡で黒曜石製の細石刃核が採集され、中部高地系の細石刃文化の存在が始めて県内で確認された。

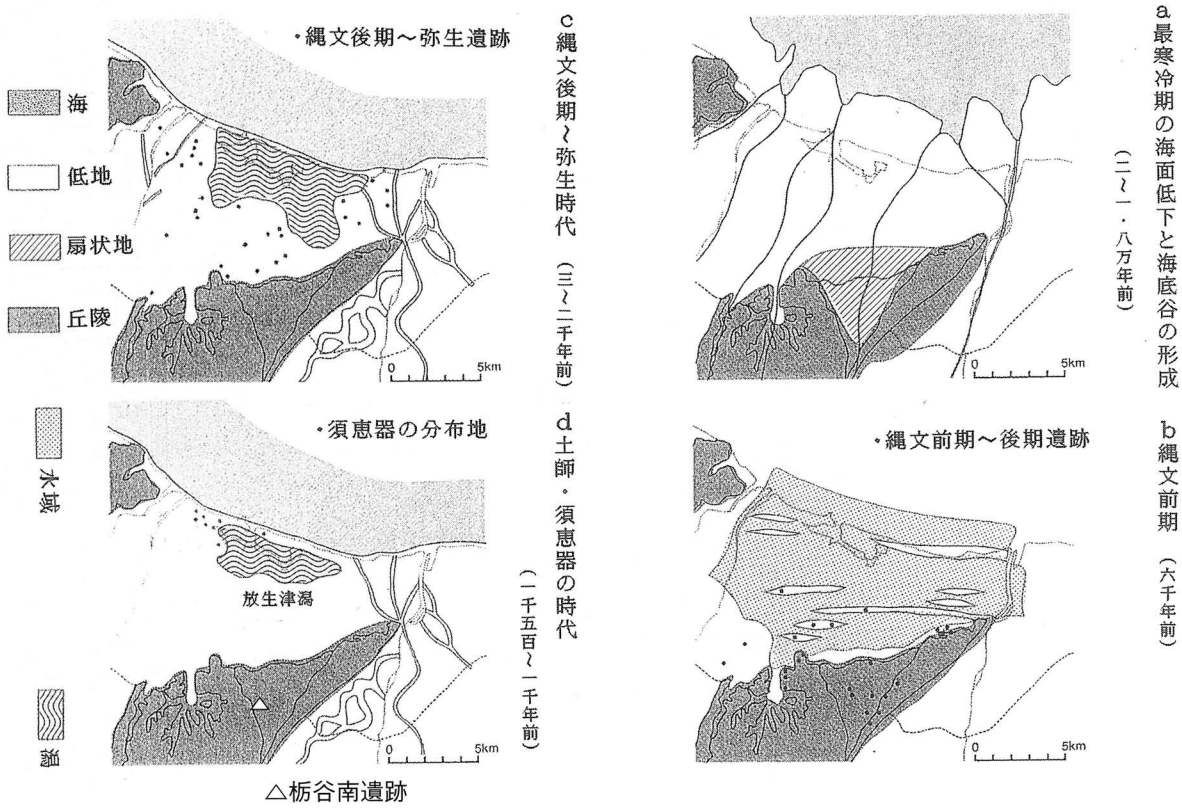
縄文時代前～後期には丘陵の各所に拠点的な集落が形成される。前～中期には平岡遺跡が、中期になると射水丘陵東部の開ヶ丘地内で竪穴住居群や落とし穴遺構などが確認されている（開ヶ丘中山Ⅲ遺跡、開ヶ丘狐谷Ⅱ遺跡など）。扇状地上には上堤池遺跡、北押川Ｂ遺跡、池多東遺跡などがあり、丘陵地を中心に縄文時代の集落形成が顕著であった。

弥生～古墳時代には、現在富山医科薬科大学の所在する杉谷丘陵上に杉谷Ａ遺跡の方形周溝墓群や杉谷四号古墳（四隅突出墳）をはじめとする杉谷古墳群が営まれ、山陰地域との地域間交流を物語る。杉谷古墳群の西に位置する境野新遺跡には古墳時代中期の竪穴住居が検出されており、古墳群との関連が注目される。呉羽山丘陵～婦中町羽根丘陵上には数多くの墳墓群が築造され、近年当地域に婦負王国の形成が提唱されるなど墳墓の被葬者を盟主とする勢力集団の存在をうかがわせる。当該期には呉羽山～羽根丘陵東麓の婦負郡婦中町地内に集落が形成され、婦中町千坊山遺跡や南部Ⅰ遺跡などがその母体集落と考えられている。一方、呉羽山丘陵尾根上には古沢塚山古墳が、丘陵東部には杉坂古墳群をはじめ、日本海側最北端に位置する横穴墓群である番神山横穴墓群や金屋陣ノ穴横穴墓群、呉羽山古墳などが築かれ古墳時代前期～後期まで継続した勢力集団の造墓が行われていた。

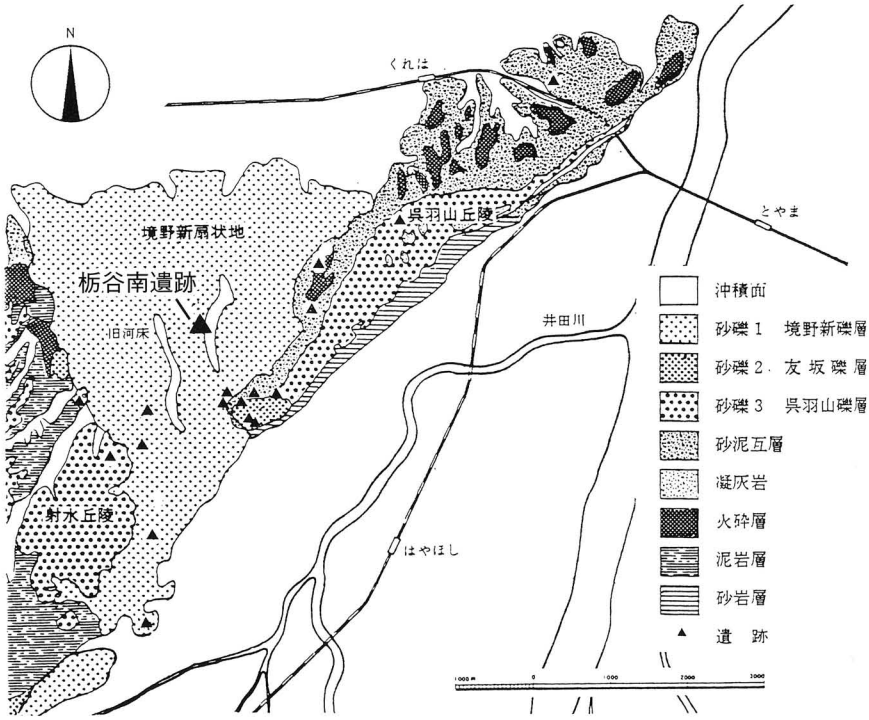
白鳳～奈良・平安時代にかけては呉羽山西麓～射水東部丘陵一帯で製陶・製炭・製鉄などの生産遺跡が形成される。豊富な山林資源を背景にした古代の一大コンビナート地帯としての役割を担っていた地域であった。中老田Ｃ遺跡では炭窯が複数基検出されており、出土した須恵器の胎土分析から栃谷南遺跡出土須恵器と酷似するデータが得られている。集落では、向野池遺跡では円形土台を有する瓦塔が製作されていた。開ヶ丘中遺跡では掘立柱建物や礎石建物跡、竪穴住居群が検出され、さらに瓦塔など仏教的色彩の強い遺物も出土し、仏堂（小規模な山寺）の周囲に工人集団の集落が営まれていたと想定されている。また、射水郡小杉町黒河尺目遺跡では、掘立柱建物の倉庫群が検出され、合わせて蛋白石の石帯も出土し、官衙的性格を有する遺跡として今後の調査成果が注目される。

第1図　栃谷南遺跡の位置と周辺の遺跡（1：50,000）

1栃谷南2栃谷3古沢窯4西金屋窯5西金屋B窯6金草第一古窯7センガリ山窯8古沢東窯9法尻窯10呉羽山丘陵古墳群11杉谷古墳群12杉谷A13杉谷14杉谷6715境野新16金屋南17安田城跡18友坂19向野池20北押川1号窯21北押川・墓ノ段22池多東23御坊山24平岡25平岡神社裏窯26平岡窯27新町Ⅱ28千坊山29砂子田Ⅰ30道場Ⅰ31中名Ⅱ32南部Ⅰ33富崎34富崎千里古墳群35鏡坂Ⅱ36王塚古墳37勅使塚古墳38三熊窯39三熊中山窯40三熊内山窯跡群41開ヶ丘中42開ヶ丘中山Ⅳ43開ヶ丘四方ノ池窯44開ヶ丘中山窯45上堤池46ガメ山47山本藤ノ木窯48三熊北Ⅲ49室住池Ⅰ50石太郎Ⅰ51天池B52黒河尺目53中老田Ⅳ54針原西55中老田C56東老田Ⅰ57針原東58西二俣59白石60吉作1号窯



第2図　射水平野の古地理変遷（2000藤井昭二『大地の記憶』桂書房から、一部改変）



第3図　呉羽山丘陵周辺の表層地質と遺跡の分布（1：10万,1987『富山市史　通史』上巻から）

Ⅱ　調査の経緯と経過

ⅰ）平成９年度

平成９年３月に個人住宅建設に先立ち、埋蔵文化財の所在確認依頼書が富山市教育委員会（以下「市教委」と略す）に提出された。市教委では、建築予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地の栃谷南遺跡（市№283）の範囲内にあることから、同年４月に1,000㎡を対象に試掘確認調査を実施した。その結果対象地区全域に遺跡の所在を確認した。調査では須恵器・土師器・瓦類の他、焼土に混じり焼成に失敗し歪んだり溶着した須恵器が多数出土したことから、生産に関わる遺構の所在が推測された。しかし、調査地周辺はほ場整備により既に平坦な水田地帯に整地されており、窯業生産に伴う灰原の一部が残存していると推定された。その後、施主との協議を重ね、平成10年４月から住宅・車庫・納屋建築予定範囲600㎡を対象に発掘調査に着手することとした。

ⅱ）平成10年度

前年度の試掘結果を基に表土排土を行ったところ、試掘確認調査で灰原と推定していた層は遺物包含層の一部と判明した。膨大な遺物の出土があり包含層除去だけで２ヶ月間を要した。その後、調査区のほぼ中央を南北に旧谷地形が縦断していることや谷の西斜面に２基の窯跡・柱穴群、谷の東側には井戸跡や多数の粘土採掘遺構の所在を確認した。このため発掘調査期間を平成11年１月迄延長した。

発掘調査では、須恵器・土師器のほかに製鉄関連の遺物など整理箱2,000箱にのぼる遺物が出土した。中でも200点以上の軒丸瓦の出土があり注目された。出土した瓦類は、２基の窯跡の初期の段階で焼成されていたことが確認された。これまでに同笵型式が確認されていない瓦は未確認の寺院や公的施設への供給が推測された。あわせて古代仏教関連遺物が出土し、古代越中における窯業生産の歴史や仏教文化の浸透の様相を解明する上で重要な遺跡であることが明かになってきた。

なお、平成10年度調査区について、市教委ではその重要性を考慮し、市単独事業として公有化を図ることとした。同年11月に土地所有者及び地元への説明を行い幸いにも理解を得ることができた。

それまでは記録保存のための発掘調査を行ってきたが、同時点から保存のための遺構のデータを得るための調査に切り替えて調査を継続した。特に重要な窯跡について、遺構型取りを行い、土層断面の剥ぎ取りを行った。また、２号窯の灰原の一部の土層剥ぎ取りも行った。調査は、積雪前の１月５日をもって終了し、遺構保護のための埋め戻しを行った。そのため遺構によっては、特に灰原や粘土採掘穴などは断割りによる遺構規模の確認に留まるものが多く、完掘していないものも存在する。

発掘調査の成果を受けて、市教委では遺跡の広がりを確認するため周辺一帯の試掘確認調査を行うこととし、土地所有者および地元自治会の全面的なご理解とご協力を得て、平成11年２～３月に発掘調査地の周囲約17,000㎡を対象に実施した。詳細はⅢ章ⅰ）で述べるが、発掘調査地北側に炭焼窯１基検出され、発掘調査地を含めた生産遺構地区2,500㎡を栃谷南遺跡Ａ地区とし、南北に延びる谷地形を挟んだ東側に検出された土坑などが所在する集落地区800㎡を栃谷南遺跡Ｂ地区として遺跡の南・東・西限を確定した。

ⅲ）平成11年度

平成11年５月、栃谷302－３番地の畑にて個人による農業用倉庫新築の計画があり、埋蔵文化財所在確認依頼の提出があった。これを受けて、35㎡を対象に同月31日に試掘確認調査を実施した。２本試掘トレンチを設定したうち、東側の１Tは谷状に落ち込む堆積を示したが、西側の１Tでは、黄灰色の地山面を確認でき、土坑やピットなどの遺構や須恵器・土師器などの遺物を検出した。（第８図）同地区は軽易な構造物建築工事のため、遺物・遺構が所在する深さまでの掘削を行わないことを前提

に慎重工事を指示した。当地区は平成13年度試掘で確認したＣ地区に含めている。

ⅳ）遺跡の保存に向けて

平成10年度の調査成果を受け、平成11年７月、遺跡の様相を知る上で重要な窯跡や灰原、粘土採掘穴群、井戸跡などが検出された地区1,425㎡について、予定されている開発工事から遺跡を保存することを目的に、土地所有者や地元自治会のご理解と承諾を得て本市用地課の協力のもと富山市土地開発公社による取得を行った。

同年12月には遺跡の保存方法を検討するための「栃谷南遺跡保存委員会」を設置し、平成12年度にかけて計4回の委員会を開催した。平成12年11月、栃谷南遺跡保存の基本理念および基本構想について答申を得た。

平成12年４月25日、市土地開発公社で取得した1,425㎡について富山市指定文化財（史跡）の指定を受けた。

また、出土品整理については、平成11～12年度にかけて出土した瓦・須恵器・土師器の図化、写真撮影について緊急地域雇用特別交付金を受け実施した。

栃谷南遺跡保存委員会委員名簿（敬称略）

坂井秀弥	（文化庁）	アドバイザー
林　清文	（富山県教育委員会）	アドバイザー
楠瀬　勝	（富山市文化財調査審議会）	委員長
小島俊彰	（金沢美術工芸大学）	副委員長
上原真人	（京都大学大学院）	委員
冨成哲也	（高槻市教育委員会）	委員
岸本雅敏	（富山県埋蔵文化財センター）	委員
西井龍儀	（富山考古学会）	委員
京田良志	（富山市文化財調査審議会）	委員
村藤政雄	（古沢自治振興会）	委員
北野久雄	（栃谷自治会）	委員

ⅴ）平成13年度

平成13年度は、栃谷南遺跡保存委員会で答申を得た遺跡保存の基本理念を受けて、窯跡の構造や焼成回数、自然科学的詳細なデータを得るための発掘調査及び遺跡北側への広がりを確認するための試掘確認調査を実施した。その結果、１号窯については、ほぼ同じ位置で４基の窯が規模を変えながら操業を行っていたことが判明した。また、試掘確認調査では、新たに３基の炭窯を検出し、遺跡の北限を確定することができた。これによって遺跡は、ほ場整備で尾根上部は一部削平を受けているものの南北に延びる谷に沿ってＡ地区（4,000㎡）・Ｂ地区（1,200㎡）・Ｃ地区（約600㎡）の３地区に遺構がまとまりを保って所在することが判明した（富山市教委2002）。

平成10～13年度にかけて行った発掘調査および試掘確認調査の成果については、これまで２冊の概要報告を刊行した。（富山市教委1999、2002）しかし、整理箱2,000箱以上、約20万点に及ぶ出土遺物については、期間等の関係で図や写真など掲載できていないものが多くあった。このため、本報告書はこれまでの調査を総括し、市単独事業として刊行することにした。

発掘調査や出土品整理、本報告作成に際し以下の方々から指導・助言・協力をいただいた。特に瓦の観察には上原真人、西川雄大、大脇潔、西井龍儀、久保智康の各氏、歴史考古学研究会、独立行政法人奈良文化財研究所から、須恵器の観察について望月精司、柿田祐司、廣瀬直樹の各氏、北陸古代土器研究会から多大な助言・協力を賜った。記して謝意を表します。

池野正男、上野章、宇野隆夫、小栗由希代、川崎晃、岸本雅敏、木立雅朗、京田良志、酒井清治、坂井秀弥、坂詰秀一、鈴木景二、関清、高橋浩二、出越茂和、橋本正春、藤原学、古岡英明、古澤陽子、保科齊彦、前川要、前田英雄、麻柄幸子、三辻利一、宮田進一、村藤政雄、森浩一、森隆、森郁夫、森内秀造、山口辰一、山本正敏、吉岡康暢、四柳嘉章の各氏（五十音順）、高岡市教育委員会

Ⅲ　調査の概要

ｉ）平成10・11・13年度試掘確認調査

平成10年度調査時に生産遺構地区（Ａ地区）、集落遺構地区（B地区）としてそれぞれ遺跡所在範囲を確認していた（第５図）。平成13年度試掘確認調査ではそれぞれの北側への広がりを確認し、新たにB地区の東側に集落地区（C地区）を検出した。平成11年度に農作業小屋建築に先立ち市道西側の畑地で遺構・遺物を検出し、これを含めてＣ地区を設定した（第４図）。

栃谷南遺跡ではA～C地区合わせて5,800㎡の遺跡所在範囲を確認した。

平成10年度には、発掘調査区に北接する現況宅地（庭地）で炭窯を１基検出した。Ｂ地区では、削平を受けているものの須恵器中甕や土師器が出土する土坑を検出した（第６・７図）。

平成11年度には、１Ｔで無遺物の谷地形を確認したが、２Ｔでは、須恵器・土師器の包含層および遺物を含む土坑を検出した（第８図）。

平成13年度には、11トレンチで表土直下に西から東へ傾斜する谷の斜面に３基の炭窯跡と考えられる炭や焼土を多く含む遺構を検出した。その南側のトレンチでは、掘立柱建物に伴うピットや土坑が検出された。遺物としては、瓦・須恵器・土師器・鉄滓が出土した。

Ａ地区

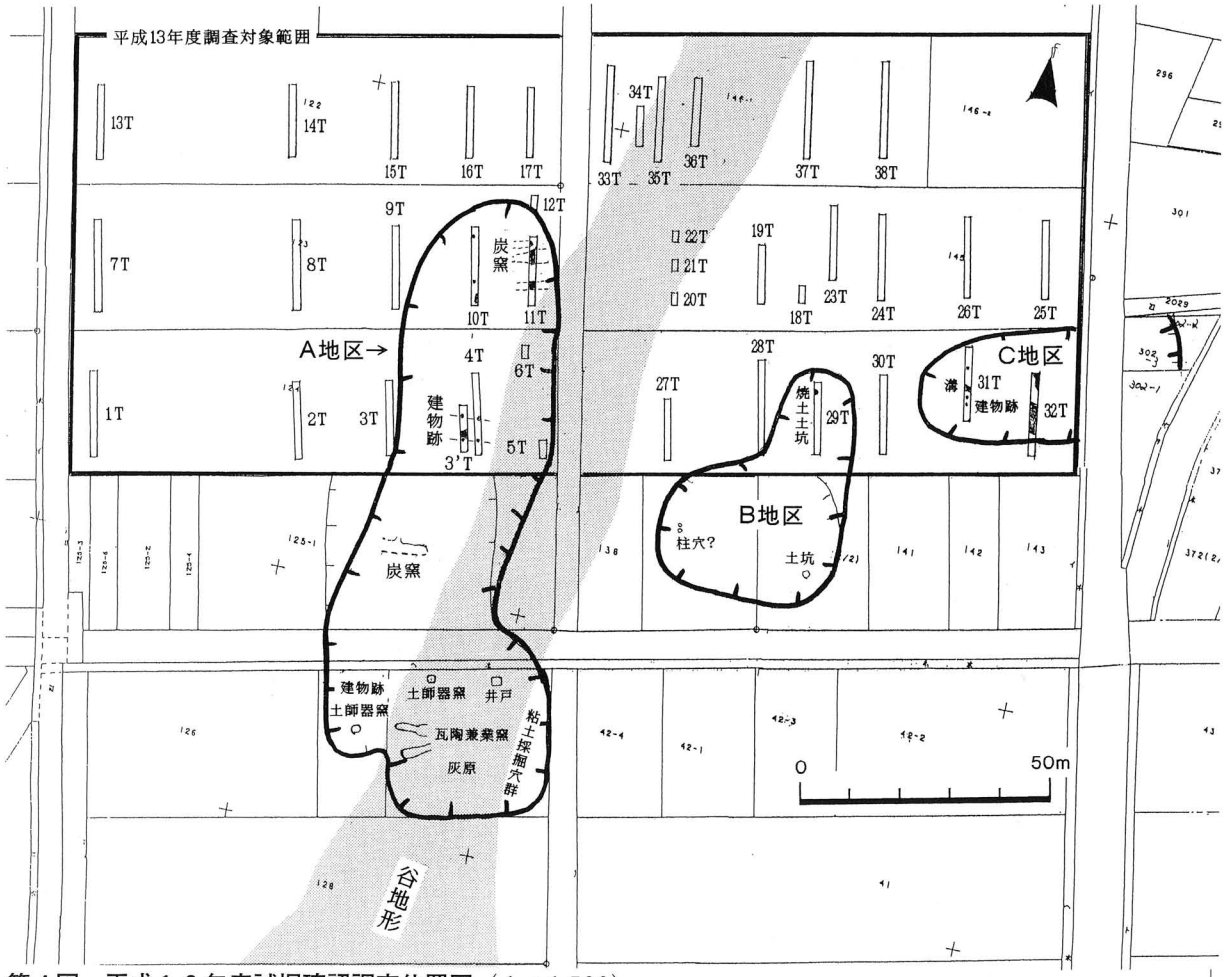
4,000㎡の遺跡所在範囲を確認した。窯業生産に関わる遺構を主体とする。

Ｂ地区

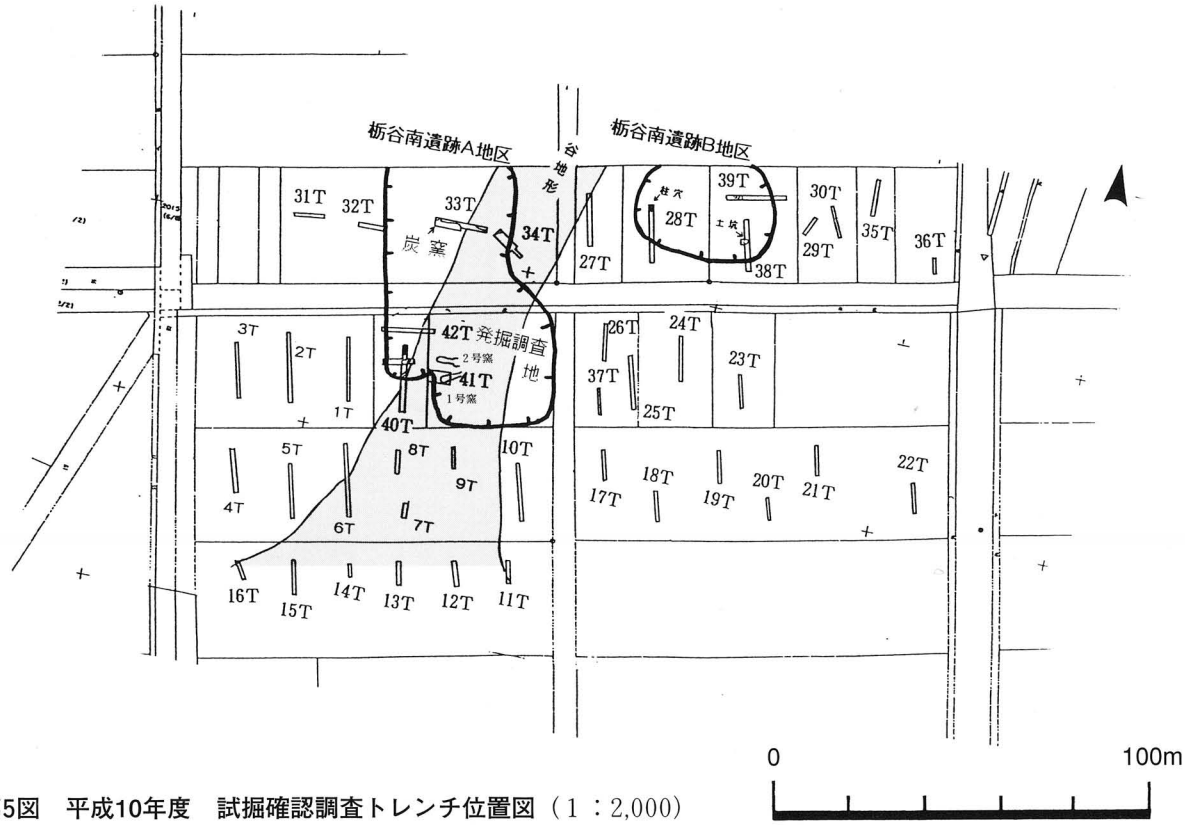
1,200㎡の遺跡所在範囲を確認した。29トレンチ北寄りに覆土に焼土や土師器を多く含む土坑を1基検出した。谷をはさんだ西側にほ場整備で削平を受けているものの遺構が部分的に残存する。窯業遺構に関連する集落が存在していたものと推測される。

Ｃ地区

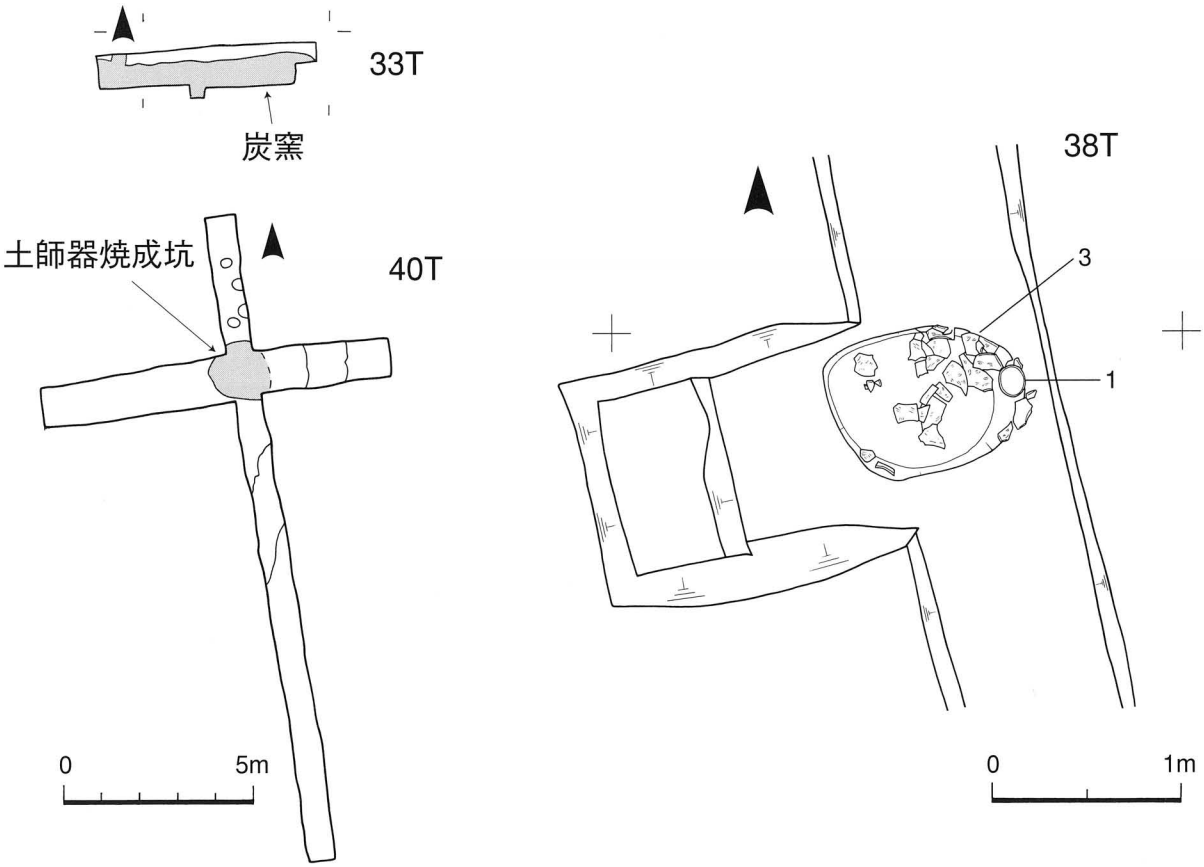
31・32トレンチで覆土中に土師器・須恵器を多量に含む溝跡を検出した。また、31トレンチには柱穴状の遺構が検出され、建物跡が想定される。



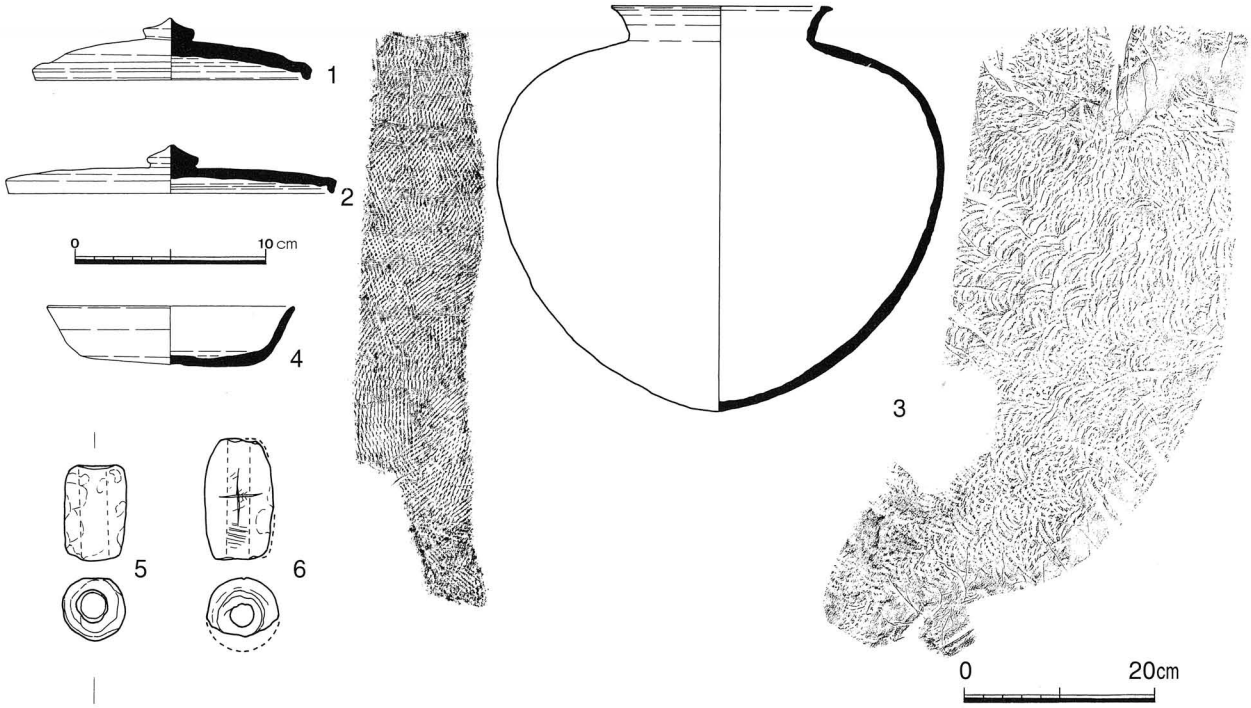
第４図　平成１３年度試掘確認調査位置図（１：1,500）



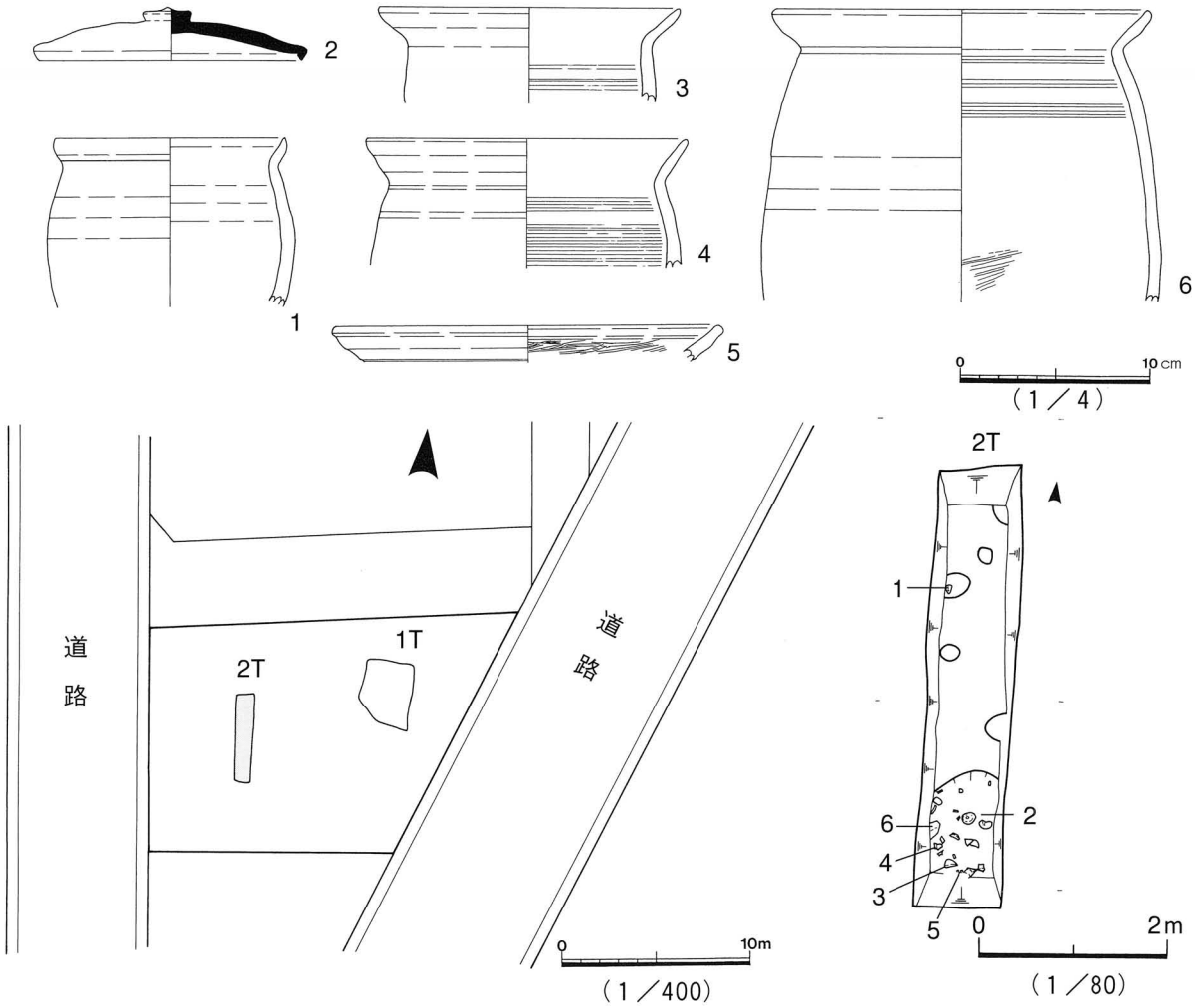
第5図　平成10年度　試掘確認調査トレンチ位置図（1：2,000）



第6図　33T・38T・40T　遺構・遺物検出状況（33T・40T＝1：200，38T＝1：40）



第7図　平成10年度試掘確認調査（S＝1／4　3：S＝1／8）



第8図　平成11年度試掘確認調査（C地区）遺構図・出土遺物実測図

ⅱ）平成10・13年度発掘調査区

1．調査概要

平成10・13年度あわせて650㎡の調査区を設定し、発掘調査を実施した。当地区では、南北に延びる谷地形を利用し、粘土採掘・瓦陶兼業窯による瓦や須恵器の生産・土師器焼成・鉄製錬を行っており、窯業生産地区であることが判明した。その一方で、生産地区であるにも関わらず、鐘状銅製品や透彫り製品など仏教関連遺物が出土し、瓦とともにその供給先が注目される。

(1) 調査の方法

調査区の座標は、公共座標を基準に設定した。最小グリッドは一辺１ｍとし、北西隅部における座標値の下２桁の数字をあてて位置を表記した（例：X76,277・Y－2,865→X＝77・Y＝－65）。

窯跡内の掘り下げは、土層断面の剥ぎ取りを実施するため、セクションベルトを残し掘削を行った。

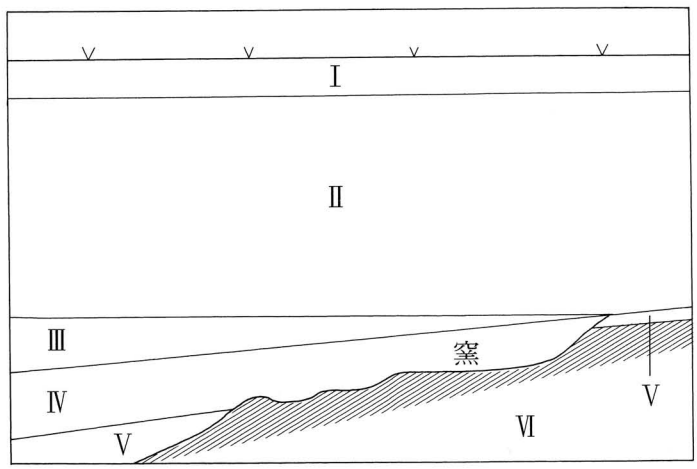
遺構内出土遺物は、可能な限り平面位置（X・Y）および高さ（Z）を記録して取り上げた。また、包含層・灰原など遺構外出土の遺物については、一辺１ｍの小グリッド単位で一括して取り上げた。灰原や遺構内で出土状況を図化したものについては、番号（No.）を付記して取り上げた。

(2) 調査区の設定

平成10年度発掘調査では調査着手時に調査区をＡ～Ｄ区の大区画に区切り、旧地形や遺構所在状況、灰原層位を把握するためにまず各区の境に南北及び東西方向に断割り坑を掘った。その際、区間に設定したセクションベルト（Ａ区とＢ区の間に設定したセクションベルトはＡ－Ｂベルトなど）分層時の各層に各区共通の通し番号を振り、各区内に設定した小区画（ａ区、灰ｅ区など）に用いた層名も地区間セクションベルトの層名に極力対応させるようにした。しかし、小区画内のセクションで大区画セクションに対応せず、新たに発生した層名には、そのセクション独自で通し番号を振っているものもある（ａ－ｂベルト２層、ｇ－ｆベルトなど）。

(3) 基本層序

調査区の層序は、上から水田耕作土（Ⅰ層）、旧水田耕作土（Ⅱ層）、遺物包含層（Ⅲ層）、灰原層（Ⅳ層）旧表土層（Ⅴ）、地山（Ⅵ層）の順となる。



第9図　基本層序模式図

Ⅰ層は暗褐色粘質土である。わずかに遺物を包含する。Ⅱ層はオリーブ白色粘土である。昭和40年代のほ場整備による整地層で黒褐色土をブロック状に含む。やや流れ込み、移動による遺物を含む。一部地山までほ場整備による掘削が及ぶ。Ⅲ層は黒褐色を基調とし、遺物を多く含む。Ⅳ層は黒褐色土及び暗灰褐色土密に入り、遺物を多量に含む層である。Ⅴ層は暗褐色土を呈し、遺物を殆ど含まない。ピットや土坑はこの層が遺構検出面となる。Ⅵ層はオリーブ白色あるいは黄白色を呈する粘土である。粘土下部は礫層で、粘土採掘穴は、同層まで掘り込み、礫層に至ると横へ掘り広げる傾向が見られる。

2．遺構と遺物

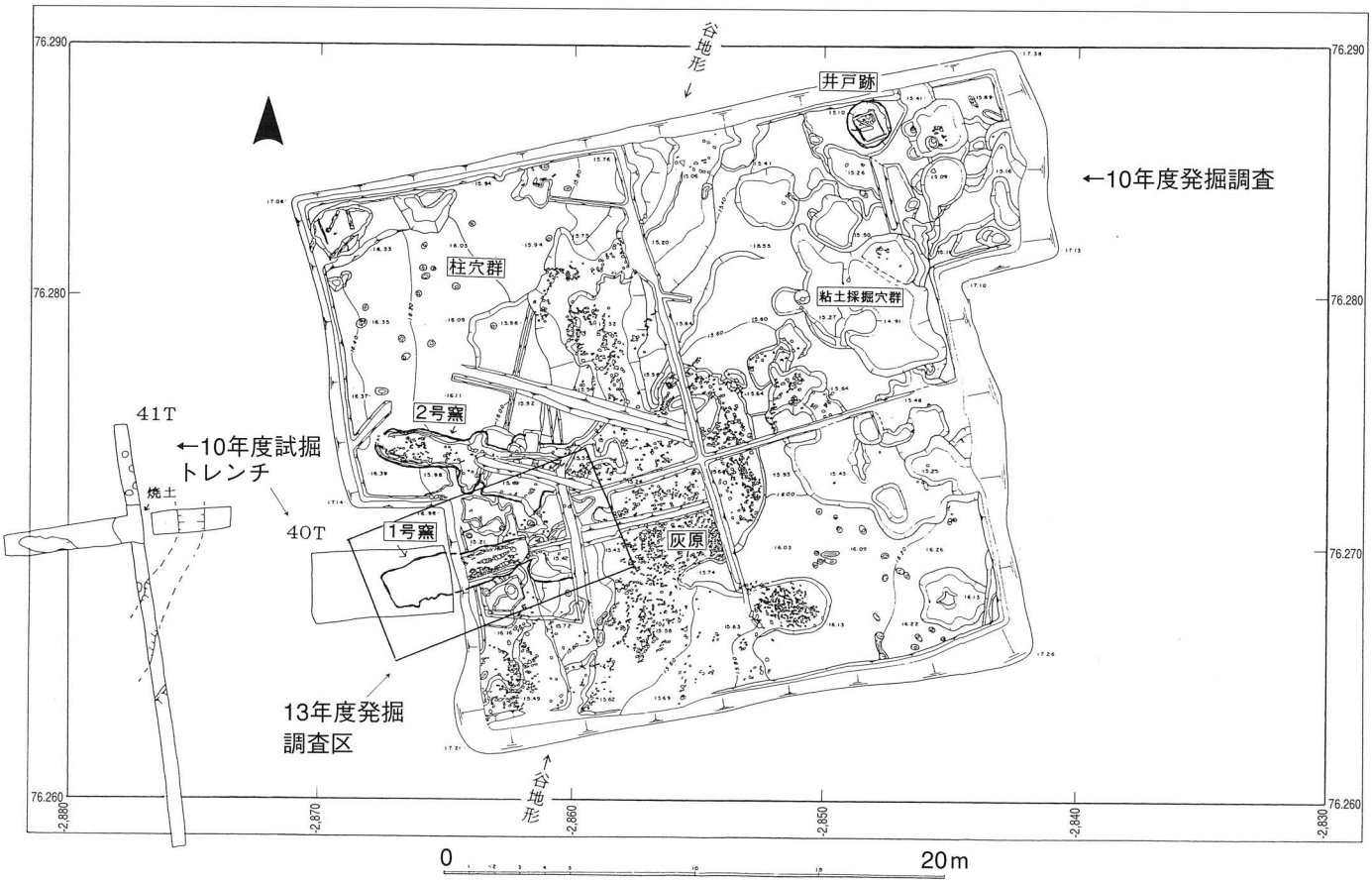
(1) 遺構

遺構には、瓦陶兼業窯２基（１号窯・２号窯）がある。他にＤ区灰原上に東西方向に窯壁の立ちあがりを検出した。検出位置で操業を行った窯であるかは不明であるものの、当該窯壁間の遺物については３号窯を設定し、取り上げを行った。

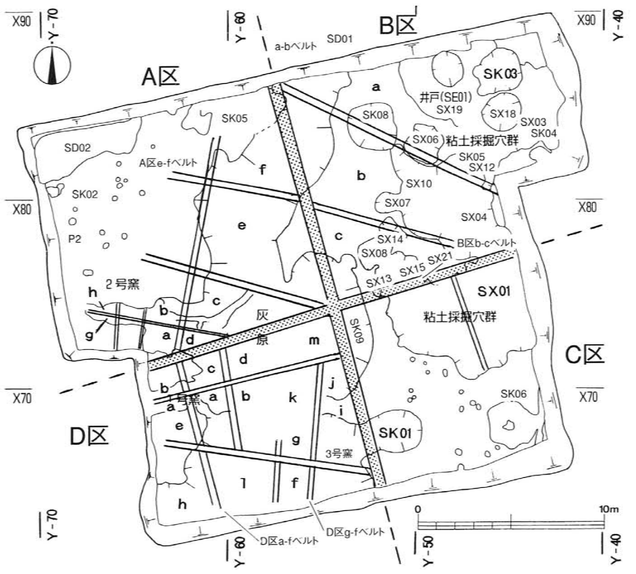
他に各窯の灰原、粘土採掘穴、横板井籠組井戸１基、小ピット群、土師器焼成遺構がある。

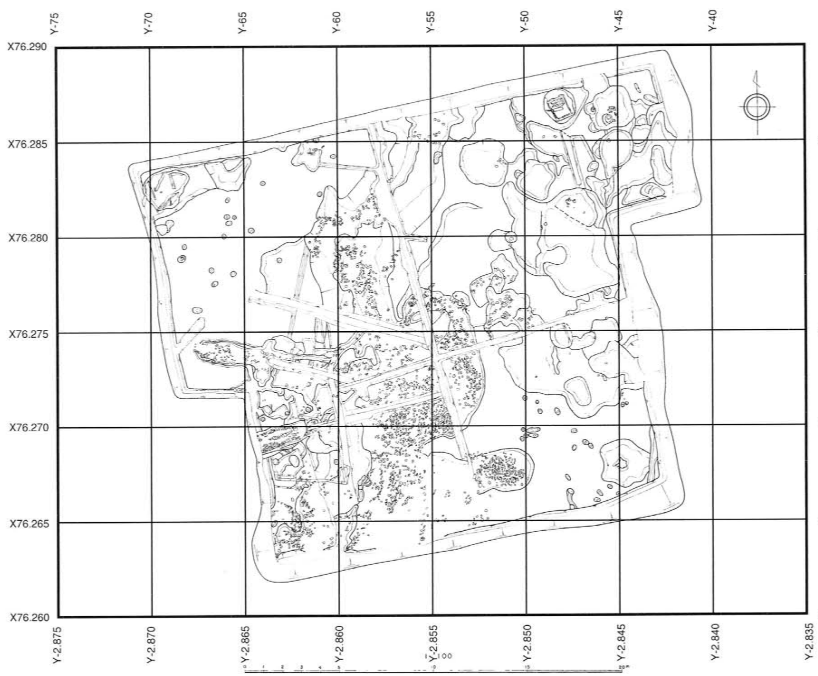
粘土採掘穴群については、遺構の重複・切り合いが著しく基数を正確に把握することができなかったが、概ね調査区内に30基程度存在しているものと推測する。小ピット群については建物規模などの全容は確認できていない。建物に伴う柱列を取らないものが多く、土器成形のためのロクロピットの可能性も想定される。

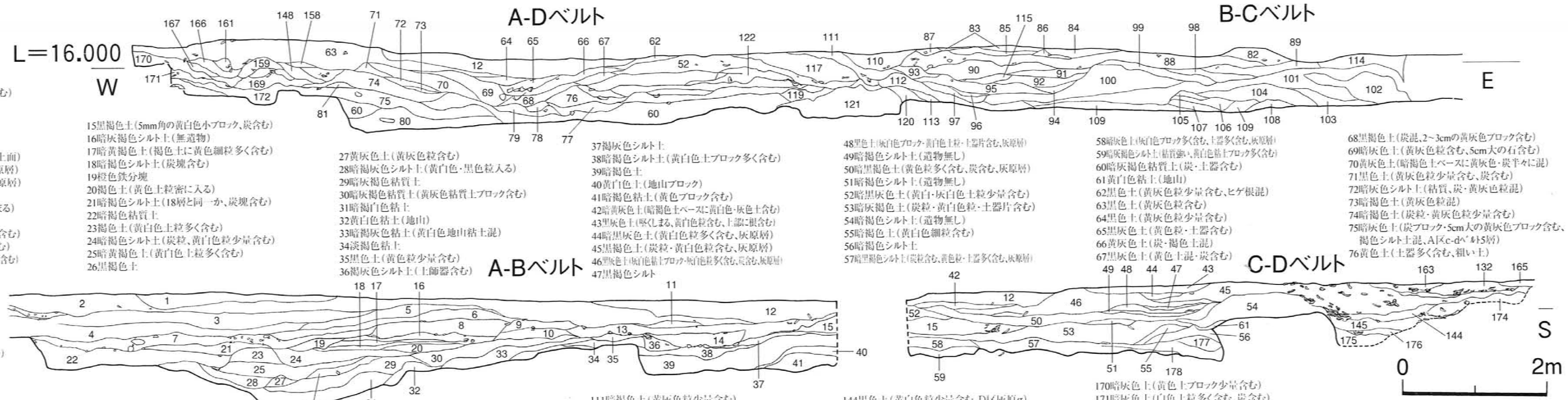
また、１号窯の前庭部付近から窯の軸に沿って窯壁外に柱穴を検出した。それらは窯尻まで至っていないことから、窯の下半部を覆う覆屋に伴う柱穴の可能性が高い。さらに、調査時には認識できていなかったが、調査区北部の谷の緩やかな西斜面に歪な円形を呈する焼土痕（SK05）を検出していた。また、41Ｔ（10年度）でも同様の焼土遺構を検出していた。これらは、後の調査で土師器焼成遺構である可能性が高くなったため、同遺構として扱うことにした。



第10図　栃谷南遺跡遺構平面図及び平成13年発掘調査位置図（1:300）







1黒褐色土(10cm角の黄灰色ブロック含む)
2黒色土(暗灰褐色土・根含む)
3黒褐色土
4黒色土(ボソボソ)
5黒色土(黄灰色土粒含む)
6黒色土(黄色粒・土器片含む、灰原層上面)
7暗褐色土(土器・窯覚等密に入る、灰原層)
8黒灰色土(黄色土粒・土器片多い、灰原層)
9暗褐色土(黄色土粒・土器含む)
10黒褐色シルト土(黄色土細粒入る、しまる)
11暗黄灰色土(灰原層)
12黒褐色土(灰白色粒多く入る、ヒゲ根含む)
13暗灰色土(黄色土粒多い、土器片含む)
14暗灰色土(13より大粒の黄色土粒入る、土器片含む)
15黒褐色土(5mm角の黄白色小ブロック、炭含む)
16暗灰褐色シルト土(無遺物)
17暗黄褐色土(褐色土に黄色細粒多く含む)
18暗褐色シルト土(炭塊含む)
19橙色鉄分塊
20褐色土(黄色土粒密に入る)
21暗褐色シルト土(18層と同一か、炭塊含む)
22暗褐色粘質土
23褐色土(黄白色土粒多く含む)
24暗褐色シルト土(炭粒、黄白色粒少量含む)
25暗黄褐色土(黄白色土粒多く含む)
26黒褐色土
27黄灰色土(黄灰色粒含む)
28暗褐灰色シルト土(黄白色・黒色粒入る)
29暗灰褐色粘質土
30暗灰褐色粘質土(黄灰色粘質土ブロック含む)
31暗褐白色粘土
32黄白色粘土(地山)
33暗褐灰色粘土(黄白色地山粘土混)
34淡褐色粘土
35黒色土(黄色粒少量含む)
36褐灰色シルト土(土師器含む)
37褐灰色シルト土
38暗褐色シルト土(黄白色土ブロック多く含む)
39暗褐色土
40黄白色土(地山ブロック)
41暗褐色粘土(黄色ブロック含む)
42暗黄灰色土(暗褐色土ベースに黄白色・灰色土含む)
43黒灰色土(堅くしまる、黄白色粒含む、上部に根含む)
44暗黒灰色土(黄白色粒多く含む、灰原層)
45黒褐色土(炭粒・黄白色粒含む、灰原層)
46黒灰色土(灰白色粘土ブロック・灰白色粒多く含む、炭含む、灰原層)
47黒褐色シルト
48黒色土(灰白色ブロック・黄白色土粒・土器片含む、灰原層)
49暗褐色シルト土(遺物無し)
50暗黒褐色土(黄色粒多く含む、炭含む、灰原層)
51暗褐色シルト土(遺物無し)
52暗黒灰色土(黄白・灰白色土粒少量含む)
53暗灰褐色土(炭粒・黄白色粒・土器片含む)
54暗褐色シルト土(遺物無し)
55暗褐色土(黄白色細粒含む)
56暗褐色シルト土
57暗黒褐色シルト土(炭粒含む、黄色粒・土器多く含む、灰原層)
58暗灰色土(灰白色ブロック多く含む、土器多く含む、灰原層)
59暗灰褐色シルト土(粘質強い、黄白色粘土ブロック多く含む)
60暗灰褐色粘質土(炭・土器含む)
61黄白色粘土(地山)
62黒色土(黄灰色粒少量含む、ヒゲ根混)
63黒色土(黄灰色粒含む)
64黒色土(黄灰色粒少量含む)
65黒灰色土(黄色粒・土器含む)
66黄灰色土(炭・褐色土混)
67黒灰色土(黄色土混・炭含む)
68黒褐色土(炭混、2~3cmの黄灰色ブロック含む)
69暗灰色土(黄灰色粒含む、5cm大の石含む)
70黄灰色土(暗褐色土ベースに黄灰色・炭半々に混)
71黒色土(黄灰色粒少量含む、炭含む)
72暗灰色シルト土(粘質、炭・黄灰色粒混)
73暗褐色土(黄灰色粒混)
74暗褐色土(炭粒・黄灰色粒少量含む)
75暗灰色土(炭ブロック・5cm大の黄灰色ブロック含む、褐色シルト土混、A区c-dベルト5層)
76黄色土(土器多く含む、粗い土)
77黒灰色土(黄灰色細粒、炭・土器含む)
78黄灰色土(炭含む)
79暗褐色土(炭多く含む)
80暗褐色粘質土(炭少量・土器含む)
81黒色土(炭混)
82黒色土(黄灰色粒少量混)
83黒色土(黄灰色粒混)
84黒灰色土(黄灰色粒含む)
85黒灰色土(84より粒子大きい黄灰色粒含む)
86黄灰色土(土器片含む)
87黄灰色土(土器片含む)
88黒色土(黄灰色粒含む、所々白色灰混)
89黒色土(黄灰色細粒含む、黄白色シルト土含む)
90黄灰色土(粗い土、土器混)
91黒褐色土(炭・黄灰色細粒混)
92黒色土(炭・黄白色粒少量混)
93黒褐色土
94暗褐色土(炭少量・黄白色粒混)
95黄白色シルト土(褐色土混)
96黒色土
97暗褐色土(黄白色シルト土一部含む)
98暗褐色土(黄白色シルト土混)
99暗褐色土(シルト土混)
100黒褐色土(黄灰色細粒僅かに含む)
101黄灰色シルト土(黒色土・暗褐色粘質土混)
102黒色土(所々黄色粒混)
103黒色土(シルト土混)
104暗褐色土(黄灰色細粒少量含む)
105暗褐色土
106黒色土(所々褐色土含む)
107黒色土(淡黄色土混)
108黄白色シルト土
109暗褐色土(黄白色シルト土混)
110黒色土(黄灰色細粒少量含む)
111暗褐色土(黄灰色粒少量含む)
112褐色土(黒色土・少量の黄白色シルト土含む)
113黒色土(黄白色シルト土混)
114暗褐色土(所々黄色粒混)
117黄灰色土(土器混、粒子粗い)
118黒色土(細礫、黄灰色粒含む)
119褐色シルト土(黒色土所々含む)
120黒色土
121暗褐色シルト土
122暗褐色土(黄灰色粒多く含む)
132黒褐色土(D区1号灰原b)
144黒色土(黄白色粒少量含む、D区灰原g)
145黒褐色土(白色シルト混、炭含む、D区灰原g)
148暗褐色土(黄白色粒少量含む)
158暗灰褐色土(灰原層)
159黒灰色土(灰原層、灰白色粒多く含む)
161黄灰色土(暗灰色土ベースに黄白色土粒多く含む)
163黒色土(粘土混)
165黒色土(白色粒・白色大ブロック多く含む)
166黒灰色土(灰原層、黄色土少量含む)
167黒灰色土(166より黄色土多く含む)
169暗褐色土(黄白色土ブロック・炭多く含む)
170暗灰色土(黄色土ブロック少量含む)
171暗灰色土(白色土粒多く含む、炭含む)
172暗灰褐色土(炭粒多く含む、黄色土粒含む)
174黒色土(灰原層)
175暗褐色シルト土
176黄褐色土(SK01黄色土と同一)

第11図　平成10年度発掘調査区遺構配置図・区割り図（1／400）・断割りセクションベルト土層図（1／100）

1）断割りセクションベルト

A－Bベルト（第11図）

A－Bベルトでは南北に延びる谷地形の最深部を検出した。谷はほぼ間層（無遺物層）が入ることなく、須恵器・土師器・瓦類を含む層が幾重にも堆積する状況を確認した。また、2号窯から派生する灰原層の一部も層位に検出した。さらに南寄りに粘土採掘穴SK09の北肩の地山掘り込み断面を検出した。

C－Dベルト（第11図）

C－Dベルトでは土坑（粘土採掘穴）内に焼成に失敗した土器が廃棄されたものが堆積した状況を確認した。恐らく、1号窯の焼成に伴うものと見られる。

A－Dベルト（第11図）

A－Dベルトでは1号窯及び2号窯双方の灰原堆積を検出した。また、南北に延びる谷地形を検出した。

B－Cベルト（第11図）

B－Cベルトでは粘土採掘穴（SX01、SX15など）内に焼成に失敗した土器を廃棄したものの堆積状況を確認した。

2）A区

A区には、2号窯およびその灰原、溝、ピット、土師器焼成遺構がある。

2号窯（瓦陶兼業窯・第12図)

2号窯は、1号窯の主軸に対して25°北に振って築かれている。窯体上部は後世の地形改変を受けたためか削平を受けている。窯壁も操業後抜き取られていたか窯体内の熱が上昇しなかったことにより、窯壁はほとんどが白色酸化状態で、僅かに灰色還元硬化壁面を残す。全長（残存長）4m、最大幅1.3mを計る半地下式無段登窯である。焼成部の床面傾斜角度は13～14度を測る。壁面の立ちあがりは、最大0.5mを測る。土層断面の観察から、1号窯同様窯の改造を行っていたことが推測される。上部が削平され不確定であるが最低1回の改窯を行っていたものと見られる。便宜上、Ⅰ期窯・Ⅱ期窯を設定した。それぞれの窯で複数次の操業回数が想定される。

2号窯について窯体内には須恵器のみが残存していた。しかし、窯体から派生する灰層の最下部付近から瓦片が数点出土した。このことから、2号窯についても初期の操業時に瓦を焼成していたと判断されるため、瓦陶兼業窯とした。窯体内は、窯上部については床面まで調査が及んだが、焚口及び前庭部付近については、未調査のまま地下保存されている。

①Ⅰ期窯

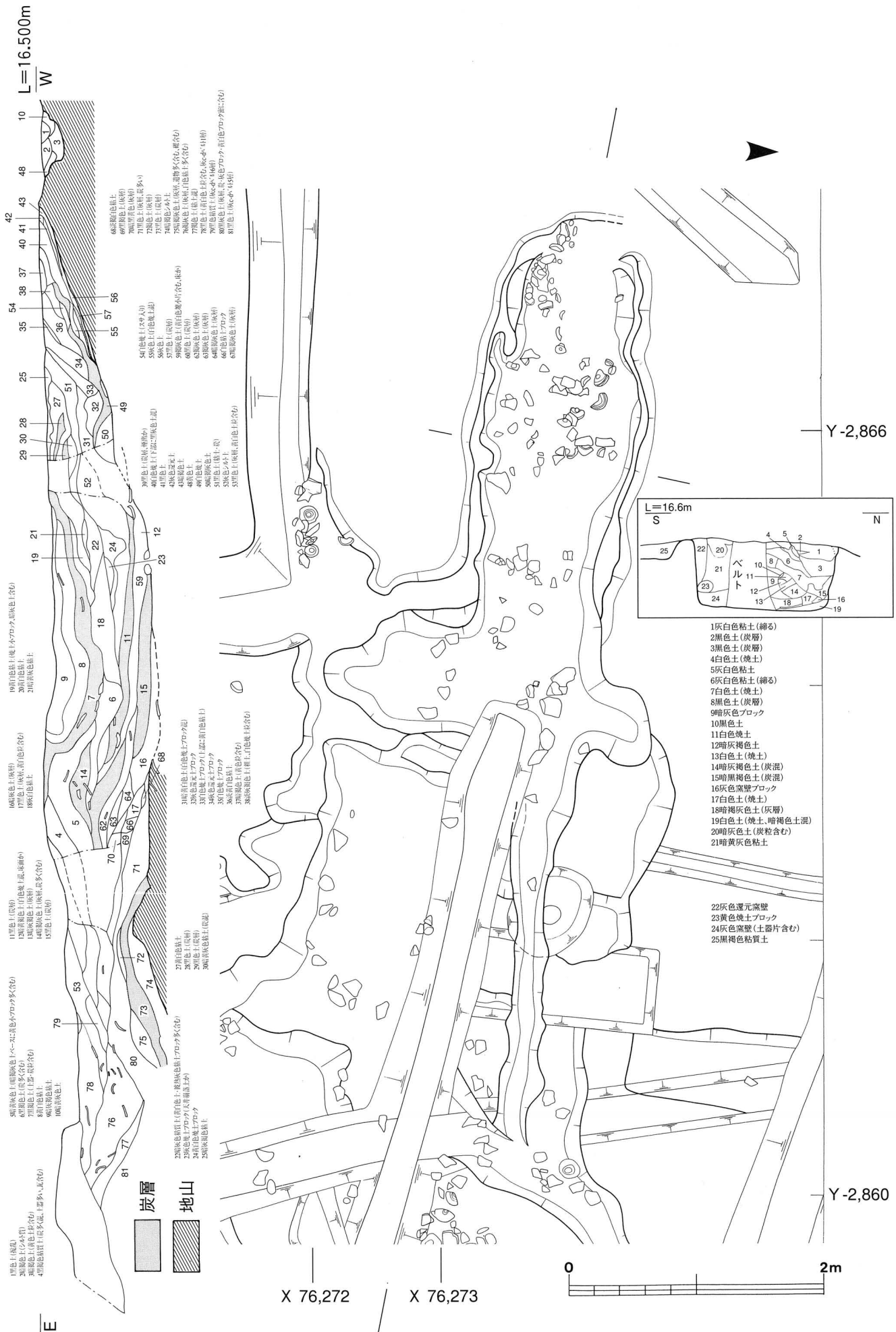
Ⅰ期窯は推定復原長6m、最大幅1.3mを測る半地下天井架構式無段登窯である。燃焼部に近い位置の北側壁面に窯体から連なる円形に突出した施設を検出した。通常炭窯の奥壁や側壁に付く煙出が考えられるが、県内の須恵器窯にはこれまで側壁に煙出が付く例は報告されていない。次期窯の煙出であるか否かも含めて検討を要する施設である。また、窯体内から谷方向へ地山粘土を掘り込んで排水溝が設けられていた。幅0.2～0.3m、深さ0.1mを測り、延長約2.6m分確認した。

②Ⅱ期窯

Ⅱ期窯は推定復原長4m、最大幅1.3mを測る。窯体上部はほ場整備による削平を受けている。

灰　原

2号窯から東に傾斜する谷地形がほぼ埋まるように焼成失敗品を廃棄した灰原が堆積している。



第12図　2号窯平面図及び土層断面図（1／40）

窯の主軸方向にほぼ合わせたセクションベルトを設定し、ａ～ｆの小区画を設け、それぞれに層名を付し図化や遺物の取り上げを行った。灰ｅ区では、扇状に黒色土混じりの灰層と黄色焼土が交互に面的に堆積する状況を確認でき、２号窯からやや離れるものの操業の単位を復原できる。

谷地形内に堆積した灰原で近接して１号窯が操業している為ｃ～ｆ区に付いては２号窯以外の混入品も想定される。Ⅰ期窯・Ⅱ期窯それぞれの操業回数や操業単位についての復原を、今後慎重に検討を行いたい。

溝

ＳＤ02　調査区北西の調査区西壁から谷方向へ伸びる溝である。ほ場整備による撹乱を受けており、正確な規模は不明である。長楕円径の土坑の可能性もある。溝の西端に不整形の掘りこみがあり、井戸枠の側材の残欠と見られる木材があったが、規模や時期は不明である。

土師器焼成遺構

ＳＸ05　X84・Y－61にある。不整円形の黄色焼土の輪郭が黒色に被熱を受けている。黄色焼土を除去したが掘りこみは殆ど確認できなかった。調査時点では、遺構の性格を想定できなかった。しかし、平成10年度試掘確認調査の40Ｔで類似する遺構が検出され、窯場に併設されていること、周辺から土師器片が出土することから、土師器焼成遺構と推定した。

３）Ｂ区

Ｂ区には、井戸1基、粘土採掘穴多数がある。

井戸

ＳＥ01　X86Y－48にある。横板井籠組の側板を持つ。直径約1.7ｍの掘方を呈し、深さは1.0ｍを測る。側板の一辺は約1.0ｍ。遺物は、側板北辺の掘方埋土中から須恵器甕体部片が１点出土した。

粘土採掘穴

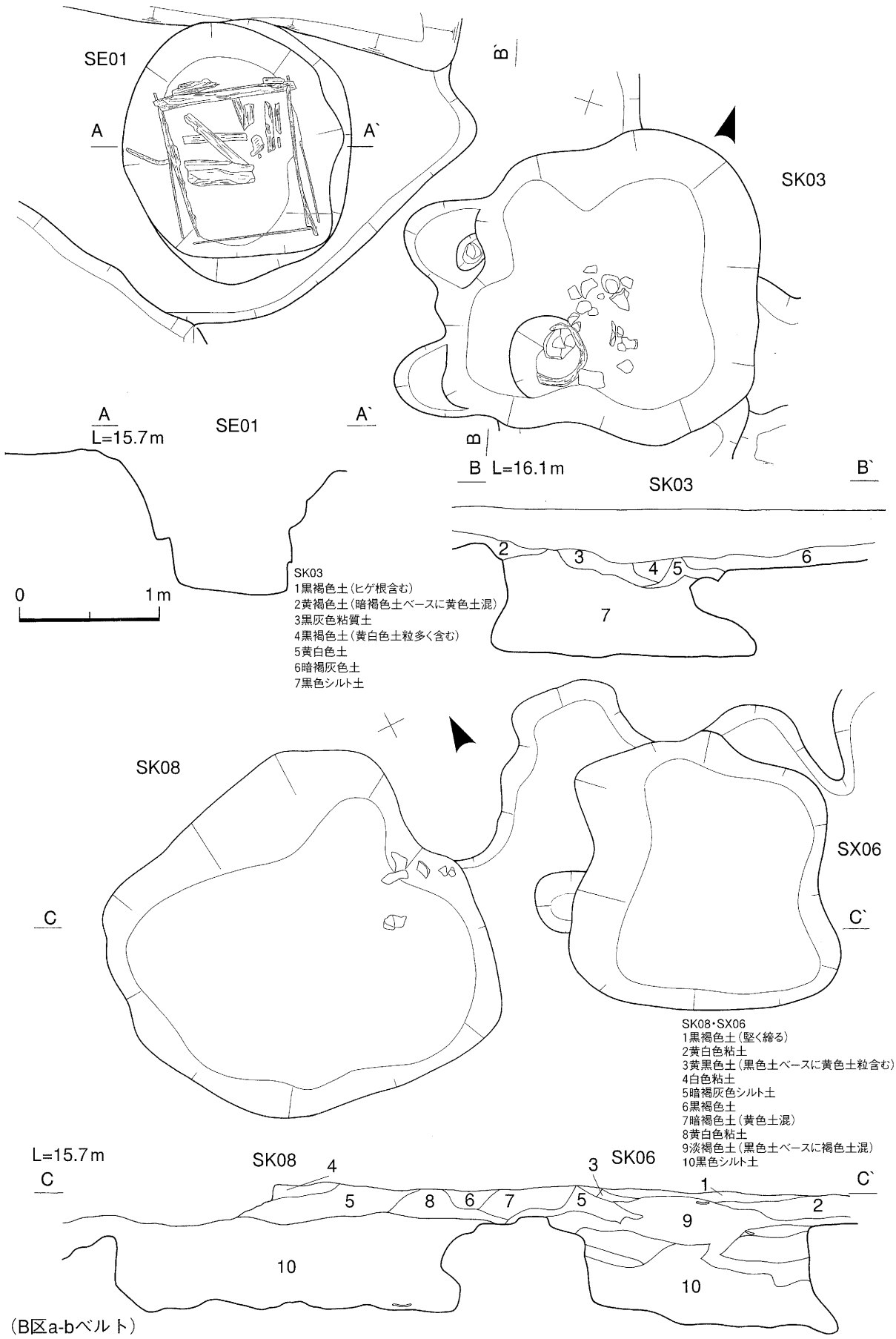
B区～C区にかけて、窯の立地する谷の西斜面から灰原の広がる谷底を挟んで東側の地区に多数の土坑群を検出した。平面形は、円形や不整円形･楕円形･隅丸方形を呈する。深さは採掘穴が形成された地点の地山粘土の堆積状況に比例する。粘土層の下は湧水を伴う礫層となり、採掘穴は縦方向の掘削から横方向への掘削がなされる。このため、採掘穴の断面形態は、円筒形の他に平底フラスコ状を呈するもの（SK03）が見られる。覆土は、黒色あるいは黒褐色土のシルト土の単層を基調とし、灰白色地山粘土がブロック状に含まれることがある。遺物が殆ど出土しない穴もあれば、失敗品が意図的に廃棄されたのち埋められたと考えられるものも見られる。

４）Ｃ区

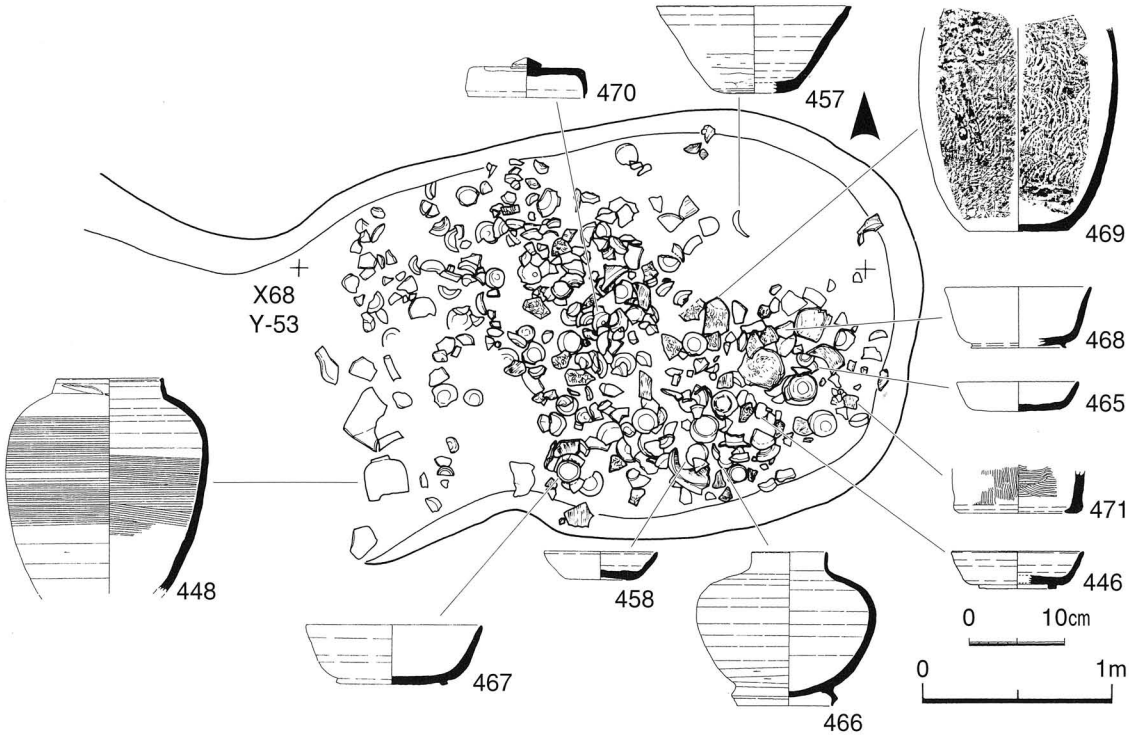
Ｃ区には、粘土採掘穴（SX01･SK01･09）、ピット（P19～22）、風倒木痕（SK06）がある。

粘土採掘穴

ＳＸ01　一部Ｂ区にかかる採掘穴である。復元直径約６ｍを測る巨大な採掘穴である。完掘しておらず全容は不明だが、Ｂ－Ｃベルトからもうかがえるように複数の採掘穴が幾重にも掘削されその集合体のように見える。覆土は黒褐色土を基調とした土で埋まるが、粘土で整地された後、再度失敗品を廃棄するための土坑が掘られ、部分的に須恵器が集中して出土する土器だまりがある。



第13図　B区　井戸（SE01），粘土採掘穴（SK03・SK08・SX06）S＝1／4



第14図　C区　SK０１　遺物出土図（１／40，遺物は１／８）

ＳＫ０１　粘土採掘穴として形成されたが、後に焼成失敗品を大量に廃棄されている。西側の谷部に向い開口する楕円形の平面形態を取る。谷からの開口形態や多量の黄色焼土の検出状況から窯を想定したが壁面が被熱しておらず、採掘穴に含めた。覆土は明瞭に分層可能で黄色土、黒色土、その他の層など廃棄される段階のまとまりが見て取れる。層毎に廃棄された土器の焼け具合も似通っており、一括性が保たれている。無遺物の間層が入らず堆積していることから、焼成が連続して行われていたことの証しとなる遺構である。中層部位からまとまって土師質・須恵質双方の筒形や円筒形土器が出土していることが特徴である。

ＳＫ０９　粘土採掘後焼成失敗品が大量に廃棄された遺構である。Ａ～Ｄ区にまたがる南北に長い楕円形を呈し、窯側の谷部に広く開口する形態を取る。Ｃ区上～中層部位に土師器がまとまって廃棄されていた。土師器は均質な硬質酸化焔焼成を呈しており黒斑が見られなかった。窖窯焼成された土師器の選別場の可能性もある。Ａ区では、ＳＫ０９の最下部に位置する灰ｅ下層部から軒丸瓦（７）等の瓦類が出土している。

5）D区

1号窯（瓦陶兼業窯、第14図、2002富山市教委『富山市栃谷南遺跡発掘調査報告書Ⅱ』 p7～8）

1号窯は、10年度調査では、窯の西半部（上半部）が調査対象区外となっていたが、同年試掘確認調査にて窯の西半部の所在を確認し（41T）、平成13年度調査で同西半部の追加調査を行った。その結果、最低3回の窯の改造・修復を行っていることが判明した。便宜上Ⅰ期窯からⅣ期窯を設定した。

1号窯は、当初須恵器専業窯と認識していた。10年度調査終了間際に窯の焚口付近の断割りにより丸瓦が出土した。また、13年度調査時に初期（Ⅰ期）の操業の燃焼部や前庭部付近からも丸瓦が出土した。また、Ⅲ～Ⅳ期窯の南壁裏の黒色整地土中から2点軒丸瓦片が出土した。

1号窯は須恵器とともに瓦を焼成した瓦陶兼業窯であると判断される。ただし、瓦と須恵器を同時操業で焼成していたのか、前後関係があるのかについては、後者を想定したい。詳細は後に触れる。

窯体内掘り下げ調査中、かなりの湧水（毎分約0.6リットル）のため、操業面を面毎に精査することが不可能と判断されたため、窯体内にセクションベルトを残し、各グリッド毎に面的に精査を行った。（「富山市教委2002」に1号窯詳細図・出土遺物図掲載）

①Ⅰ期窯

Ⅰ期窯は全長3.7m、最大幅1.8mを測る半地下天井架構式無段登窯で、焼成部床面の傾斜角度は10度を計り比較的緩傾斜である。

床面は後の窯を作る際に抜かれており、壁際に僅かに白色硬化し残存する。燃焼部から焼成部にかけての床下には、地山を掘り込み長軸約1m短軸約0.5mを測り平面楕円形を呈するいわゆる舟底状ピットが形成されている。その覆土は黒色炭混じりの層と灰色あるいは焼土を含む赤灰色土が互層となりほぼ水平に堆積していた。これは、舟底状ピット構築の目的とされている窯床の除湿機能を掌っているものと推測される。さらに舟底状ピットの下部構造として長軸0.3m短軸約0.18mの楕円形を呈する小ピットを検出した。覆土中の赤灰色焼土に混じり、炭化していない生木片が多数出土した。生木は針葉樹であることが判明している。この小ピットは舟底状ピット形成前に設けられており、築鎌位置決めの為の杭跡の可能性が高い。

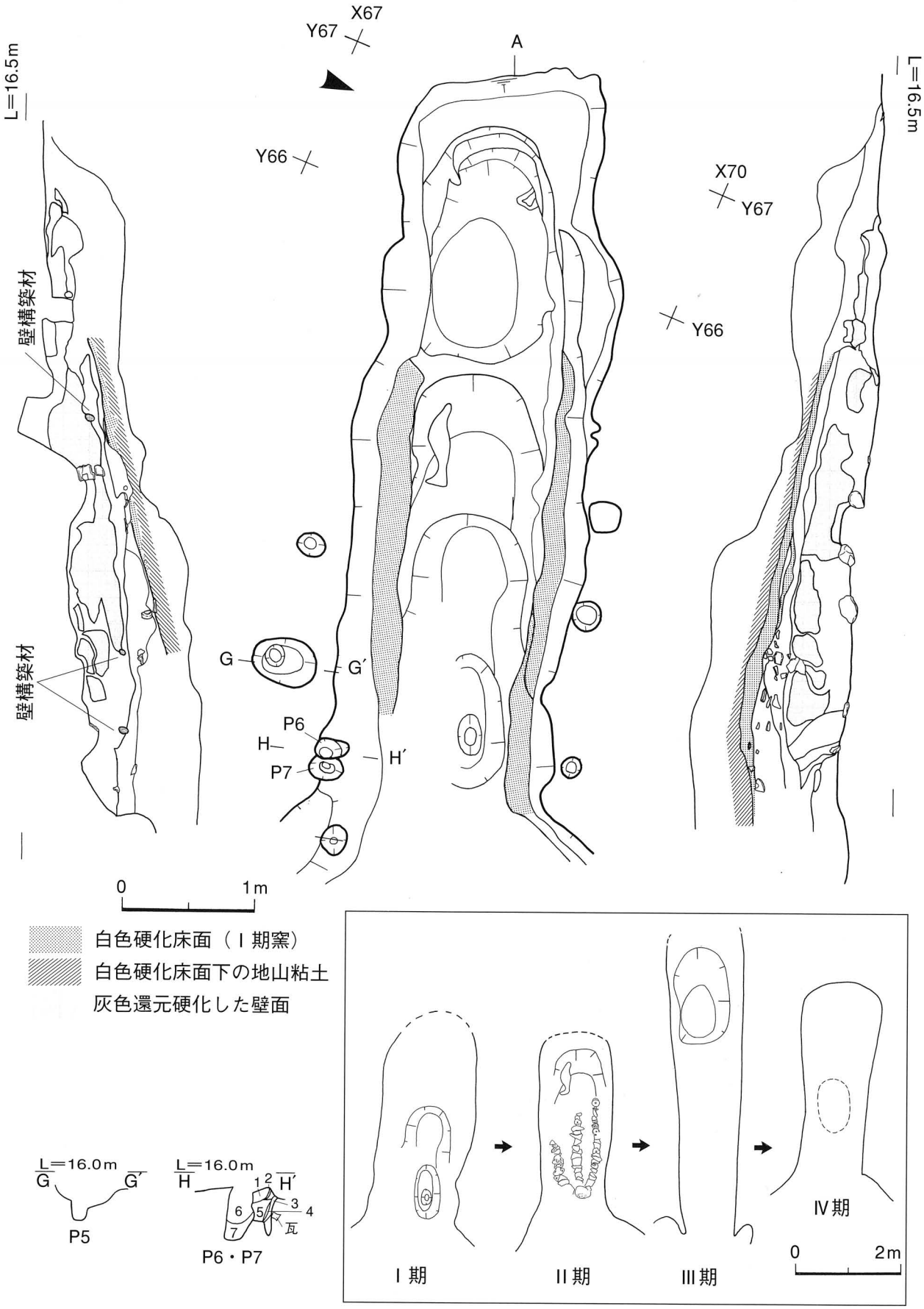
調査中窯上部の粘土地山を掘りこんだ床や壁から鉄分を多く含む湧水が見られた。ほ場整備による周辺地形変化にも起因するが、窯を形成するにはかなりの悪条件な立地である。

焚口に近い燃焼部床上の灰褐色を呈する灰混じりの層の中から丸瓦片が数点出土した。Ⅰ期窯の焼成回数については、Ⅱ期窯築窯の際に大きく改造されているものとみられており、床面の枚数は正確に把握することは不可能だったが、窯壁の補修が断割り箇所の観察により3回を数えることが判明した。

前庭部の精査により窯体内から谷方向へ、窯の長軸よりやや北向きに幅0.3m、深さ0.02～0.07mの溝跡を検出した。

②Ⅱ期窯

Ⅱ期窯は、復元全長3.5m、最大幅1.2mを測り、Ⅰ期窯より大幅に縮小して築窯されている。半地下天井加構式窖窯であるが、焼成室床面に傾斜を持たない平らな構造を呈していたことが特筆される。まず、Ⅰ期窯の床面を壊し、須恵器を多く含む黒色炭混じり土を覆土とする舟底状ピットを設けていた。その上には平成10年度調査時に検出していた須恵器の甕体部破片や蓋などを左右の壁際と中央部に3条並べ床下構造とし、さらにその上に床を貼り焼成面を形成していた。須恵器の破片を3条並べる行為は床下の除湿の役割を持つものと推測される。舟底状ピットと合わせ2重の除湿機能が設けられていた。黄色砂層を挟んだ床上には焼成に失敗した須恵器が片付けられずに取り残され、その上に次期窯が床を大きく嵩上げした状態で形成されていた。Ⅱ期窯は須恵器を専業に焼成していた窯であ



第15図　1号窯平面図・壁の側面図・変遷図

る（「富山市教委1999」では1号窯4次操業とした面に相当）。窯壁の補修回数から３次にわたって操業されていたものとみられる。

③Ⅲ期窯

Ⅲ期窯は、上部がほ場整備によって削平されており、全長は不明である。残存する部位での最大幅は1.5ｍを測る。Ⅰ期窯上部構造を舟底状ピットとして利用し、炭混じりの灰オリーブ色土を基調とする覆土の上に黄色粗砂を敷き床を形成し、須恵器を焼成していた。黄色粗砂層は厚い箇所で約12cmになる。窯尻をやや南に振っていたようである。

④Ⅳ期窯

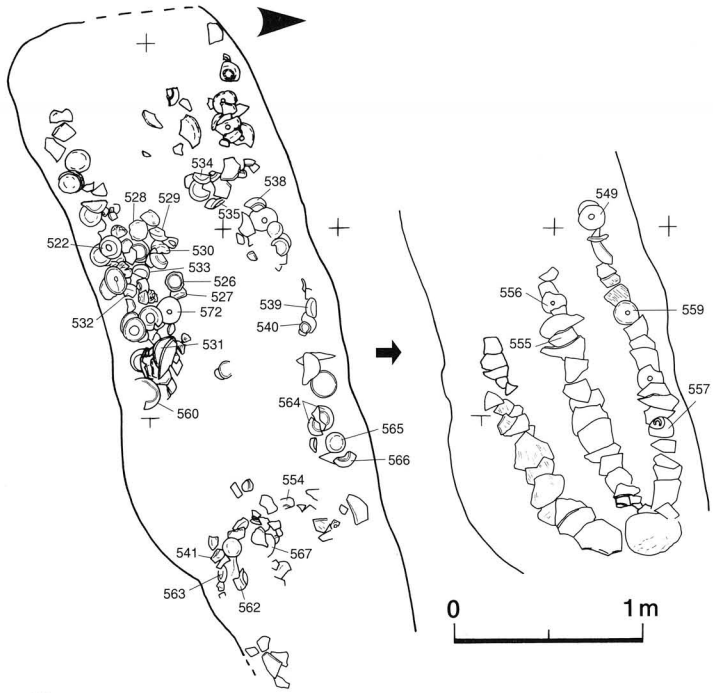
Ⅳ期窯についてもⅢ期窯同様上部が削平されており、その全容は把握できなかった。残存する壁面から幅約1.3ｍを測る。炭層の堆積状況から２次の操業が想定される。床面の高さや復元される地山面の高さから、壁面から天井部がほとんど地上に造り出される窯であったことが想定される。

⑤覆屋

平成10年度調査区の窯壁に並行して柱穴が検出されていた。平成13年度の発掘調査で精査したところ、Ⅰ期～Ⅱ期窯の操業時に相当する柱穴であることを確認できた。燃焼部のくびれ部付近から焼成部下半にかけて覆屋が架けられていたことが想定され、煙り出し部は露出していたことが考えられる。

１号窯時期別窯体計測値

Ⅰ期窯	窯体残存長	（水平長）	3.7m	（実長）	3.9m
	燃焼部長		—		—
	最大幅	（床）	1.4m	（壁）	1.8m
	焼成部床傾斜		10度		
	舟底状ピット	（長軸）	1.0m	（短軸）	0.5m
	舟底状ピット内小ピット	（長軸）	0.3m	（短軸）	0.18m
	操業回数		3次		
Ⅱ期窯	復元全長	（水平長）	3.5m	（実長）	
	最大幅	（床）	1.4m	（壁）	1.2m
	操業回数		3次		
Ⅲ期窯	復元全長	（水平長）		（実長）	
	最大幅	（床）		（壁）	1.5m
Ⅳ期窯	復元全長	（水平長）	4.0m	（実長）	
	最大幅	（床）	1.4m	（壁）	
	操業回数		2次		



第16図　Ⅱ期窯取り残された須恵器出土状況及びその床下構造（S＝１／40）

灰　原

Ｄ区の灰原は、一部を除いて完掘しておらず、下部は保存されている。灰ａ～灰ｍの小区画を設定し、それぞれに層名を付した。調査区西壁に見られる層位についても１～３層に分層した。

３号窯

Ｄ区南東隅近くの灰原上に淡黄白色を呈する２条の焼土帯を検出した。南側の焼土の東端部が北へ丸く伸びていたことから窯壁の一部と想定し２条の焼土帯間を窯体と想定し、３号窯を設定した。

しかし、明かに還元された窯壁や床面を検出できず、灰原上に形成されていることから須恵器焼成のための窯と断定することはできなかった。仮に３号窯としてここでは報告しておくが、今後の検討を要する遺構である。

(3) 遺物

出土した遺物には奈良時代の遺物として瓦、須恵器、土師器、土製品、土錘、製鉄関連遺物、炭、木製品、銅製品がある。他に縄文時代の土器・石器が数点出土した。各地区、遺構に伴う遺物の属性に付いては、数量が多く本文では割愛し、出土位置別の遺物観察表を付しているので参照されたい。ここでは、主な遺物・器種毎の特徴を抜粋し記す。

須恵器

杯A・杯B・蓋（杯B蓋）・杯C・ⅢA・ⅢB・盤・高杯・鍋・仏鉢・槽形鉢・括れ鉢・厚底鉢・小鉢・甕・横瓶・平瓶・狭口壺・短頸球胴壺・広口壺・四耳壺・小壺・広口瓶・長頸瓶・水瓶・円面硯などがある。

土師器煮炊具形態を呈し、窖窯による須恵質還元焼成の甕・鍋など煮炊具は須恵器に分類した。

1）杯A

口径10～12cm、12～14cm、15cm以上の3法量に分類できる。15cm以上のものを杯A(大)とした。

器面調整は、体部外面はロクロナデで仕上げる。内面は基本的にロクロナデで、底部内面に一定方向あるいは不定方向のナデを施すものもみられる。底部外面はⅠ回転ヘラ切り痕を残すもの、Ⅱ回転ヘラ切り痕を丁寧にナデ消すもの、Ⅲ回転ヘラ切り痕をなで消すためにロクロナデを用いるものの3種類が存在する。体部内面、底部内面、底部外面にヘラ記号を施すものがある。ナデ消しにはクシ状工具を一定あるいは不定方向に用いるものがある。

2）杯B

口径10cm以下、口径10cm以上12cm以下、口径12cm以上15cm以下、口径15cm以上20cm以下・器高5cm以下、口径15cm以上20cm以下・器高5cm以上、口径20cm以上の6法量に分類できる。

器面調整は、体部外面をロクロナデで仕上げ、沈線・二重沈線を施すもの（661・800）が少量ある。内面は基本的にロクロナデで、底部に一定方向あるいは不定方向のナデを施すものも若干見られる。底部外面はⅠ回転ヘラ切り痕を残す、Ⅱ回転ヘラ切り痕を丁寧にナデ消す、Ⅲ回転ヘラ切り痕をナデ消すためにロクロナデを用いるもの3種類確認した。ロクロナデ以外のナデ消しにクシ状工具を一定あるいは不定方向に用いるものがある。体部内面、底部内面、底部外面にヘラ記号を施すものがある。

3）蓋（杯B蓋）

形式では、外面が緩やかに弧を描く笠形、外面の中ほどで屈曲し頂部が平らになる頂部扁平形、全体的に扁平で高く盛りあがらない全体扁平形の3種類に形式分類できる。

外面中央に付くつまみの形態は、宝珠形とボタン形を基本とする。宝珠形は扁平なものが多い。特殊なものとしてつまみのつかないもの（510）も数点ある。

口縁端部形態は、Ⅰ端部を外方に反らせる外反形、Ⅱ口縁端部の断面形が三角形を呈するもの、Ⅲ端部を折り曲げただけのもの、Ⅳ指で軽くつまんだもの、Ⅴ端部を内側に巻きこむもの、Ⅵ口縁端部の断面形が半円になるもの、Ⅶ端部を丸くおさめたものの7種類に分類できる。基本形はⅠ～Ⅲの3種類であるが、他はそれほど多くない。

調整では、内面はロクロナデで成形し、一部その上から不定方向のナデを施すものもある。外面は回転ヘラ切りを行った後ロクロナデを施すものを基本とする。他に頂部を中心に回転ヘラ削りを施すもの、外面中ほどに帯状のヘラ削りを施すもの、ロクロナデを施すものの十分頂部の回転ヘラ切り痕を消しきれていないもの、ロクロナデを施したのち不定方向のナデで仕上げるもの、外面全体に回転ヘラ削り痕を残すものの6種類を確認できた。また、外面に二重や三重の沈線を施すものも見られる（218・296・437）。その内、296は二重沈線を二条廻らせ色調が赤褐色を呈する蓋である。盤や槽形

鉢など金属器（仏器）模倣の器種に付く特殊な蓋の可能性が高い。

772は焼成後の穿孔が１ヵ所認められ、香炉などの特殊な用途が考えられる。

4）環状鈕付蓋

つまみの形態が環状を呈するもので、環が厚みを持つもの（355・378）と細いもの（715）がある。何れも杯Ｂ蓋より丁寧に仕上げられ、715は外面に1条の突帯を廻らせ、外面はロクロ削り後ロクロナデが施される。前出296と同様の特殊な蓋として製作された可能性が高い。

5）杯Ｃ

金属器模倣の杯である。有台のもの（365·662·756·805·806）、無台のもの（592·784）がある。

6）皿

無台の皿Ａ（291）と有台の皿Ｂ（195・515）がある。双方底部にロクロ削りを施すものがある。

7）盤

やや丸みを帯びた平底の底部から直立する口縁を呈し、口径約21cmを測る大型の杯で盤とした（15）。

8）高杯

脚の上に乗る杯部が杯形態を呈する高杯Ａ（50·207·338·668）と皿形態を呈する高杯Ｂ（557）とに分類できる。脚部外面に沈線を廻らせる脚部のみの808も高杯Ｂになる可能性がある。

高杯Ａは還元焼成で全面灰色を呈するものと、内外面は赤褐色を呈するが断面の内部が還元状態の灰色を呈するものがある。後者が多く、１度還元焼成されたものを再度酸化焔焼成させて表面に赤褐色の発色を施したものと想定したい。同様のものが壺蓋（281）、小壺（804）などにも見られる。窯の壁が白色の酸化状態に留まるものも見られ、焼成段階を分離させ酸化色を意図的に発色する焼成を行っていた可能性が考えられる。

9）鉢

鉢類には、槽形鉢・括れ鉢・厚底鉢・仏鉢・小鉢があり器種が豊富である。

体部が直線的に立ちあがる槽形鉢には無台のもの（463·457）と有台のもの（395）がある。台の有無は不明だが体部外面に二重沈線を施すもの（86）がある。有台のものに口縁端部にシャープな面取りを施し体下部から底部へかけてシャープに屈曲する。底部の高台に瓶類に似た高台を付ける。片口（311）のものもある。この器種も金属器を写したものになる可能性が高い。

頸部が「く」字に括れ把手が付く括れ鉢（473）がある。把手の付かないもの（302・317）は体部から底部にかけて縦方向の削りを行う。

厚底鉢（124）もあり底部に刺突孔のあるもの（124）とないもの（1999a「富山市教委」ｐ14第13図18参照）がある。

金属器の鉄鉢を写した口縁部が内湾するものを仏鉢とした（364・479）。

小鉢には口縁を「く」字状に外反させ体部にやや膨らみを持たせる器形のもの（24・295・393）や小型の杯Ａの口縁部をやや外反させる器形を呈するもの（396）がある。

10）壺・瓶

壺・瓶類には短頸球胴壺、狭口壺、広口壺、四耳壺、小壺、長頸瓶、広口瓶、横瓶、平瓶、水瓶があり、器種が豊富である。

短頸球胴壺は本遺跡出土貯蔵具の中でも中心をなす器種である。壺身の口径は７～14cm、それとセットとなる壺蓋の口径は９～19cmでほぼ両者対応する。身と蓋が溶着した状態で出土したものもある。（1999a「富山市教委」p14第14図47）壺身の外面体部には沈線が施される。口縁部内面にヘラ記号を付すもの（115）もある。底部は丸底に仕上げられたのち高台を貼り付けている。壺蓋の外面

には沈線を施すもの（243·282）と施さないものがある。沈線を施しさらに焼成前に穿孔を施すもの（57·63）、穿孔のみを施すもの（666·272）がある。特徴的な壺蓋に、宝珠つまみが二段になるもの（292）や上面に２本体部外面に２本沈線を施し、杯B高台と同じ意匠の突帯を上面に廻らせるもの（808）がある。

808は石名田木舟遺跡に類例があり（1999富山県文化振興財団埋蔵文化財年報(6)）、杯B蓋での類例が小杉流団№16遺跡１号窯にある。

狭口壺には、肩の張ったもの（748）と丸みを持つもの（448）がある。ロクロなでと回転を利用した削りで仕上げるものとカキ目を施すものがある。

広口壺には大きく外傾する口縁の端部を摘みあげる（374）ものがある。体部上半はカキ目を施し、底部付近は縦方向の削りを施す。

小壺には口縁が短く立ちあがるもの（111・728）や細い頸部が付くと思われるもの（285）、口縁部を大きく外反させ端部に面を取りもの（628）がある。728の外面下部には「國」のヘラ文字が刻まれる。他に把手付きの特異な形態を呈するもの（123）や唾壺に類似する形態を取るもの（793）などがある。

瓶類には長頸瓶（83）、広口瓶（165・229など）、横瓶（46・324など）、水瓶（213・407・711）がある。

11）甕

甕には口縁が短く立ちあがる中甕と、大きく外反しながら立ちあがり外面に波状紋を装飾した大甕がある。大甕の口縁部は体部以下と別作りされ、２～３本の粘土紐を繋いで立ち上げられ叩いて成形される（77・359・647）。体部に横方向の環状把手の付く短胴広口の浅甕（757）も見られる。中甕に分類されると見られる長胴の甕（469・744）もある。甕の底部形態は殆ど確認できていないが丸底のものが主体となる。一部平底のもの（69・469）も含まれる。窯内部から二次的に被熱を受け破片状に出土するものが多く、726のように焼きむらから焼台として利用されたものと見られる。

12）円面硯

大型品と小型品に分類できる。大型のものには体部外面の上下に突帯を廻らせその間に２本一組の沈線を縦に施すもの（61・99）や突帯の間に円形ほかの透し孔を施すもの（394）が確認できる。小型品には正方形の透し孔を施すもの（385）がある。

13）ヘラ記号・ヘラ文字

ヘラ記号には「—」、「＝」、「×」、「＋」、「＃」、「☆」を確認している。他に意匠が不明なものが幾つか確認できる（262・263・388・512・689・811）。器種は杯A・杯B・蓋が大半を占める。その他では短頸球胴壺（115）や甕（309・315）、横瓶（217）の口縁部や狭口壺の底部（748）に施すものがある。

ヘラ文字には６・179の「大」、740の「恵□」（２文字目は「師」か「行」か）、728の「國」がある。大は他に２点確認できた。

14）重ね焼き

重ね焼きの方法には、1989富山大学考古学研究室『越中上末窯』（ｐ151～）に分類されているようにA・B１・B２・C・D類までの方法が知られておりその亜式も存在するようである。本遺跡からは、A類の正位の身に蓋をかぶせた状態で重ね焼き（直上または複数のセットにまたがって）したもの、B１類の正位の身・逆位の蓋・正位の身・逆位の蓋の順に重ねるもの、B２類の正位の身・逆位の蓋・正位の蓋・逆位の身の順に重ねるもの、C類の身のみを正位に重ねるものを確認した。またこれらの亜式と見られる正位の身と逆位の蓋を重ねたものをA類のように重ねたものを確認している。

土師器

甕・鍋・括れ鉢・仏鉢・小鉢・甑・円筒形土器・筒形土器などがある。土師器には、器面に黒班を残し従来型の土師器焼成遺構での焼成を行うものと、黒斑が認められず窖窯で酸化焔焼成により均一な土師器の発色を示すものが認められる。

1）甕

甕には小甕と長胴形の長甕がある。

小甕は、丸底のものと平底（20・42）のものがある。圧倒的に丸底のものが多い。口径は11～15cm、器高12～16cmを計る。器面調整は、外面ナデ仕上げのもの、刷毛目仕上げのもの、カキメ仕上げのもの、刷毛目とカキメを併用するものとがある。刷毛及びカキメ仕上げのものの一部に底部叩き出しを行うもの（3・18・79など）やヘラ削りを行うもの（52）が見られる。在来型の調整のものと、底部付近を叩き出しするなど須恵器の成形技法を取り入れたいわゆる「北陸型煮炊具」と呼称されるものがある。口縁部はくの字に外反させ、端部は丸く収めるもの、端部に面を取るもの、やや摘むように先端をとがらせ気味にするものがある。

長甕は、丸底のもののみを確認している。胴が張るもの（31など）と寸胴（33・48）のものがある。器面調整は、カキメを施した後、縦方向の刷毛目（34）や削り（31）を行うものが多い。

2）鍋

鍋は、外面体部をカキ目調整したのち削りを行うもの（26）と、下半部に刷毛調整を行うもの（36）さらに叩き技法で底部を成形するもの（11）が見られる。口縁部は、端部を摘みあげるもの（36）、やや肥厚させるもの（46・59）がある。

3）鉢

体部が直線的に立ちあがる槽形鉢（39・40）と頸部が「く」字に括れ把手付きのものを基本とする括れ鉢（25・54・55・62）がある。槽形鉢には片口のもの（2）があり、須恵器に類例（311）がある。調整はカキ目を主とするが、例外的に括れ鉢（25）に内面同心円当て具を用いて外面格子叩きを施すものがある。金属器の鉄鉢を写した口縁部が内湾する仏鉢（6・7・80・85）もある。

4）甑

甑は体部に把手付きのもの（15・73）とそれ以外のものに分けられる。口縁形態は肥厚帯を廻らせ孔を穿つもの（45）が1点見られるが、それ以外は深鉢状に直線的に立ちあがり、端部は面を持つ。調整はカキ目、刷毛目調整を行うが底部付近を叩き成形するものも見られる（22）。底部は筒抜け状態のもの（22・50など）に桟渡し用の穿孔を施するもの（77・78）や底部を肥厚させ台状に接地面を持つようにしたもの（30）がある。

5）円筒形土器・筒形土器

断面形が方筒形を呈する筒形土器と円筒形を呈する円筒形土器がある。口縁形態は、筒形のまま直立するもの（70）と玉縁状に段を有するもの（方形は65、円筒形は75・76）がある。底部形態は、何れも筒抜けで、底部を持つものは確認できていない。端部は、体部に比して肥厚させるもの（67）や端部をやや内傾させるもの（69）、内屈させもの（60）がある。何れも玉縁のものに接合した際の受けを意識しての造作ではないかと推測される。すなわち、土管状に連結しての使用方法が考えられる。調整は内外面とも刷毛目調整で仕上げられているが、円筒形玉縁のものは削りを行っており、刷毛目調整のものより丁寧な感がある。C区ＳＫ01内からの出土にほぼ限られている。須恵質のものも1点出土している。（須恵器471）。

瓦

軒丸瓦・丸瓦・平瓦を確認した。軒平瓦は１点もない。一部未整理箱もあり、最終的なデータではないが、現時点で確認できた瓦の数量を報告する。破片総数4,245点を数える。その内訳及び焼成具合の比率は以下の表のとおりである。薄手の瓦で道具瓦の用途が考えられるものがあるが、完全形が不明であるため丸・平瓦それぞれに含めて示している。

軒丸瓦	破片数	272点（6.4%）			
	内	中房数60点、花弁数467枚（59点分）約60個体分			
	焼成	灰色還元焼成	12%	不良（黄白色軟質）	76%
丸瓦	破片数3,860点（91%）				
	焼成	灰色還元焼成	22%	不良（黄白色軟質）	67%
平瓦	破片数113点（2.6%）				
	焼成	灰色還元焼成	32%	不良（黄白色軟質）	32%

１）軒丸瓦

単弁八葉蓮華文軒丸瓦１型式のみを確認している。瓦当面の直径は焼成具合にもよるが、約14.6～16.4cmを測る。平縁の周縁と内区には約１cm程の段差があり中央の中房も約１cm程突出し瓦当面全体で立体感を持たせている。

中房の直径は3.6～4.6cmを測る。中房内には１＋８の蓮子を配する。蓮子には観察すると大小が認められ、彫りが深く明瞭なものがある。花弁は素文のものと極細線の芒あるいは蕊を表現した凸筋が５～６条明瞭に見られるもの（５・７・26・79）があり、間弁も彫りが深くなる。これらのことから蓮子・間弁の彫りが深く、筋が見られるものは同じ笵型を用いているものの途中で笵の彫り直しを行っていることが分かる。素文のものを軒丸瓦Ａ、筋が明瞭なものを軒丸瓦Ｂとする。

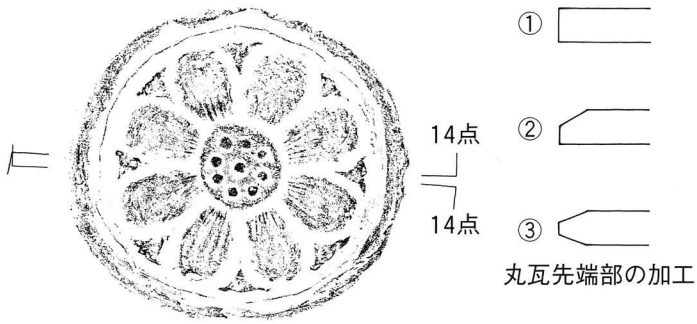
瓦当周縁は幅が瓦毎に微妙に異なり、同一個体においてもやや歪なものもあり、ナデによって仕上げられている。このことから笵型の笵端は瓦当周縁内側の立ち上がりまでで、瓦当側面にまで笵型が及んでいなかったものと見られる。また、周縁内側に段を１段持つ特徴がある。

花弁間に笵傷を１ヶ所確認した。軒丸瓦Ａ・Ｂ何れにも見られ早い段階で付いたものと見られる。

笵型への粘土の笵詰めには①内区の中房・花弁・間弁の彫り込み部に粘土を詰める。その最初に中房を中心に少々花弁にかかる位置まで粘土を詰め、次に内区の彫り込み部全体に行き渡るように粘土を詰める。②厚さ３～４mmの板状の粘土を重ねる。③最後に厚さ調整用に５mm前後の厚さに粘土を押圧しながらかぶせていた（24の断面から）。

瓦当に接合する丸瓦の先端部は、①無加工のもの、②凸面を削り取るもの、③凹凸両面を削るものの３種を確認した。接合位置は、瓦当面で言うと内区と周縁の境目辺りに接合する。このため丸瓦先端の凹凸両面に接合粘土を施す。接合位置の瓦当の厚さは５mm以下になるものが多い。瓦当裏面は丸瓦を接合した後接合痕を消すためのナデが施され、その延長で裏面全体を不定方向のナデを行って仕上げている。丸瓦の取り付け角度を瓦当紋様の花弁の位置から検討すると概ね180度の変化が見られる。ここからは、笵型が長方形を呈していたことが分かる。

１点（52）のみであるが瓦当面内区に砂粒の付着の痕跡を確認した。笵型で型取りした瓦当粘土を外す際離れ易くするための離れ砂の可能性が高い。しかしこの個体のみであり、他には認めることが出来ず離れ砂の使用は恒常的なものではなかった。



第17図　丸瓦の取り付け位置の変化

2）丸瓦

出土した瓦類で９割を占める丸瓦は破片資料が多く完全形を示すものが少ない。軒丸瓦に接合する丸瓦で全長28cm、軒部を含めて29.9cmを測る。丸瓦の広端幅約16cm、狭端幅11.5cmを測る。全て行基式である。

凹面に静止糸切りによる粘土塊からの切り離し痕が確認でき（44・98）粘土板巻きつけによる成形を行う。凹面に僅かではあるが幅約１cm側板痕らしきものの連続を確認でき（７・58）桶状の模骨に粘土板を巻きつけていた可能性が高い。凹面の布目は、布を袋状に綴じ合わせ裏返して模骨に被せていたため綴じ合わせの目が出るものと出ないものが見られる。袋状に綴じ合わせた目に平行して布綴じ痕が見られる。綴じ紐の余部が環状に圧痕されるもの（44）も見られる。

凸面は縄叩き後叩き目が殆どナデ消され、僅かに縄叩き痕を残す。ヘラ文字を施したと見られるものも１点ある（47）。粘土円筒を分割する切れ目は側縁部内外面とも丁寧に削り取られ面取りがなされているため不明である。

丸瓦凹凸面に残る焼き斑から２分割した粘土円筒を一方の側面をもう一方の凹面中央付近に組むように立て並べ窯詰めを行っていたものと見られる。丸瓦の中には二次的に熱を受けたものや須恵器の溶着するものも認められ、須恵器焼成時に焼き台として転用されていたものもあるようである。

3）平瓦

丸瓦に比べ数量が少ない。しかし不良焼成品が軒丸・丸瓦に比べ割合が低いため、製品として消費地により多く運ばれたことも推察される。破片が多く完形品の全長や端面の法量を測れるものが無い。

丸瓦同様粘土板を布を被せた桶状の模骨に巻きつけて成形する『粘土板桶巻き作り』技法により製作されている。凸面は縄叩きで整形させているが、ナデ消しは一部に留まり丸瓦より縄目をよく残している。広・狭端部まで縄目を残すものと端部に沿って縄目を削りやナデによって消すものも見られる。厚さは２cmのものが多いが３cmを超える厚手のものも見られる。

その他の出土品（第77～80図）

須恵器・土師器・瓦以外の土製品として、土錘、窯道具（99～101）、有孔円板（102～104）、鞴羽口（105～109）、土製権衡、土馬、塔相輪の一部(第73図)がある。鞴羽口は製鉄に関わる遺物であり、鉄滓など製鉄関連遺物も出土している。他に木製品・銅製品・透彫り製品や時期は異なるが縄文土器・石器がある。図示できなかったが、中世～近世期の瓦、近世陶磁器片も遺物包含層から出土している。

1）土錘（第77・78図)

約190点を確認した。大部分は酸化焔焼成させた土師質の土錘であるが、灰色を呈し還元焼成された須恵質土錘も５点程確認している。また酸化色を呈するが部分的に還元色を呈する個体も７点程確認でき、内１点は胎土が砂粒の多い土師質を呈するものが含まれていた。

土錘については近年、森隆氏が『富山県出土の土錘集成』として集成を行っており（森2001）また、土錘の形態に付いては細辻真澄氏が形態分類を行っているため（細辻2001）本遺跡観察表もそれらに準拠して行った。本遺跡出土の土錘は、側縁部が直線的で円柱状をなし、平面形態が隅丸方形、隅丸長方形をなすもので、長さが幅の３倍より短い寸胴型ｂ類、同じく長さが幅の２倍より短い寸胴型ｃ類、側縁部が膨らみ長さが幅の３倍より短い樽型ｂ類、同じく長さが幅の２倍より短い樽型ｃ類の４形態に分類できる。完形品について重量を計測した所、20g～106ｇまである。

土錘出土地は、調査区北側のA区～B区にかけて集中しており、２号窯窯体内からも出土している。このことから土錘は、２号窯操業時に並行して製作焼成されていた可能性が考えられる。

2）塔相輪の一部（第73図）

須恵質還元焼成された環状の土製品である。3破片確認し何れも同一個体のものと思われる。2破片分の側縁に近い位置に穿孔が空けられており、鐸等を吊す紐穴と考えられることから、土製塔相輪の九輪の一部ではないかと推定される。

3）製鉄関連遺物（第71図）

製鉄関連遺物として、大量の鉄滓が出土している。総重量約205kg分の鉄滓が出土し、その多くが1次製錬に伴う製錬滓である。ほかに炉底滓・炉外流出滓と見られるものもある。炉壁と見られる鉄分の付着した土塊も多く見られ、箱型炉と推定される炉壁の一部も確認できた。遺構としては試掘で確認されている炭窯以外、炉などの痕跡は検出できなかった。また鞴羽口も数点出土しているが、小型で製鉄炉に伴うものとしてはやや貧弱である。このためこれらの羽口は鍛冶に伴うものと推定され、鉄の製錬と合わせて鍛冶も行われていた可能性が高い。鉄滓の約99％が調査区北半部のA・B区から出土しており、炭窯も調査区北側で検出されていることから平成10年度発掘調査区北寄りの地区で製鉄に関係する遺構が所在していたものと見られる。本報告では製鉄関連遺物の科学分析等が行えず、詳細報告ができなかった。別途分析できる機会があれば報告したいと思う。

4）木製品（第72図）

SE０１の横板井籠組井戸の側材（１～４）、曲物底板（５）、有孔円板（６）、木簡（７）がある。木簡は２号窯前庭部～灰原にかけての位置に掘られたピットの最下部から出土した（写真図版６）。木簡の字体が新しく、文字の下に焼印が押されていること、木の劣化が進んでいないことから木簡は後世に掘られたピットの最下部に置かれたものと考えた。中央部に釘が打たれている。

5）透彫り製品（第73図）

「対葉花文」を透彫りした製品については当初木製品として取り扱っていた（富山市教委1999）。ⅳ）自然科学分析の３．で報告があるが、顕微鏡観察などにより木製品であることが確認されていたが、保存処理を行う際、この木製品であるとのデータを元に脱水処理を行った所、膨潤し形態が変化してしまった。この結果を受けⅳ）５．で分析を行ったところ、透彫り製品は劣化の進んだコハクではないかとの結果を得た。しかし劣化の進んだコハクは非常に壊れ易いが、本製品は堅緻で繊細な彫り込みが施されており、コハクという分析結果に疑問を感じる所がある。本遺物についても今後さらに詳細な分析成果が待たれるところである。

透彫りされた「対葉花文」は８世紀中頃造東大寺司の間で流行した文様で、当時の仏像などに施された。小杉流団№18遺跡C地区出土の遺物にヘラ描き沈線による文様が施された遺物があるが、これも「対葉花文」をデフォルメした文様と考えられる。

参考文献

池野正男　1987「射水丘陵における８世紀後半の須恵器窯跡」『大境』第11号　富山考古学会

上原真人　1997『瓦を読む』歴史発掘11　講談社

大脇　潔　1991「丸瓦の製作技術」『研究論集Ⅸ』奈良国立文化財研究所学報第49冊

富山県教育委員会　1982　『小杉流通業務団地内遺跡群』第３・４次緊急発掘調査概要

富山県教育委員会　1983　『小杉流通業務団地内遺跡郡』第５次緊急発掘調査概要

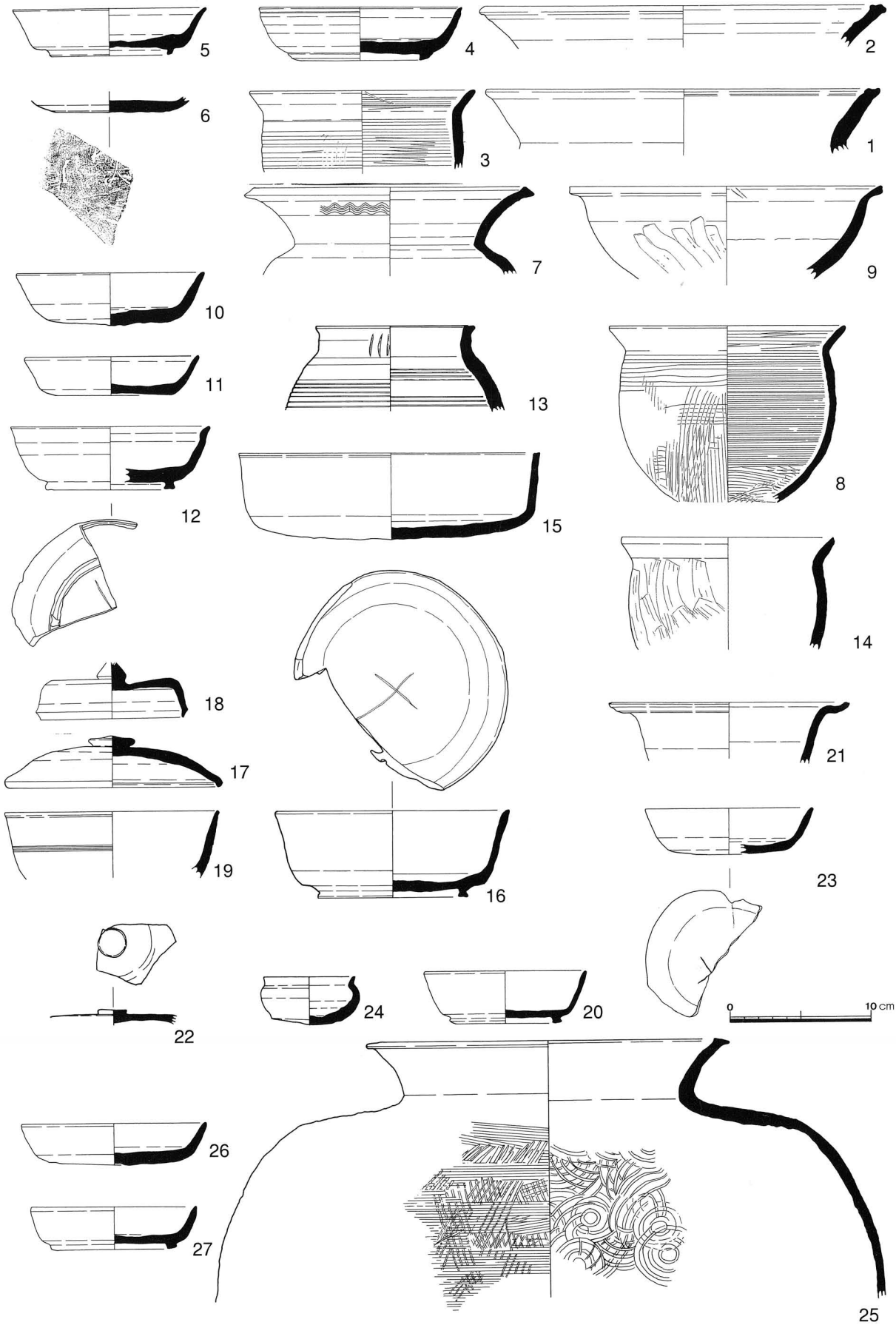
富山県教育委員会　1984　『小杉流通業務団地内遺跡群』第６次緊急発掘調査概要

富山市教育委員会　1999　『栃谷南遺跡』

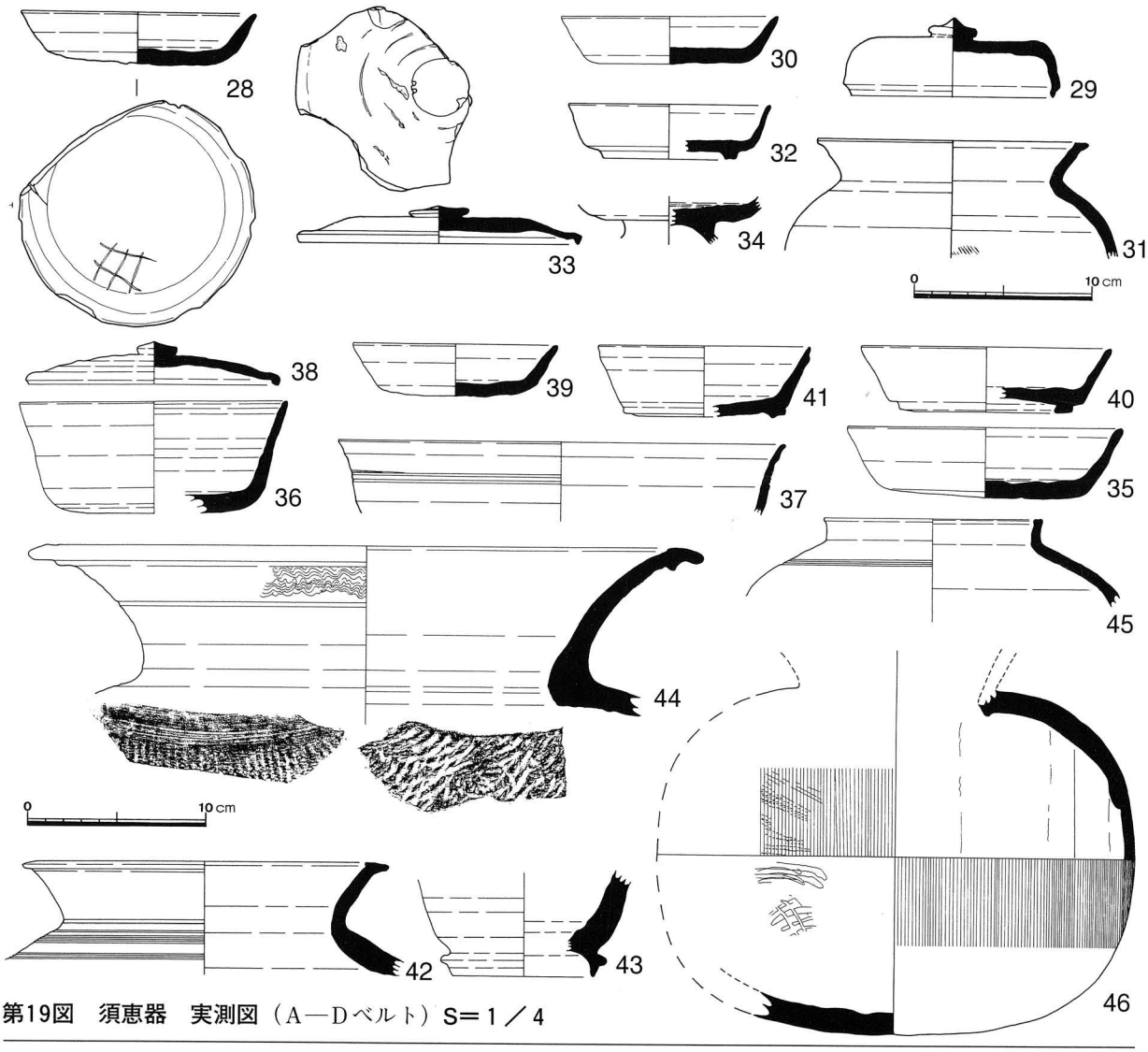
北陸古代土器研究会　1999　『つぼとかめ』北陸古代土器研究第８号

細辻真澄　2001　「任海宮田遺跡出土の土錘について」『富山考古学研究』紀要第４号

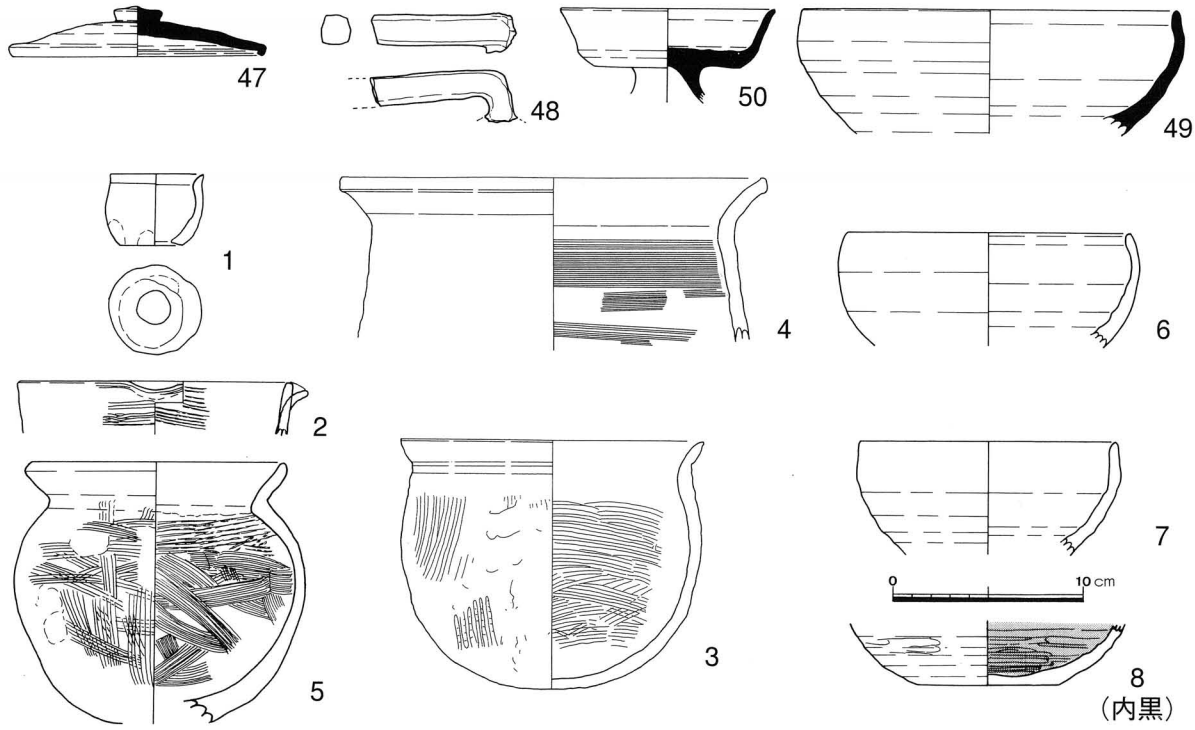
森　　隆　2001　「富山県出土の土錘集成」『富山考古学研究』紀要第4号(財)富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所



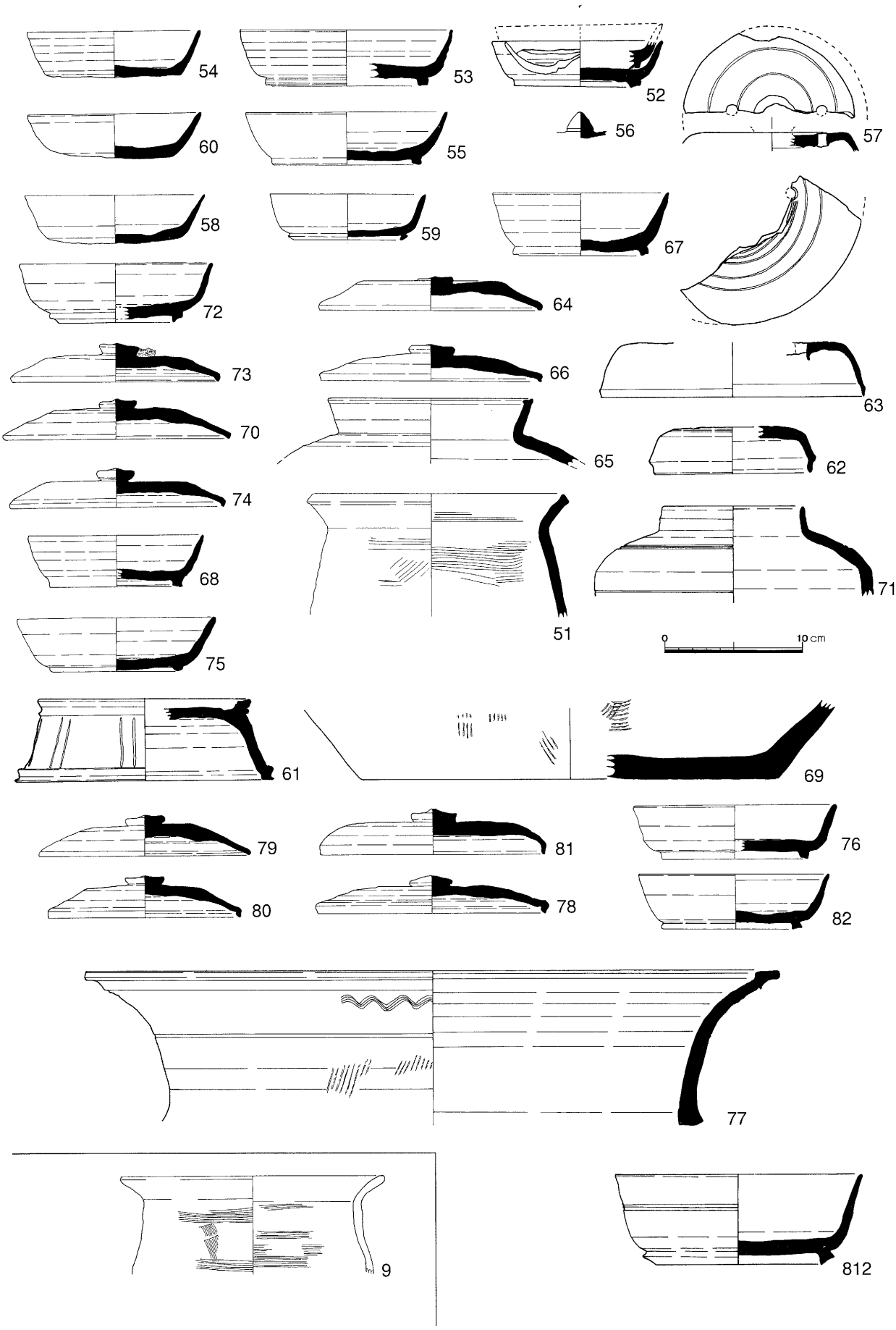
第18図　須恵器　実測図（A—Bベルト・C—Dベルト）　S＝1／4



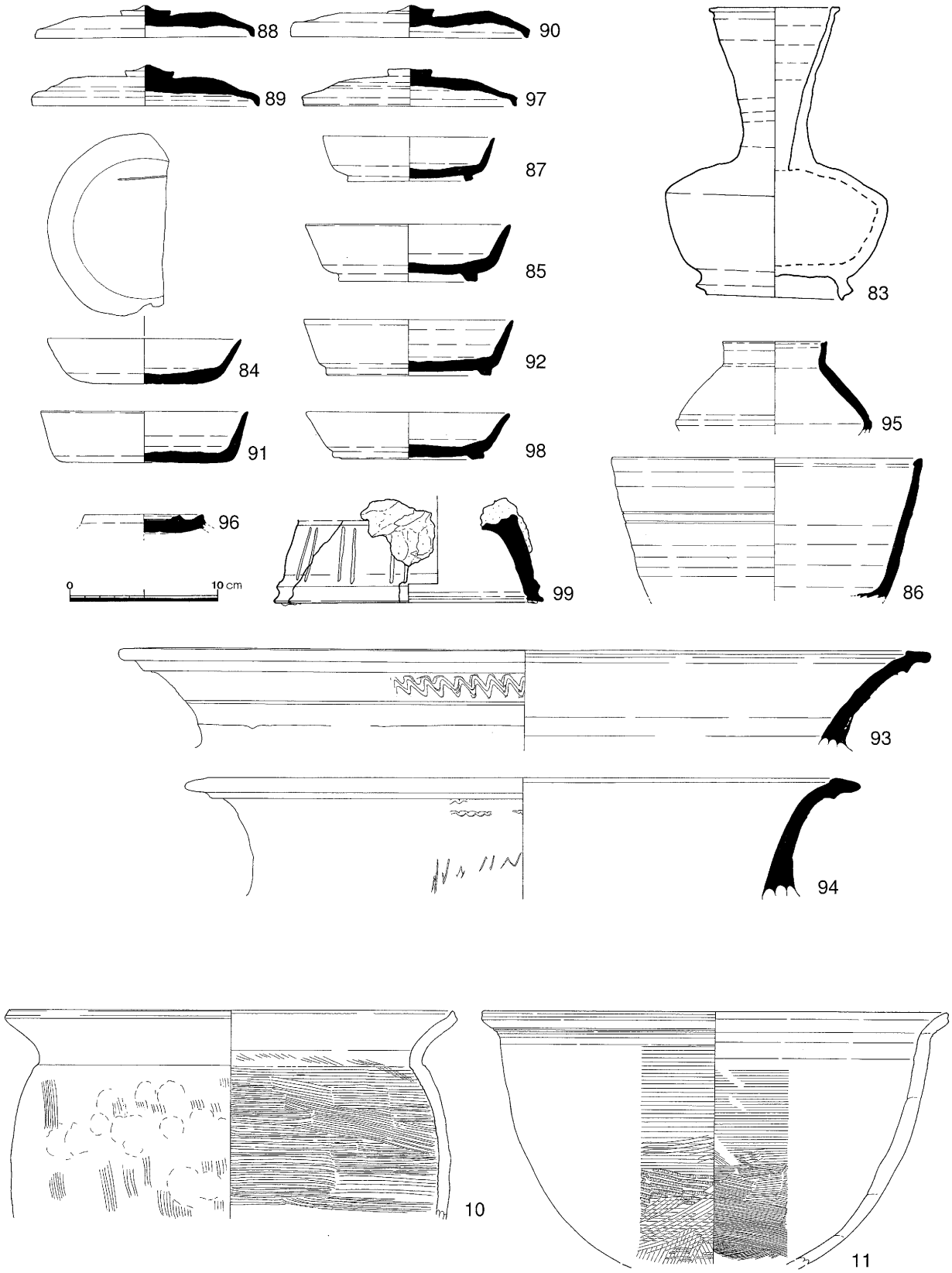
第19図　須恵器　実測図（A—Dベルト）S＝1／4



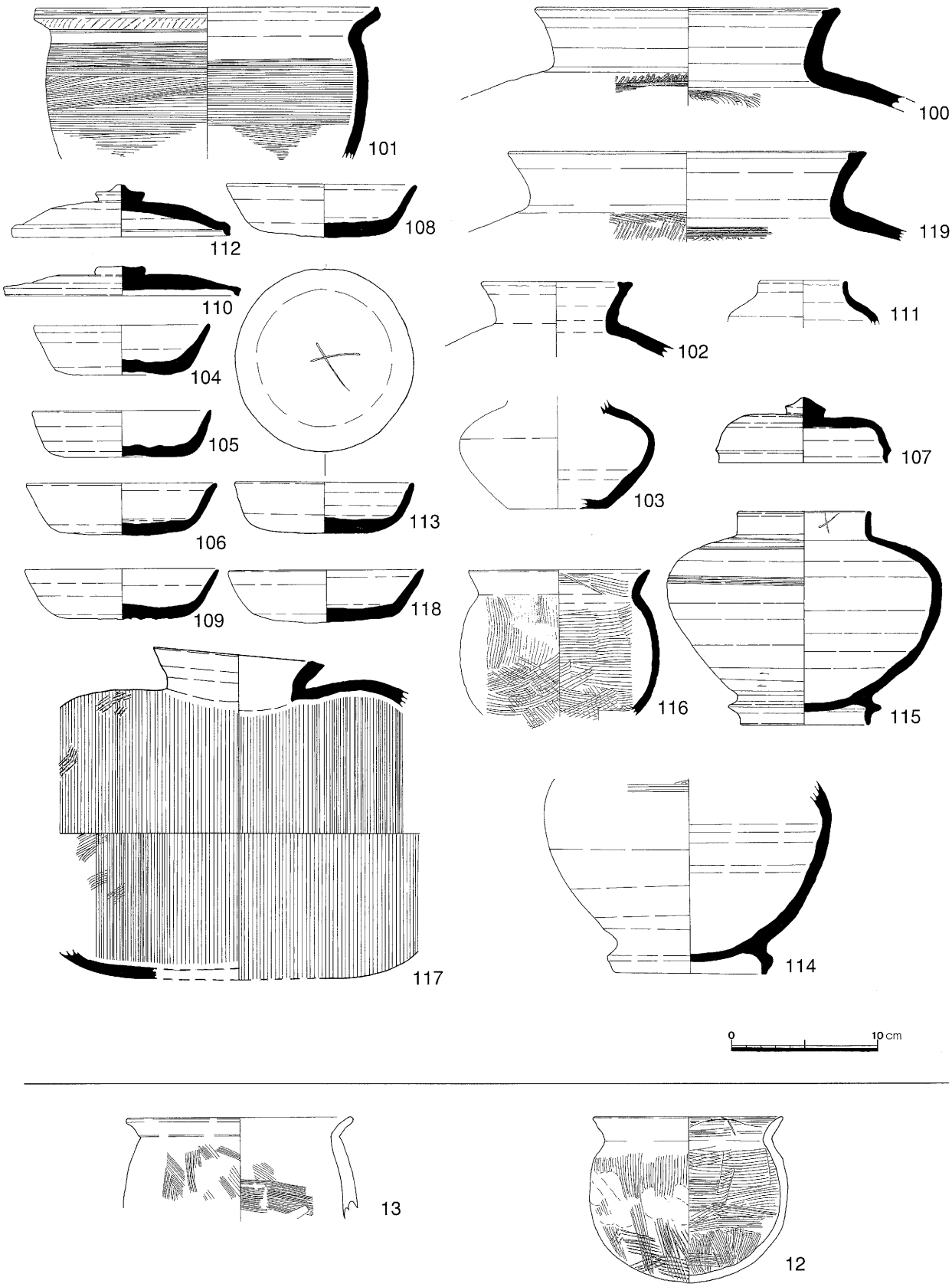
第20図　須恵器（C—D，A—D，B—Cベルト），土師器（A—B，C—D，A—Dベルト）　実測図



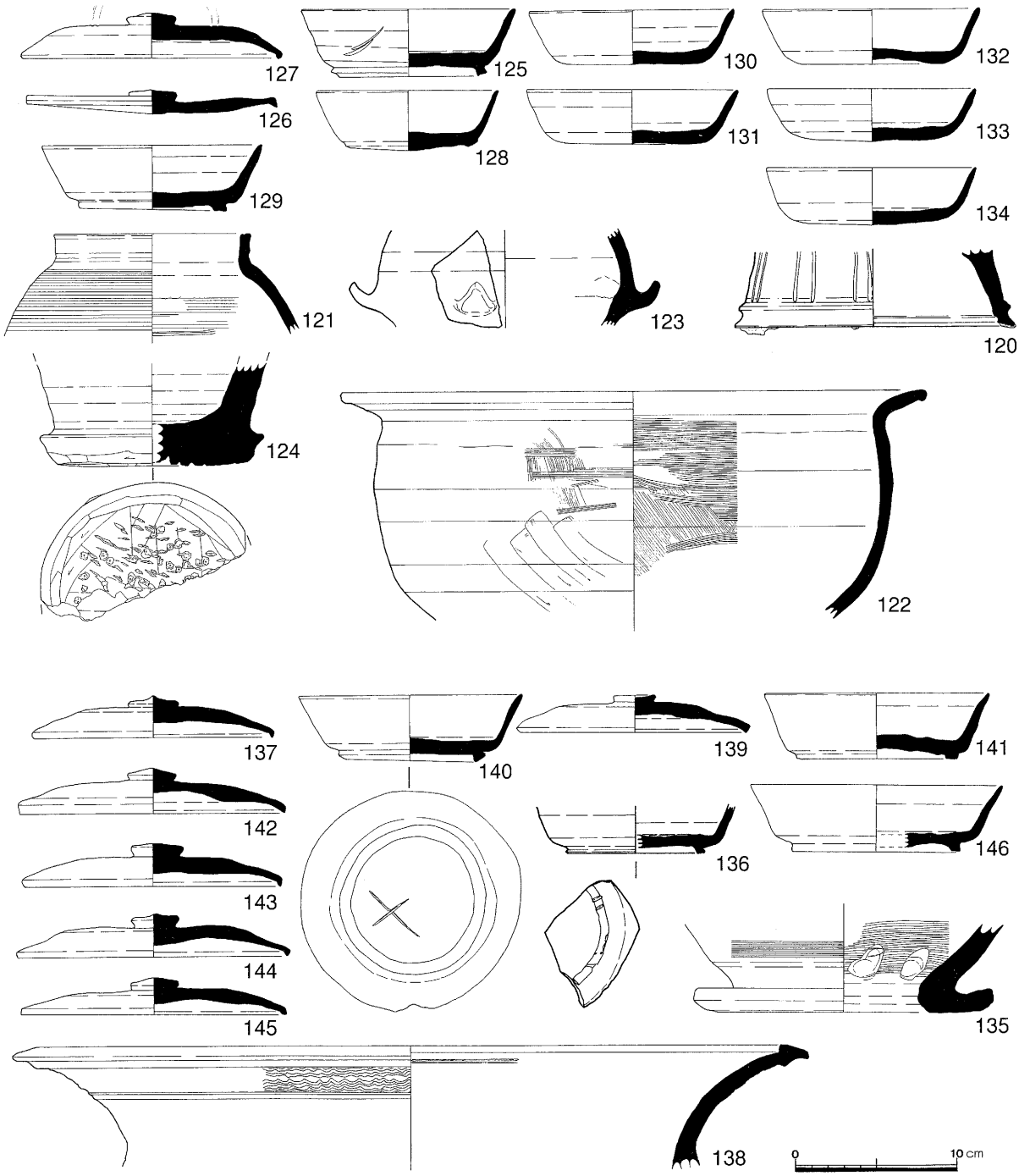
第21図　須恵器・土師器（A区２号窯内）　実測図　S＝１／４



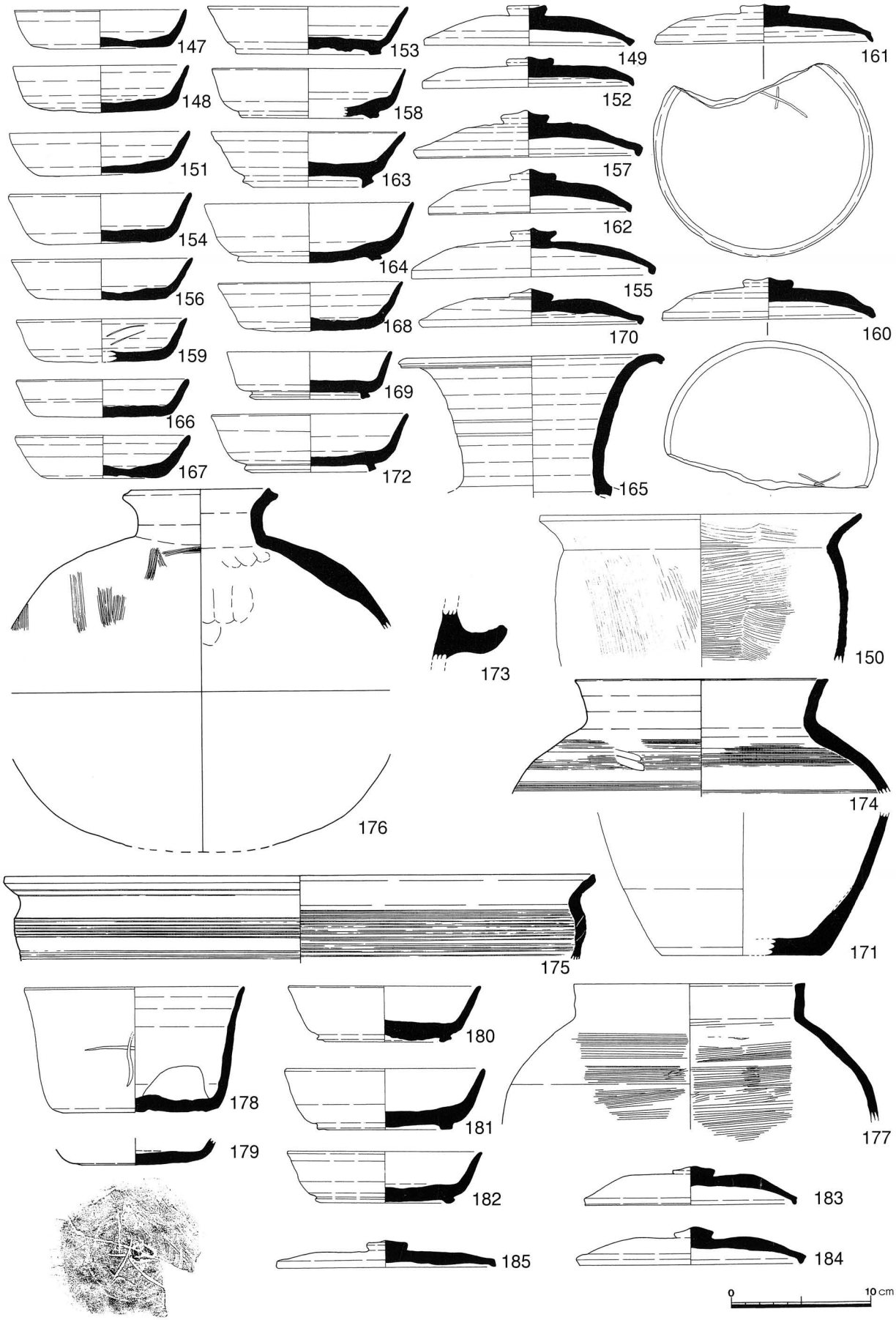
第22図　須恵器・土師器実測図（A区２号窯灰原）　S＝１／４



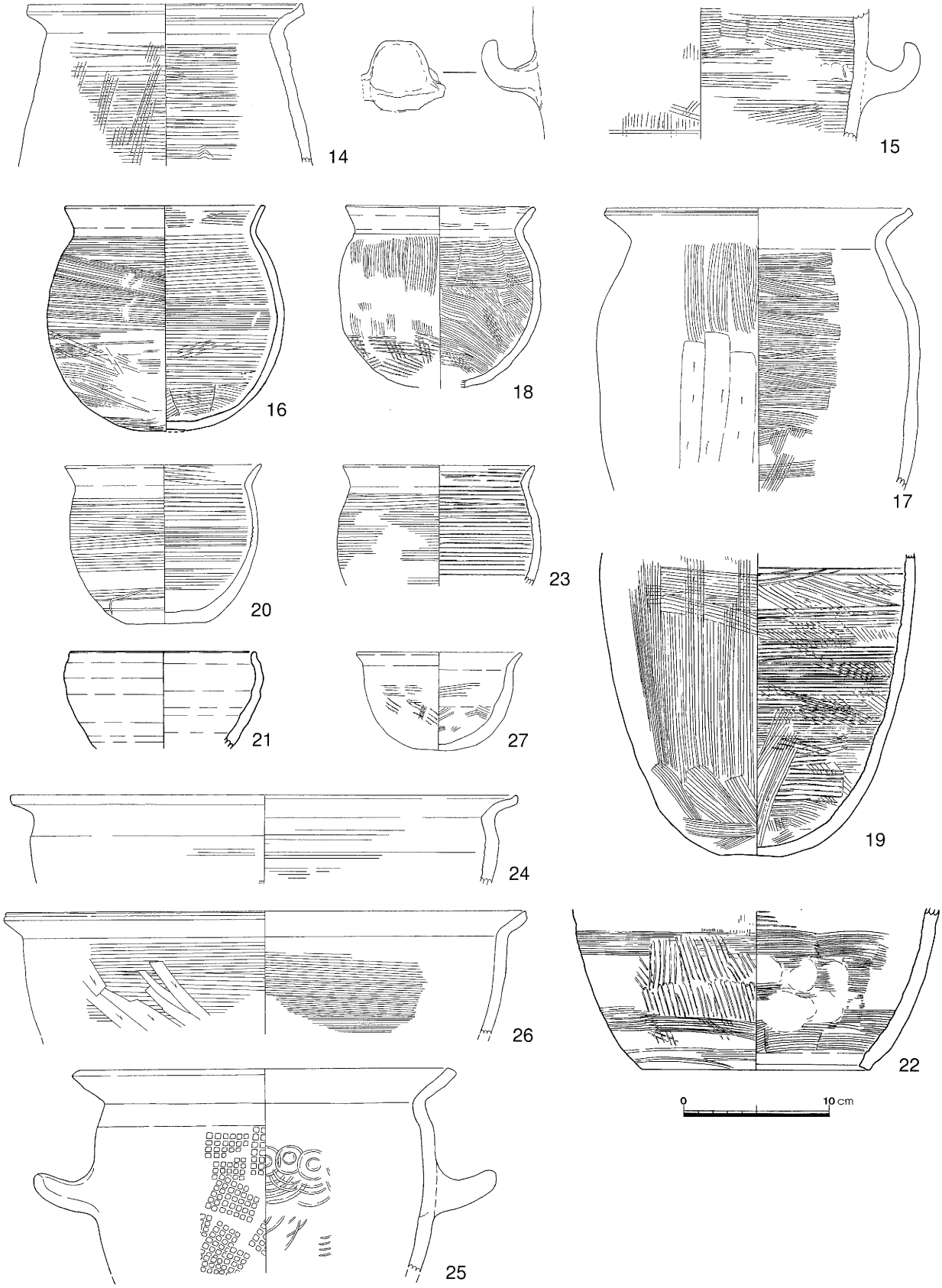
第23図　須恵器・土師器実測図（A区２号灰c）　S＝１／４



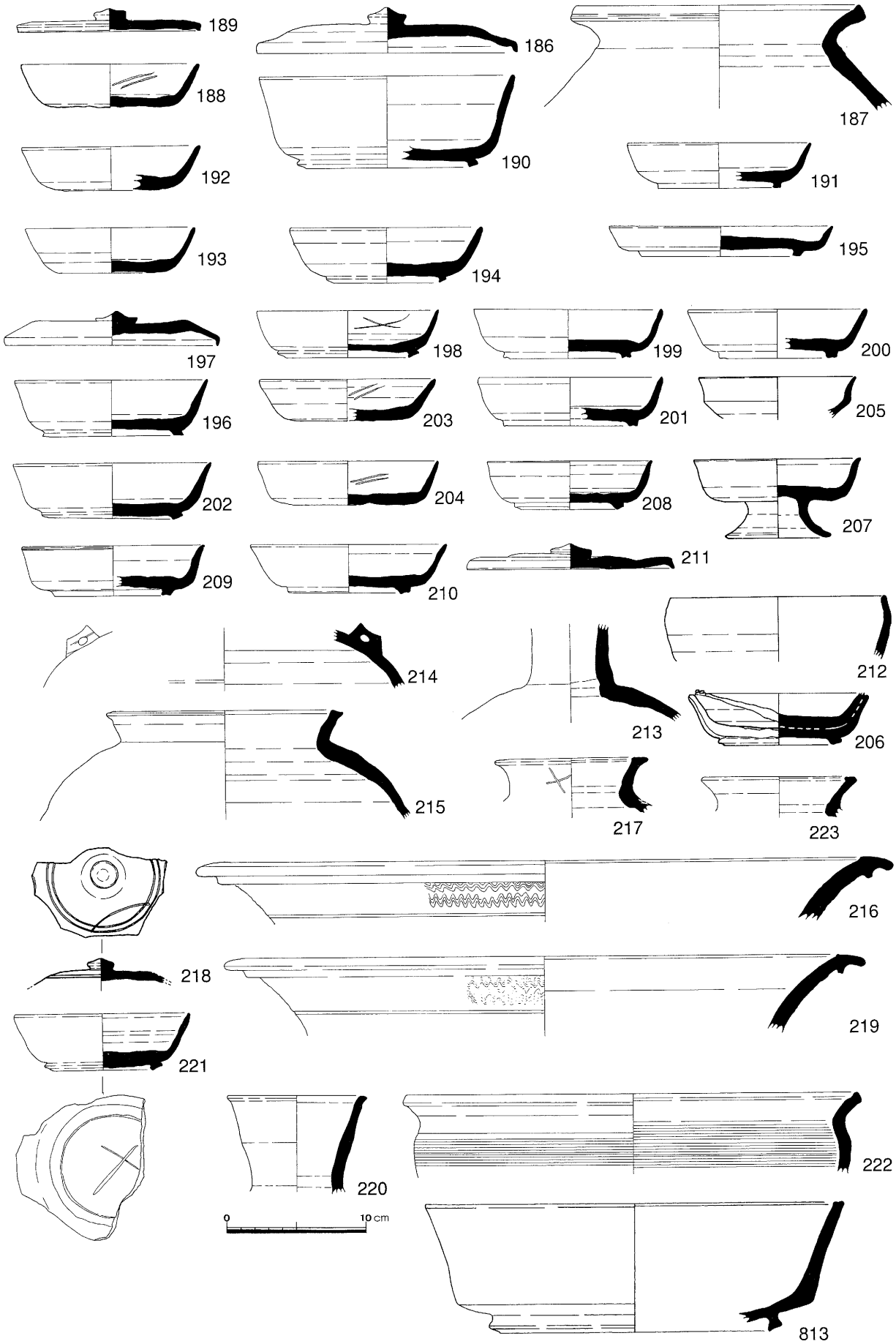
第24図　須恵器実測図（A区灰c）　S＝1／4



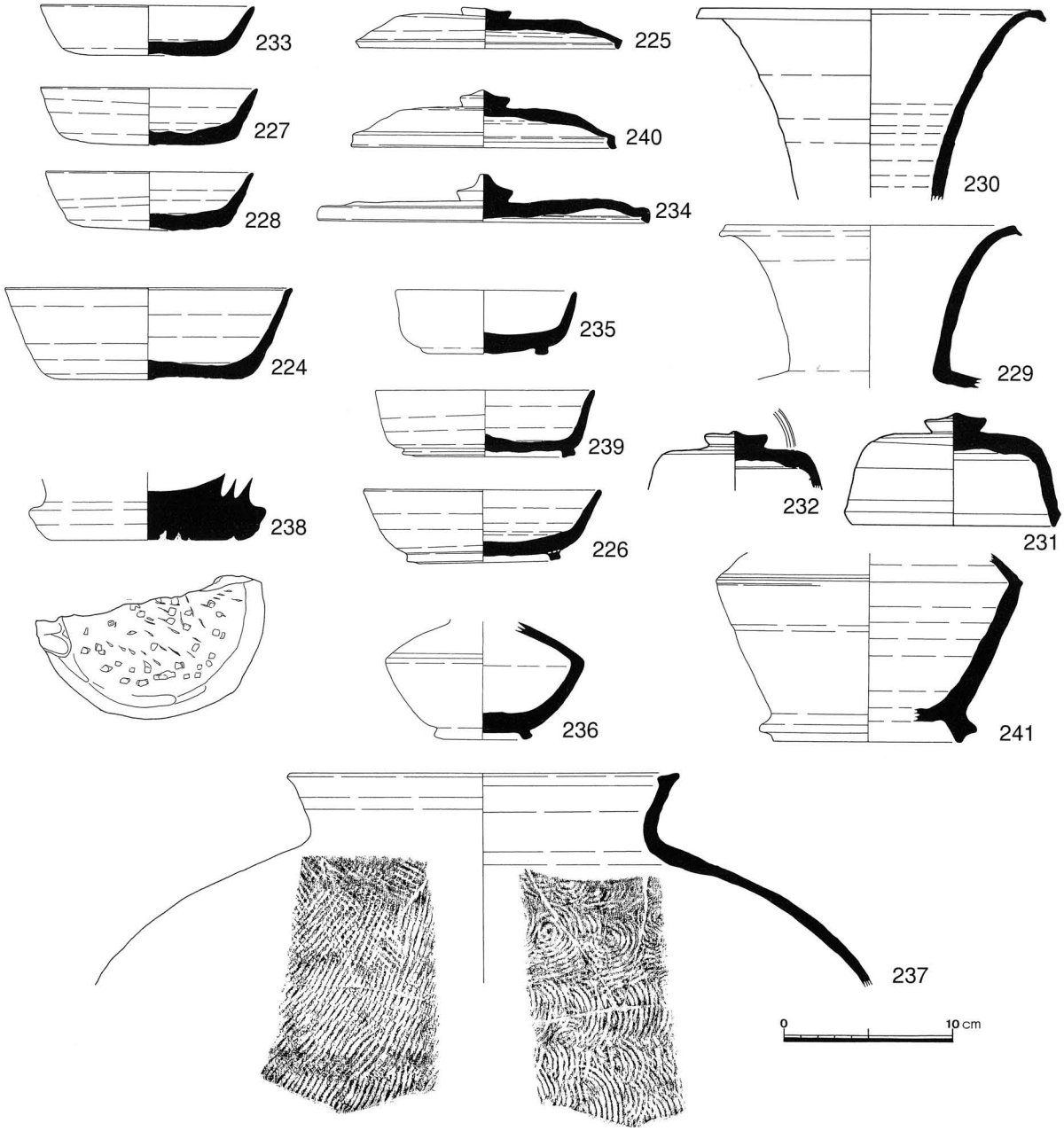
第25図　須恵器実測図（A区２号窯灰原ｅ）　**S＝１／４**



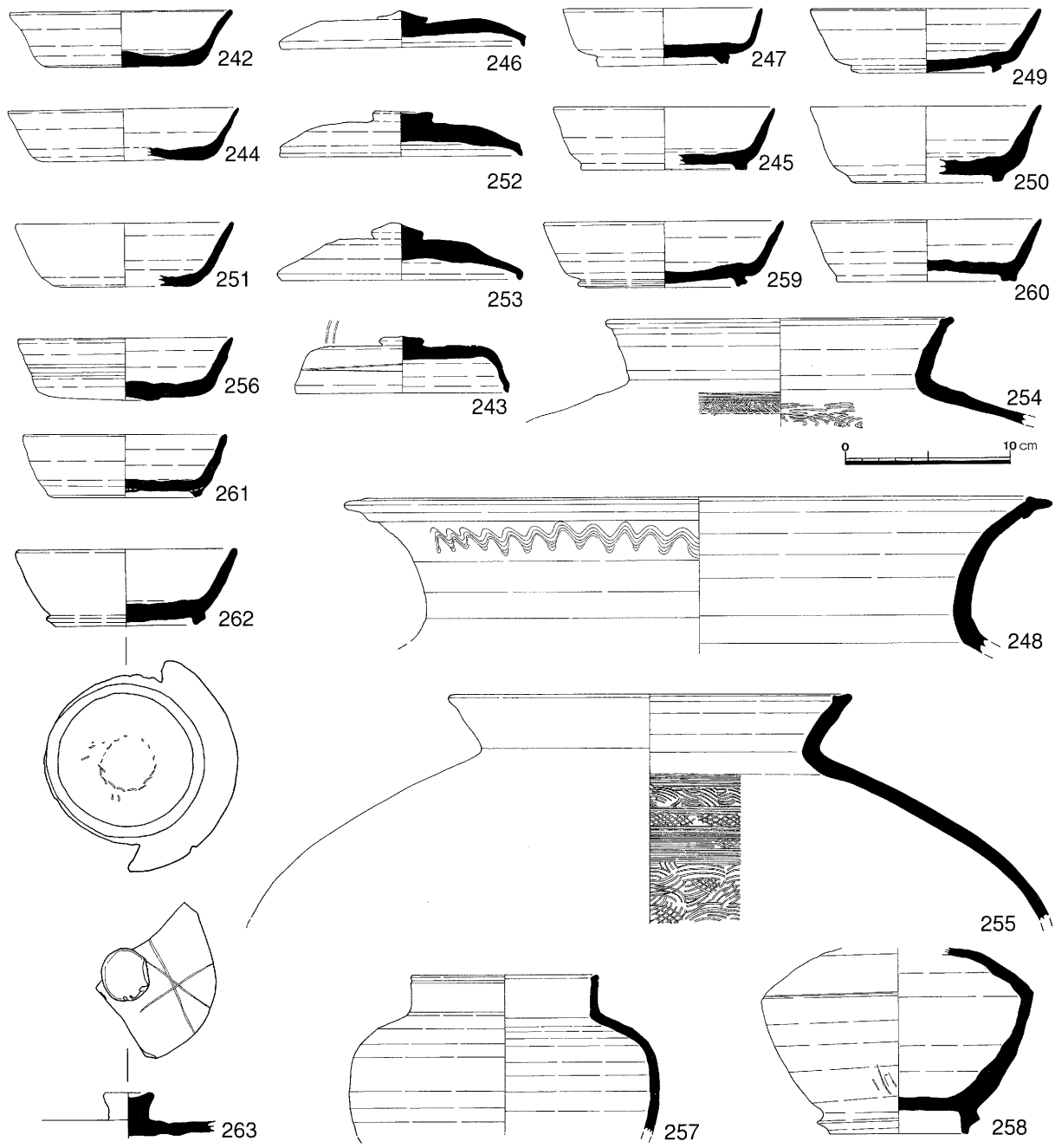
第26図　土師器実測図（A区２号窯灰原ｅ）　S＝１／４



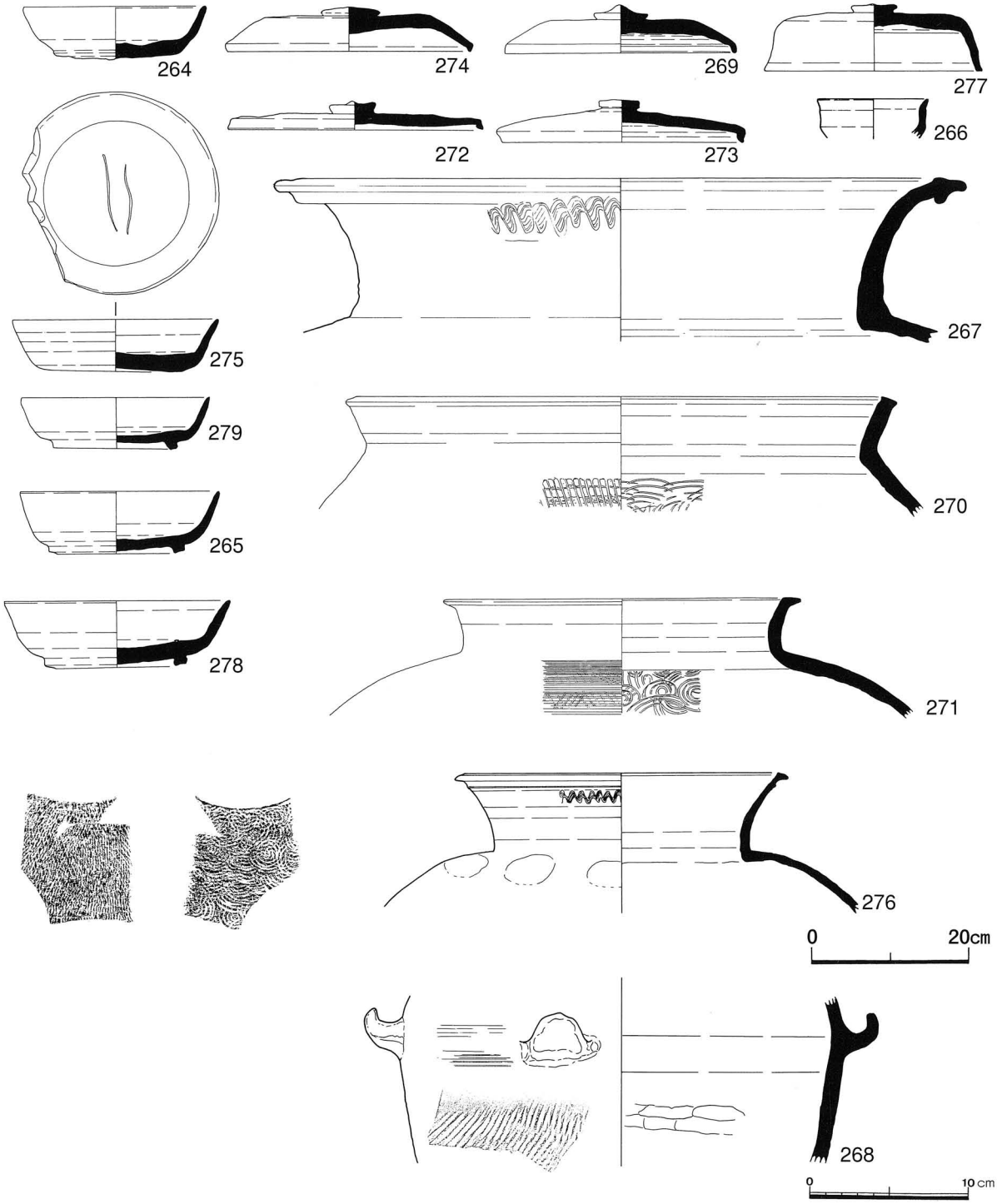
第27図　須恵器実測図（A区灰原ｅ）　S＝１／４



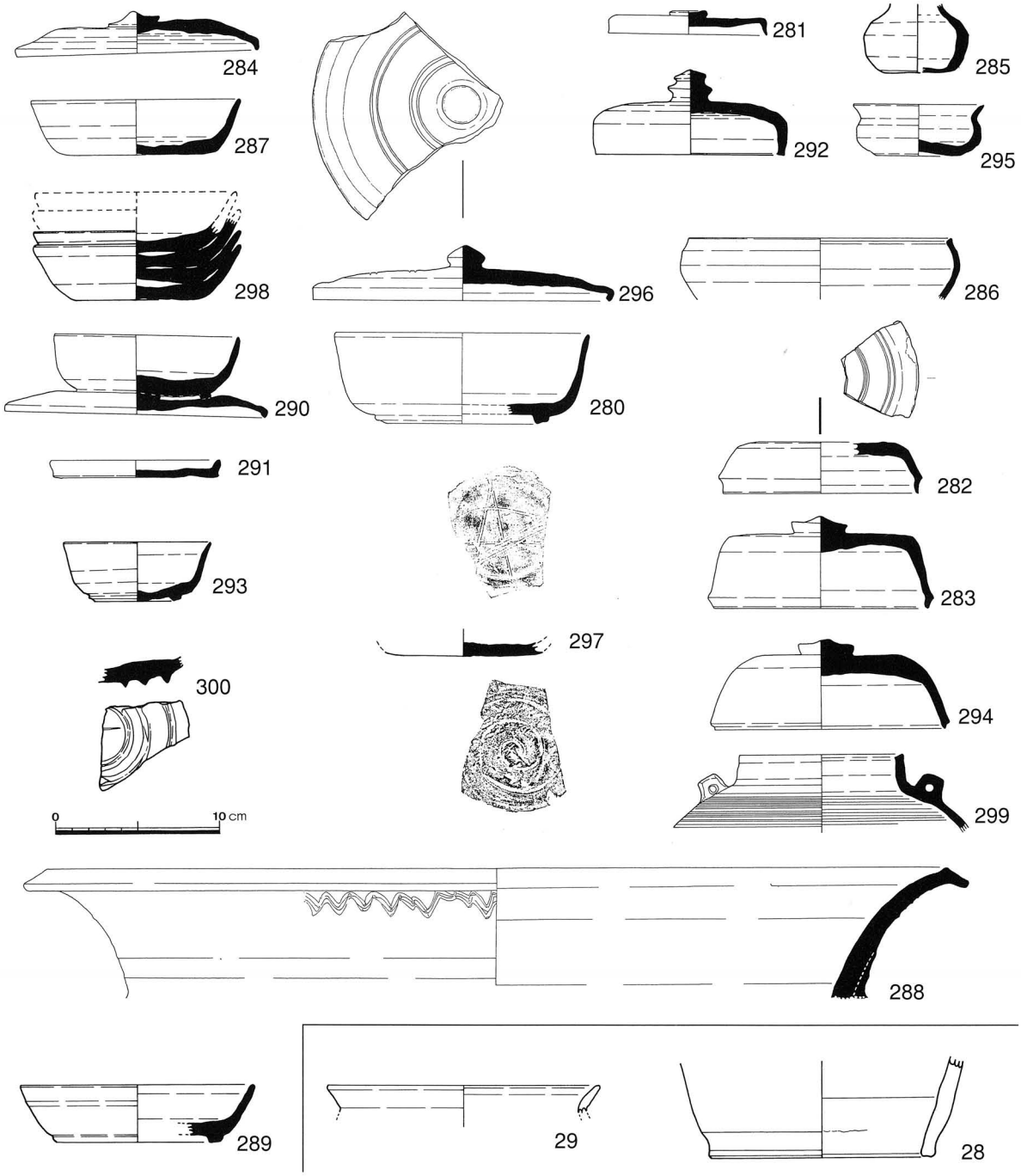
第28図　須恵器実測図（A区灰原ｅ）　S＝1／4



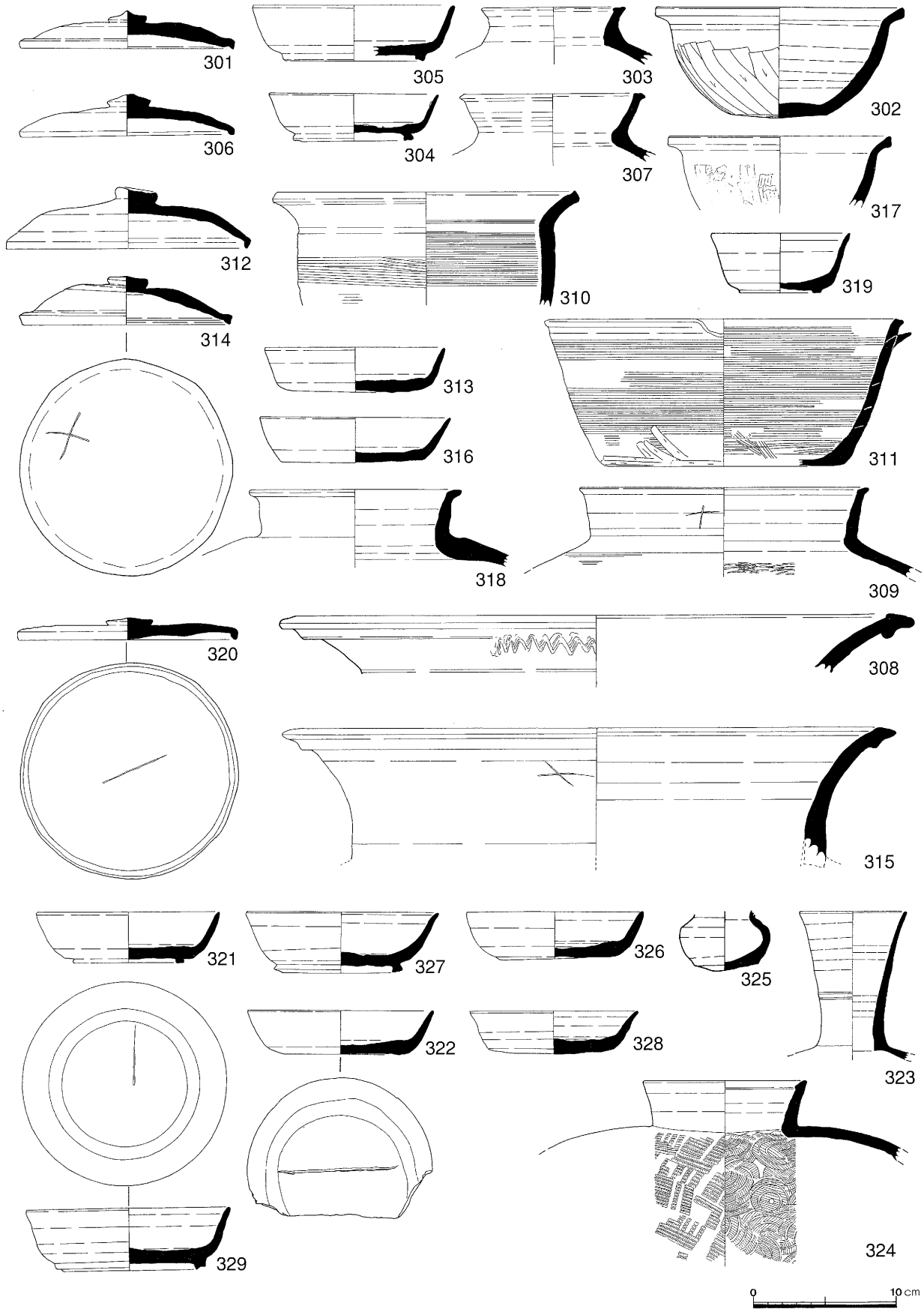
第29図　須恵器実測図（A区灰原ｅ）　S＝１／４



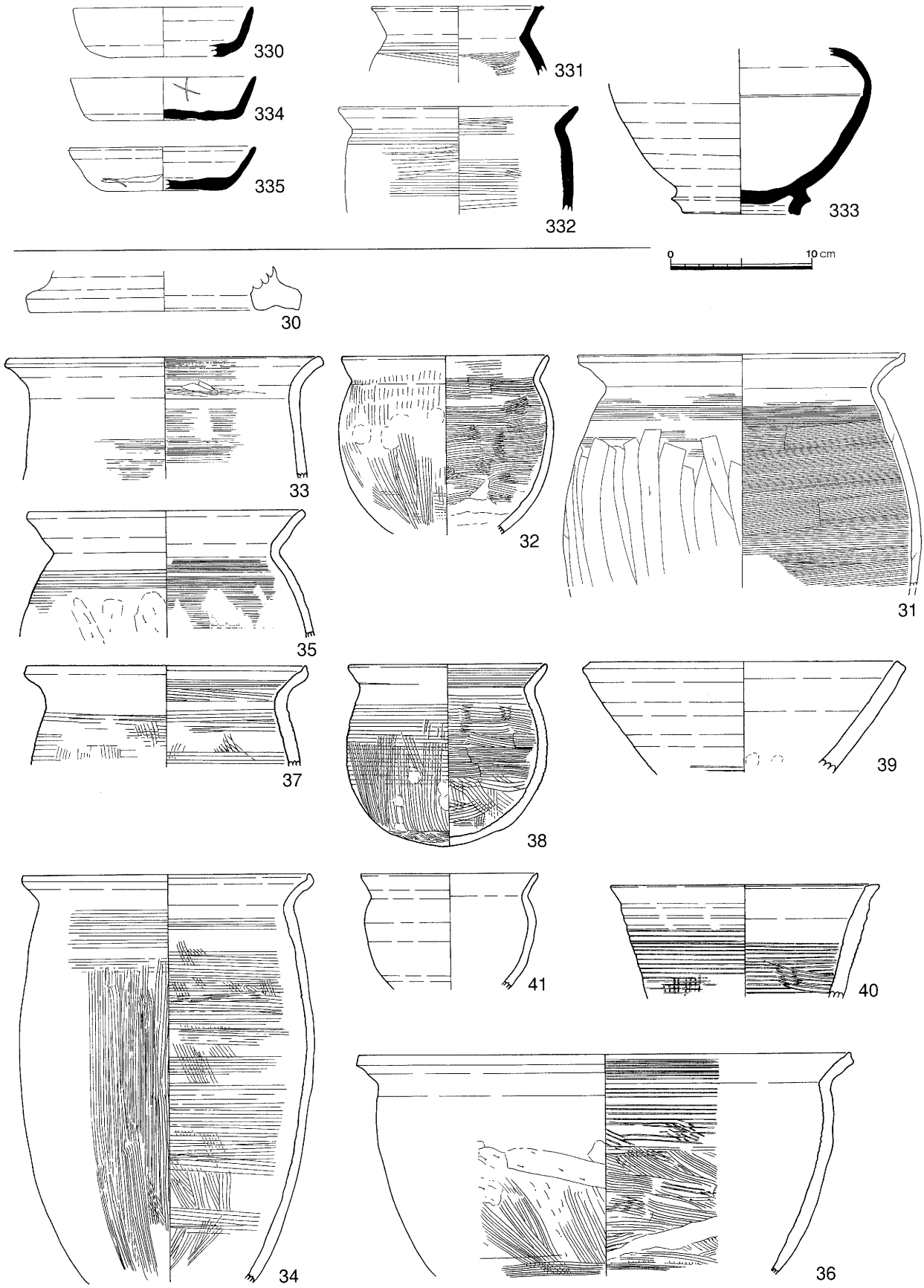
第30図　須恵器実測図（A区灰原 e ～ f）　S＝1／4，276は　S＝1／8



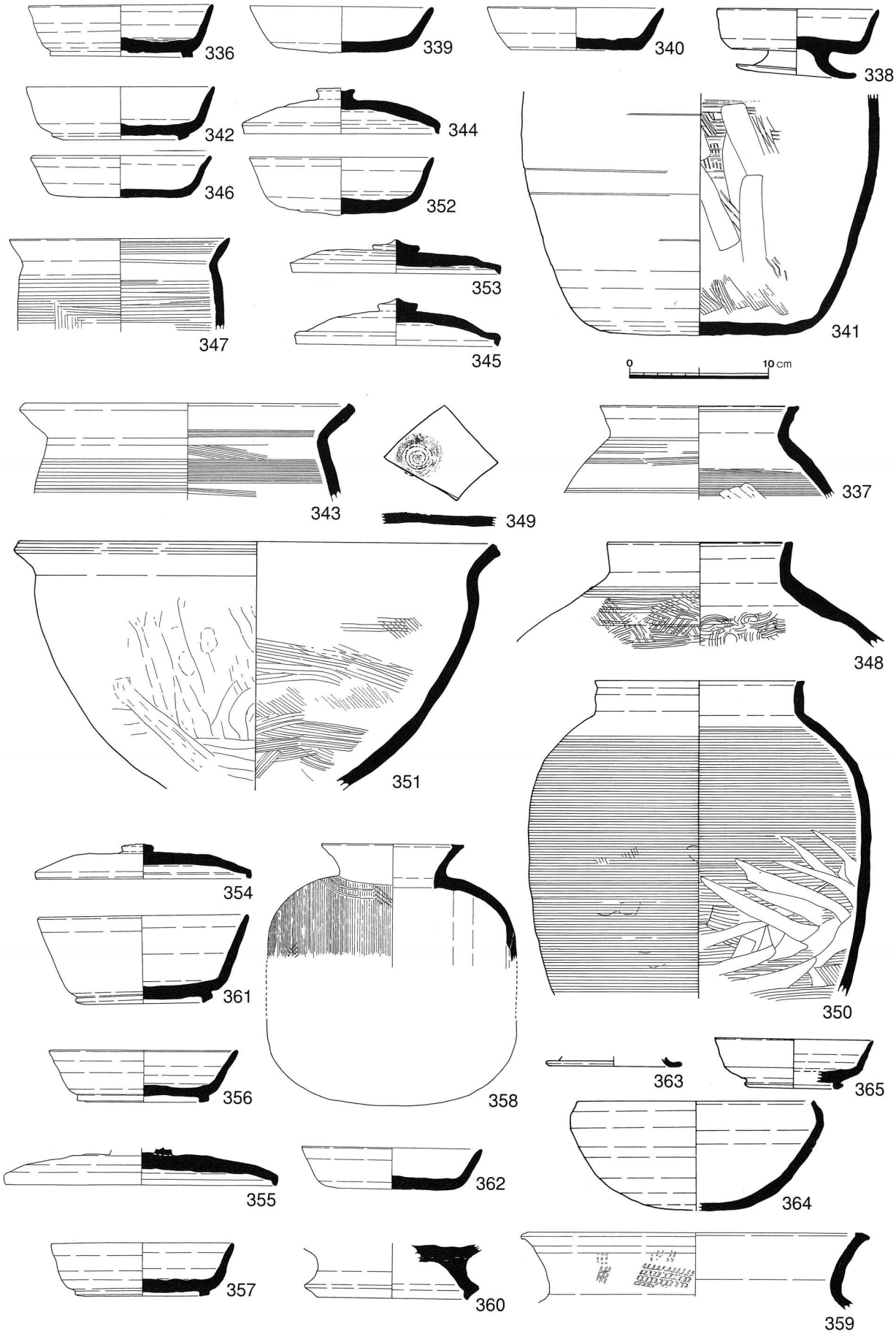
第31図　須恵器・土師器実測図（A区灰原，SD02，SK02，ｐ６，包含層）**S＝１／４**



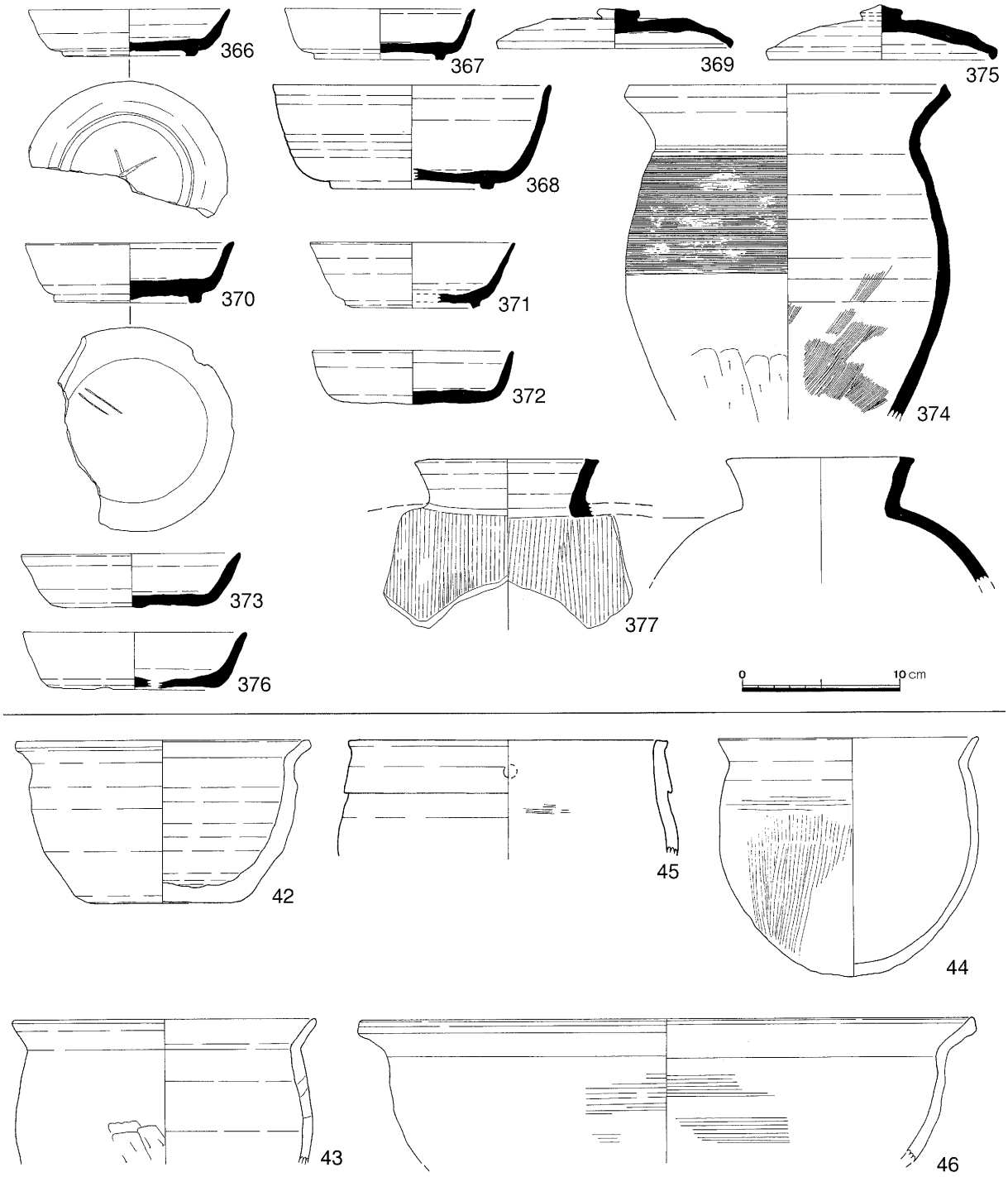
第32図　須恵器実測図（B区）　S＝1／4



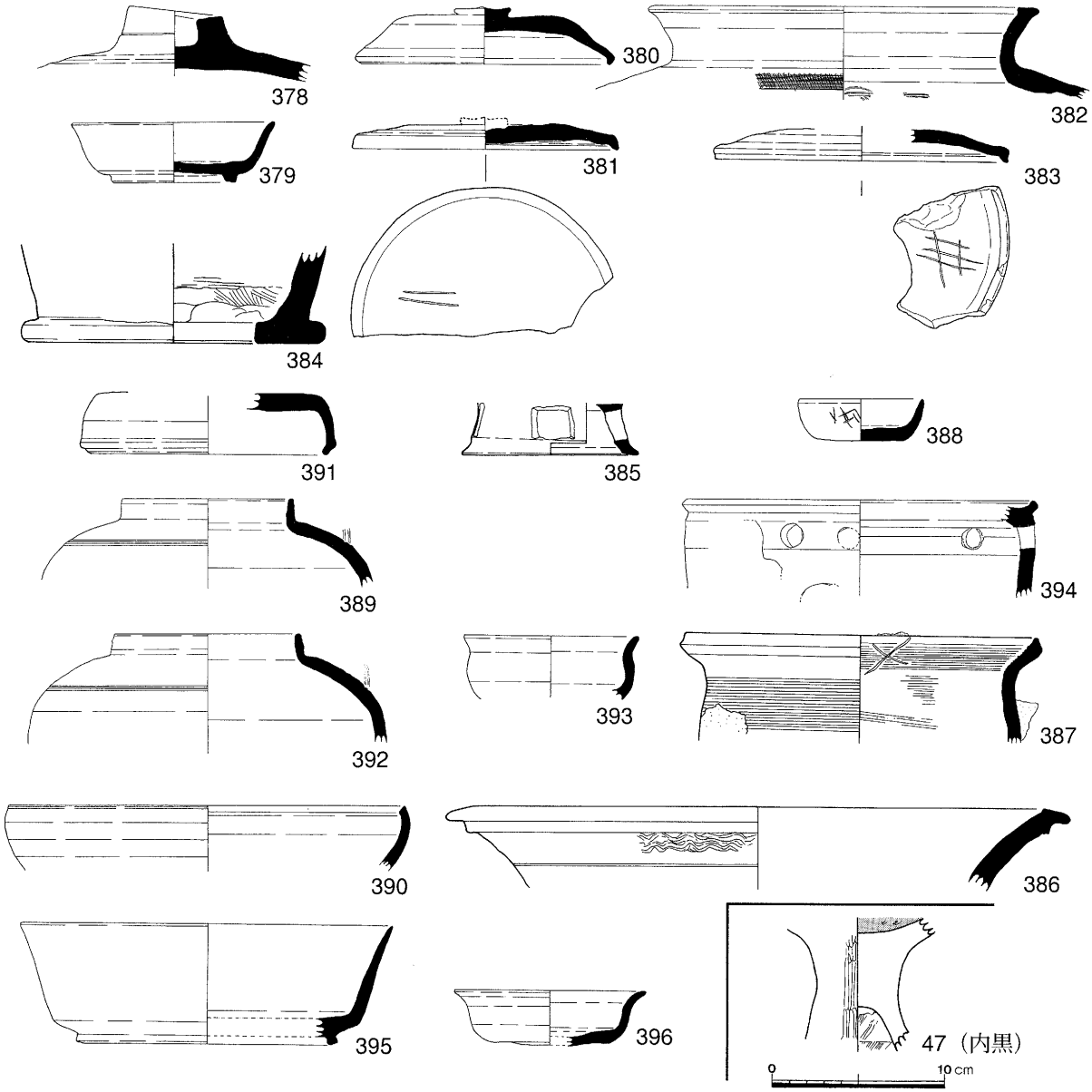
第33図　須恵器・土師器実測図（B区）　S＝1／4



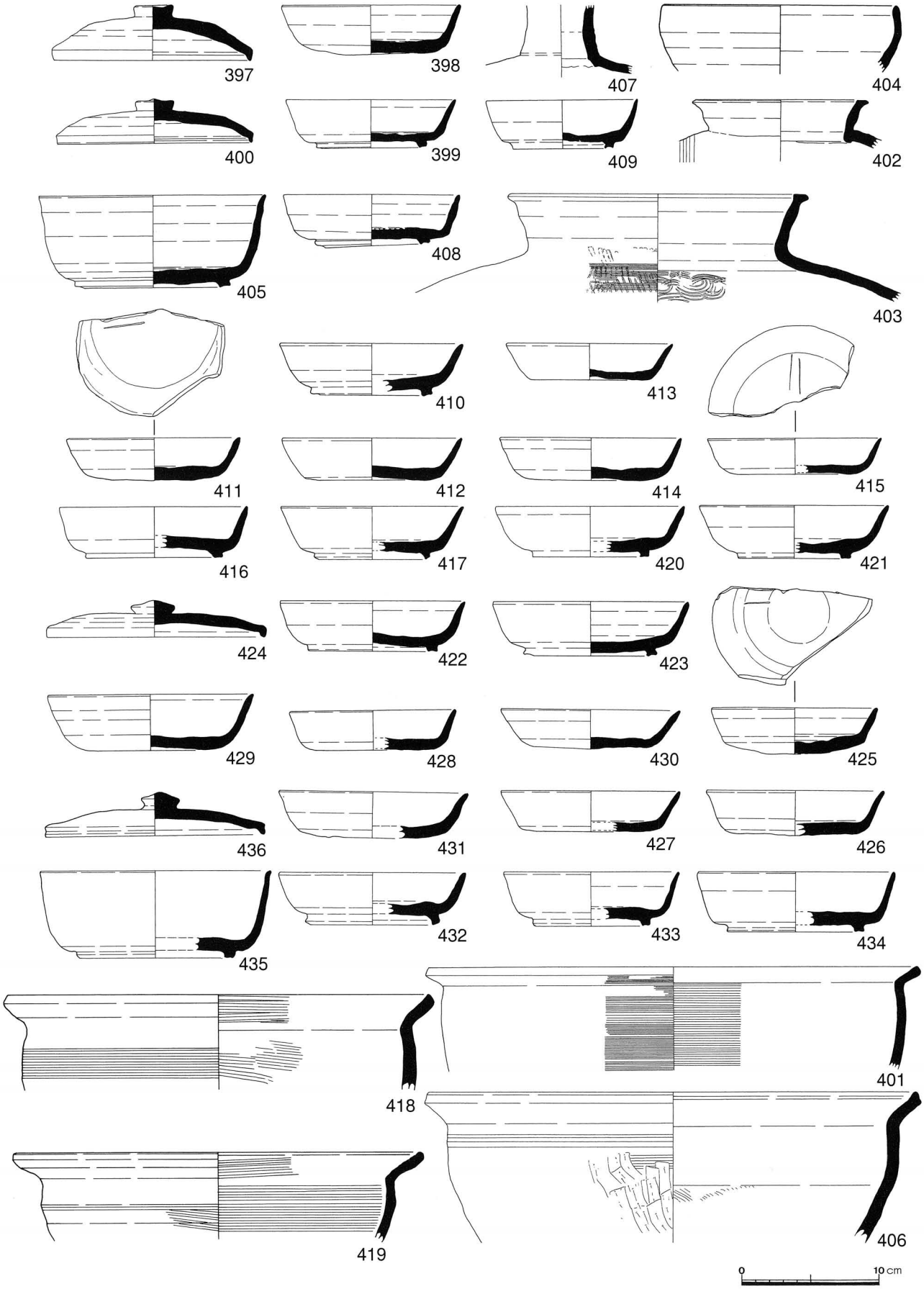
第34図　須恵器実測図（B区　SD01，SK02，03，04，07，09，SX03）　S＝1／4



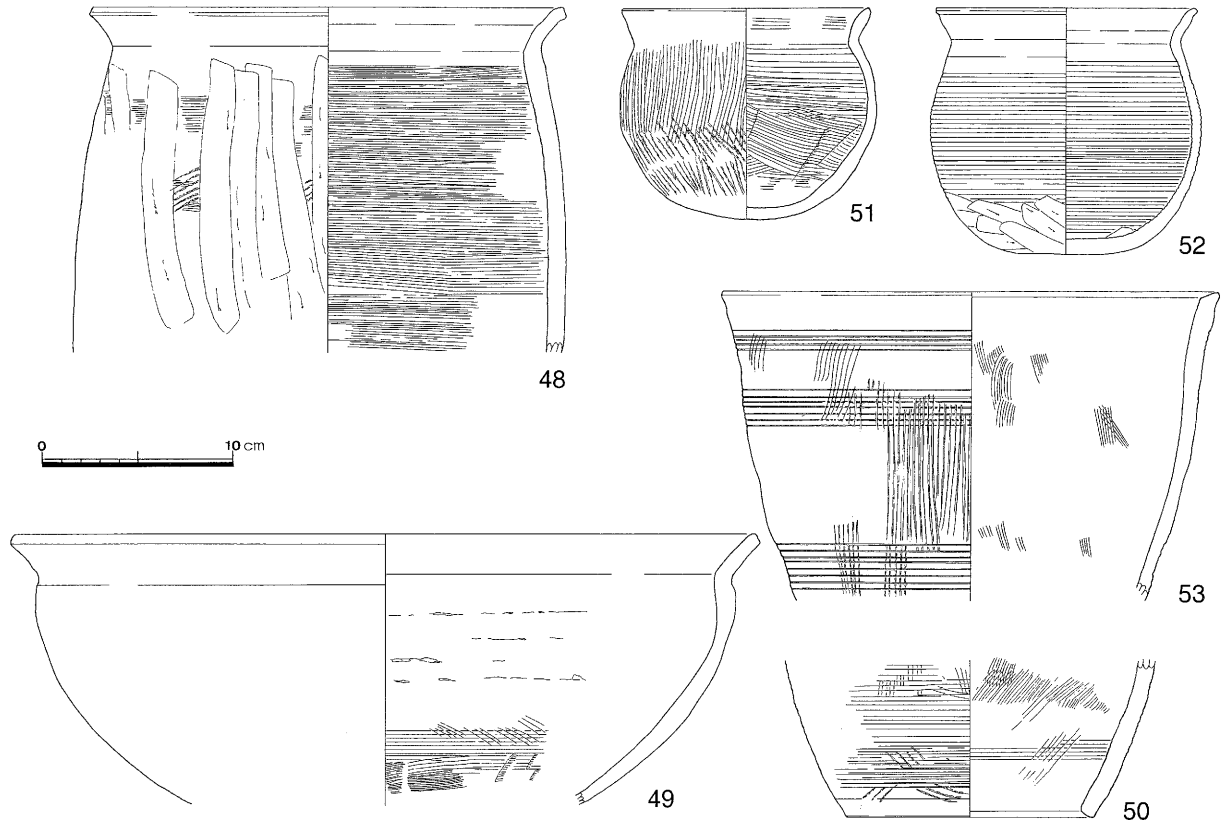
第35図　須恵器（B区 SX08,10,12,13,14,15,19,21）**土師器**（B区 SD01,SX03,15,19,21）**実測図　S＝1／4**



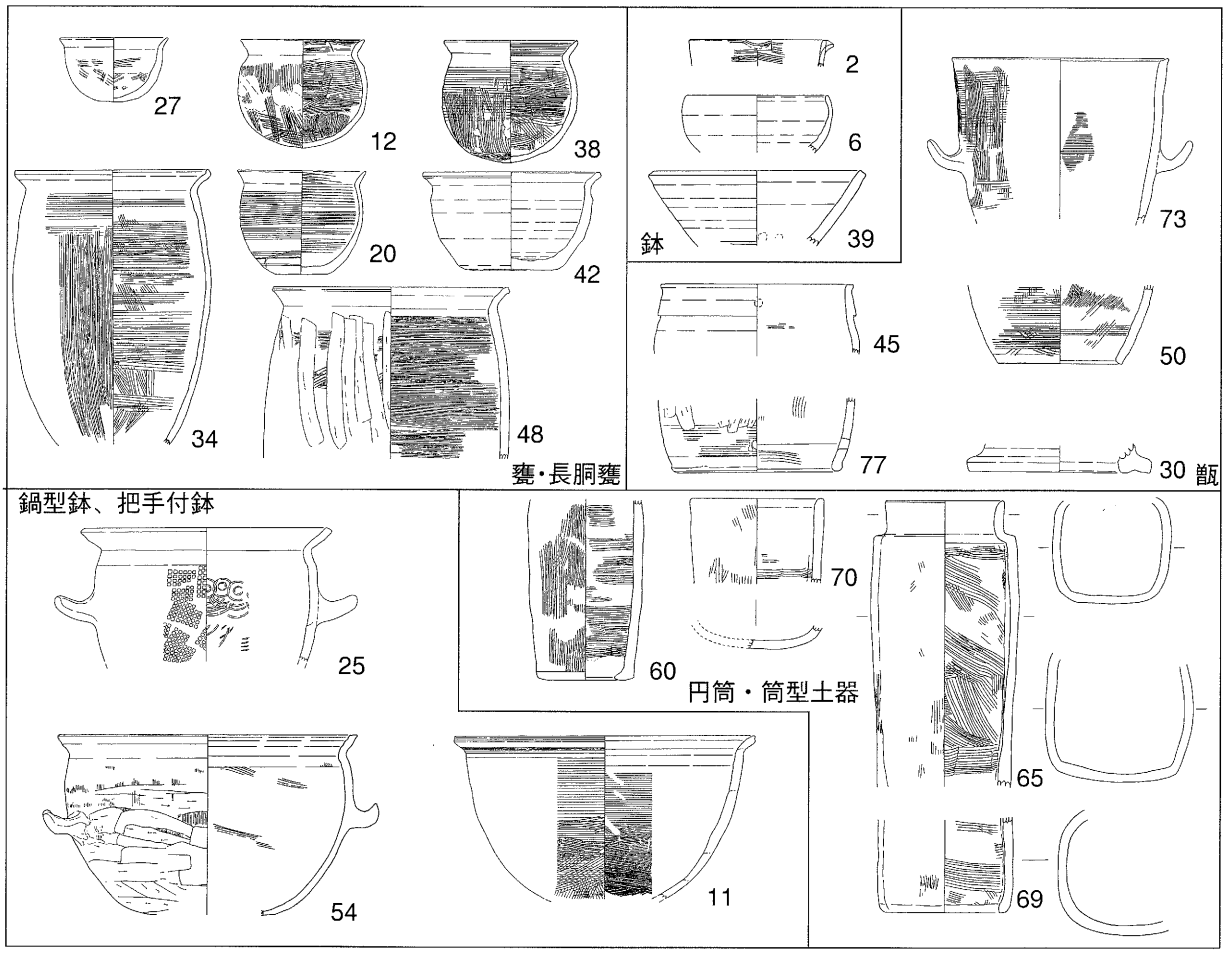
第36図　須恵器（B区　灰原，包含層）**土師器**（B区　包含層）**実測図　S＝1／4**



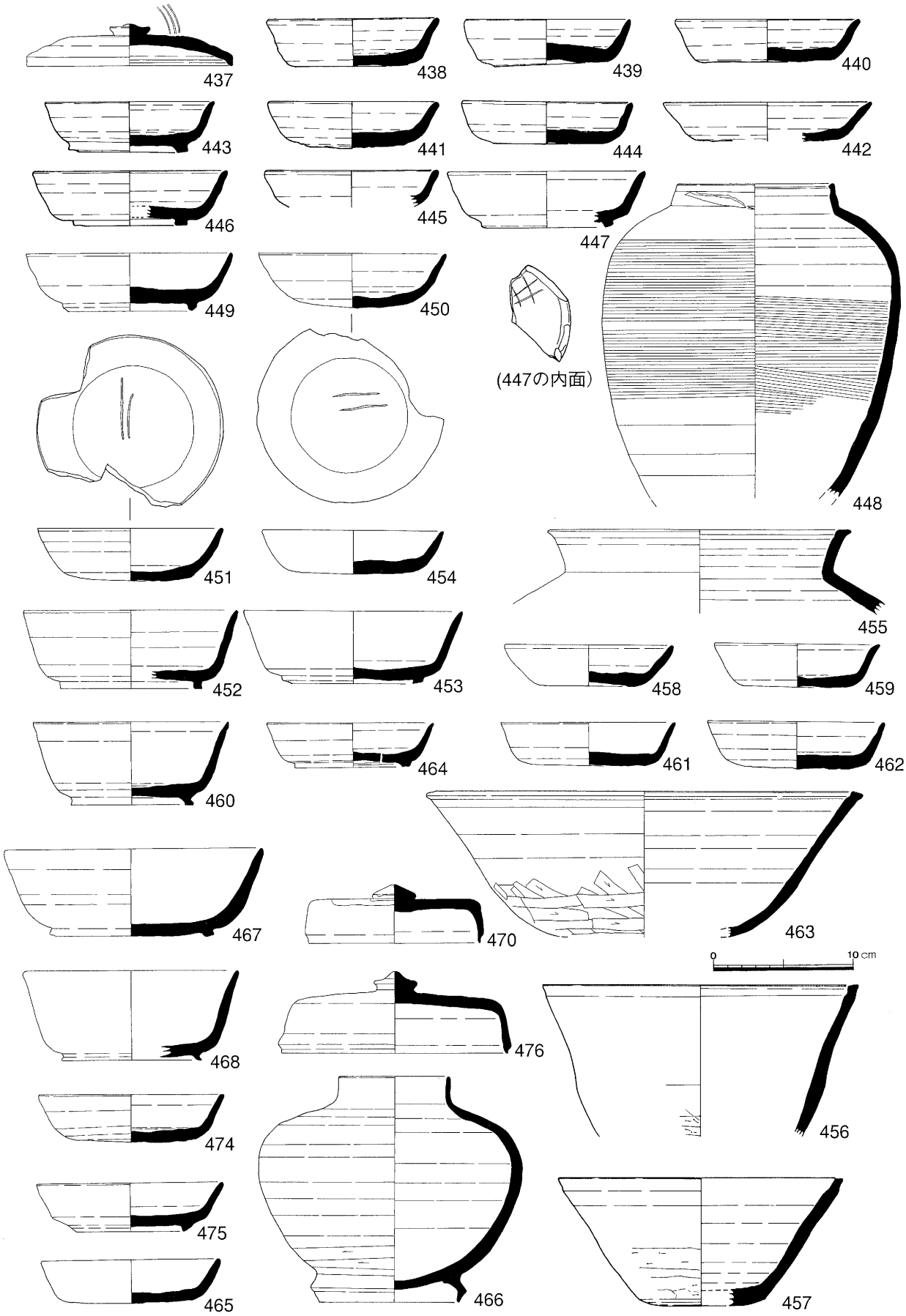
第37図　須恵器実測図（C区　層位別）　S＝1／4



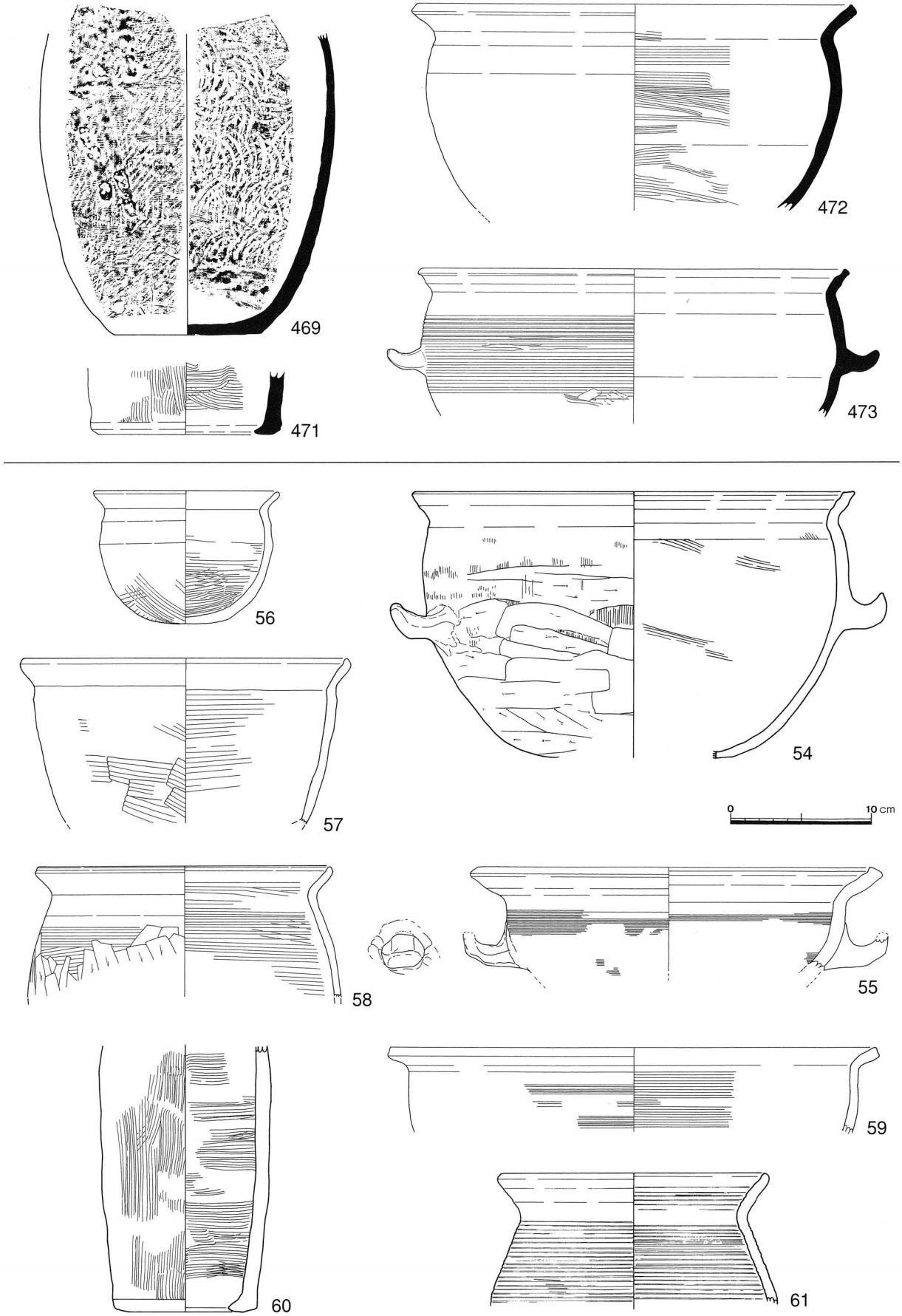
第38図　土師器実測図（C区　52層）　S＝1／4



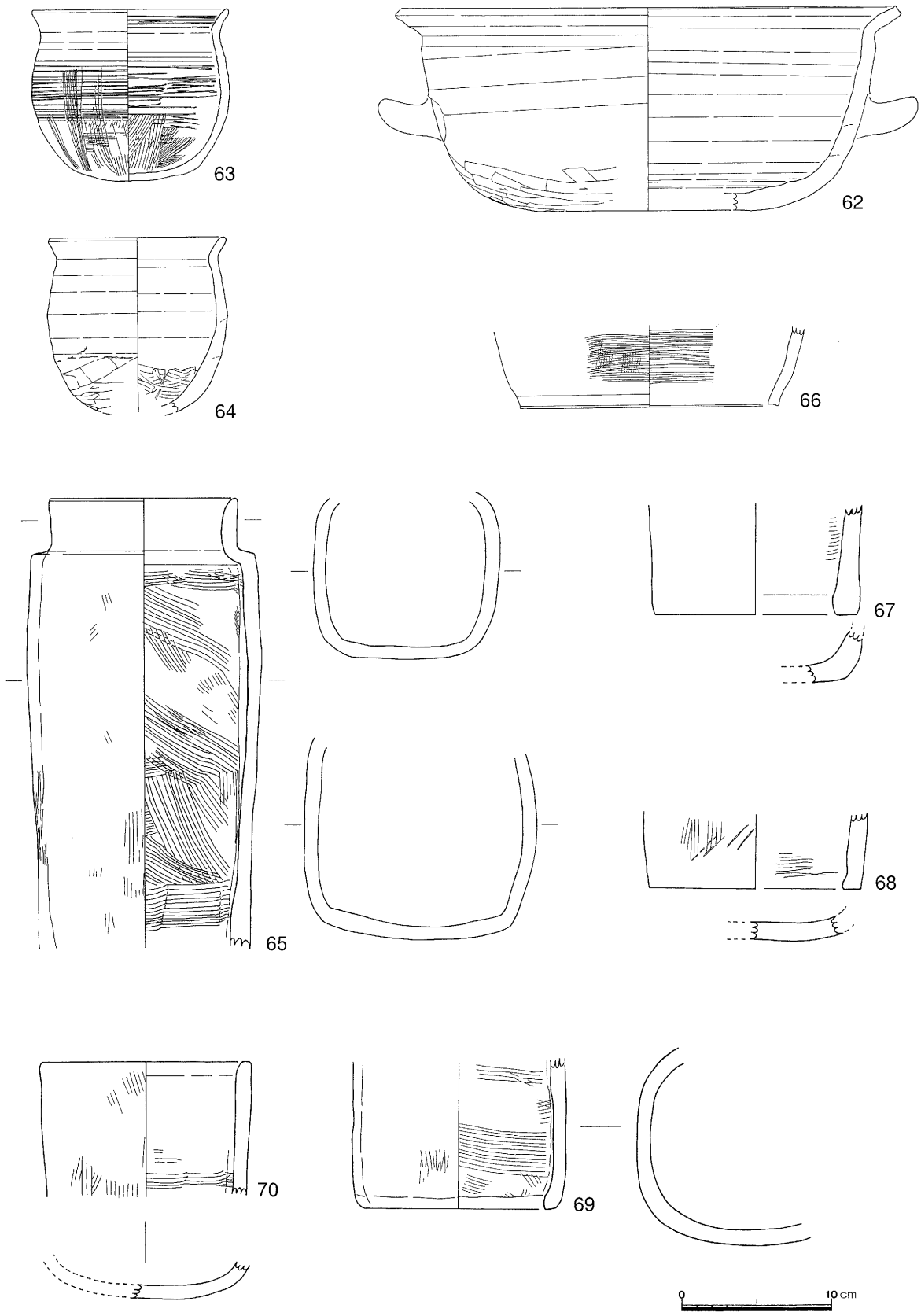
第39図　土師器　器種分類（S＝1／8）



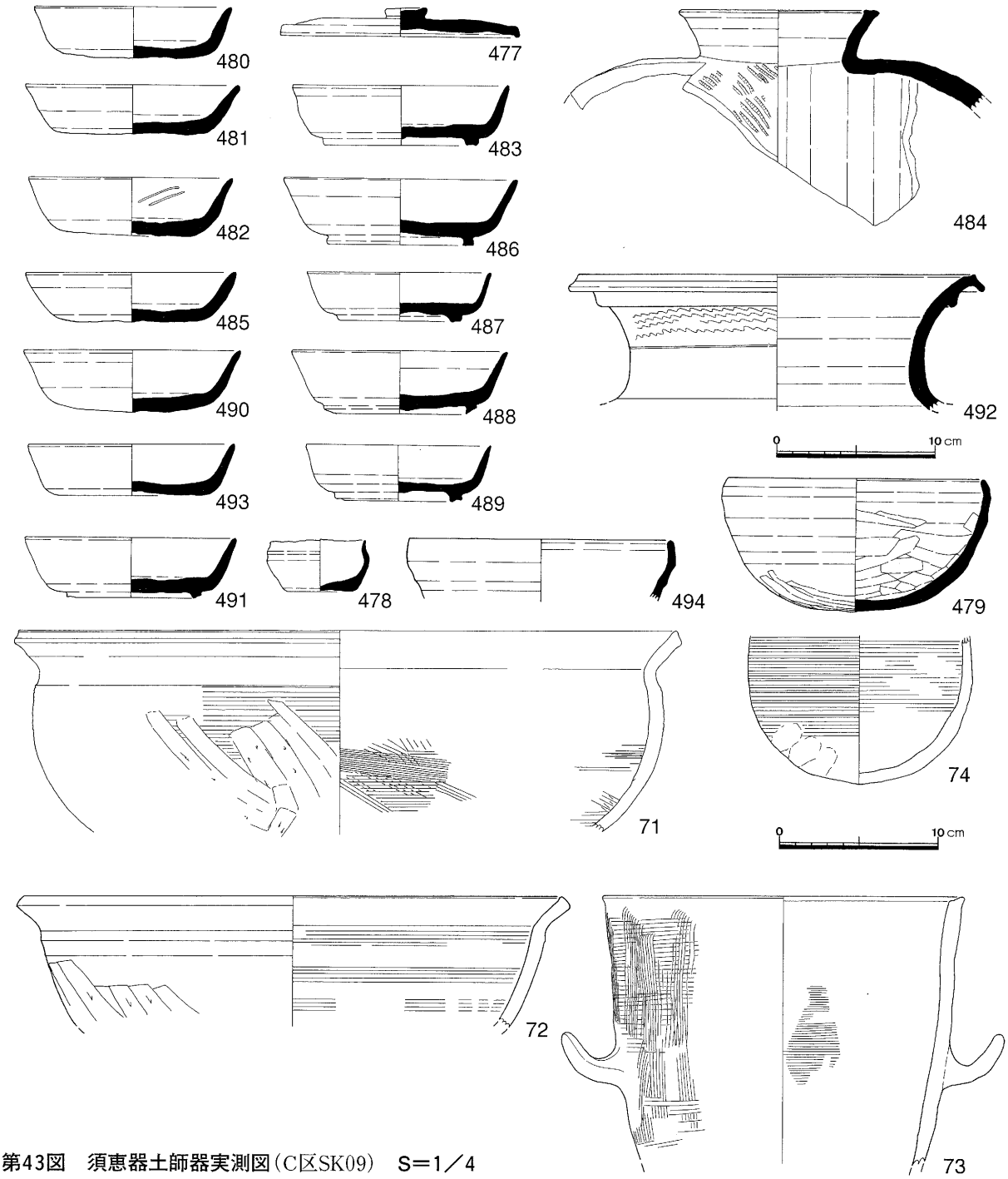
第40図　須恵器実測図（C区SK01）　S＝1／4



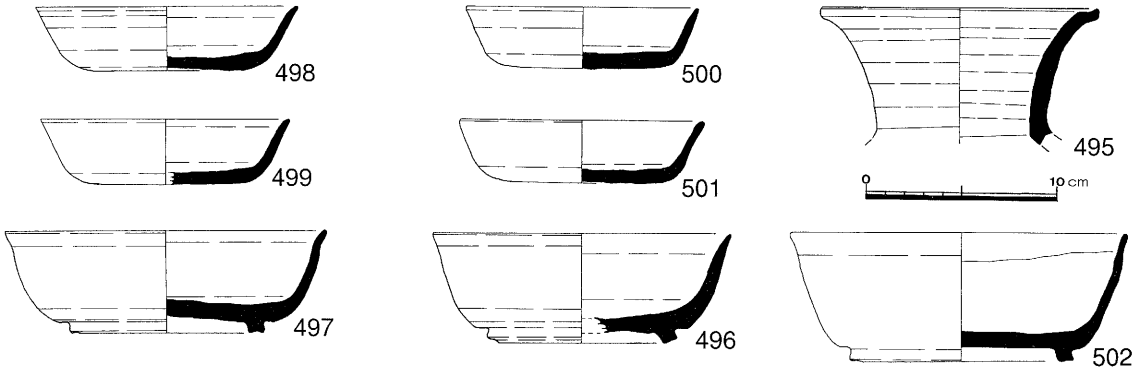
第41図　須恵器・土師器実測図（C区SK01）　S＝1／4



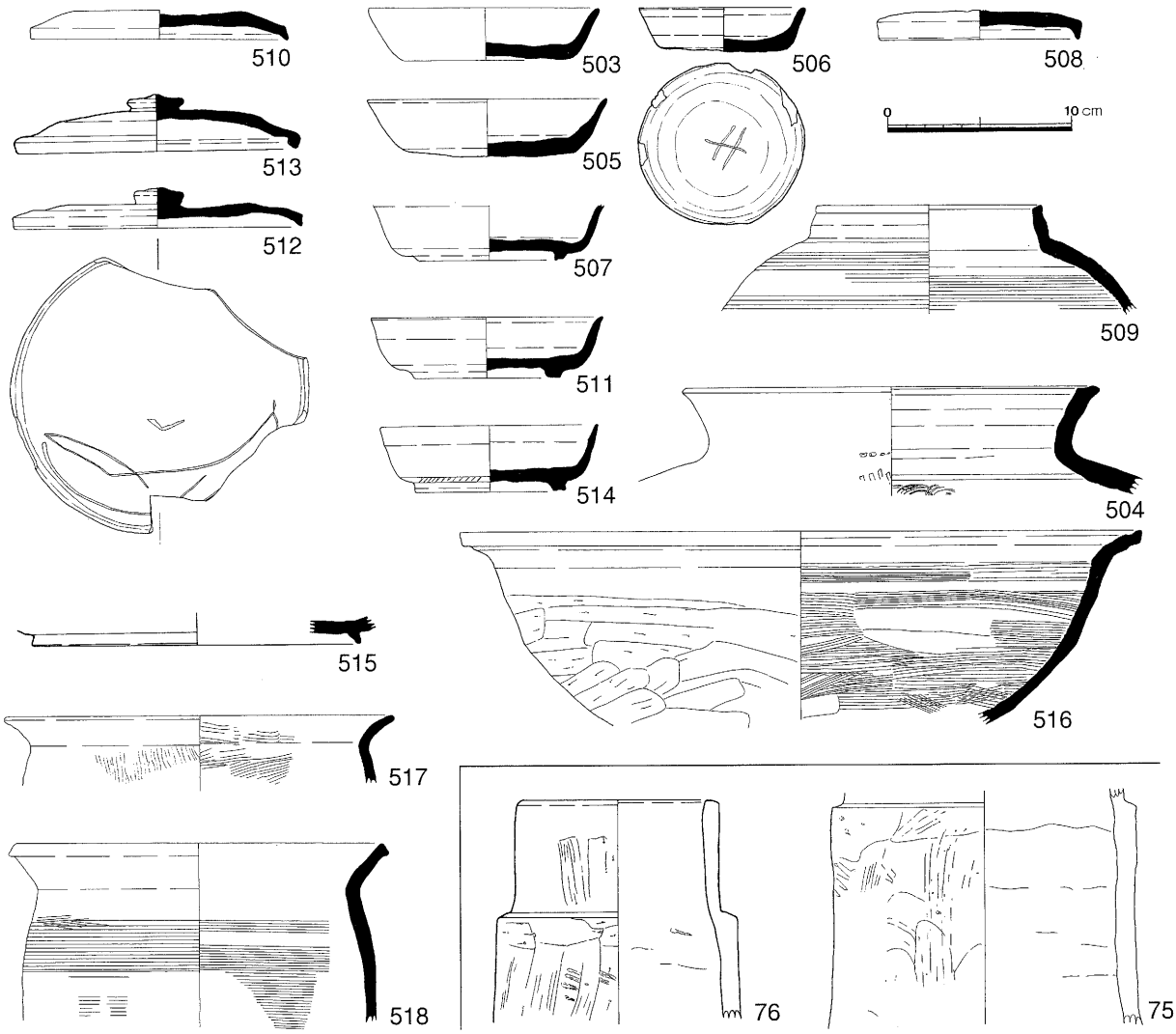
第42図　土師器実測図（C区SK01）　S＝1／4



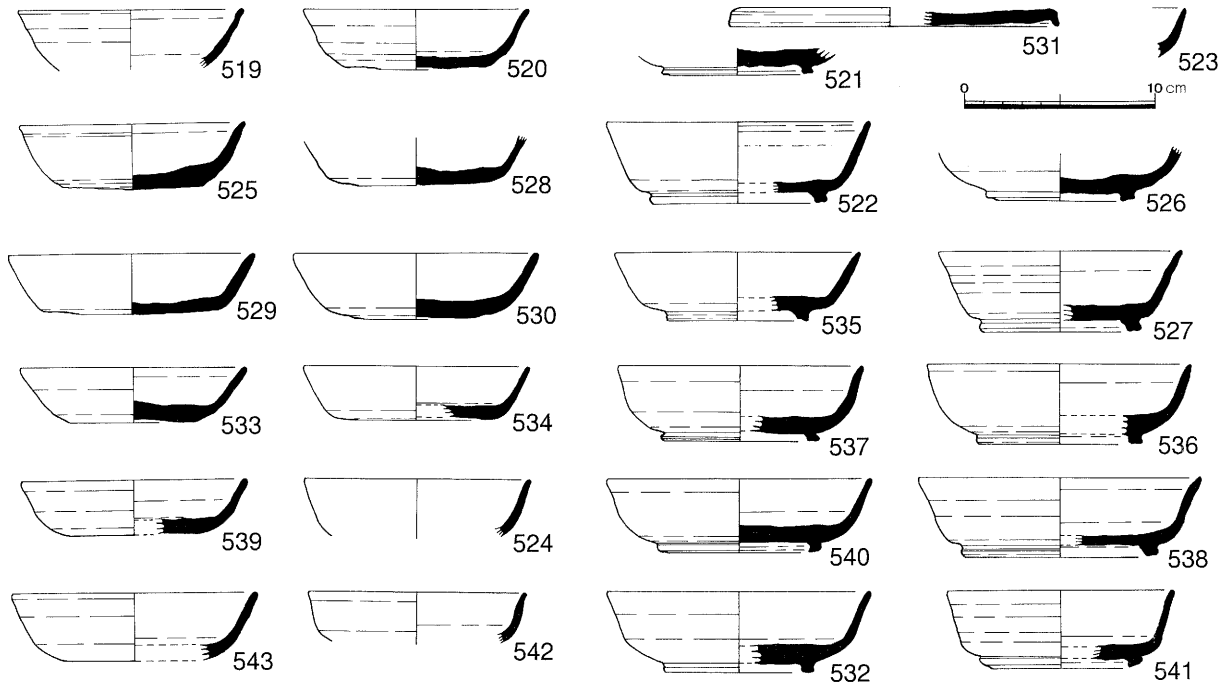
第43図　須恵器土師器実測図（C区SK09）　S＝1／4



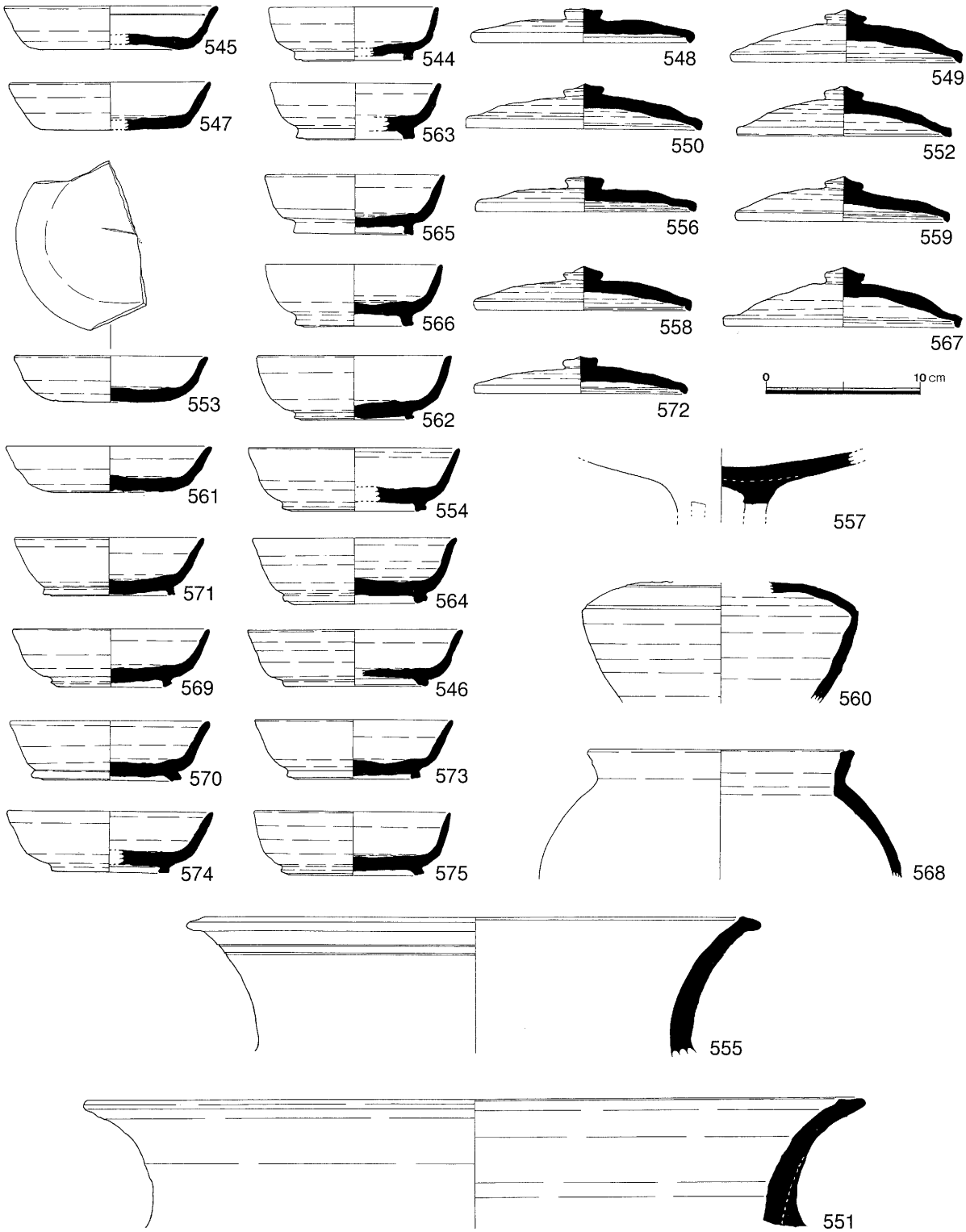
第44図　須恵器実測図（C区SX01）　S＝1／4



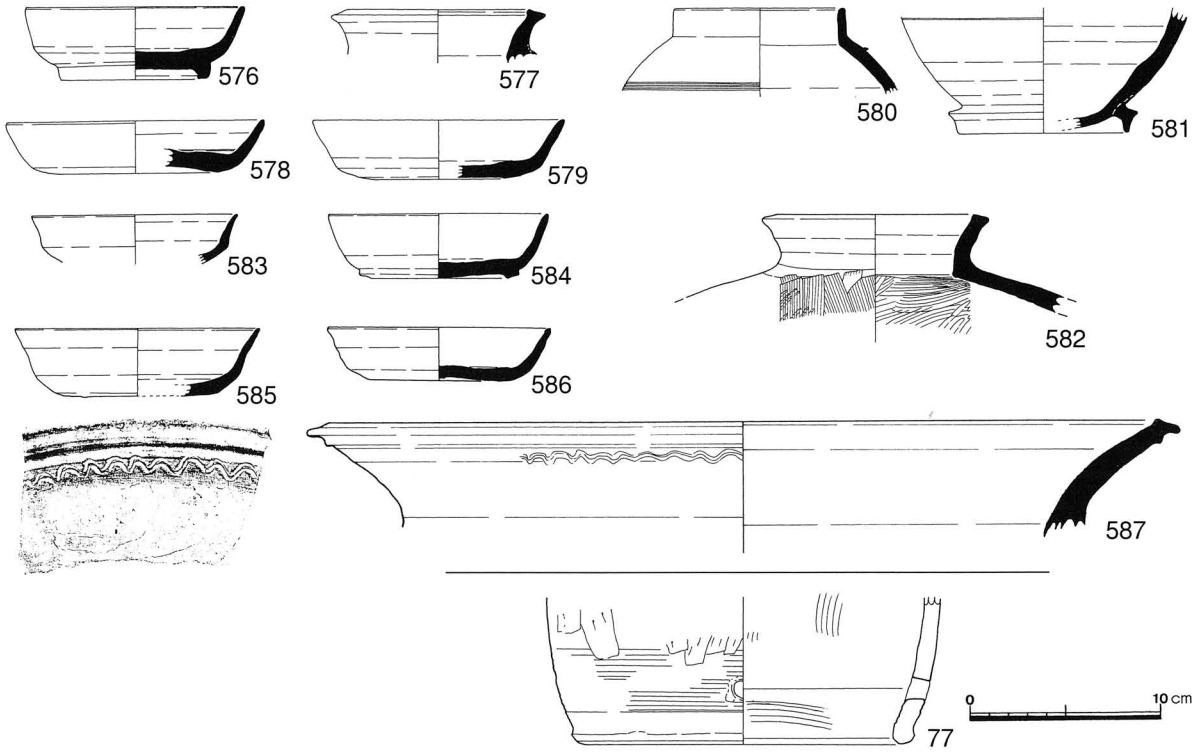
第45図　須恵器・土師器実測図（C区灰原,包含層）　S＝1／4



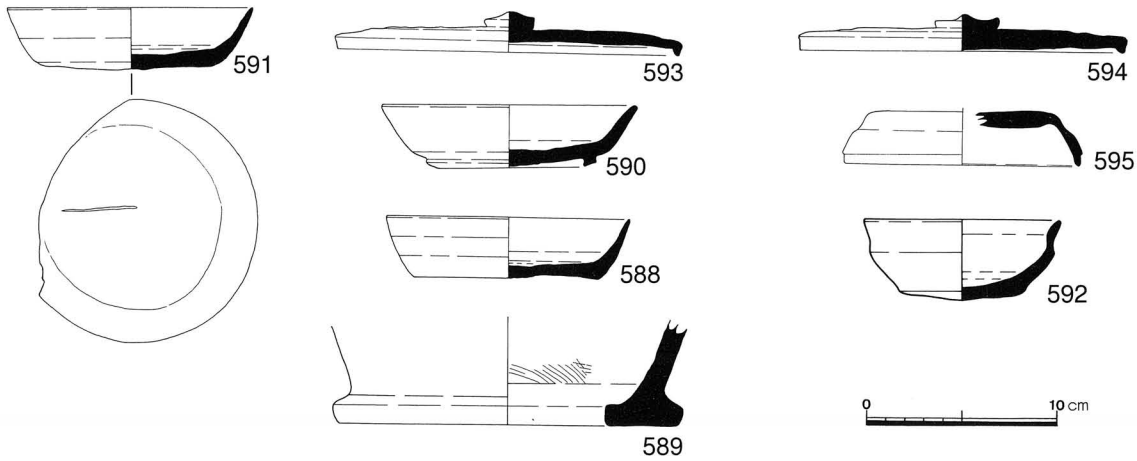
第46図　須恵器実測図（D区1号窯　窯体内）　S＝1／4



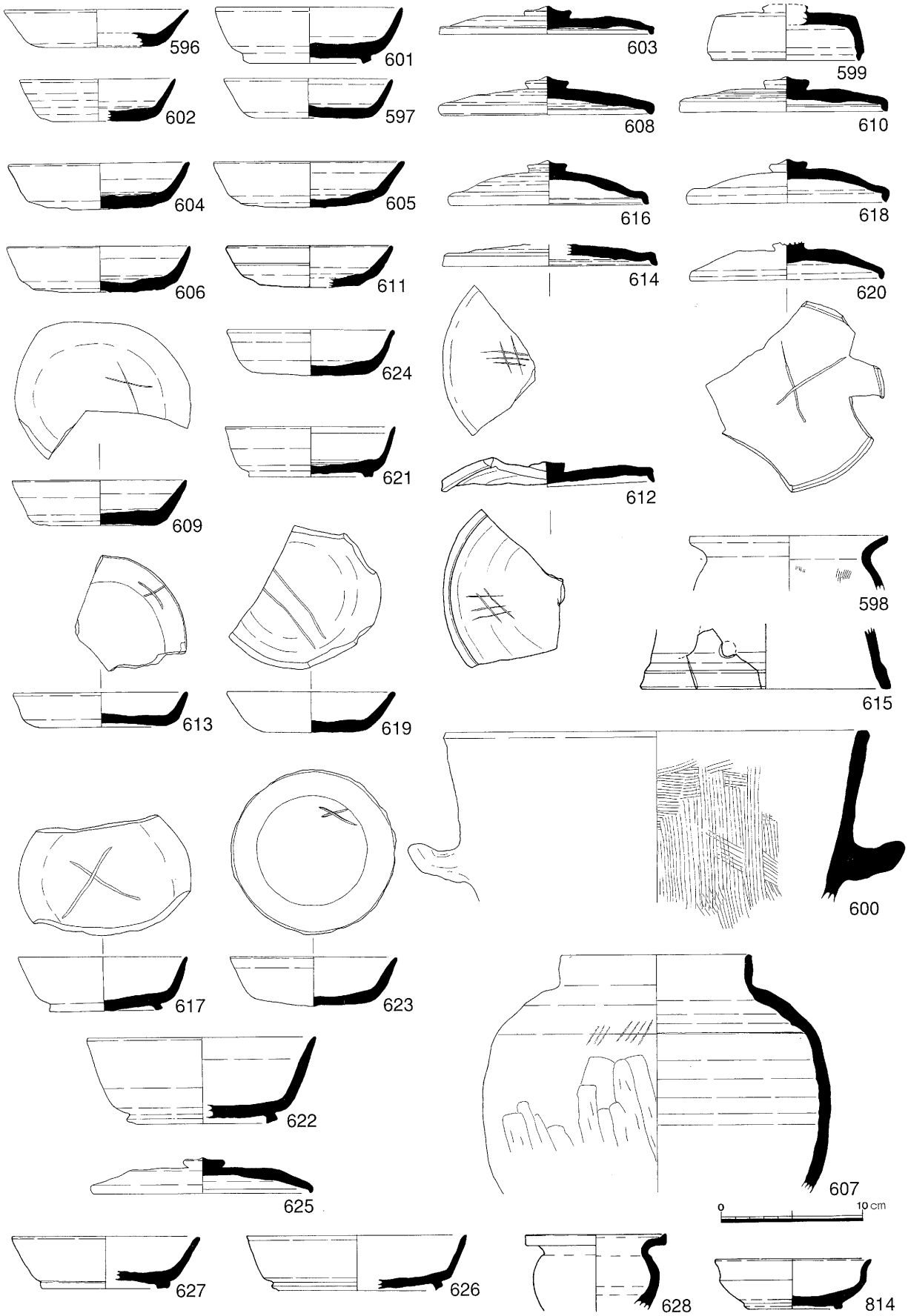
第47図　須恵器実測図（D区１号窯　窯体内）　S＝１／４



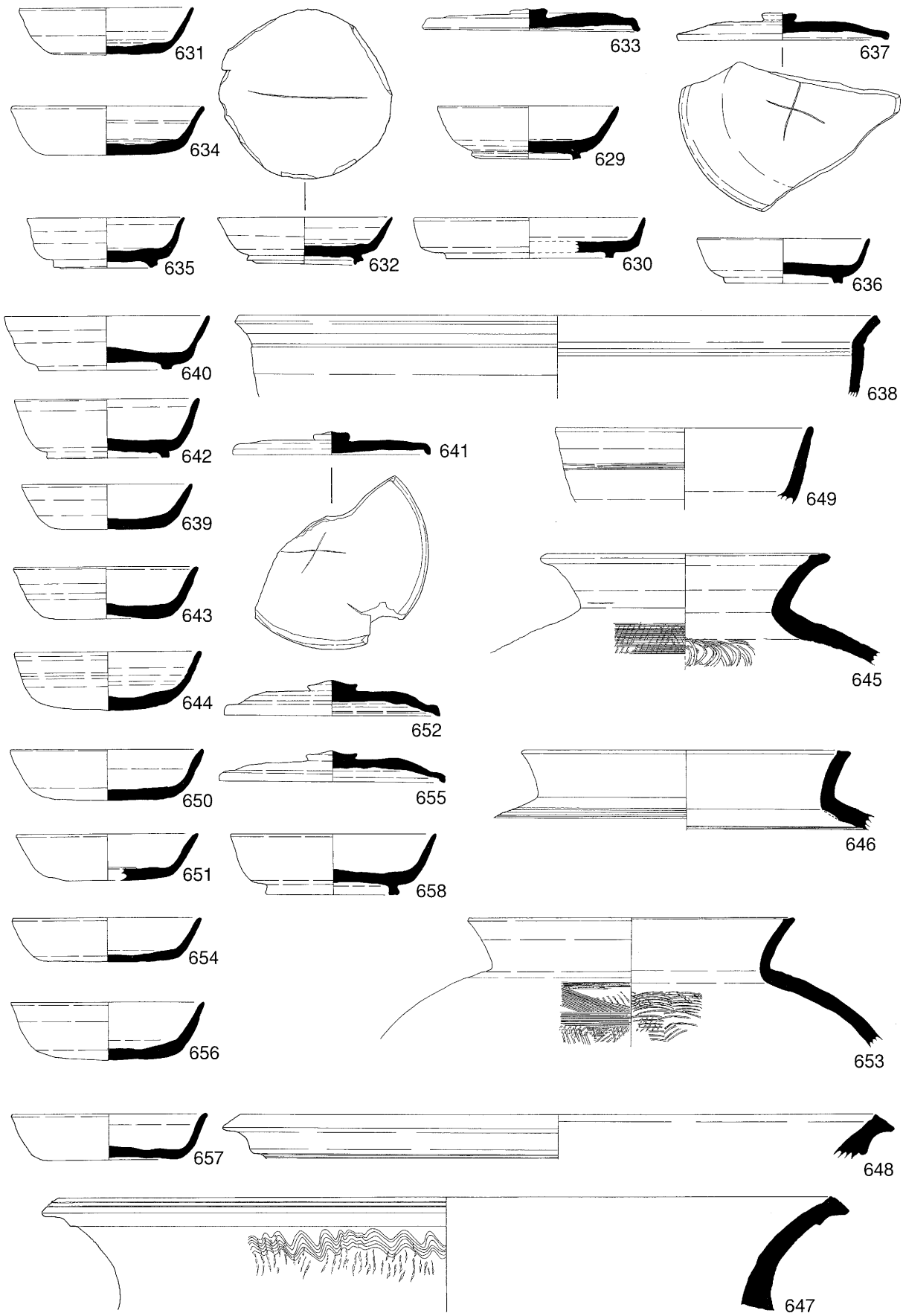
第48図　須恵器・土師器実測図（D区1号窯　灰原）　S＝1／4



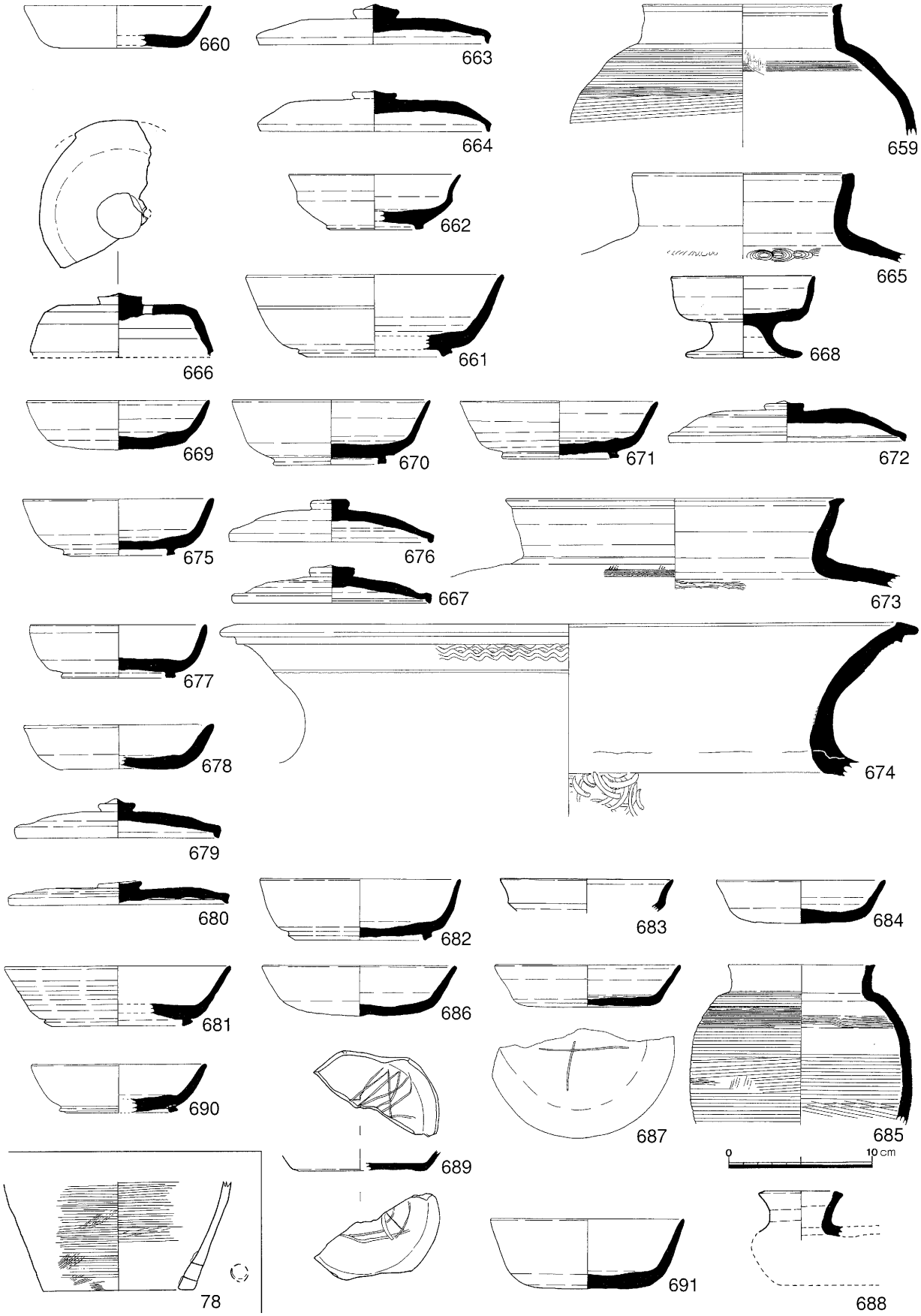
第49図　須恵器実測図（D区3号窯）　S＝1／4



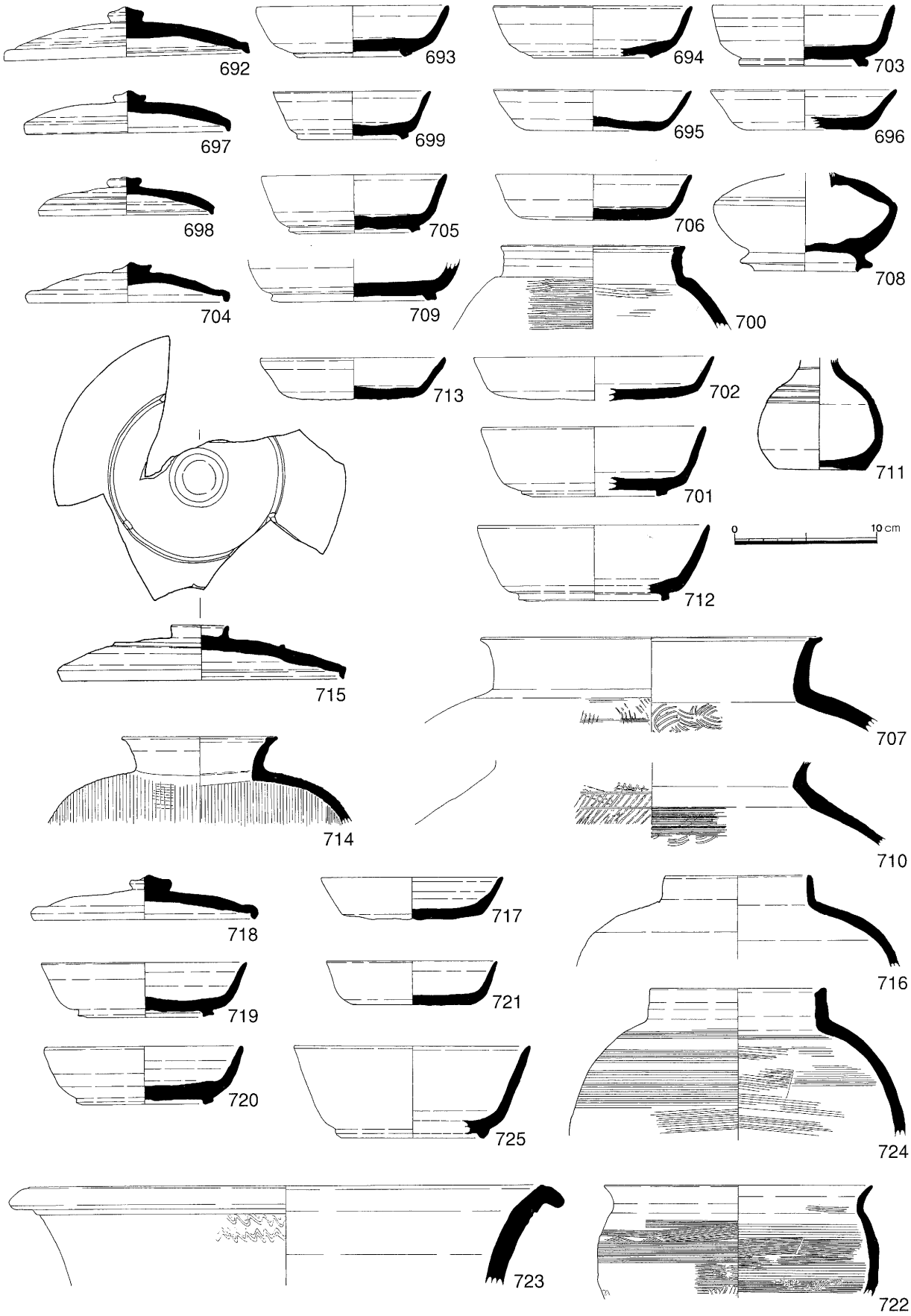
第50図　須恵器実測図（D区層位別，SK０９）　S＝１／４



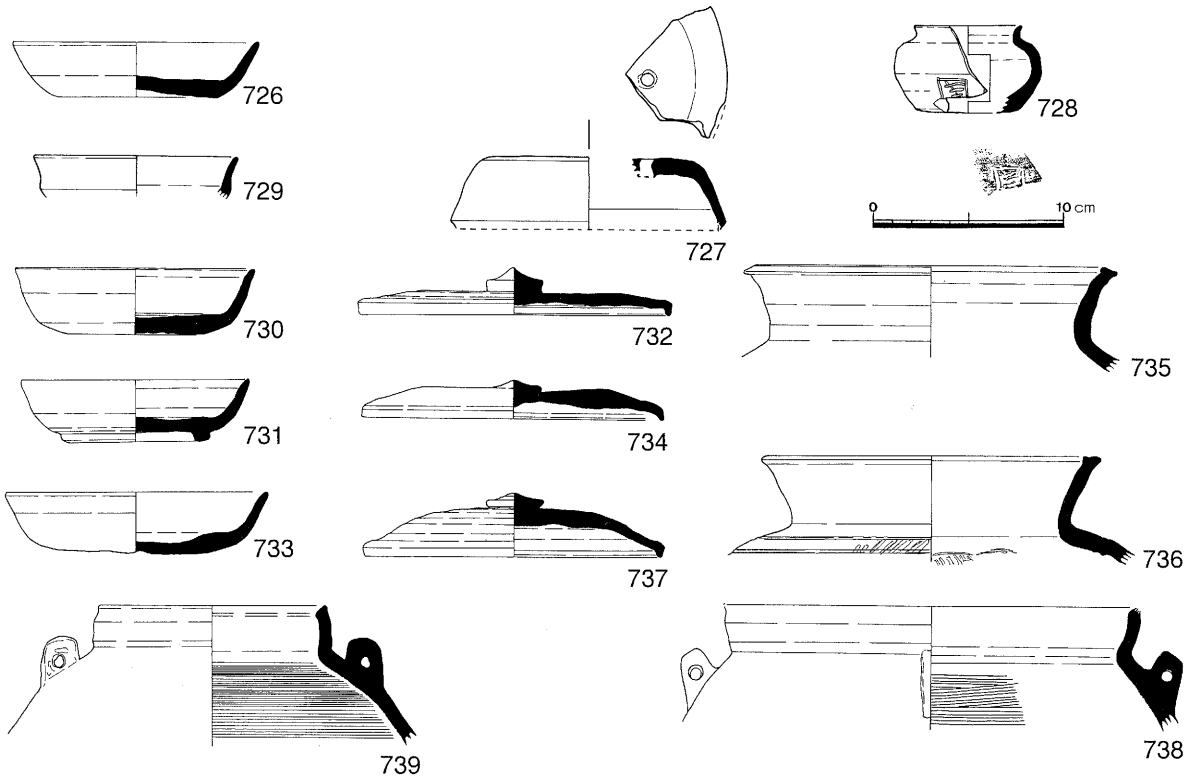
第51図　須恵器実測図（D区調査区西壁１層～３層）S＝１／４



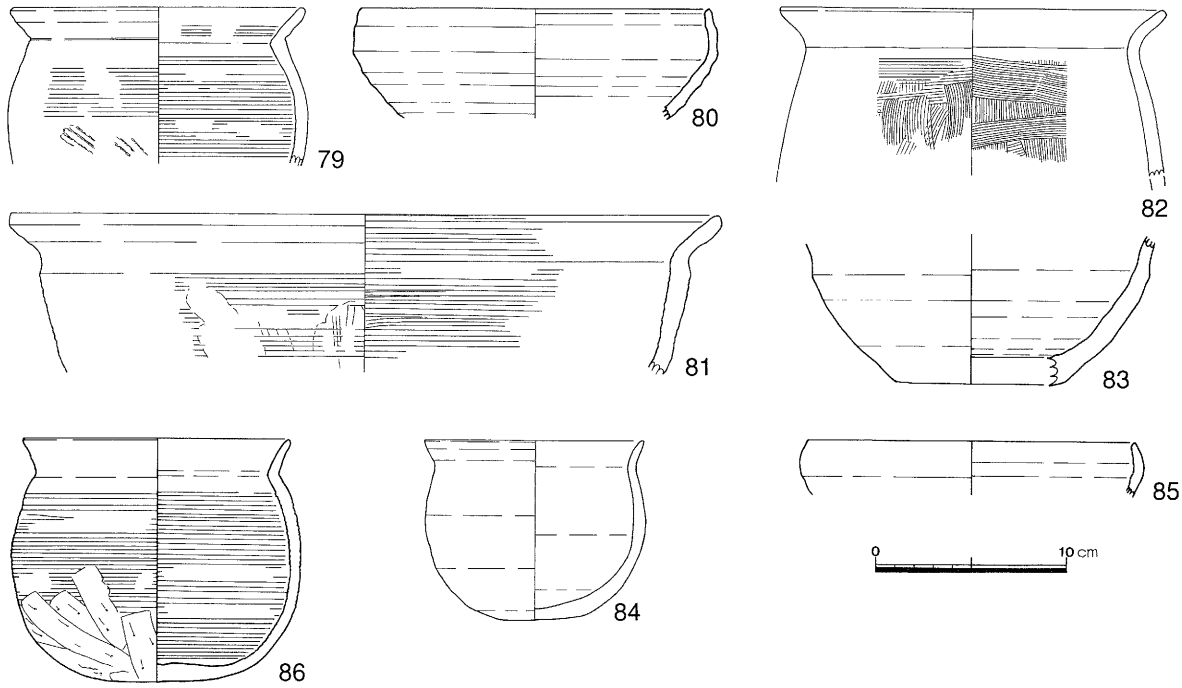
第53図　須恵器・土師器実測図（D区灰原）　S＝1／4



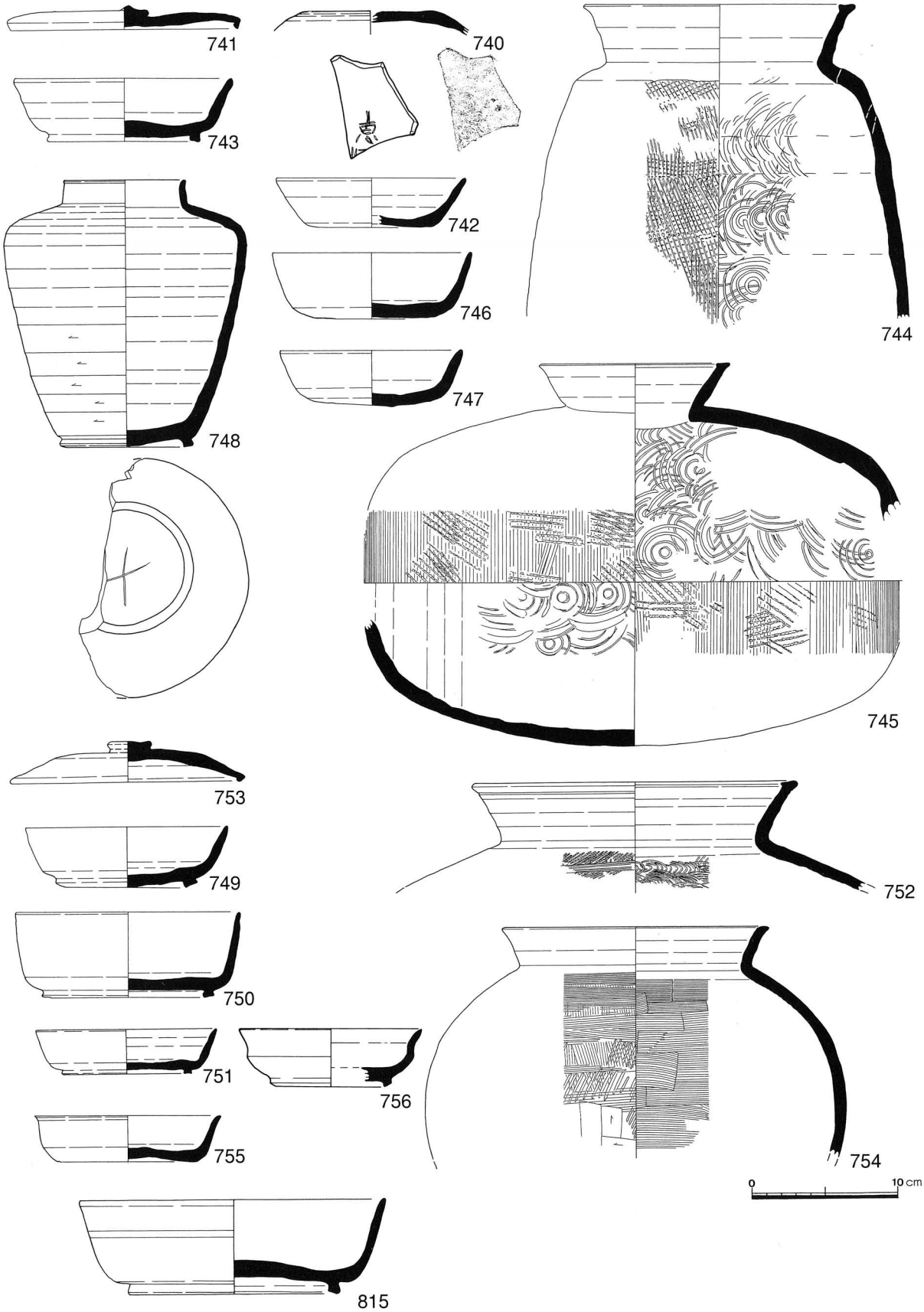
第53図　須恵器実測図（D区灰原）　S＝1／4



第54図　須恵器実測図（D区灰原）　S＝1／4



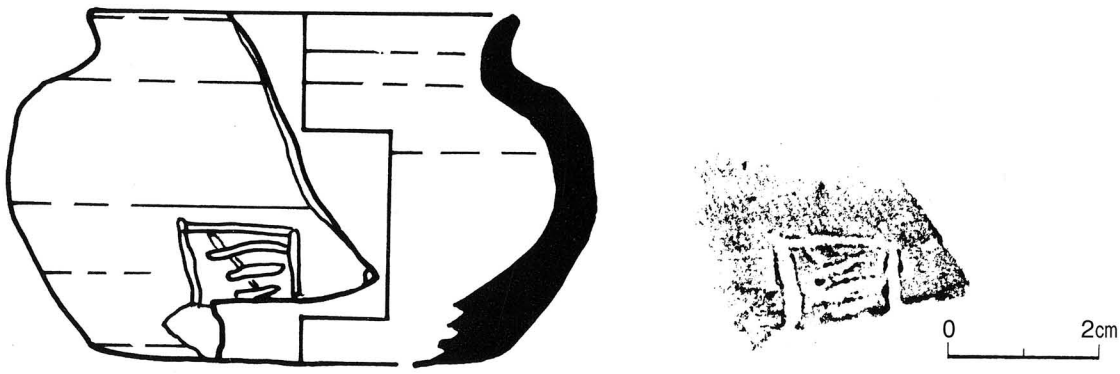
第55図　土師器実測図（D区灰原）　S＝1／4



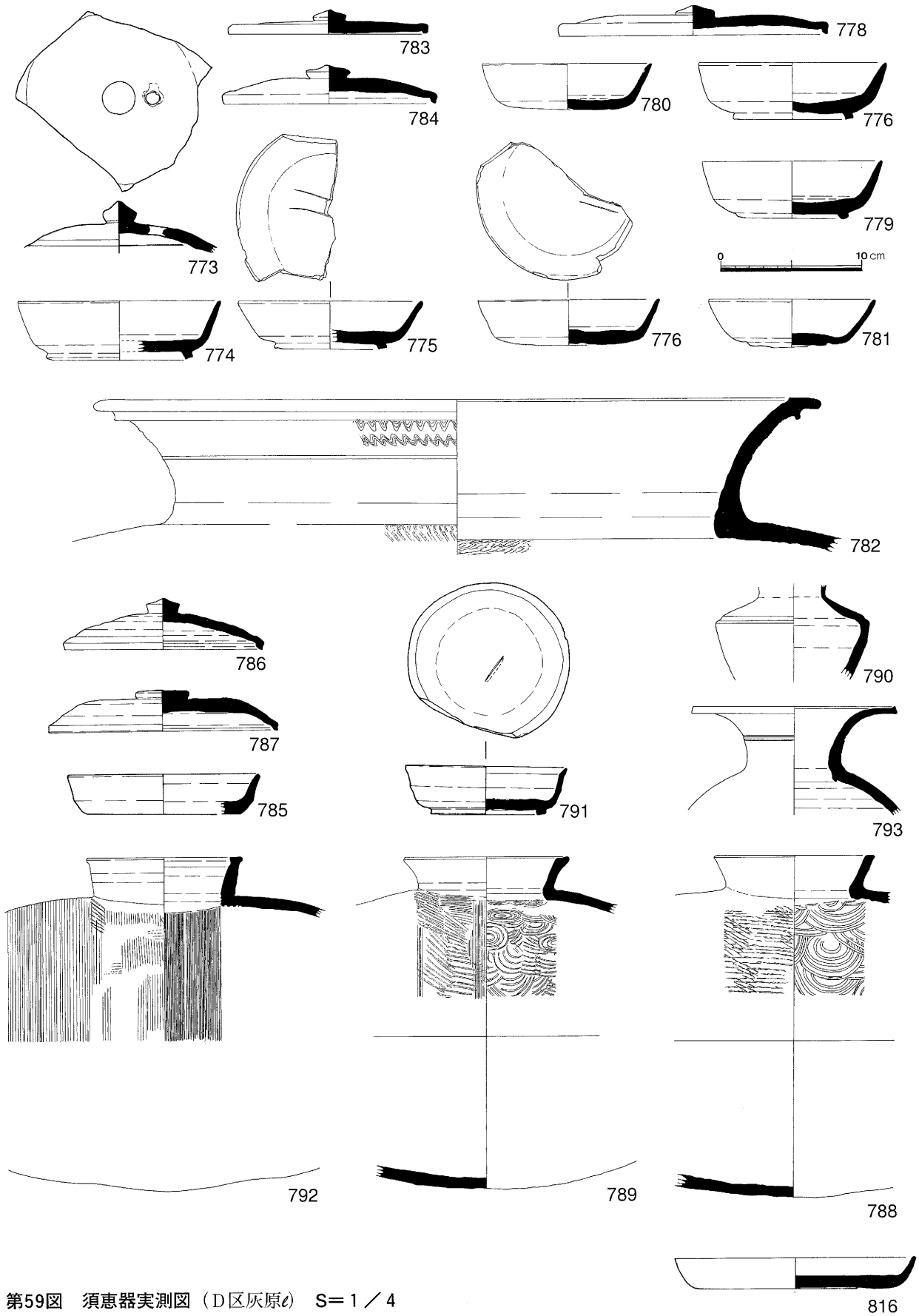
第56図　須恵器実測図（D区灰原h）　S＝1／4

761
762
763
759
760
765
767
769
764
770
766
768
758
771
0
10cm
772
757

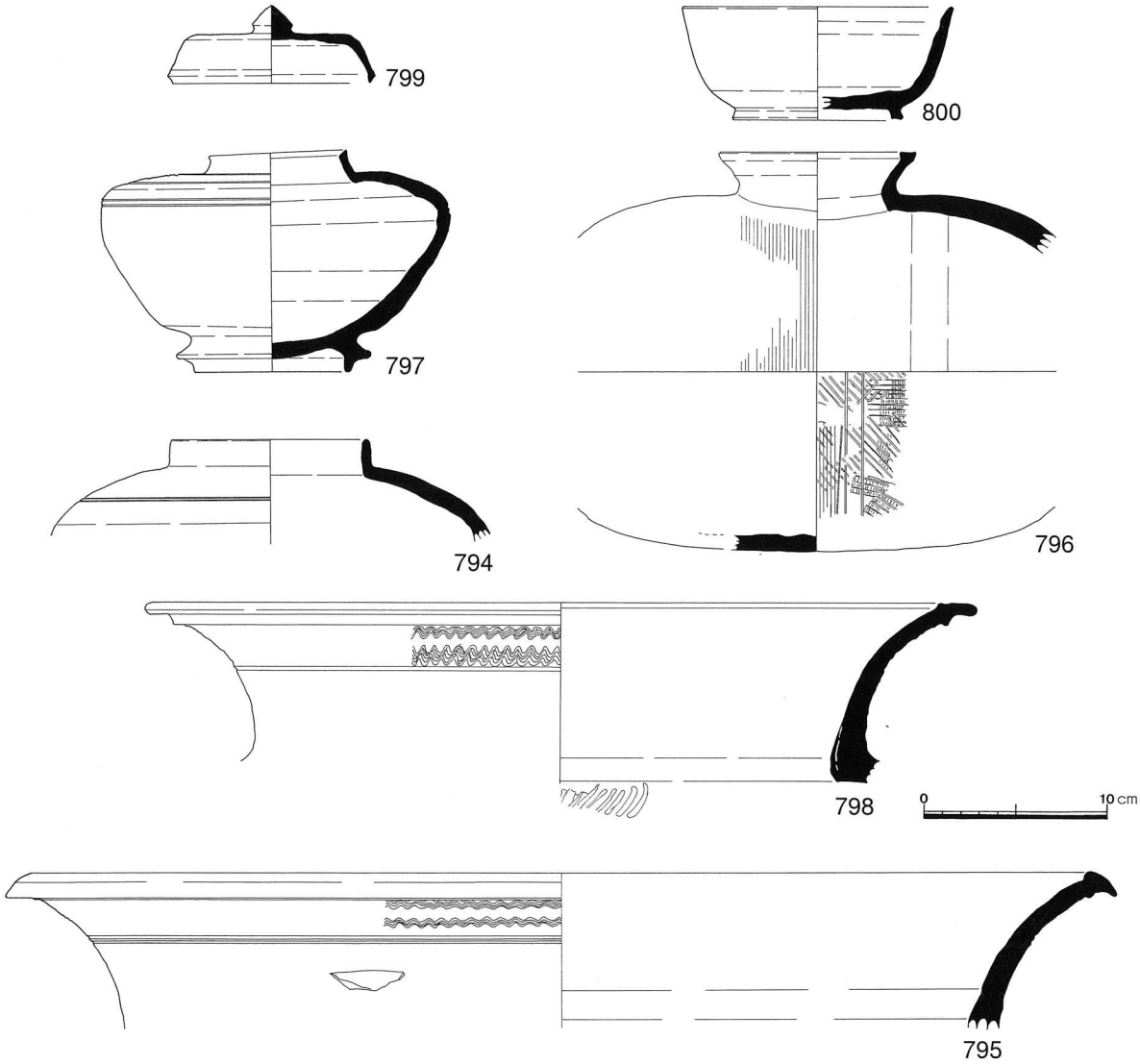
第57図　須恵器実測図（D区灰原h・i・k）　S＝1／4



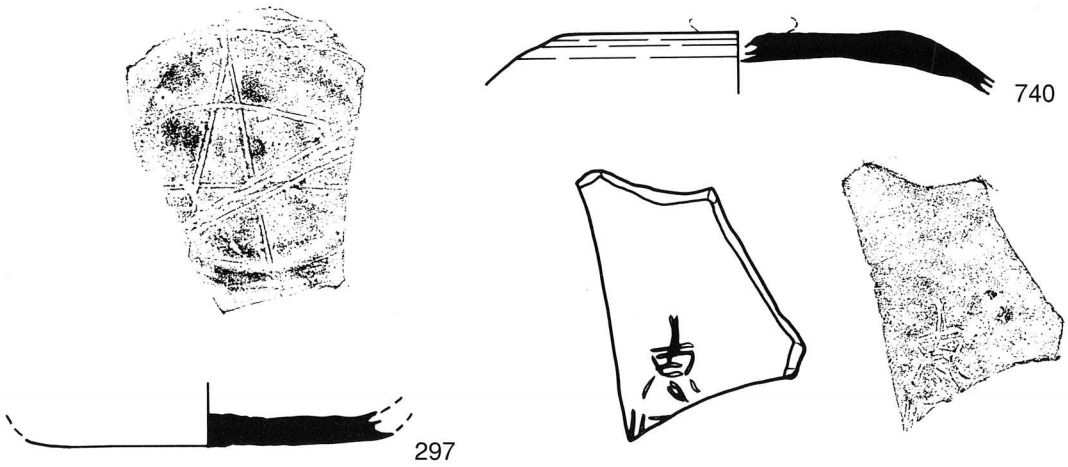
第58図　刻書土器「國」（728）の実測図・拓本（S＝1／1）



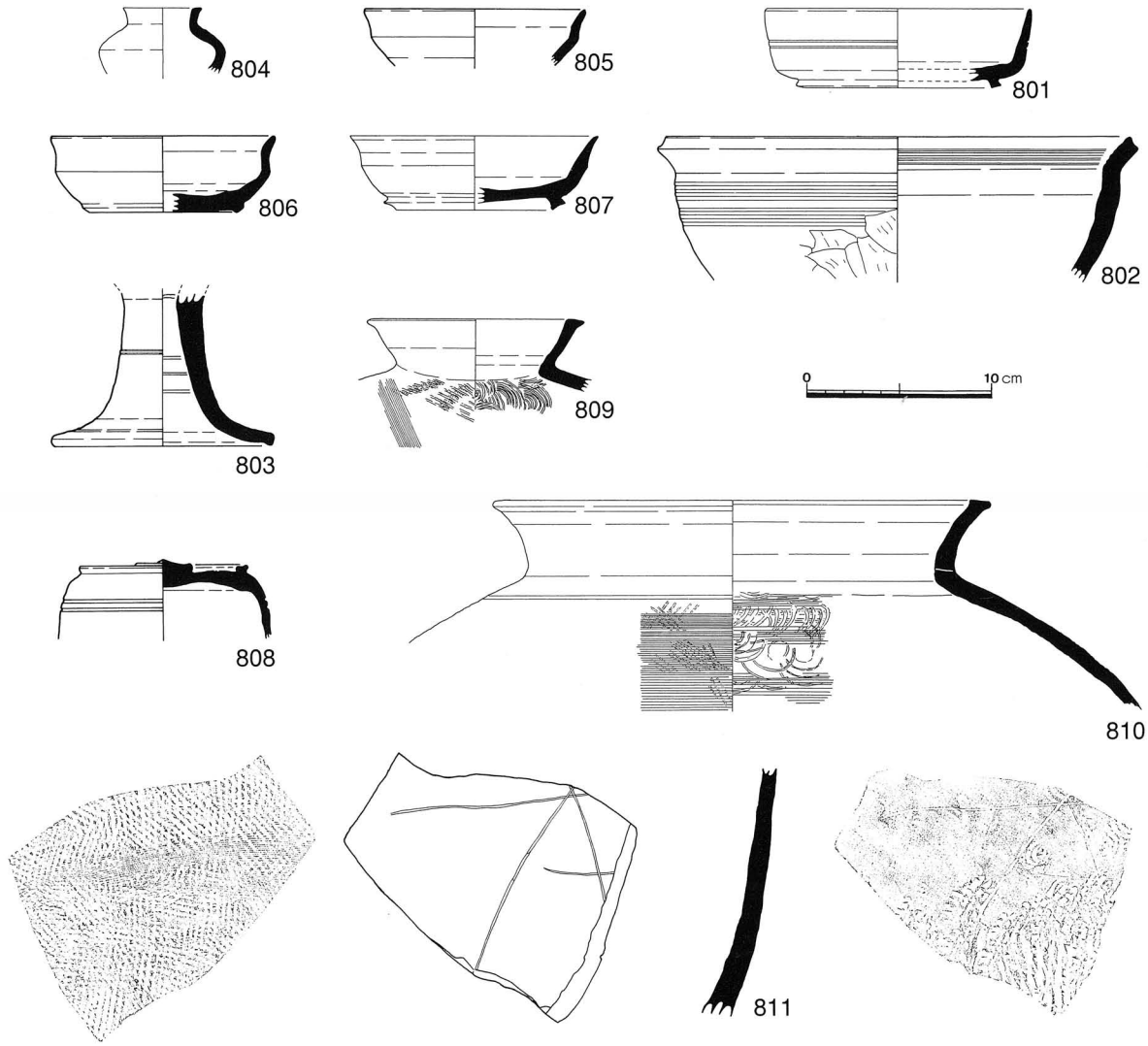
第59図　須恵器実測図（D区灰原ℓ）　S＝1／4



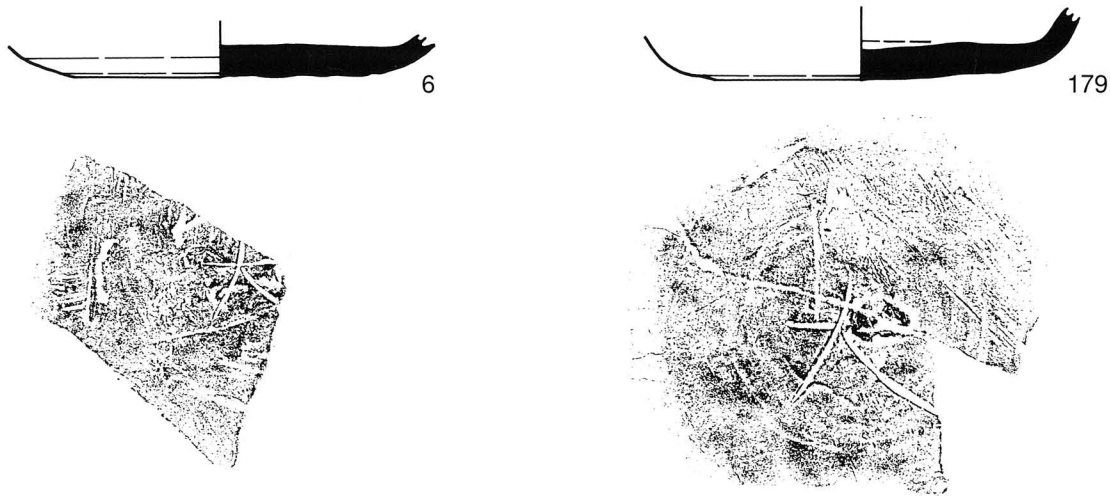
第60図　須恵器実測図（D区灰原m）　S＝1／4



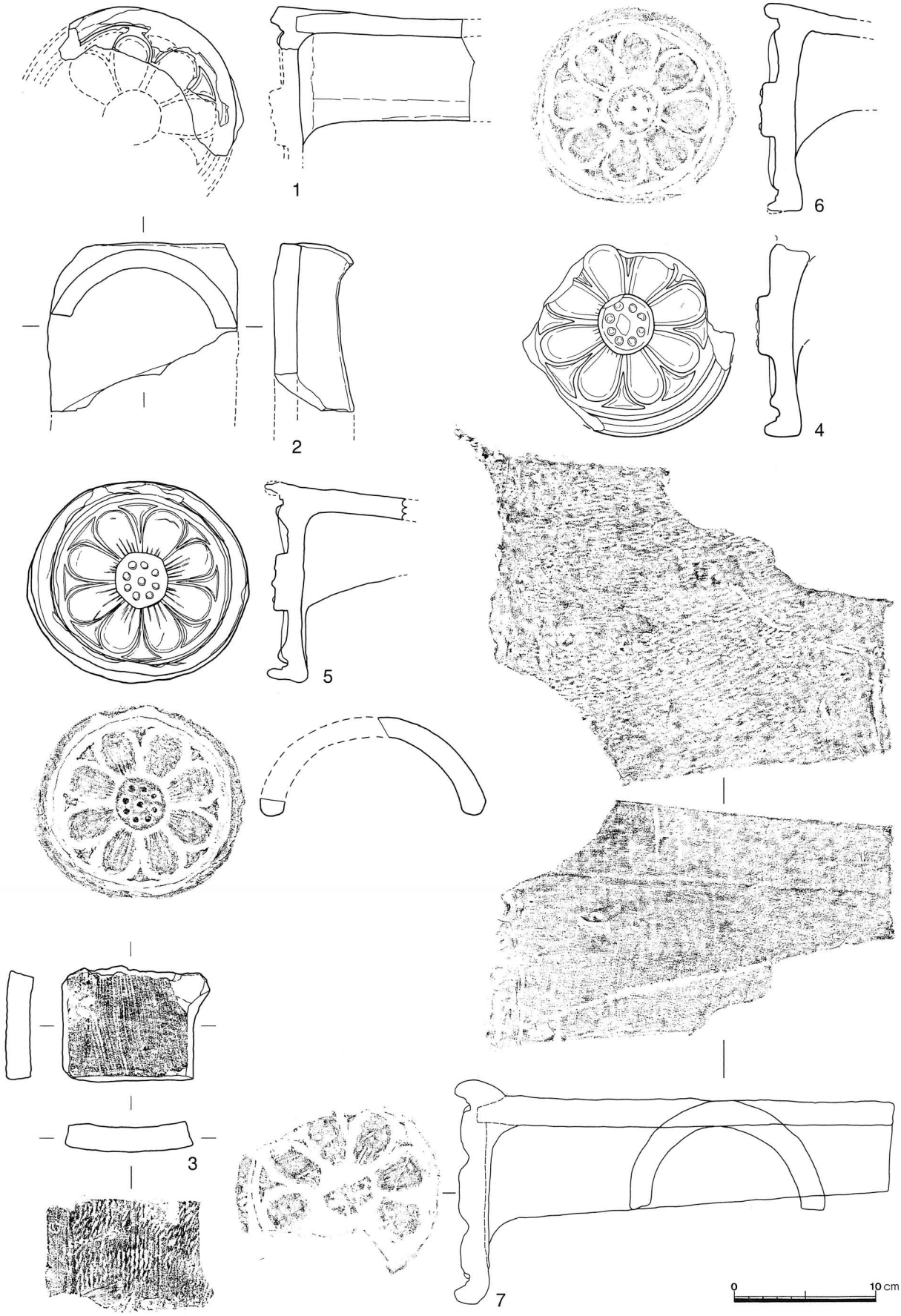
第61図　刻書土器「☆」「恵□」実測図・拓本（S＝1／2）



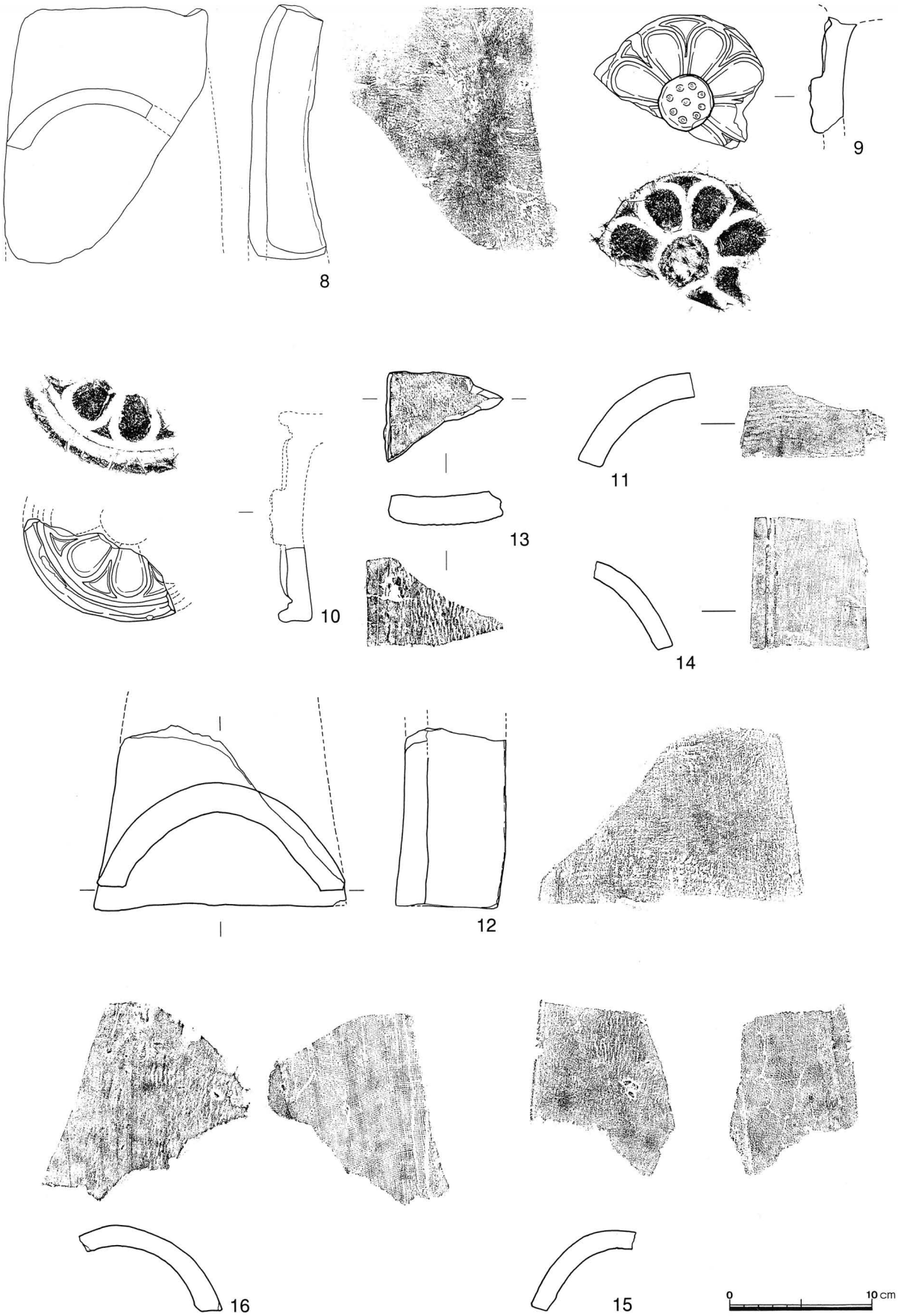
第62図　須恵器実測図（D区包含層，その他）　**S＝1／4**



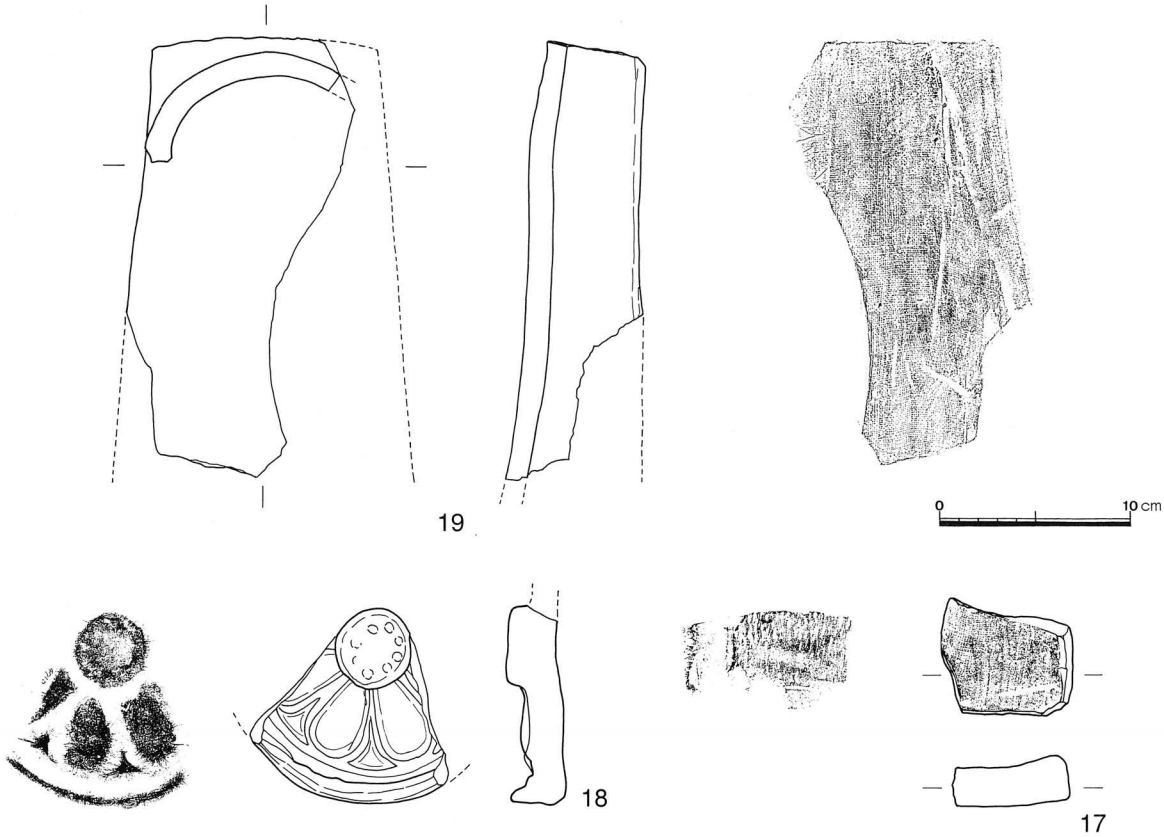
第57図　刻書土器「大」実測図・拓本（S＝1／2）



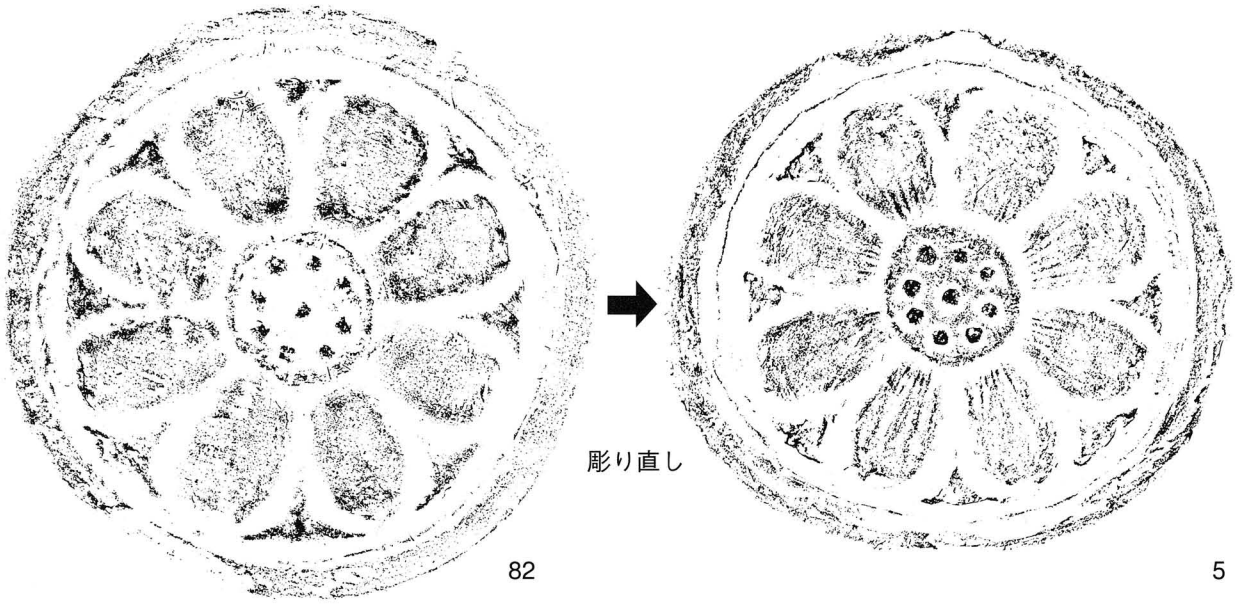
第64図　瓦実測図　S＝1／4



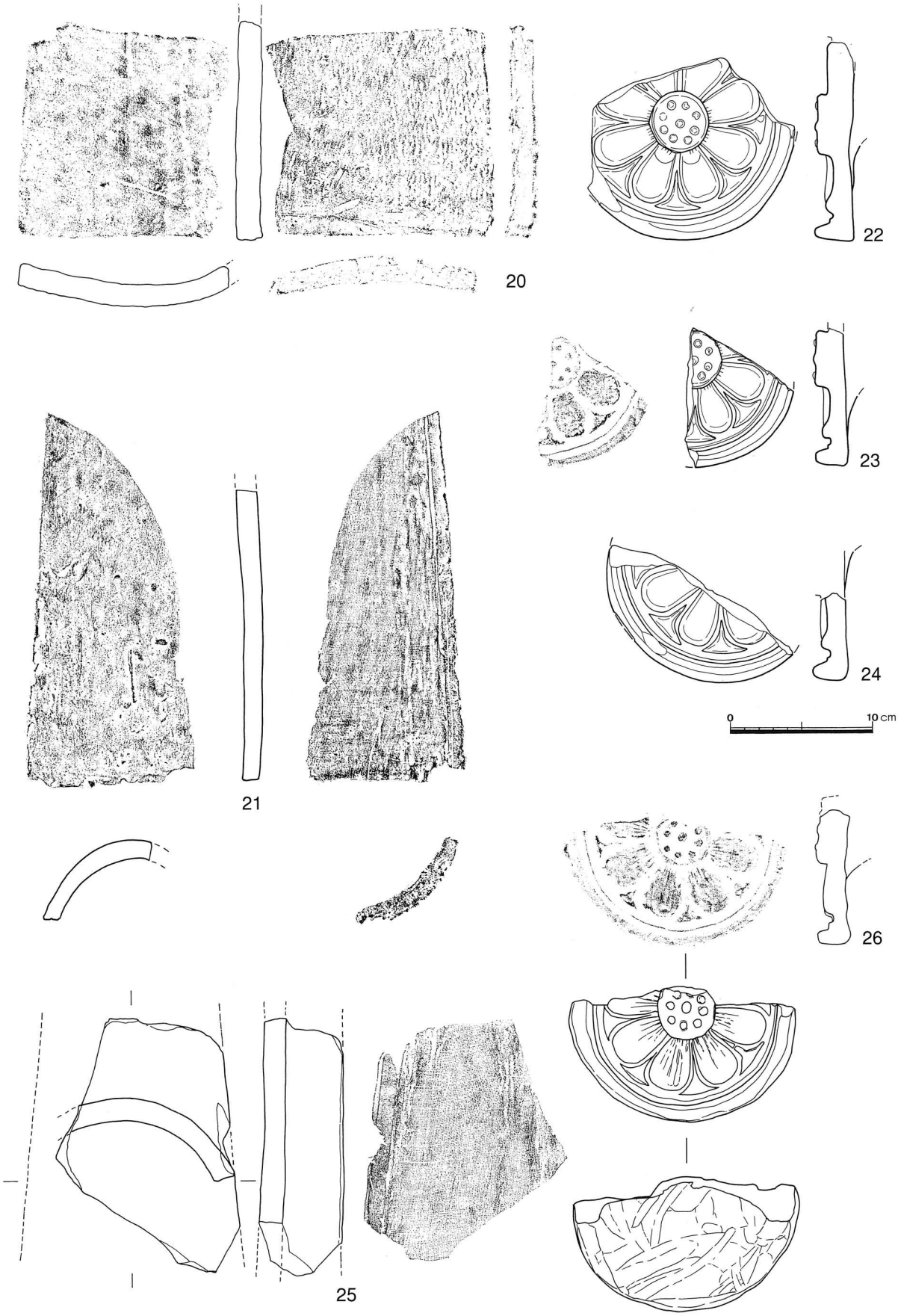
第65図　瓦実測図　S＝1／4



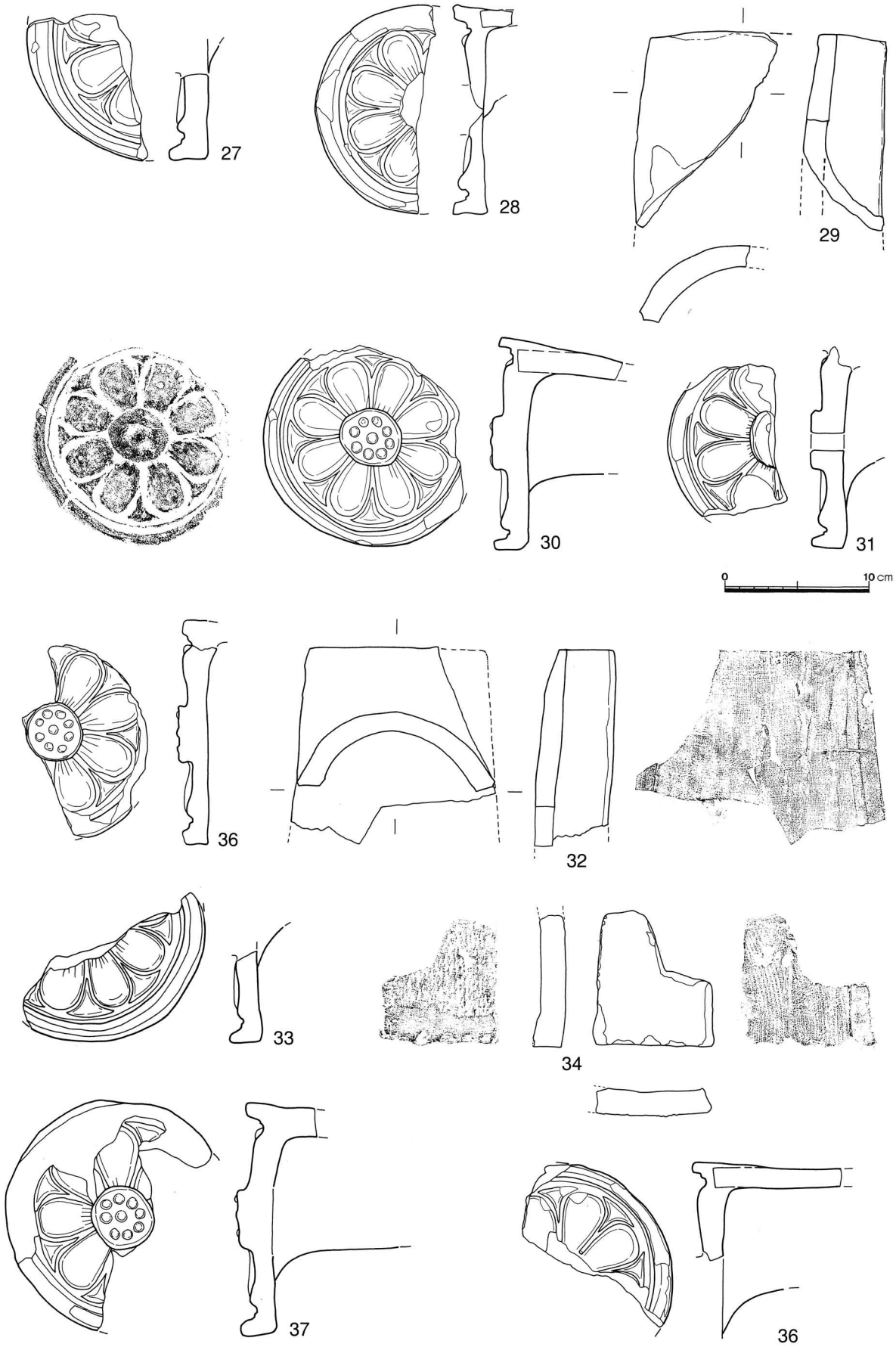
第66図　瓦実測図　S＝1／4



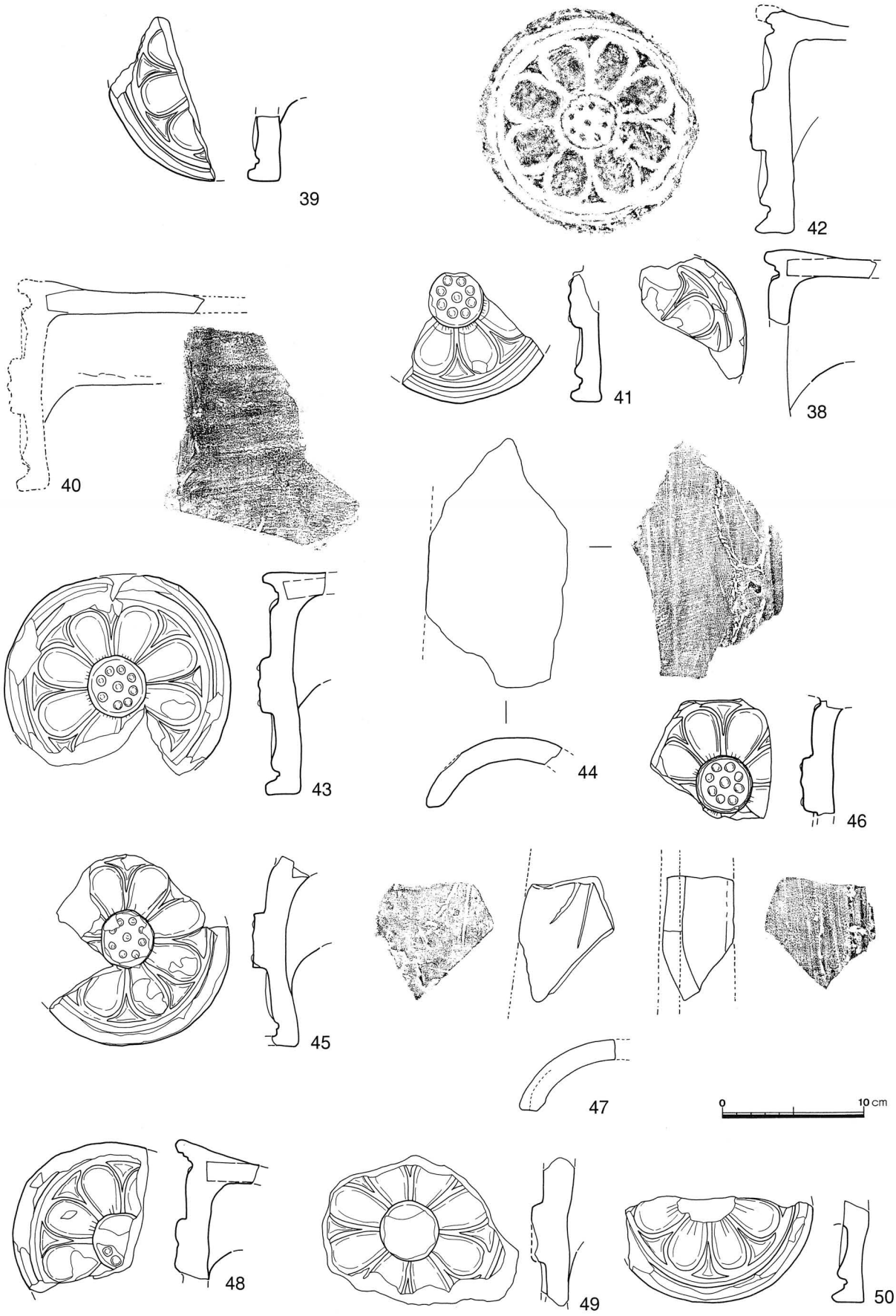
第67図　軒丸瓦の瓦当面彫り直し（S＝1／2）



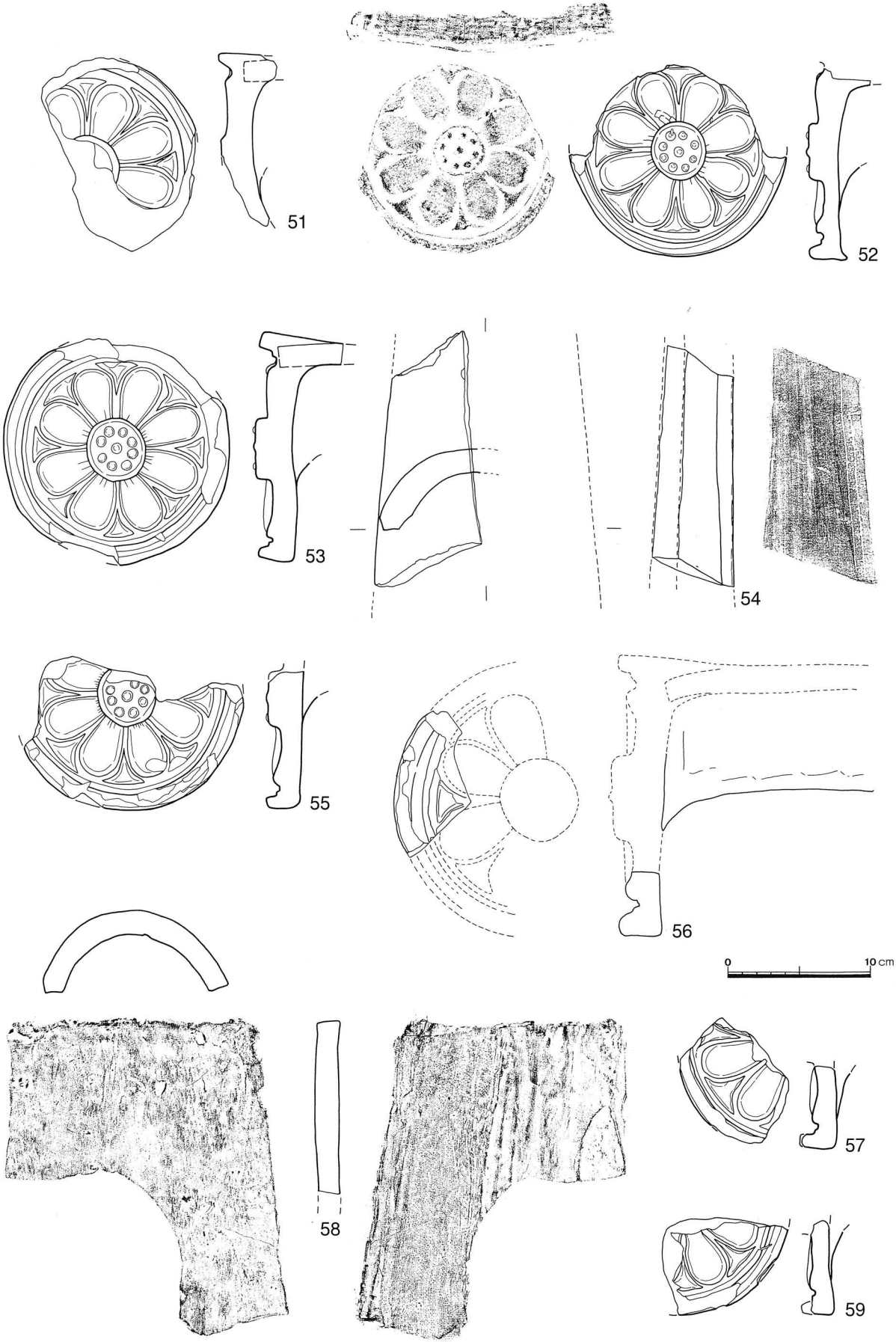
第68図　瓦実測図　S＝1／4



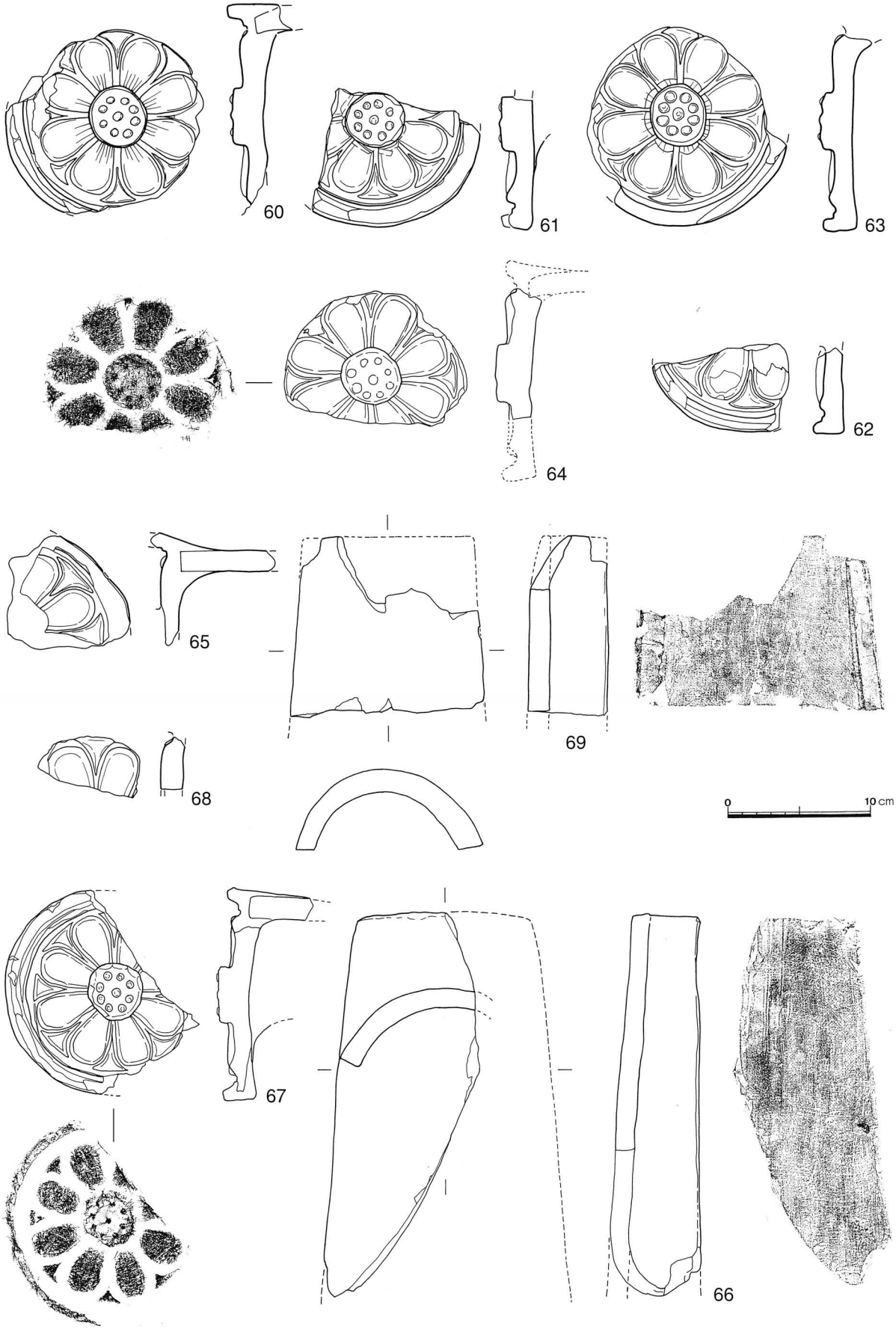
第69図　瓦実測図　S＝1／4



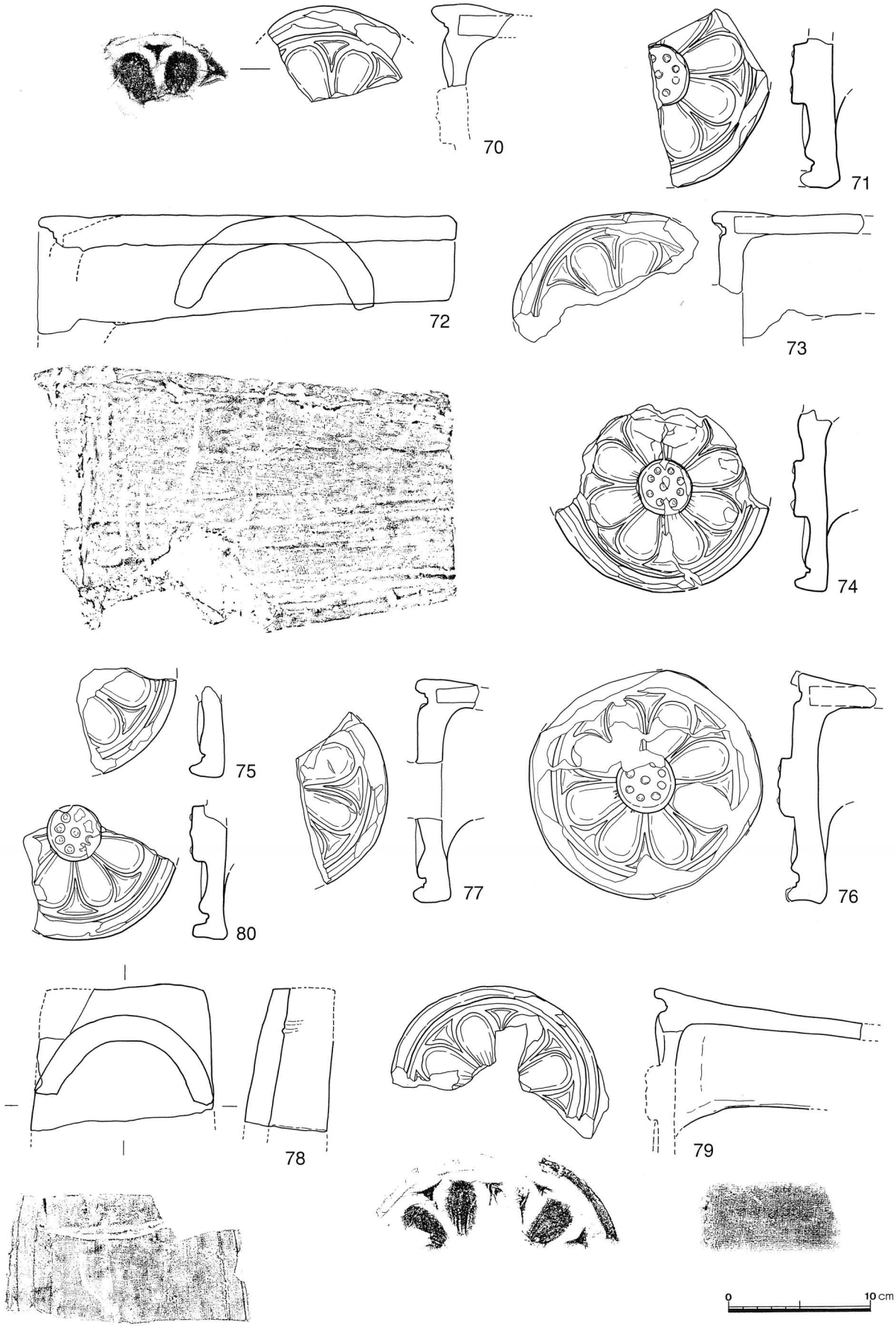
第70図　瓦実測図　S＝1／4



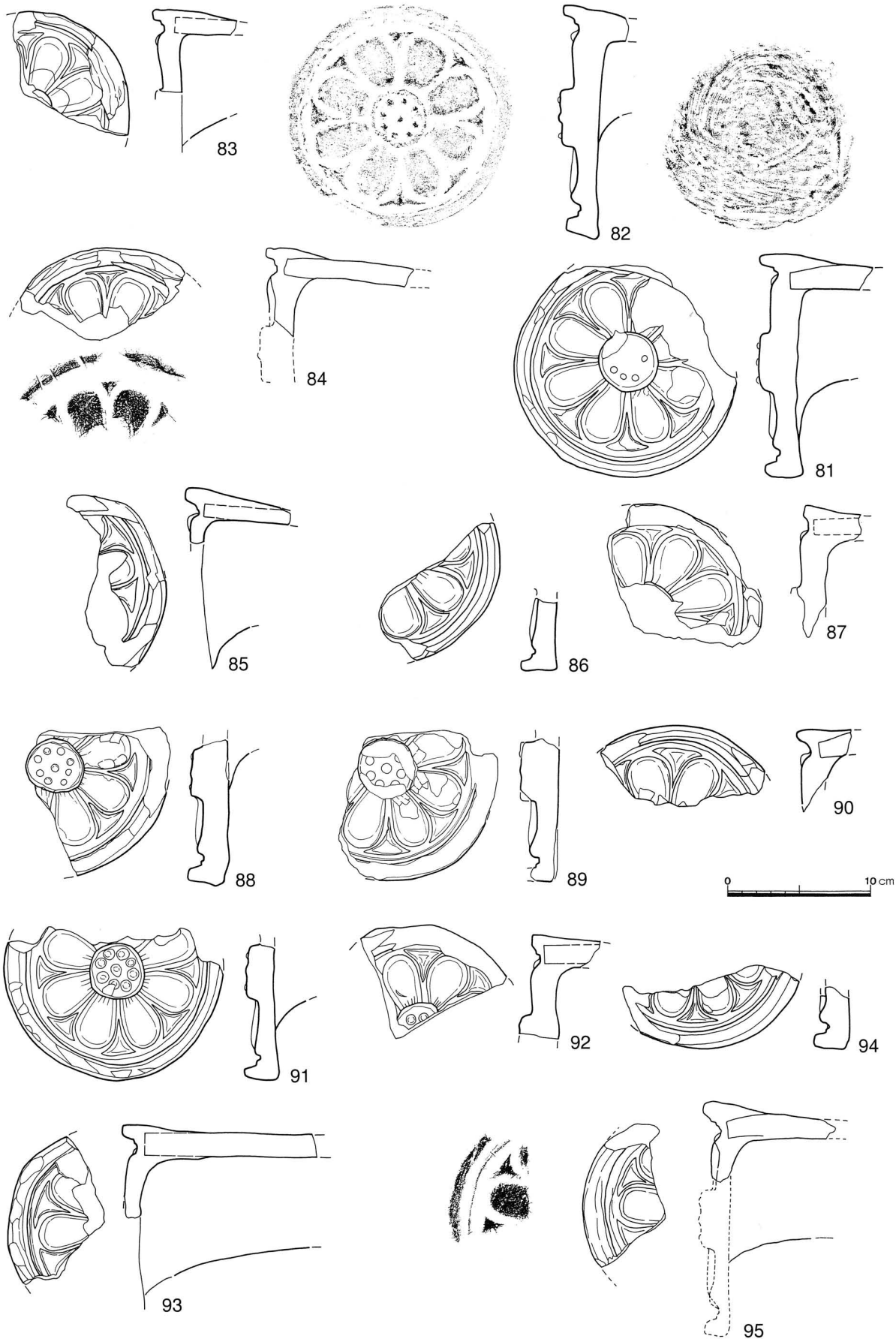
第71図　瓦実測図　S＝1／4



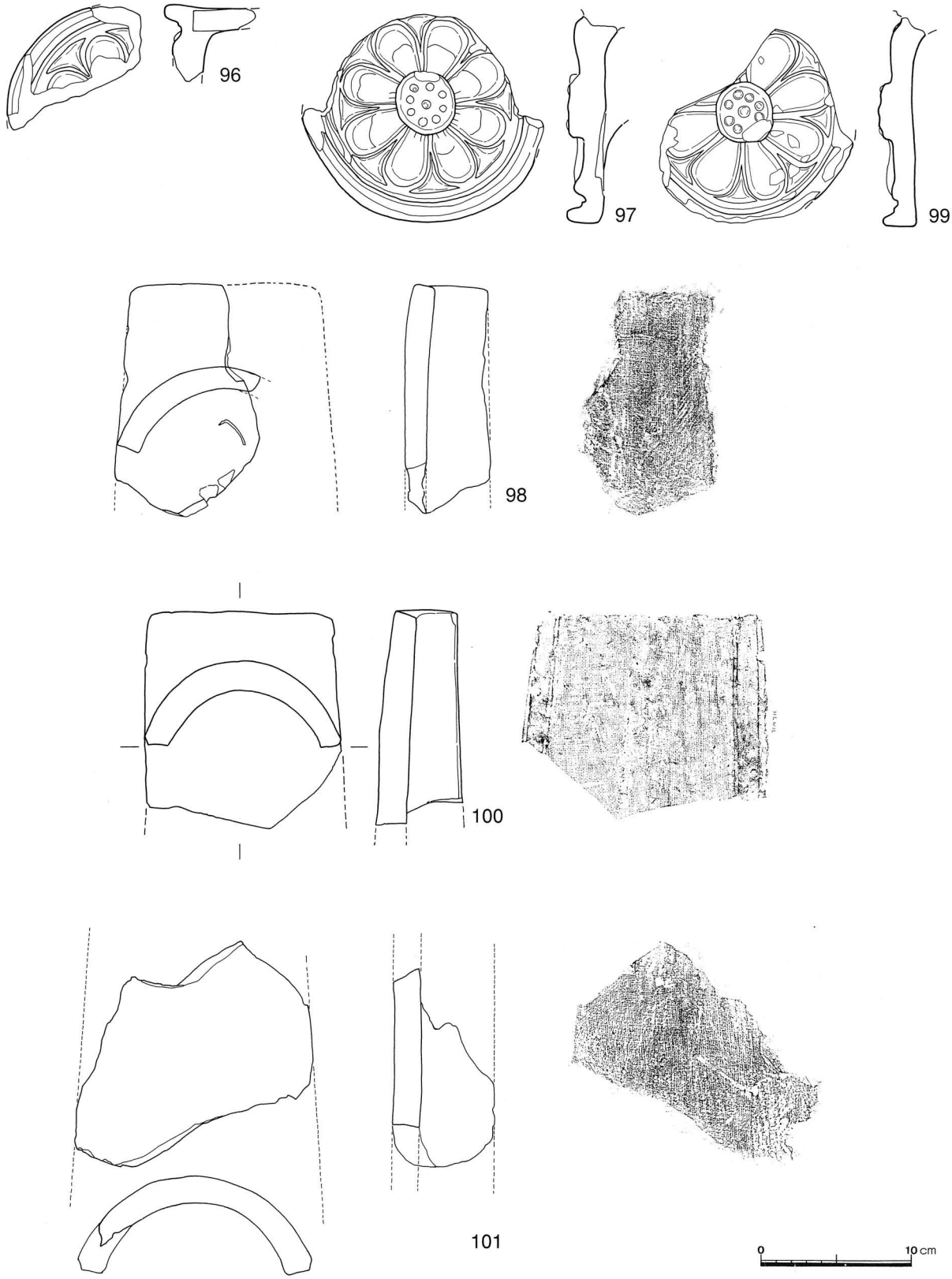
第72図　瓦実測図　S＝1／4



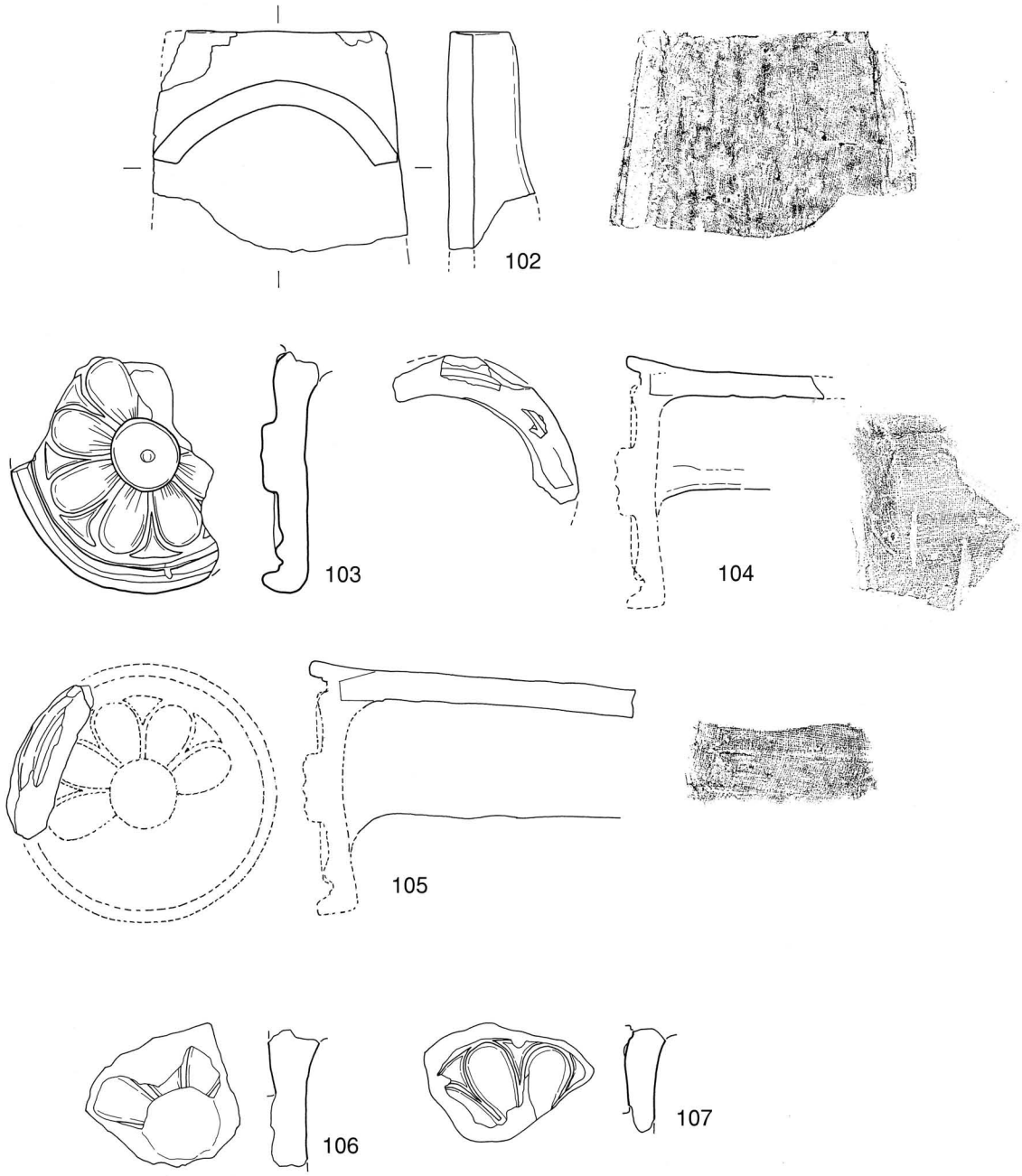
第73図　瓦実測図　S＝1／4



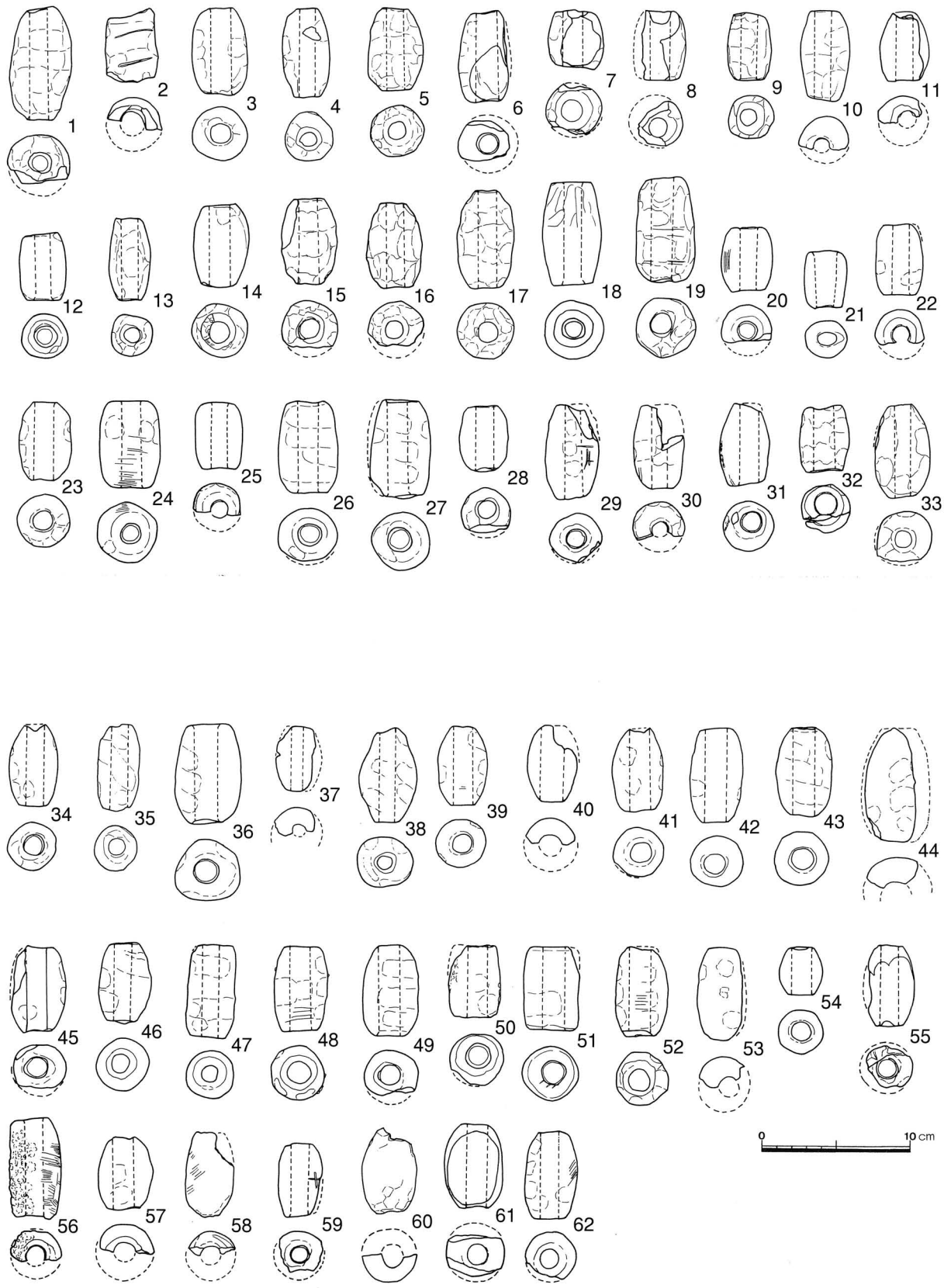
第74図　瓦実測図　S＝1／4



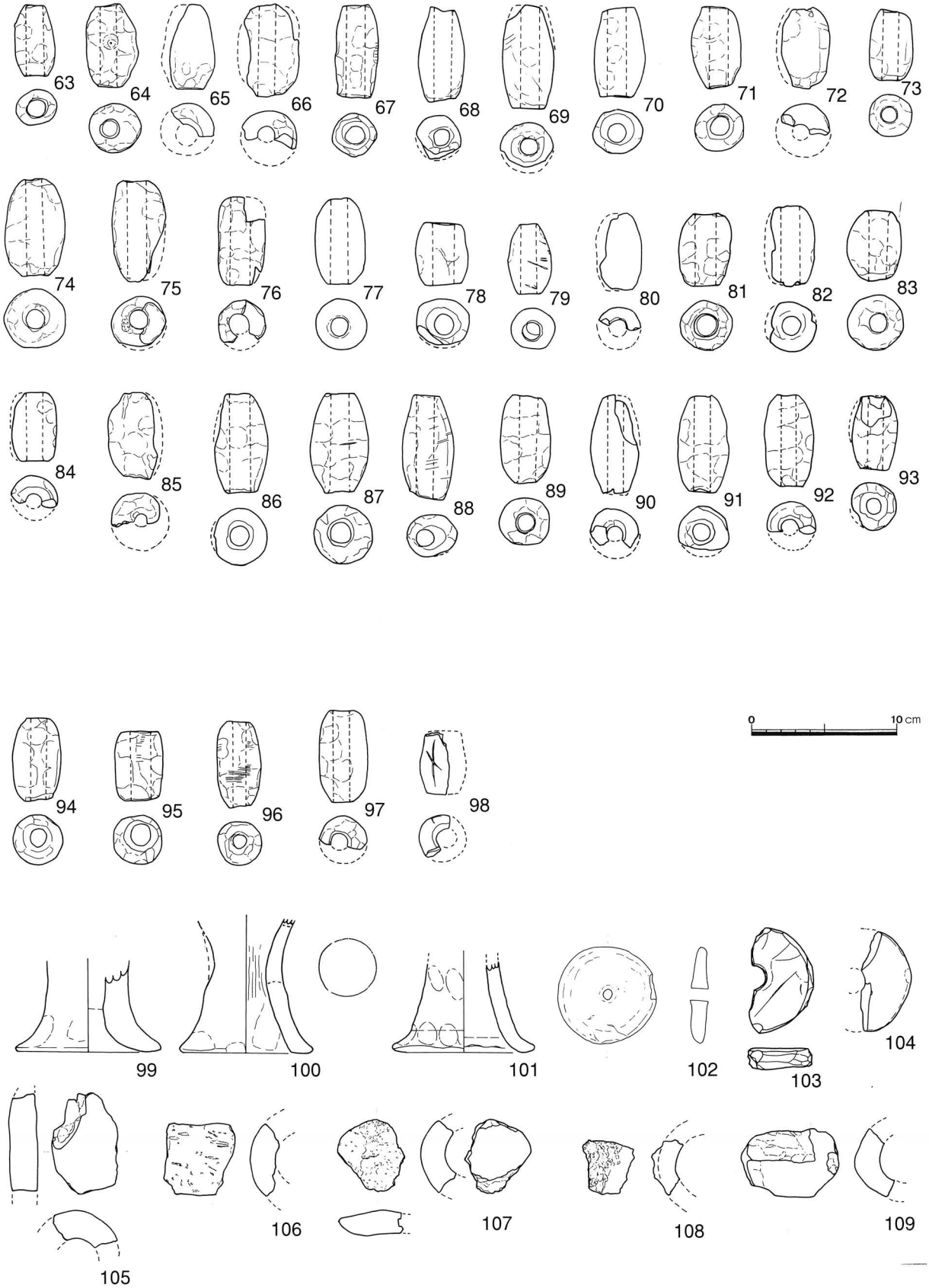
第75図　瓦実測図　S＝1／4



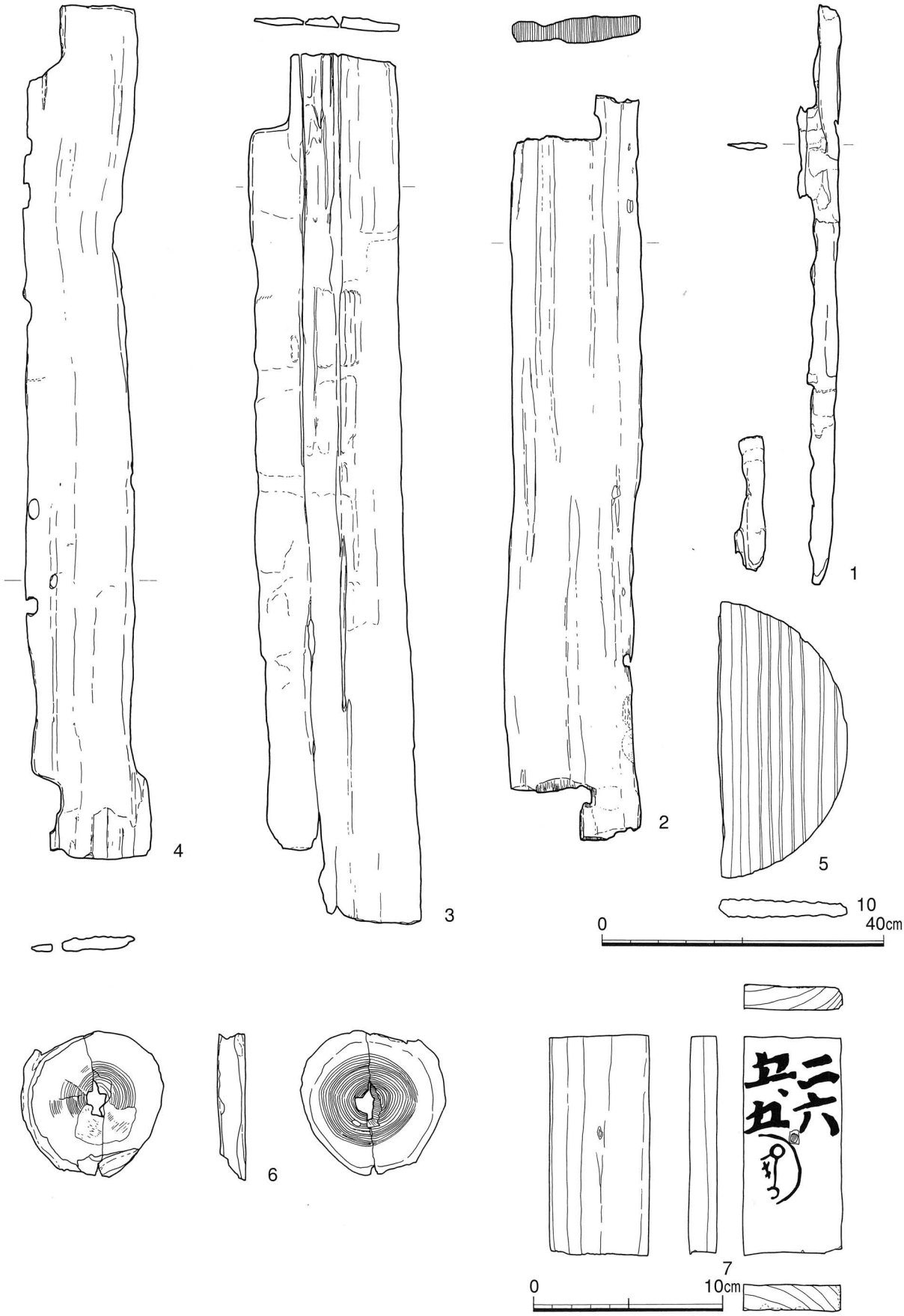
第76図　瓦実測図　S＝1／4



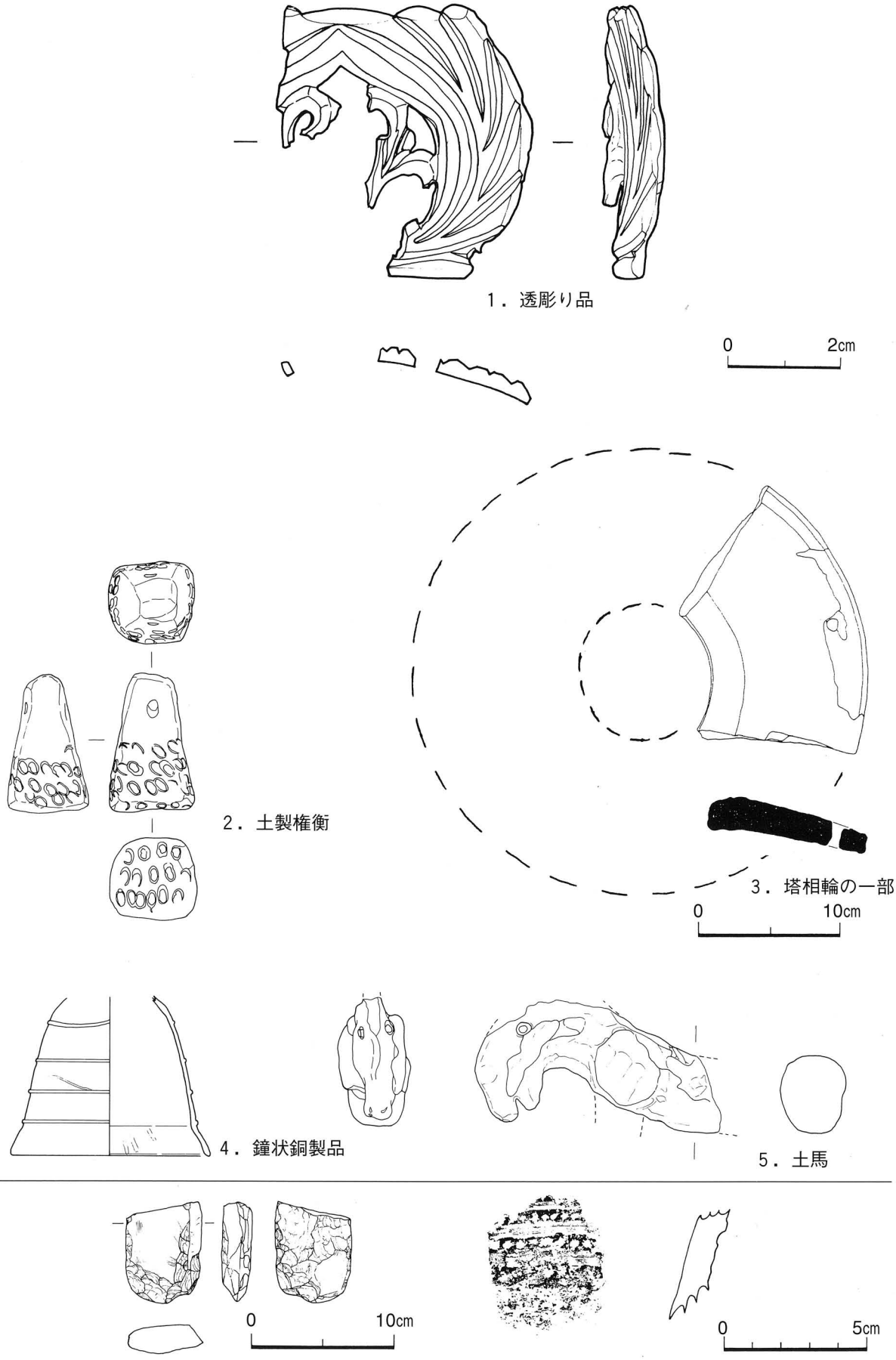
第77図　土錘実測図　S＝1／4



第78図　土錘・土製品実測図(S=1／4)



第79図　木製品実測図　（1～4：S＝1／8，5・6：S＝1／2，7：S＝1／3）



第80図　特殊な遺物・その他の遺物

須恵器観察表 (1)

①:口径 ②:底径 ③:器高 ④:胴部最大径 ⑤:頸部最小径 (cm)

番号	出土位置	器種	①	②	③	④	⑤	外色	内色	礫	砂	焼成	口遺	底遺	その他
0001	A-Bベルト7層下部	甕	28.0				23.2	灰白色		少	少	良好	2/12		X83Y-56
0002	A-Bベルト7層下部	甕	28.3					灰白色			少	良好	1/12		X83Y-56
0003	A-Bベルト7層X81Y-55	甕	16.0			14.4	14.2	灰白色			少	良好	2/12		
0004	A-Bベルト7層X79Y-55	杯B	(14.3)	8.4	3.8			褐灰色		多	多	良好	6/12	6/12	
0005	A-Bベルト8層No.129	杯B	13.6	8.8	3.4			灰白色		少	少	良好	12/12	12/12	ほぼ完形
0006	A-Bベルト8層X80Y-55	杯A		8.5				灰白色			少	良		3/12	「大」ヘラ文字
0007	A-Bベルト8層X80Y-55	広口壺	(19.0)				(13.5)	灰色			少	良好	1/12以下		口縁波状紋
0008	A-Bベルト8層X80Y-55	甕	16.6			15.5	14.5	灰黄色			少	良	3/12		還元焼成
0009	A-Bベルト8層下部	鍋形鉢	22.0				20.8	灰白色			少	良好	2/12		ヘラ X79Y-55
0010	A-Bベルト16層No.81	杯A	13.2	8.5	3.8			淡黄色			少	不良	11/12	12/12	
0011	A-Bベルト16層No.87	杯A	12.4	8.4	2.8			灰白色(少し黄味)			少	良好	11/12	12/12	
0012	A-Bベルト19層X79Y-56	杯B	14.0	9.2	4.5			淡黄色			少	良好	3/12	3/12	ヘラ
0013	A-Bベルト19層X81Y-56	狭口壺	11.4				11.0	黄灰色			少	良好	2/12		ヘラ
0014	A-Bベルト22層No.31	甕	15.0			14.1	13.4	灰白色		少	少	良好	7/12		還元焼成
0015	A-Bベルト22層No.34	盤	21.2		6.2			灰白色			少	良好	6/12	8/12	
0016	A-Bベルト22層No.50	杯B	16.8	10.6	6.2			灰色		少	少	良好	6/12	7/12	焼歪み,ヘラ
0017	A-Bベルト25層X82Y-56	蓋	14.9		3.7			灰色			少	良好	12/12		焼き歪、完形
0018	A-Bベルト25層X82Y-56	壺蓋	(10.1)		4.1			灰色			少	良好	5/12		自然釉
0019	A-Bベルト27・28層	杯	15.1					灰白色			多	良好	2/12		X84Y-56、二重沈線
0020	A-Bベルト27・28層	杯B	11.5	8.0	3.8			鈍い黄橙色		少	少	良	2/12	9/12	X84Y-56
0021	A-Bベルト27・28層	広口壺	17.0					灰白色			少	良好	3/12		X84Y-56
0022	A-Bベルト39層No.8	(壺)蓋						灰黄色		少	少	良好			薄手で小型
0023	A-Bベルト39層No.45	杯A	11.8	7.7	3.3			浅黄橙色		少	少	不良	3/12	6/12	ヘラ
0024	A-Bベルト北側X85Y-56	小型鉢	6.5	5.0	3.4	7.0		灰色			少	良好	6/12	12/12	ミニチュア
0025	C-Dベルト132層No.234	甕	25.9				20.8	灰色			少	良好	2/12		
0026	C-DベルトSK01 45層1	杯A	13.0	8.9	3.0			灰色			多	良好	6/12	7/12	
0027	C-DベルトSK01 45層8	杯B	11.6	8.9	3.1			灰色			多	良好	6/12	6/12	
0028	C-DベルトSK01 45層	杯A	13.2	8.8	3.0			灰白色			少	不良	7/12	12/12	ヘラ
0029	C-Dベルト下南壁26層	壺蓋	11.4		4.5			灰色			多	良好	12/12	12/12	ほぼ完形
0030	C-Dベルト中50層	杯A	12.0	8.3	2.7			灰白色		少	少	良好	4/12	6/12	
0031	C-Dベルト中145層	甕	15.0				12.6	灰色	灰褐色		少	良好	1/12		X65Y-52
0032	C-Dベルト中52層	杯B	11.2	7.4	3.1			灰色		少	少	良好	2/12	3/12	X73Y-53
0033	C-Dベルト中52層	蓋	15.8		2.2			黄灰色			少	不良	1/12		つまみに刻み
0034	C-D北断割り	高杯						黄灰色			少	良好	1/12	6/12	
0035	A-Dベルト173層	杯A	(15.4)	11.0	4.0			淡黄灰色			少	不良	2/12	11/12	X71Y-63
0036	A-Dベルト63層X72Y-61	杯A(大)	(15.0)	(10.5)	6.3			灰黄色			少	不良	2/12	2/12	X72Y-61
0037	A-Dベルト63層X72Y-59	杯(大)	25.0					灰色		少	少	良好	1/12		体部二重沈線
0038	A-Dベルト63層X72Y-61	蓋	14.0		2.4			褐灰色		少	少	良好	2/12		
0039	A-Dベルト76層X73Y-56	杯A	11.4	7.0	3.0			鈍い橙色		少	少	良好	1/12	2/12	
0040	A-Dベルト76層X73Y-56	杯B	14.0	9.7	3.9			灰白色			少	良好	2/12	2/12	
0041	A-Dベルト76層X73Y-56	杯B	12.0	9.2	4.0			褐灰色			多	良好	1/12	3/12	
0042	A-Dベルト76層X73Y-56	甕	18.0				15.9	灰白色			少	良好	1/12		
0043	A-Dベルト76層X73Y-56	瓶		8.0				灰色			少	良好		2/12	水瓶ｏｒ長頸瓶
0044	A-Dベルト76層X74Y-55	甕	34.3				25.0	灰色			少	良好	1/12		
0045	A-Dベルト76層X74Y-55	短頸壺	12.0				12.2	灰色	黄灰色	少	少	良好	2/12		
0046	A-Dベルト中層No.12	横瓶					11.1	灰色			少	良好	6/12		
0047	B-Cベルト8層	蓋	13.1		2.6			灰黄色			少	良好	6/12		X76Y-47
0048	B-Cベルト88層上部	平瓶						褐灰色			多	良好			把手 X75Y-49
0049	B-Cベルト88層下部	仏鉢	19.7			20.5		灰白色		少	多	良好	3/12		X74Y-51
0050	B-Cベルト90層	高杯A	11.3					赤褐色(断面灰色部有)			少	良好	3/12		X74Y-51
0051	A区2号X84Y-62	甕	18.2				16.1	灰白色			多	良好	2/12		
0052	A区2号(X77Y-58)	杯B	12.3	9.3	3.4			灰色			少	良好	8/12	12/12	溶着（２個）
0053	A区2号ａ区黒色土	杯B	15.2	11.8	4.1			灰白色			多	良好	1/12	2/12	
0054	A区2号ａ区黒色土	杯A	12.4	9.7	3.4			灰黄色			多	良好	2/12	3/12	
0055	A区2号ｂ区灰黄色土	杯B	15.5	10.9	3.85			灰色		少	多	良好	4/12	7/12	
0056	A区2号ｂ区黒色土	壺蓋						灰色		少	少	良好	12/12	12/12	摘み
0057	A区2号ｉ区9層	壺蓋						灰色	灰色		少	良好	6/12		天井部穿孔

須恵器観察表 (2)

①:口径 ②:底径 ③:器高 ④:胴部最大径 ⑤:頸部最小径 (cm)

番号	出土位置	器種	①	②	③	④	⑤	外色	内色	礫	砂	焼成	口遺	底遺	その他
0058	A区2号J区No.2	杯A	12.9	9.4	3.6			灰黄褐色			少	良好	1/12	9/12	
0059	A区2号上面X71Y-60	杯B	11.2	8.7	3.4			灰色			少	良好	6/12	6/12	内面溶着
0060	A区2号中層No.92	杯A	12.6	7.4	3.2			灰白色			少	良	10/12	12/12	焼歪み
0061	A区2号東西ﾍﾞﾙﾄ4層	円面硯	15.2	18.7	6.0			灰色			少	良好	12/12	9/12	
0062	A区2号東西ﾍﾞﾙﾄ53層	壺蓋	11.4					暗灰褐色				良好	6/12		
0063	A区2号 ﾍﾞﾙﾄ① 1 層	壺蓋	19.2					灰色			少	良好	3/12		天井部穿孔
0064	A区2号ﾍﾞﾙﾄ最下層4	蓋	16.0		2.5			灰白色		少	少	不良	2/12		
0065	A区2号ﾍﾞﾙﾄ最下層12	甕	(14.8)				(13.4)	灰白色				良好	1/12		
0066	A区2号ﾍﾞﾙﾄ最下層19	蓋	16.0		2.6			淡黄色			少	不良	6/12		
0067	A区2号ﾍﾞﾙﾄ最下層22	杯B	12.8	9.9	4.6			灰白色		少	少	不良	4/12	6/12	
0068	A区2号34層No.3	杯B	12.5	9.6	3.7			灰色			多	良好	1/12	3/12	
0069	A区2号34層No.6	甕底		30.1				灰白色			少	不良	1/12		
0070	A区2号34層No.9	蓋	16.2		3.0			灰白色			少	不良	1/12		
0071	A区2号45層	短頸壺	10.2			20.4	10.9	淡灰色			少	良好	6/12		
0072	A区2号57層No.3	杯B	(13.9)	(8.3)	4.3			灰色		小石	多	良好	4/12	6/12	
0073	A区2号58層No.3	蓋	15.0		2.8			灰色			少	良好	8/12		外窯糞、歪
0074	A区2号58層No.10	蓋	15.3		2.9			灰色			少	良好	6/12		
0075	A区2号58層No.11	杯B	(14.2)	8.9	4.0			鈍黄灰色			少	不良	5/12	6/12	生焼
0076	A区2号71層X72Y-60	杯B	(14.6)	(10.6)	3.9			灰色			少	良好	3/12	3/12	
0077	A区2号71層No.7	甕	(50.2)					灰色			多	良好	1/12		
0078	A区2号床No.4	蓋	16.2		2.8			灰白色			少	不良	3/12		
0079	A区2号床No.8	蓋	15.2		3.0			黄灰色			少	不良	6/12		生焼
0080	A区2号床No.11	蓋	13.8		3.1			灰白色			少	不良	1/12		
0081	A区2号床No.14	蓋	16.2		3.4			灰色			多	良好	1/12		
0082	A区2号床No.19、23	杯B	13.7	10.2	4.0			黄灰色			少	良好	6/12	6/12	
0083	A区2号南No. 1	長頸壺	8.9	9.4	19.8	15.1	5.2	灰色			多	良好	6/12	12/12	
0084	A区2号灰-1	杯A	12.0	8.2	3.1			黄灰色		少	多	良好	4/12	7/12	ﾍﾗ
0085	A区2号灰-2	杯B	13.8	9.5	3.9			灰色		多	多	良好	7/12	7/12	
0086	A区2号灰-4	槽形鉢	21.1					黄味のある灰白色		少	少	不良	3/12	3/12	
0087	A区2号灰-16	杯B	11.6	8.6	3.1			褐灰色			少	良好	9/12	12/12	
0088	A区2号灰-24	蓋	14.8		2.1			灰色		多	多	良好	8/12		
0089	A区2号灰-25	蓋	15.5		2.8			灰白色		少	少	良好	9/12		亀裂
0090	A区2号灰-27	蓋	16.0		2.2			灰白色		多	多	良好	12/12	12/12	
0091	A区2号灰-36	杯A	14.0	10.7	3.5			灰白色			少	良好	6/12	6/12	
0092	A区2号灰-42	杯B	14.2	11.2	3.8			黄灰色			多	不良	7/12	7/12	
0093	A区2号灰-44	甕	(52.0)				(43.7)	灰黒色			少	良好	1/12		口縁
0094	A区2号灰-71	甕	(42.4)				(37.8)	灰黒色			少	良好	1/12		口縁
0095	A区2号灰 a 11層	短頸壺	7.0			13.4	7.0	灰色		少	少	良好	1/12		
0096	A区2号灰 a 129層	円面硯	(4.8)					灰黄色			少	良好	6/12		X72Y-64
0097	A区2号灰 a No.3	杯	14.3		2.5			青灰色		少	少	良好	7/12		
0098	A区2号灰 a No.18	杯B	13.6	10.3	3.2			灰色			少	良好	2/12	7/12	
0099	A区2号灰 b 暗褐色土	円面硯		18.4				灰色	褐灰色		少	良好		4/12	溶着 X74Y-64
0100	A区2号灰 c No.92	甕	(20.7)				(18.6)	灰色			少	良好	3/12		
0101	A区2号灰 c X73Y-59	鉢	23.4			2.2	21.5	灰褐色			少	良好	3/12		括れ鉢
0102	A区2号灰 c X74Y-60	横瓶	10.4				8.4	灰白色		少	少	良好	3/12		
0103	A区2号灰 c 72層	小型壺		6.8		13.4		灰褐色	褐灰色		少	良好	3/12	5/12	X74Y-59
0104	A区2号灰 c 135層	杯A	12.0	7.0	3.5			黄味のある灰白色		少	少	不良	4/12	3/12	X75Y-60
0105	A区2号灰 c 135層	杯A	12.0	8.0	3.2			灰白色			少	良好	6/12	6/12	X75Y-60
0106	A区2号灰 c -2No.12	杯A	12.8	8.5	3.6			黄橙色		少	少	不良	12/12	12/12	完形亀裂
0107	A区2号灰 c -2No.46	壺蓋	11.7		4.6			灰白色			多	良好	8/12		
0108	A区2号灰 c -2No.54	杯A	12.6	8.0	3.7			灰白色			少	良好	11/12	12/12	
0109	A区2号灰 c -2No.57	杯A	13.2	8.2	3.5			褐灰色		少	少	良好	10/12	11/12	亀裂底部剥離
0110	A区2号灰 c No.68	蓋	15.8		2.0			灰色		少	少	良	7/12		
0111	A区2号灰 c 上層	小型壺	6.0				6.3	褐灰色			多	良好	1/12		X74Y-61
0112	A区2号灰c上層No.9	蓋	14.8		3.6			褐色			少	良	12/12		
0113	A区2号灰 c 上層No.20	杯A	12.3		3.4			暗灰色			少	良好	12/12		ﾍﾗ、完形
0114	A区2号灰 c 中層No.45	短頸壺		9.0		19.5		灰色			少	良好		11/12	ﾍﾗ

須恵器観察表 (3)

①:口径 ②:底径 ③:器高 ④:胴部最大径 ⑤:頸部最小径 (cm)

番号	出土位置	器種	①	②	③	④	⑤	外色	内色	礫	砂	焼成	口遺	底遺	その他
0115	A区2号灰c中層No.49	短頸壺	9.0	8.6	14.7	18.9	9.3	灰色			少	良好	12/12	10/12	ﾍﾗ
0116	A区2号灰c中層No.81	甕	12.4			13.7	11.2	灰白色			少	良好	3/12		土師甕還元
0117	A区2号灰c中層No.90	横瓶	12.0				9.6	灰白色			少	良好	12/12		
0118	A区2号灰c中層No.95	杯A	13.5	8.0	3.6			灰白色		少	少	良好	12/12	12/12	亀裂ほぼ完形
0119	A区2号灰c中層No.103	甕	(24.4)				(21.6)	灰色			少	良好	3/12		口縁部
0120	A区灰c70層	円面硯		17.5				灰色	褐灰色		少	良好		3/12	溶着空気入り
0121	A区灰c76層	狭口壺	12.0				11.9	黄灰色			少	良好	3/12		
0122	A区灰c西ﾍﾞﾙﾄ8層9	鍋形鉢	36.3			24.3	31.6	灰色		多	多	良好	3/12		
0123	A区灰c-dﾍﾞﾙﾄ1層	把手付壺				17.0		暗灰色			少	良好			
0124	A区灰c-dﾍﾞﾙﾄNo.17	厚底鉢		(11.8)				灰色		多		良好		5/12	
0125	A区灰c下層No.20	杯B	13.3	8.5	4.2			灰色		少	多	良好	6/12	8/12	ﾍﾗ?
0126	A区灰c下層No.23	蓋	15.6		1.5			灰白色		少	少	良好	12/12		歪み亀裂完形
0127	A区灰c下層No.40	蓋	16.0		2.8			淡黄色			少	不良	7/12		頂部二重沈線
0128	A区灰c下層No.50	杯B	11.2	8.2	3.8			灰白色			少	良	12/12	12/12	完形亀裂
0129	A区灰c下層No.54	杯B	13.6	9.3	4.1			灰白色			少	良	12/12	12/12	ほぼ完形
0130	A区灰c下層下部No.1	杯A	12.8	13.4	3.4			灰黄色			少	良好	5/12	7/12	
0131	A区灰c下層下部No.3	杯A	13.0	8.7	3.4			黄灰色			少	良好	12/12	12/12	完形亀裂
0132	A区灰c下層下部No.4	杯A	13.4	8.9	3.5			灰白色		少	多	不良	9/12	12/12	亀裂
0133	A区灰c下層下部No.8	杯A	13.0	7.6	3.3			黄灰色		少	少	良好	6/12	6/12	
0134	A区灰c下層下部No.10	杯A	13.0	8.0	3.6			黄灰色			少	良好	12/12	12/12	ほぼ完形亀裂
0135	A区灰c最下層	甑		18.7			13.8	灰色			多	良好		2/12	X74Y-56
0136	A区灰c最下層	杯B		8.7				灰色			少	良好		3/12	高台に刻みX74Y-59
0137	A区灰c最下層No.3	蓋	14.8		2.6			灰白色			多	良好	3/12		
0138	A区灰c最下層No.4	甕	(45.8)				(35.2)	褐灰色			多	不良	1/12		
0139	A区灰c最下層No.7	蓋	12.8		2.3			黄灰色			少	良好	9/12		
0140	A区灰c最下層No.9	杯B	13.9	9.3	4.1			灰色		少	多	良好	12/12	12/12	ほぼ完形ﾍﾗ
0141	A区灰c最下層No.12	杯B	14.0	10.1	4.1			灰色			少	良好	7/12	7/12	
0142	A区灰c最下層No.36	蓋	16.0		2.8			灰白色			少	不良	10/12		
0143	A区灰c最下層No.43	蓋	10.9		2.7			淡黄色		少	少	不良	8/12		
0144	A区灰c最下層No.56	蓋	16.4		2.7			灰白色		少	少	不良	6/12		
0145	A区灰c最下層No.62	蓋	16.2		2.3			灰白色			少	不良	6/12		
0146	A区灰c最下層No.66	杯B	15.6	10.5	4.2			灰黄色		少	少	良好	3/12	6/12	
0147	A区2号灰eNo.2	杯A	12.0	8.7	2.8			灰白色			多	良好	11/12	12/12	亀裂
0148	A区2号灰eNo.3	杯A	12.5	9.3	3.4			灰色		少	多	良好	12/12	12/12	完形亀裂
0149	A区2号灰eNo.7	蓋	15.0		2.9			灰色			多	良好	1/12		
0150	A区2号灰eNo.14	甕	23.0			21.1	19.7	灰白色			少	良好	3/12		土師器還元
0151	A区2号灰eNo.15	杯A	13.0	8.8	3.1			灰黄色		少	少	良好	12/12	12/12	完形亀裂
0152	A区2号灰eNo.18	蓋	15.0		2.2			黄灰色			少	良好	3/12		
0153	A区2号灰eNo.20	杯B	14.4	10.5	3.5			灰色			少	良好	2/12	7/12	
0154	A区2号灰eNo.35	杯A	12.8	7.3	3.7			黄灰色		多		不良	10/12	12/12	亀裂
0155	A区2号灰eNo.47	蓋	17.8		3.5			灰色		少	少	良好	6/12		
0156	A区2号灰eNo.51	杯A	13.0	9.2	3.0			灰色			少	良好	6/12	12/12	
0157	A区2号灰eNo.59	蓋	15.8		3.4			灰褐色			少	良好	2/12		
0158	A区2号灰eNo.84	杯B	14.0	10.1	3.6			灰白色			少	不良	5/12	4/12	
0159	A区2号灰eNo.69	杯A	12.2	8.0	3.1			灰色			少	良好	4/12	4/12	ﾍﾗ
0160	A区2号灰eNo.76	蓋	14.1		3.0			灰白色			少	不良	7/12		ﾍﾗ
0161	A区2号灰eNo.78	蓋	15.5		2.4			灰白色		少		不良	9/12		ﾍﾗ
0162	A区2号灰eNo.94	蓋	14.4		3.2			白灰色		少	少	不良	12/12	12/12	完形亀裂
0163	A区2号灰eNo.96	杯B	14.0	9.5	4.0			灰色		少	少	良好	5/12	6/12	
0164	A区2号灰eNo.111	杯B	14.8	10.5	4.4			灰白色		少		不良	7/12	6/12	
0165	A区2号灰eNo.117	広口壺	(18.0)		(10.2)		10.0	灰色		多		良好	4/12		
0166	A区2号灰e上面No.317	杯A	(12.2)	(9.9)	2.8			黄褐色			少	不良	2/12	4/12	
0167	A区2号灰e上面No.317	杯A	(12.4)	(8.1)	3.1			灰黄色			多	不良	4/12	7/12	
0168	A区2号灰e上面No.229	杯A	13.1	9.1	3.5			灰黄色			少	不良	6/12	12/12	
0169	A区2号灰e上面No.257	杯B	(11.8)	7.7	3.5			灰色			少	良好	3/12	12/12	内釉
0170	A区2号灰e上面No.132	蓋	15.6		2.7			青灰色			少	良好	7/12		
0171	A区2号灰e上面No.133	長胴壺		(11.5)				灰色			多	良好		3/12	

須恵器観察表 (4)

①:口径 ②:底径 ③:器高 ④:胴部最大径 ⑤:頸部最小径 (cm)

番号	出土位置	器種	①	②	③	④	⑤	外色	内色	礫	砂	焼成	口遺	底遺	その他
0172	A区2号灰e上面No.139	杯B	13.9	8.3	4.2			灰色			多	良好	6/12	7/12	
0173	A区2号灰e上面No.322	把手						灰白色			少	良好			
0174	A区2号灰e中層No.108	壺	18.0				16.5	鈍い黄橙色			少	良好	5/12		
0175	A区2号灰e中層No.115	鉢	42.4			41.2	40.6	黄灰色			多	良好	1/12		
0176	A区2号灰e中層No.116	横瓶	10.0		(26.1)		9.4	灰色			少	良	4/12		
0177	A区2号灰e中層No.119	狭口壺	16.6				16.5	灰色	灰褐色	多	少	良好	2/12		
0178	A区2号灰e下部	杯A(大)	(15.8)	(12.1)	9.0			暗灰色			少	良好	3/12		ヘラ X77Y-61
0179	A区2号灰e下部	杯A		9.0				淡灰白色			少	不良		8/12	X79Y-58
0180	A区2号灰e下部	杯B	13.2	9.2	4.1			灰白色		少	少	良好	2/12	6/12	X77Y-61
0181	A区2号灰e下部	杯B	14.2	9.6	4.4			淡黄色			少	不良	4/12	8/12	X77Y-61
0182	A区2号灰e下部	杯B	14.0	10.1	3.7			灰白色			少	不良	4/12	7/12	X78Y-61
0183	A区2号灰e下部	蓋	15.0		2.8			灰白色			少	良好	2/12		X76Y-61
0184	A区2号灰e下部	蓋	16.0		2.7			灰白色			少	良好	3/12		X77Y-61
0185	A区2号灰e下部	蓋	15.8		1.9			灰白色		少	少	良好	4/12		X77Y-61
0186	A区灰e X78Y-57	蓋	18.6		3.3			黄灰色			少	良好	1/12		褐色土中
0187	A区灰e 8層X80Y-58	甕	(20.4)				(17.1)	灰色			少	良好	2/12		
0188	A区灰e 13層	杯A	12.6	8.9	3.2			灰色		少	少	良好	3/12	3/12	ヘラ
0189	A区灰e 13層X78Y-57	蓋	13.0		1.7			黄灰色			少	良好	2/12		
0190	A区灰e 13・14層	杯B	18.1	13.0	6.7			灰白色			少	不良	2/12	5/12	X75Y-56
0191	A区灰e 14層X75Y-57	杯B	13.0	8.8	3.3			黄灰色			多	良好	2/12	3/12	
0192	A区灰e 14層X76Y-58	杯A	12.7	7.7	3.2			灰色		少	少	良好	1/12	2/12	
0193	A区灰e 16層X78Y-57	杯A	12.0	7.9	3.3			灰白色			少	良好	6/12	6/12	
0194	A区灰e 16層X79Y-58	杯B	13.4	8.7	4.0			灰白色		少	少	良好	4/12	4/12	
0195	A区灰e 76層	皿B	16.0	11.5	2.2			灰色		多	少	良好	1/12	2/12	頂部二重沈線
0196	A区灰e 140層No.16	杯B	13.8	10.1	4.1			黄灰色			多	良好	9/12	12/12	
0197	A区灰e 140層No.18	蓋	15.0		2.5			灰色			多	良好	6/12		
0198	A区灰e 140層No.22	杯B	13.0	10.2	3.4			灰黄色			少	良好	12/12	12/12	完形亀裂ヘラ
0199	A区灰e 140層No.39	杯B	13.4	9.2	3.5			鈍い橙色			少	良好	8/12	12/12	
0200	A区灰e 140層No.44	杯B	12.8	8.5	3.6			鈍い褐色		少	少	良好	4/12	6/12	
0201	A区灰e 140層No.44	杯B	13.2	9.6	3.5			灰色			少	良好	3/12	4/12	
0202	A区灰e 140層No.56	杯B	14.0	10.2	4.1			淡黄色		少	少	不良	7/12	12/12	
0203	A区灰e 140層No.58	杯A	(12.6)	(6.7)	3.0			灰黄色			少	良好	5/12	5/12	ヘラ
0204	A区灰e 140層No.66	杯A	13.0	8.7	3.2			灰色			少	良好	3/12	3/12	ヘラ
0205	A区灰e 上層X76Y-57	杯C	11.2					灰色			少	良好	1/12		
0206	A区灰e 中層X76Y-58	杯A・B						灰色			多	良好	3/12	5/12	杯A・杯B重ね焼
0207	A区灰e 中層X79Y-60	高杯A	12.1	7.7	5.8			赤褐色			多	良好	6/12	3/12	
0208	A区灰e 中層X78Y-60	杯B	(11.8)	7.8	3.5			茶灰色			多	良好	5/12	6/12	
0209	A区灰e 中層X79Y-59	杯B	(13.0)	(7.0)	3.6			茶灰色		多		良好	6/12	6/12	焼き歪
0210	A区灰e 中層X79Y-60	杯B	14.0	8.9	3.5			黄灰色			多	良好	3/12	6/12	
0211	A区灰e 中層X77Y-59	蓋	14.8		1.9			灰色		少	多	良好	12/12		焼き歪
0212	A区灰e 中層X78Y-60	仏鉢	15.5			16.4		灰色			少	良好	2/12		
0213	A区灰e 中層X76Y-59	水瓶					6.0	灰色			少	良好			内外暗自然釉
0214	A区灰e 中層X78Y-60	四耳壺						茶灰色			少	良好			残部少
0215	A区灰e 中層X79Y-60	甕	(16.2)				(15.0)	灰色			少	良好	3/12		自然釉
0216	A区灰e 中層X76Y-59	甕	(45.4)					灰色			少	良好	2/12		
0217	A区灰e 中層②	横瓶	9.0				8.9	灰色 外面暗灰色釉			少	良好	2/12		ヘラ X77Y-57
0218	A区灰e 下層X75Y-56	蓋						灰色				良好			頂部二重沈線
0219	A区灰e 下層X76Y-59	甕	43.0					灰白色		少	少	良好	1/12		
0220	A区灰e 下層X78Y-58	瓶	10.0				6.6	灰黄褐色			少	良好	2/12		水注の口縁か
0221	A区灰e 下層X79Y-59	杯B	12.4	8.5	4.1			灰色		多	多	良好	1/12	7/12	ヘラ
0222	A区灰e 下層X78Y-58	鉢or鍋	32.4			31.5	30.6	灰白色		少	少	良好	1/12		
0223	A区灰e 下層X78Y-58	横瓶	11.2				8.9	灰色			少	良好	3/12		
0224	A区灰e 下層No.11	杯A(大)	(16.9)	11.3	5.5			褐灰色	灰色	少	少	良	2/12	7/12	
0225	A区灰e 下層No.11	蓋	15.4		2.4			灰色		少	多	良好	12/12		焼き歪
0226	A区灰e 下層No.11	杯B	13.1	7.8	4.4			灰色			少	良好	9/12	12/12	
0227	A区灰e 下層No.70	杯A	12.7	10.0	3.4			鈍黄灰色			少	不良	12/12	12/12	
0228	A区灰e 下層No.71	杯A	12.2	9.8	3.5			黄灰色			多	不良	7/12	12/12	

須恵器観察表 (5)

①:口径 ②:底径 ③:器高 ④:胴部最大径 ⑤:頸部最小径 (cm)

番号	出土位置	器種	①	②	③	④	⑤	外色	内色	礫	砂	焼成	口遺	底遺	その他
0229	A区灰e下層No.81	広口壺	17.2				9.7	灰色			多	良好	2/12	3/12	
0230	A区灰e下層No.110	広口壺	20.2					灰白色			少	不良	2/12		広口
0231	A区灰e下層No.111	壺蓋	12.0	6.8				灰色	灰色		少	良好	4/12		自然釉
0232	A区灰e下層No.112	壺蓋						灰色	灰色		少	良好	2/12	7/12	自然釉
0233	A区灰e下層No.171	杯A	12.7	8.2	3.0			灰色			少	良好	10/12	12/12	亀裂
0234	A区灰e下層No.186	蓋	19.5		2.9			灰色			多	良好	7/12		大型
0235	A区灰e下層No.191	杯B	10.8	7.5	3.8			灰白色			少	良好	11/12	11/12	
0236	A区灰e下層No.195	壺		5.7		11.8	4.2	淡黄灰色			多	良好	0/12	12/12	亀裂
0237	A区灰e下層No.218	甕	22.2				20.5	灰白色			少	不良	6/12		
0238	A区灰e下層No.225	鉢		11.0				灰色		少	多	良好		6/12	底部外ﾍﾗ刺突
0239	A区灰e下層No.226	杯B	13.0	8.8	4.0			灰色			少	良好	12/12	12/12	完形
0240	A区灰e下層No.232	蓋	(15.6)		3.4			灰黄色			多	不良	2/12		
0241	A区灰e下層No.233	長頸壺		(11.5)		(18.1)		灰色			少	良好		3/12	
0242	A区灰e最下層	杯A	(13.2)	(9.6)	3.4			褐灰色		石有	多	不良	4/12	6/12	X76Y-59
0243	A区灰e最下層	壺蓋	12.8		3.5			灰色		少	少	良好	4/12	6/12	X77Y-59,頂部二重沈線
0244	A区灰e最下層	杯A	13.7	9.6	3.2			灰白色			少	良好	1/12	2/12	X78Y-60
0245	A区灰e最下層	杯B	10.0	10.1	3.9			黄灰色			多	良好	2/12	2/12	X78Y-60
0246	A区灰e最下層No.16	蓋	14.6		2.3			灰黄色			多	良好	6/12		
0247	A区灰e最下層No.23	杯B	12.0	8.1	3.5			灰色			少	良好	11/12	12/12	
0248	A区灰e最下層No.35	甕	(40.2)		(9.5)		(32.1)	黄灰色				良好			
0249	A区灰e最下層No.37	杯B	13.7	9.2	4.0			灰色		少	少	良好	6/12	6/12	
0250	A区灰e最下層No.41	杯B	14.0	9.3	4.7			灰白色		少	少	良好	3/12	3/12	
0251	A区灰e最下層No.53	杯A	13.1	7.7	3.9			灰白色			少	良好	5/12	5/12	
0252	A区灰e最下層No.54	蓋	14.7		2.8			灰白色			少	良好	3/12		
0253	A区灰e最下層No.54	蓋	14.4		3.5			灰色			少	良好	6/12		
0254	A区灰e最下層No.58	甕	(21.0)				(18.4)	褐灰色				良好	1/12		
0255	A区灰e最下層No.59	甕	(23.8)				(20.5)	灰色		多		良好	3/12		
0256	A区灰e最下層No.65	杯A	13.0	9.6	3.8			灰白色		少	多	良好	11/12	12/12	
0257	A区灰e最下層No.69	短頸壺	(11.2)			(18.8)		灰色		多		良好	2/12		
0258	A区灰e最下層No.87	長頸壺		8.3		17.6		灰色			少	良好		12/12	胴下部ﾍﾗ、釉
0259	A区灰c最下層No.110	杯B	14.4	10.4	4.0			灰色			少	良好	8/12	12/12	
0260	A区灰e最下層No.120	杯B	14.0	11.0	3.8			灰褐色			少	良好	3/12	6/12	
0261	A区灰e西ベルト1層	杯B	(12.1)	(8.7)	3.9			褐灰色			多	不良	2/12	3/12	X77Y-61
0262	A区灰e西ベルト上面	杯B	13.2	8.4	4.7			灰白色		少	少	不良	5/12	12/12	
0263	A区灰e西ベルト中層	蓋						灰色			少	良好			ﾍﾗ記号
0264	A区灰e-fﾍﾞﾙﾄ3層No.11	杯A	11.4	7.6	3.4			灰白色		少	少	良好	12/12	12/12	
0265	A区灰e-fﾍﾞﾙﾄ3層No.12	杯B	12.5	8.6	4.0			灰黄色			少	良好	11/12	12/12	
0266	A区灰e-fﾍﾞﾙﾄ5層	杯	7.0					灰色			少	良好	1/12		X79Y-57、ミニチュア
0267	A区灰e-fﾍﾞﾙﾄ8層No.2	甕	40.2				34.4	橙色		少	少	良好	2/12		
0268	A区灰e-f 10·11層	甑				28.2		灰色			少	良好			把手付
0269	A区灰e-fﾍﾞﾙﾄ最下層	把手	(14.5)		3.1			灰色			多	良好	4/12		X80Y-58
0270	A区灰e-fﾍﾞﾙﾄ最下層	甕	(32.8)				(32.1)	灰色			少	良好	2/12		X80Y-57
0271	A区灰e-fﾍﾞﾙﾄ最下層	甕	(20.2)				(20.3)	褐灰色	暗灰色		少	良好	3/12		褐色重焼痕跡
0272	A区灰f7層X82Y-59	蓋	16.0		1.8			黄灰色			多	良好	2/12		
0273	A区灰f上層No.37	蓋	15.0		2.7			灰色			少	良好	12/12	12/12	完形焼歪み
0274	A区灰f上層No.39	蓋	15.2		2.8			青灰色		少		良好	1/12		
0275	A区灰f上層No.63	杯A	12.9	8.4	3.4			褐灰色 一部灰色			少	良好	9/12	12/12	ﾍﾗ
0276	A区灰f中層	甕	39.6					灰色			少	良好	2/12		肩部焼台転用
0277	A区灰f最下層	壺蓋	13.7		4.2			灰色	灰色		少	良好	9/12		自然釉、焼き歪
0278	A区灰f最下層No.167	杯B	14.0	9.1	4.3			灰白色			少	不良	11/12	12/12	亀裂
0279	A区灰l140層No.23	杯B	11.8	7.9	3.3			明灰白色			少	不良	9/12	12/12	亀裂
0280	A区灰上面X73Y-58	杯B	15.6		5.6			黄灰色		少	少	良好	1/12	2/12	大型
0281	A区灰上面X75Y-60	蓋	9.8		1.5			鈍い赤褐色		少	多	良好			
0282	A区灰上面X74Y-61	壺蓋	12.0		3.2			灰白色	灰白色		少	良好	1/12		
0283	A区灰上面X74Y-61	壺蓋	13.0		5.7			灰白色	灰白色		多	良好	2/12		外面溶着
0284	A区灰上面X76Y-61	蓋	14.6		2.8			青灰色			多	良好	8/12		
0285	A区灰上面X77Y-60	小壺		4.3		6.5		灰色		少	多	良好		7/12	ﾐﾆﾁｭｱ

須恵器観察表 (6)

①:口径 ②:底径 ③:器高 ④:胴部最大径 ⑤:頸部最小径 (cm)

番号	出土位置	器種	①	②	③	④	⑤	外色	内色	礫	砂	焼成	口遺	底遺	その他
0286	A区SD02土坑a中,下部	仏鉢	21.3			22.9		褐灰色			少	良好	1/12		
0287	A区SD02No.1	杯A	12.8	8.0	3.4			淡黄色		少	少	不良	6/12	12/12	
0288	A区SK02下部	甕	(56.9)				(45.2)	灰色		多	多	良好	1/12以下		頸部計測
0289	A区P02西半部	杯B	14.2	10.1	3.5			灰色		少	少	良好	4/12	4/12	
0290	A区東断割りX76Y-55	杯／蓋	12.1					灰色			多	良好			溶着・蓋径16.0
0291	A区東断割りX80Y-56	小皿	10.3	10.1	1.1			褐灰色			少	良好	2/12		
0292	A区東断割りX81Y-56	壺蓋	11.6		5.3			鈍い褐色			少	良好	3/12		
0293	A区X73Y-66Z16.521	杯B	9.0	5.7	3.7			灰色			多	良好	7/12	7/12	
0294	A区X73Y-67Z16.426	壺蓋	14.2		5.6			緑釉	灰白色	少	多	良好	2/12		外面溶着
0295	A区X73Y-67Z16.426	小壺	8.0	5.1	3.2	7.6	7.1	浅黄色			多	不良	2/12	3/12	
0296	A区X79Y-61Z16.113	蓋	18.0		3.4			鈍い赤褐色		少	少	良好	2/12		二重沈線2条
0297	A区X82Y-57Z16.231	杯A		5.0				灰色		少	少	良好		2/12	「☆」ヘラ
0298	A区X83Y-57Z15.898	杯A	12.6	7.3	3.5			褐灰色		少	少	良好	4/12	12/12	重ね焼、4個溶着
0299	A区X84Y-64Z16.393	四耳壺	10.0					灰色			少	良好	2/12		耳付
0300	A区X85Y-58Z15.933	杯		9.1				灰色			少	不良		4/12	特殊な高台、ヘラ
0301	B、C区SX02黒褐色土	蓋	15.0		2.6			灰黄色		少	少	不良	2/12		
0302	B区6層X79Y-54	鉢	(17.2)	(6.8)	7.8			黄灰色		多		良好	6/12	6/12	
0303	B区6層X79Y-54	横瓶	10.0				10.3	灰白色		少	少	良好			
0304	B区6層X79Y-55	杯B	11.7	8.5	3.5			灰白色			少	良好	10/12	12/12	焼歪み・内溶着
0305	B区6層X79Y-55	杯B	14.0	10.0	3.9			灰色		少	少	良好	3/12	3/12	
0306	B区6層X79Y-55	蓋	14.8		2.9			淡黄色		少	少	不良	3/12		
0307	B区6層X80Y-51	横瓶	13.0				10.5	灰色		少		良好	2/12		
0308	B区7層No.30	甕	44.8					黄灰色			少	良好	1/12		
0309	B区7層No.48	甕	20.1		(6.3)		19.7	灰色			少	良好	5/12		ヘラ
0310	B区7層No.60	甕	20.8			18.1	17.8	灰白色			少	良好	2/12		土師還元焼成
0311	B区7層No.74	鉢	(24.1)	(16.6)	10.3			灰褐色			少	良	3/12		還元焼成、片口
0312	B区7層No.80	蓋	16.6		4.3			黄灰色			少	良好	6/12		
0313	B区7層No.83	杯A	12.6	9.4	3.2			灰白色			少	良好	12/12	12/12	
0314	B区7層No.88	蓋	14.5		3.4			暗灰色			少	良好	12/12		ヘラ、完形
0315	B区7層No.88	甕	(41.3)				(34.2)	黄灰色			少	良	1/12		ヘラ
0316	B区7層No.91	杯A	13.2		3.2			浅黄橙色		少	少	不良	12/12	12/12	
0317	B区7層No.92	鉢	15.4				14.2	灰色			少	良好	4/12		
0318	B区a7層X86Y-51	壺	(14.2)				(12.8)	明灰色			多	良好	1/12		内釉、窯糞
0319	B区a7層X86Y-54	杯B	9.8	5.7	4.2			褐灰色	灰色		多	良好	1/12	6/12	
0320	B区a、b（21層）No.17	杯	15.2		1.5			暗灰黄色		少	少	良好	12/12	12/12	ヘラ完形歪み
0321	B区a、b No.7	杯B	12.8	7.9	3.6			灰白色		少	少	良好	4/12	12/12	
0322	B区a、b No.31	杯A	13.0	8.9	3.1			灰白色		少	少	不良	6/12	7/12	ヘラ亀裂
0323	B区a-bベルトNo.46	長頸壺	(7.4)				(4.4)	灰白色				良好	3/12		
0324	B区a-bベルトNo.52	横瓶	11.2				10.2	灰色			少	良好	11/12		
0325	B区a-bベルト2層	小壺		4.4		6.3	4.3	黄灰色			多	良好		6/12	ミニチュア
0326	B区a-bベルト下層No.14	杯A	12.4	8.1	3.3			肌色		少	多	不良	12/12	12/12	
0327	B区a-bベルト下層No.19	杯B	13.4	7.8	4.3			青灰色			少	良好	9/12	11/12	空気入
0328	B区a-bベルト下層No.21	杯A	11.7	9.0	3.0			灰褐色			少	不良	8/12	12/12	
0329	B区a-bベルト下層No.24	杯B	14.1	9.4	4.4			鈍肌色			少	不良	7/12	12/12	生焼、内ヘラ
0330	B区b6層X82Y-54	杯A	12.6	7.8	3.5			灰黄色			少	良	2/12	3/12	
0331	B区b6層X84Y-64	甕	12.0				10.2	灰色			少	良好	1/12		
0332	B区c123層	甕	16.8			16.2	15.0	灰白色		少	少	良好	2/12		
0333	B区c52、118層	短頸壺		8.2				灰色			少	良好		12/12	
0334	B区c88層123層No.9	杯A	13.0	10.0	3.1			灰白色		多	少	良好	6/12	6/12	ヘラ
0335	B区c88層123層No.94	杯A	13.0	8.2	3.1			灰白色		少	少	良好	6/12	4/12	ヘラ
0336	B区SD01灰a No.4	杯B	13.1	9.0	3.8			黄灰色			多	良	12/12	12/12	亀裂、完形
0337	B区SK03No.14	壺	14.1					灰色		少	少	良好	8/21		
0338	B区SK03下層No.1	高杯A	11.6	8.8	4.8			赤褐色		少	少	良好	8/21	12/12	焼歪み
0339	B区SK03下層No.6	杯A	13.0	8.9	3.5			灰色		少	多	良好	10/12	12/12	
0340	B区SK03下層No.9	杯A	12.6	9.2	3.1			灰白色		少	少	良好	6/12	6/12	
0341	B区SK03下層No.12	壺		13.2		25.9		灰色			少	良好		6/12	
0342	B区SK04下層	杯B	13.4	9.8	3.9			鈍い黄橙色			多	良	5/12	6/12	

須恵器観察表 (7)

①:口径 ②:底径 ③:器高 ④:胴部最大径 ⑤:頸部最小径 (cm)

番号	出土位置	器種	①	②	③	④	⑤	外色	内色	礫	砂	焼成	口遺	底遺	その他
0343	B区SK07No.38	甕	23.4				20.2	灰白色		少	少	良好	3/12		
0344	B区SK07No.90	蓋	14.0		3.3			灰白色		少	多	良好	10/12		
0345	B区SK09上層No.83	蓋	14.6		3.4			褐灰色		少	少	良好	6/12		
0346	B区SK09上層No.84	杯A	13.0	9.1	3.1			浅黄橙色		少	多	良好	10/12	12/12	
0347	B区SK09上層No.112	甕	15.8			14.9	14.1	灰白色		少	少	良好	3/12		
0348	B区SK09上層No.119	狭口壺	13.3				13.1	灰色			多	良好	7/12		
0349	B区SK09上層No.124	蓋						灰色			少	良好			つまみ接続部
0350	B区SK09上層133、143	狭口壺	15.1			24.8	15.1	灰色			少	良好	4/12		
0351	B区SK09上層133、143	鍋	34.0				32.0	黄味のある灰白色		少	少	良好	2/12		
0352	B区SK09中層No.33	杯A	13.2	10.3	4.3			黄灰色		少		不良	8/12	12/12	
0353	B区SK09中層No.30	蓋	15.0		2.5			灰色			多	良好	7/12		
0354	B区SX03 b 上層	蓋	15.4		2.5			灰白色		少	少	良好	6/12		
0355	B区SX03 b 上層	蓋	19.4					灰色		少	多	良好	2/12		環状摘み
0356	B区SX03 b 上層	杯B	(13.5)	8.2	3.7			灰黄色			多	良好	1/12	7/12	
0357	B区SX03 b 上層	杯B	(12.9)	9.0	3.8			灰褐色			多	良	5/12	7/12	
0358	B区SX03 b 上層	横瓶	(10.2)				(8.0)	灰色			多	良好	4/12		外自然釉
0359	B区SX03 b 上層	甕	24.0				21.1	灰白色		少	少	良好	2/12		
0360	B区SX03上層	壺		10.7				黄橙色			少	良		6/12	
0361	B区SX03No.9	杯B	14.8	7.8	6.3			灰白色			少	良	2/12	10/12	
0362	B区SK04- a 上層	杯A	12.8	9.0	3.0			灰色			少	良好	4/12	5/12	
0363	B区SX06 X83Y-48	高杯		9.9				赤褐色			少	良好		1/12	
0364	B区SX06 X83Y-48	仏鉢	17.0		7.9	18.4		灰色			少	良好	7/12		
0365	B区SX06 X84Y-50	杯C	11.4	7.7	3.6			灰色		少	少	良好	1/12	5/12	
0366	B区SX08No.2	杯B	12.7	8.6	3.0			淡い黄灰色		少	少	良好	6/12	6/12	ヘラ
0367	B区SX08No.13	杯B	12.0	8.3	3.3			黄灰色			少	良好	4/12	5/12	
0368	B区SX10中層	杯B	17.5	9.8	6.7			灰色			少	良好	1/12	5/12	
0369	B区ＳX12 X80Y-49	蓋	14.8		2.5			灰色			少	良好	10/12		
0370	B区SX13No.14	杯B	13.2	9.4	3.9			灰色		少	少	良好	7/12	12/12	ヘラ
0371	B区SX13No.15	杯B	13.0	8.6	4.2			黄灰色		少	少	良好	3/12	5/12	
0372	B区SX14No.2	杯A	12.8	8.8	3.5			灰白色		少	少	良好	3/12	5/12	
0373	B区SX14No.8	杯A	13.7	10.3	3.5			灰色			少	良好	12/12	12/12	ほぼ完形
0374	B区SX15No.13	甕	19.9			20.5	16.7	灰褐色		多	多	良好	3/12		
0375	B区SX19No.1	蓋	14.4		3.5			灰白色		多	多	良好	12/12	12/12	
0376	B区SX21No.5	杯A	14.0	10.2	3.7			灰色			多	良好	12/12	12/12	ほぼ完形・亀裂
0377	B区SX21No.7	横瓶	10.1		(10.9)		10.0	灰黄色		多		良好	10/12		
0378	B区灰 c 13・14層	蓋				5.3		灰白色			少	良好		7/12	環状摘み
0379	B区灰c88・123層No.24	杯B	11.8	7.3	3.5			淡黄色		少	少	良好	3/12	6/12	
0380	B区灰 c 88・123層No.98	蓋	14.6		3.3			灰白色		少	少	良好	6/12		
0381	B区灰 c 88·123層	蓋	(15.4)					灰色			多	良好	5/12		ヘラ
0382	B区灰 c 88·123層	甕	(20.4)				(20.0)	灰色			少	良好	3/12		
0383	B区灰 c 123層	蓋	(17.0)					黄灰色			多	良好	4/12		X77Y-51、ヘラ
0384	B区X77Y-52Z15.959	甑		16.8			15.7	灰白色			多			3/12	
0385	B区X77Y-52Z15.959	円面硯		10.3				黄灰色			少	良好		10/12	方形透し穴4ヶ所
0386	B区X79Y-59Z15.870	甕	33.0					黄灰色		少	少	良好	1/12		
0387	B区X79 Y-56 Z 16.561	甕	20.4				17.9	暗灰色			多	良好	2/12		ヘラ、土師還元
0388	B区X80Y-45Z16.210	杯	6.5	9.9	2.4			灰色			多	良好	2/12	12/12	ヘラ、小型
0389	B区X80Y-54Z15.984	短頸球胴壺	9.8				10.1	黄味のある灰白色			少	良好	3/12		
0390	B区X81Y-45Z16.087	仏鉢	23.0					暗灰色	灰色		少	良好	1/12		
0391	B区X82Y-52Z16.055	壺蓋	13.0		3.6			灰褐色(断面灰色)			少	良好	4/12		
0392	B区X82Y-52Z16.159	短頸球胴壺	10.8				11.3	黄味のある灰白色		少	少	良好	1/12		
0393	B区X84Y-55Z15.795	小鉢	10.0			9.8	9.5	黄灰色		少	少	良好	2/12		ミニチュア
0394	B区X85Y-52Z15.772	円面硯	(19.9)				(19.8)	灰褐色			少	良	2/12		円形他穿孔
0395	B区X87Y-51Z15.789	槽形鉢	21.4	15.2	7.0			灰色			少	良好	1/12	1/12	
0396	B区X87Y-51Z15.789	小形鉢	10.7	6.8	(3.2)			灰色			少	良好	1/12	5/12	

須恵器観察表 (8)

①:口径 ②:底径 ③:器高 ④:胴部最大径 ⑤:頸部最小径 (cm)

番号	出土位置	器種	①	②	③	④	⑤	外色	内色	礫	砂	焼成	口遺	底遺	その他
0397	C区52層 No.2	蓋	(14.3)		4.0			灰黄色		石	多	良好	8/12		空気入
0398	C区52層 No.2	杯A	12.8	8.7	3.7			黄灰色			多	不良	7/12	10/12	生焼け
0399	C区52層 No.2	杯B	12.3	7.0	3.6			灰色			多	良好	4/12	7/12	
0400	C区52層 No.6	蓋	(14.1)		3.3			褐色			少	良	5/12		
0401	C区52層 No.15	鉢	(35.6)				(33.4)	灰黄色			多	良好	1/12		土師器還元
0402	C区52層 No.15	横瓶	(12.5)				(10.6)	灰色			少	良好	2/12		自然釉、窯糞
0403	C区52層 No.17	甕	(19.9)				(18.9)	灰褐色			少	良好	2/12		
0404	C区52層 No.21	仏鉢	17.0			17.8		灰黄色		少	多	不良	2/12		
0405	C区52層 No.28	杯B(大)	(16.5)	9.9	6.8			灰色			少	良好	4/12	6/12	
0406	C区52層 No.39	鍋形鉢	35.7			33.0	33.1	灰白色			少	良好	3/12		
0407	C区52層 No.56	水瓶					5.8	黄灰色			多	良好	12/12		頸部で計測
0408	C区52層 No.57	杯B	12.8	6.9	3.8			灰黄色			少	良好	11/12	12/12	内面剥離
0409	C区52層	杯B	11.0	7.4	2.6			灰色		少	多	良好	3/12	7/12	
0410	C区88・89層X74Y-47	杯B	17.2	8.9	3.8			灰色			少	良好	3/12	2/12	
0411	C区88・89層X74Y-47	杯A	12.4	9.1	3.1			灰オリーブ色			多	良好	2/12	5/12	ヘラ
0412	C区88・89層X75Y-47	杯A	13.0	9.7	3.1			灰色			多	良好	1/12	3/12	
0413	C区88・89層X75Y-47	杯A	12.0	8.7	2.7			灰色			少	良好	2/12	4/12	
0414	C区88・89層X75Y-47	杯A	13.0	9.5	3.2			灰オリーブ色			多	良好	2/12	3/12	ヘラ
0415	C区88・89層X75Y-47	杯A	12.7	8.7	2.7			灰色		少	少	良好	5/12	5/12	ヘラ
0416	C区88・89層X75Y-47	杯B	13.6	10.1	3.8			灰白色		少	多	良好	5/12	5/12	
0417	C区88・89層No.34	杯B	13.2	8.5	3.9			浅黄橙色		多	少	不良	2/12	6/12	
0418	C区88・89層No.34	鉢	30.8			28.9	28.4	灰白色			少	良好	1/12		
0419	C区88・89層No.34	鍋形鉢	29.4			26.1	25.8	黄味のある灰白色			少	良好	2/12		
0420	C区88層	杯B	13.6		3.8			灰オリーブ色			多	良好	4/12	3/12	
0421	C区88層 X73Y-50	杯B	13.8	8.4	3.9			灰色			多	良好	3/12	3/12	
0422	C区88層 X74Y-49	杯B	13.5	9.5	3.7			灰白色		多	少	良好	6/12	6/12	
0423	C区88層 X74Y-49	杯B	14.2	9.8	4.0						少	良好	7/12	6/12	
0424	C区88層No.24	蓋	15.9		2.7			灰色		多	多	良好	12/12	12/12	
0425	C区90層	杯A	(12.0)	(10.3)	3.4			灰黄色			多	良好	2/12	3/12	内ヘラ
0426	C区90層No.33	杯A	12.8	9.5	3.3			灰色			多	良好	3/12	3/12	
0427	C区92層 X72Y-50	杯A	13.0	8.5	3.0			灰色			少	良好	3/12	5/12	
0428	C区92層 X73Y-48	杯A	12.0	8.8	2.9			黄灰色		少	多	良好	5/12	5/12	
0429	C区92層 X73Y-49	杯A	15.0	10.0	3.1			灰白色			少	不良	4/12	5/12	
0430	C区92層 X73Y-50	杯A	13.0	8.4	2.9			灰白色			少	良	2/12	2/12	
0431	C区92層 X73Y-50	杯A	13.6	10.6	3.4			灰白色			多	良好	3/12	5/12	
0432	C区92層 X73Y-49	杯B	13.6	9.9	3.9			淡黄色		少	少	良好	4/12	4/12	
0433	C区92層 X73Y-50	杯B	12.6	8.6	4.0			灰色			少	良好	2/12	6/12	
0434	C区92層 X73Y-50	杯B	14.2	10.1	4.4			灰色		少	少	良	1/12	3/12	
0435	C区92層 X73Y-50	杯B	16.8	11.0	6.4			灰色			少	良好	1/12	1/12	
0436	C区92層 X73Y-50	杯蓋	16.0		3.2			灰白色		少	多	良好	2/12	6/12	
0437	C区SK01 1・2層	蓋	(14.5)		3.0			灰色	灰褐色		少	良	3/12		頂部三重沈線
0438	C区SK01 2層黄色土8	杯A	12.5	8.1	3.5			浅黄橙色			少	不良	10/12	12/12	
0439	C区SK01 2層黄色土10	杯A	11.7	8.2	5.3			浅黄橙色			少	不良	12/12	12/12	完形亀裂
0440	C区SK01 2層黄色土11	杯A	13.1	9.6	3.1			浅黄橙色			少	不良	9/12	12/12	
0441	C区SK01 2層黄色土13	杯A	12.1	7.0	3.4			浅黄橙色			少	不良	12/12	12/12	完形亀裂
0442	C区SK01 2層黄色土14	杯A	14.9	10.6				浅黄橙色			少	不良	3/12	4/12	
0443	C区SK01 2層黄色土20	杯B	12.1	8.6	3.7			浅黄橙色		少		不良	5/12	12/12	亀裂
0444	C区SK01 2層黄色土21	杯A	12.2	7.8	3.1			浅黄橙色			少	不良	2/12	3/12	
0445	C区SK01 2層黄色土22	杯	12.3					浅黄橙色			少	不良	6/12		
0446	C区SK01 2層黄色土25	杯B	13.9	8.2	4.0			鈍い黄橙色			少	不良	5/12	6/12	
0447	C区SK01 45層	杯B	14.1	9.4	4.1			淡灰黄色		少	少	不良	2/12	6/12	X67Y-52 ヘラ
0448	C区SK01 45層No.3	狭口壺	11.0			22.0	12.1	灰色		少	少	良好	9/12		
0449	C区SK01 45層No.5	杯B	14.8	9.6	4.2			淡黄色		少	少	不良	6/12	12/12	
0450	C区SK01 45層No.42	杯A	13.4	8.6	3.9			灰白色		少	少	良好	9/12	12/12	ヘラ
0451	C区SK01 45層No.42	杯A	13.4	8.3	3.9			灰白色			少	不良	9/12	12/12	ヘラ
0452	C区SK01 45層No.49	杯B	15.2	10.1	5.7			灰色	灰白色		多	良	6/12	6/12	
0453	C区SK01 45層No.58	杯B	15.6	10.1	3.3			灰色		少	多	良	4/12	6/12	

須恵器観察表 (9)

①:口径 ②:底径 ③:器高 ④:胴部最大径 ⑤:頸部最小径 (cm)

番号	出土位置	器種	①	②	③	④	⑤	外色	内色	礫	砂	焼成	口遺	底遺	その他
0454	C区SK01 45層No.77	杯A	13.0	8.9	3.2			灰色		少	少	良好	3/12	4/12	亀裂
0455	C区SK01 45層No.79	甕	(20.0)				(19.3)	灰褐色			少	良好	2/12		外自然釉
0456	C区SK01 45層No.85	槽形鉢	22.6					灰白色	黄灰色		少	良好	1/12		底部溶着亀裂
0457	C区SK01 175層No.5	槽形鉢	20.1	9.0	9.2			灰色	淡黄色		多	不良	6/12	1/12	
0458	C区SK01 175層No.25	杯A	12.0	7.0	3.0			灰白色		多	多	良好	4/12	12/12	
0459	C区SK01 175層No.29	杯A	11.8	7.9	3.1			黄灰色		少	多	良好	9/12	12/12	
0460	C区SK01 175層No.29	杯B	14.0	8.8	6.0			黄灰色		少	少	良好	3/12	7/12	
0461	C区SK01 175層No.33	杯A	12.4	8.2	3.1			灰黄色			少	不良	4/12	8/12	
0462	C区SK01 175層No.37	杯A	12.6	7.7	3.4			灰白色		少	少	不良	7/12	12/12	亀裂
0463	C区SK01 175層No.43	槽形鉢	(30.0)		(10.5)			黄灰色		多		良好	2/12		
0464	C区SK01 175層No.44	杯B	11.8	8.3	3.3			灰色		多	多	良好	12/12	12/12	ほぼ完形・亀裂
0465	C区SK01中層No.4	杯A	10.6	9.0	3.3			灰白色			多	良好	12/12	12/12	ほぼ完形亀裂
0466	C区SK01中層No.10	短頸球胴壺	7.8	10.0	16.3	19.5	8.0	灰色			少	良好	9/12	10/12	
0467	C区SK01中層No.17	杯B	18.5	11.8	6.3			灰白色		少	少	良好	8/12	12/12	
0468	C区SK01中層No.24	杯B	15.2	10.0	6.5			灰色			少	良好	6/12	5/12	
0469	C区SK01中層No.28	狭口壺		10.2		21.0		灰色		多		良好		7/12	
0470	C区SK01中層No.71	壺蓋	12.4		4.2			灰色			少	良好	6/12	8/12	空気入り溶着
0471	C区SK01中層X67Y-49	土管		12.5				灰白色		少	少	良好		3/12	
0472	C区SK01下層No.8	鉢	30.8			29.7	28.4	灰白色	灰白色	少	少	良好	3/12		
0473	C区SK01下層No.13	括れ鉢	30.0			30.4	28.8	灰白色		多	多	良好	3/12		
0474	C区SK01 a 黒色土	杯A	13.3	8.1	3.5			灰色		少	少	良好	12/12	12/12	亀裂
0475	C区SK01黄色土層20	杯B	13.2	8.6	3.5			灰色		少	少	良好	9/12	12/12	亀裂
0476	C区SK01黄色土層40	壺蓋	16.0		5.9			鈍い橙色		少	少	良好	9/12		
0477	C区SK09 50層No.3	蓋	15.0		1.8			黄灰色			少	良好	12/12	12/12	完形亀裂
0478	C区SK09 50層No.6	小形壺	6.0	4.2	3.4			灰色			多	不良	12/12	12/12	ﾐﾆﾁｭｱ完形
0479	C区SK09 50層No.14	鉢	(16.1)		8.4			灰黄色		多		良好	4/12		仏器模倣
0480	C区SK09 50層No.17	杯A	12.3	9.4	3.3			褐灰色			多	良	12/12	12/12	完形・亀裂
0481	C区SK09 50層No.31	杯A	13.4	9.6	3.1			鈍い橙色		少	少	不良	7/12	12/12	亀裂
0482	C区SK09 50層No.35	杯A	12.8	8.2	3.7			灰白色		多	多	良好	9/12	12/12	ﾍﾗ亀裂
0483	C区SK09 50層No.36	杯B	13.6	9.8	3.8			灰白色			多	良好	3/12	4/12	
0484	C区SK09 50層No.39	横瓶	12.3				9.9	灰色		少	少	良好	10/12		
0485	C区SK09 50層No.43	杯A	13.2	9.0	3.2			鈍い黄橙色		少	少	良好	6/12	7/12	亀裂
0486	C区SK09 50層No.48	杯B	14.6	9.4	4.2			灰白色		少	少	良好	4/12	4/12	
0487	C区SK09 50層No.50	杯B	11.6	7.8	3.1			灰色			多	良好	6/12	12/12	
0488	C区SK09 50層No.71	杯B	13.4	9.7	4.0			黄灰色		少	少	良好	11/12	12/12	空気入
0489	C区SK09 50層No.76	杯B	11.6	8.1	3.6			灰白色		少	少	良	12/12	12/12	完形・亀裂
0490	C区SK09 50層No.87	杯A	13.7	8.3	4.0			灰白色		多	多	良好	6/12	6/12	
0491	C区SK09 50層No.87	杯B	13.2	8.5	3.9			灰色			少	良好	12/12	12/12	完形亀裂
0492	C区SK09 50層No.90	甕	(25.0)				(18.6)	黄灰色				良好	2/12		
0493	C区SK09 50層No.91	杯A	13.0	9.8	3.3			鈍い黄橙色		少	多	良好	12/12	12/12	ほぼ完形亀裂
0494	C区SK09上層X71Y-52	仏鉢	16.4			17.0		灰黄色			少	良好	1/12		
0495	C区SX01土器溜No.1	広口壺	(14.6)		(7.4)		(7.0)	黄灰色				良好	11/12		88層
0496	C区SX01土器溜No.2	杯B	15.6	10.1	5.9			灰色	灰白色		少	良好	4/12	5/12	
0497	C区SX01土器溜No.3	杯B	16.6	10.3	5.4			灰白色		少	多	良好	4/12	6/12	
0498	C区SX01土器溜No.5	杯A	13.8	7.9	3.4			灰白色			少	良好	5/12	6/12	空気入り
0499	C区SX01土器溜No.9	杯A	13.0	8.1	3.5			灰白色			少	不良	5/12	5/12	
0500	C区SX01土器溜No.10	杯A	12.0	9.3	3.3			灰白色			少	良好	12/12	12/12	
0501	C区SX01土器溜No.11	杯A	15.0	8.6	3.4			黄灰色			少	良好	12/12	12/12	
0502	C区SX01下層No.41	杯B	17.4	11.8	6.8			鈍い橙色		少	少	良好	11/12	12/12	亀裂
0503	C区黄色土上No.20	杯A	12.5	9.0	2.9			灰白色		少	少	良好	12/12	12/12	
0504	C区黄色土上No.73	甕口	(22.0)				(19.8)	青灰色			少	良好	3/12		
0505	C区灰①No.1	杯A	13.0	9.2	3.2			黄灰色		少	少	良好	11/12	12/12	
0506	C区灰①No.3	杯A	9.0	7.0	2.4			灰褐色		少	少	良好	11/12	12/12	ﾍﾗ
0507	C区灰①No.4	杯B		7.9				黄灰色			少	良好		12/12	口縁端部打欠
0508	C区灰①No.11	蓋	10.8		1.6			黄灰色			少	良好	12/12		
0509	C区灰①No.17	短頸球胴壺	(12.2)				(13.2)	褐灰色			少	良	3/12		
0510	C区灰①No.24	蓋	14.0		1.5			灰色	灰白色		少	良好	12/12	12/12	摘み無し

須恵器観察表 (10)

①:口径　②:底径　③:器高　④:胴部最大径　⑤:頸部最小径　(cm)

番号	出土位置	器種	①	②	③	④	⑤	外色	内色	礫	砂	焼成	口遺	底遺	その他
0511	C区灰①No.27	杯B	12.6	7.9	3.4			黄灰色			少	良好	6/12	6/12	
0512	C区X72Y-46Z16.028	蓋	15.6		2.2			鈍い褐色		少	少	良好	6/12		ヘラ
0513	C区X72Y-52Z16.236	蓋	15.2		3.1			淡褐灰色			少	良好	12/12		ほぼ完形
0514	C区X72Y-52Z16.236	杯B	11.6	8.2	3.6			灰色		少	少	良好	11/12	11/12	亀裂
0515	C区X73Y-44Z15.964	皿B		17.7				灰色			少	良好		2/12	
0516	C区X74Y-44Z15.957	鍋形鉢	(37.0)				(34.0)	暗灰褐色		多	多	良	2/12		
0517	C区X74Y-50Z16.040	甕	21.0				18.5	灰色		少	少	良好	2/12		土師還元
0518	C区X74Y-50Z16.040	甕	20.0			19.4	17.5	灰色			少	良好			土師還元
0519	D区1号No.1	杯	11.8					灰色		少	少	良好	1/12		
0520	D区1号No.1	杯A	11.8	7.4	3.2			白灰色		少	少	良好	1/12	2/12	
0521	D区1号No.2	杯B		8.0				灰白色			少	良好		4/12	
0522	D区1号No.2	杯B	13.8	9.3	4.4			灰色			少	良好	12/12	12/12	焼歪み
0523	D区1号No.4	杯						灰白色			少	良好	1/12		
0524	D区1号No.4	杯	11.8					灰白色		少	少	良好	2/12		
0525	D区1号No.4	杯A	11.8	7.5	3.5			灰色		少	少	良好	9/12	10/12	亀裂
0526	D区1号No.10	杯B		7.8				灰白色		少	少	良好		12/12	
0527	D区1号No.10	杯B	12.8	8.6	4.3			灰色			少	良好	3/12	5/12	
0528	D区1号No.11	杯A						灰色			少	良好		12/12	
0529	D区1号No.15	杯A	12.8	9.2	3.2			灰白色			少	良好	3/12	4/12	
0530	D区1号No.16	杯A	12.8	6.5	3.5			白灰色		少	少	良好	3/12	7/12	
0531	D区1号No.19	蓋	16.8					灰白色			少	良	5/12		
0532	D区1号No.24	杯B	13.8	8.0	4.3			灰白色			少	良	3/12	6/12	
0533	D区1号No.26	杯A	11.8	6.7	2.9			灰色			多	良好	4/12	6/12	
0534	D区1号No.31	杯A	11.8	8.4	2.9			灰褐色			少	良	4/12	5/12	
0535	D区1号No.33	杯B	12.8	7.5	3.6			灰色			多	良好	1/12	4/12	
0536	D区1号No.36	杯B	13.8	8.8	4.2			灰白色		少	少	不良	2/12	1/12	
0537	D区1号No.36	杯B	12.8	8.4	4.0			灰白色		少	少	良好	3/12	2/12	
0538	D区1号No.37	杯B	14.8	10.4	4.2			黄灰色			少	良好	3/12	3/12	
0539	D区1号No.43	杯A	11.8	6.8	2.9			オリーブ灰色		少	少	良好	6/12	6/12	
0540	D区1号No.44	杯B	13.8	8.7	3.9			灰色		少	少	良好	2/12	12/12	
0541	D区1号No.48	杯B	11.8	8.6	4.1			灰色			少	良好	4/12	4/12	
0542	D区1号No.49 51の下	杯	11.3					灰白色			少	良好	4/12		
0543	D区1号No.49 51の下	杯A	12.8	7.3	3.6			灰白色		少	少	不良	6/12	4/12	
0544	D区1号実104	杯B	(10.9)	(6.6)	3.5			灰色			多	良好	4/12	5/12	
0545	D区1号実106	杯A	(13.7)	(8.8)	2.8			灰色			少	良好	3/12	6/12	窯糞、焼き歪
0546	D区1号実108	杯B	(13.9)	8.2	3.7			灰色			少	良好	4/12	6/12	
0547	D区1号実114	杯A	(13.0)	(8.9)	3.1			黄灰色			少	不良	3/12	6/12	生焼け
0548	D区1号実115	蓋	(14.0)		2.2			暗灰色			少	良好	4/12		
0549	D区1号実117	蓋	14.8		3.5			淡黄褐色			少	不良	12/12	12/12	生焼け、完形
0550	D区1号実118	蓋	15.3		3.0			淡黄灰色	褐色		少	不良	11/12		生焼け
0551	D区1号実122	甕	(50.6)				(42.0)	暗灰色	灰色		少	良好	2/12		
0552	D区1号実130	蓋	(13.9)		3.3			灰色			少	良好	3/12		
0553	D区1号実139	杯A	(12.5)	(7.2)	3.0			青灰色			少	良好	3/12	6/12	内ヘラ、焼き歪
0554	D区1号実141	杯B	(13.6)	(8.0)	4.1			灰色			少	良好	2/12	5/12	
0555	D区1号実155	甕	(35.0)				(28.2)	黄灰色	灰色		少	良好	2/12		
0556	D区1号実158	蓋	14.2		2.4			灰色			少	良好	6/12		
0557	D区1号実166	高杯B						灰色 一部褐色			少	良好	4/12		脚部透し3コ
0558	D区1号実170	蓋	13.9		2.8			灰色 一部褐色			少	良好	9/12		
0559	D区1号実175	蓋	13.7		3.0			褐色	灰色		少	良好	12/12	12/12	完形
0560	D区1号実29	長頸壺				18.0	6.2	灰色			少	良好			
0561	D区1号実32	杯A	(13.3)	8.2	3.0			青灰色			少	良好	5/12	8/12	亀裂、歪
0562	D区1号実52	杯B	(12.5)	(6.9)	4.2			黄褐色			少	不良	2/12	6/12	生焼け
0563	D区1号実53	杯B	(11.0)	(6.3)	3.7			灰黄色			少	良	5/12	5/12	
0564	D区1号実61	杯B	(13.2)	(8.0)	4.3			褐灰色			少	良	6/12	5/12	
0565	D区1号実62	杯B	11.6	6.6	3.9			褐灰色			少	良好	12/12	12/12	亀裂、完形
0566	D区1号実65	杯B	(11.5)	(6.6)	4.1			褐黄色			少	良	6/12	6/12	
0567	D区1号実67	蓋	15.2		3.9			灰黄色			少	良好	9/12		

須恵器観察表 (11)

①:口径 ②:底径 ③:器高 ④:胴部最大径 ⑤:頸部最小径 (cm)

番号	出土位置	器種	①	②	③	④	⑤	外色	内色	礫	砂	焼成	口遺	底遺	その他
0568	D区1号実68	甕	(16.6)				(16.1)	灰色			少	良好	1/12		自然釉、剥離
0569	D区1号実69	杯B	(12.7)	(7.0)	3.8			灰黄色			少	不良	6/12	6/12	
0570	D区1号実83	杯B	12.9	8.3	3.9			灰黄色			少	良	8/12	12/12	
0571	D区1号実89	杯B	(12.2)	7.6	3.8			灰色			少	良好	5/12	6/12	
0572	D区1号実9	蓋	13.7		2.4			黄灰色			少	良			焼き歪
0573	D区1号実90	杯B	(12.9)	7.6	3.9			灰色			少	良好	3/12	7/12	
0574	D区1号実97	杯B	(13.3)	(6.3)	4.0			灰色	部分褐灰色		少	良	4/12	6/12	
0575	D区1号実99	杯B	(12.7)	(8.2)	4.2			灰黄色			多	不良	4/12	6/12	
0576	D区1号灰a1層	杯B	11.3	6.5	3.9			灰黄色			多	不良	6/12	9/12	
0577	D区1号灰a1層	横瓶	9.4				9.4	灰色			少	良好	12/12		内外釉、焼台転用
0578	D区1号灰a127層	杯A	(13.3)	(8.6)	2.8			黄灰色			多	良	3/12	3/12	
0579	D区1号灰a127層	杯A	(13.2)	(7.0)	3.2			黄灰色		少		不良	3/12	4/12	
0580	D区1号灰a127層	短頸壺	(8.9)				(9.7)	灰色			少	良好	3/12		外自然釉
0581	D区1号灰a127層	壺		(8.8)				褐灰色			少	良好		4/12	
0582	D区1号灰a上面	横瓶	(10.4)		(7.5)		(9.9)	灰色			少	良好	5/12		
0583	D区1号灰c127層下層	杯C	10.8					灰色			少	良好	1/12		
0584	D区1号灰c127層下層	杯B	11.5	8.4	3.4			灰白色		少	少	良	4/12	12/12	
0585	D区1号灰c1層	杯A	12.7					褐灰色			少	不良	2/12		生焼け
0586	D区1号灰c5層	杯A	11.6	9.4	2.3			鈍黄灰色		少	多	不良	12/12	12/12	
0587	D区1号上面X70Y-60	甕	43.7					灰白色		少	少	良好	1/12		
0588	D区3号132層No.181	杯A	12.8	9.7	3.2			灰色		少	少	良好	12/12	12/12	
0589	D区3号a132層No.198	甑		18.4			16.5	黄灰白色			少	良好		2/12	
0590	D区3号a-c灰層No.26	杯B	13.2	9.0	3.4			灰白色		少	少	良	7/12	12/12	
0591	D区3号c外灰144層	杯A	12.6	8.8	3.3			灰色		少	少	良好	7/12	10/12	ヘラ
0592	D区3号d黒色土中層	杯C	10.3	6.6	4.3			灰白色			少	不良	3/12	2/12	
0593	D区3号黒色土中層23	蓋	18.0		2.1			灰色		多	少	良好	4/12		
0594	D区3号黒色土中層61	蓋	17.0		1.9			灰白色		少	少	良好	7/12		
0595	D区3号灰d下層	壺蓋	12.4					灰色			少	良好	3/12		
0596	D区5層X65Y-56	杯A	13.0	8.6	2.7			灰白色			少	良好	1/12	1/12	
0597	D区45層X66Y-52	杯A	12.0	8.4	2.8			灰白色		少	多	良好	3/12	7/12	
0598	D区45層X67Y-54	甕	14.0				11.7	灰白色		少		良好	2/12		
0599	D区45層X67Y-54	壺蓋	10.4					灰黄色	灰黄色		多	良好	5/12	6/12	
0600	D区45層No.3	甑	29.9					黄白色		少	多	良	3/12		
0601	D区45層No.4	杯B	13.0	9.1	4.0			暗灰黄色			少	良好	9/12	11/12	
0602	D区45層No.28	杯A	11.0	6.8	3.0			黄灰色			少	良好	1/12	2/12	
0603	D区45層上層X68Y-53	蓋	15.1		2.0			鈍灰褐色		多	多	不良	7/12		
0604	D区45層上層X68Y-53	杯A	12.7	10.0	3.3			褐灰色			少	不良	12/12	12/12	
0605	D区45層上層X68Y-53	杯A	13.5	9.0	3.3			褐灰色			多	不良	7/12	12/12	
0606	D区45層上層X68Y-53	杯A		(9.4)	3.3			灰褐色			少	不良	5/12	5/12	
0607	D区45層上層X68Y-53	壺	(13.3)			(24.6)	(13.1)	灰褐色			少	良	4/12		口縁歪
0608	D区45層上層X68Y-56	蓋	(14.8)		2.7			灰色			少	良好	5/12		
0609	D区45層上層X68Y-56	杯A	12.2	8.0	3.3			灰褐色	灰色		少	良好	7/12	8/12	ヘラ、焼き歪
0610	D区45層上層X69Y-54	蓋	14.4		2.5			青灰色			多	良好	11/12		焼き歪
0611	D区45層中層	杯A	11.8					灰黄色			多	良好	2/12	2/12	
0612	D区45層	蓋	15.0					灰褐色			少	良好	3/12		ヘラ、焼き歪
0613	D区45層	杯A	12.2	8.9	2.4			灰黄色			多	良好	2/12	3/12	ヘラ
0614	D区45層	蓋	(15.1)					褐灰色			少	良	3/12		ヘラ
0615	D区52層	円面硯		16.6				暗灰色	灰色		少	良好	1/12		円形透かし
0616	D区70層	蓋	14.0		3.2			褐灰色			少	不良	7/12		生焼
0617	D区70層SD01下層21	杯B	11.9	8.0	4.0			灰色			少	良好	5/12	9/12	ヘラ
0618	D区70層SD01下層41	蓋	14.0		3.1			灰白色		少	少	良好	7/12		
0619	D区70層SD01下層69	杯A	12.0	7.0	2.8			灰白色			少	良好	1/12	7/12	ヘラ
0620	D区70層SD01下層73	蓋	13.6					灰白色		少	少	良好	5/12	8/12	
0621	D区70層SD01下層83	杯B	11.8	8.9	3.6			灰色			少	良好	1/12	3/12	
0622	D区70層SD01下層83	杯B	16.0	10.8	6.2			灰白色		少	少	良好	4/12	6/12	
0623	D区70層SD01下層157	杯A	11.8	8.0	3.5			灰白色		少	少	不良	12/12	12/12	
0624	D区116層X69Y-56	杯A	11.8	8.4	3.3			黄味のある灰白色		少	少	不良	12/12	1/12	

須恵器観察表 (12)

①:口径 ②:底径 ③:器高 ④:胴部最大径 ⑤:頸部最小径 (cm)

番号	出土位置	器種	①	②	③	④	⑤	外色	内色	礫	砂	焼成	口遺	底遺	その他
0625	D区SK09 178層	杯	15.2		2.5			褐灰色	灰色		少	良好	9/12		X69Y-54
0626	D区SK09 178層	杯B	15.4	12.2	3.9			灰色			多	良好	2/12	2/12	X69Y-54
0627	D区SK09 178層	杯B	13.2	9.2	3.7			灰色		少	多	良好	1/12	3/12	
0628	D区SK09 53層No.101	小型壺	10.0			9.0	7.4	灰色(外面一部分釉)			多	良好	5/12		
0629	D区西壁1層X63Y-59	杯B	12.8	6.4	3.8			灰色		少	多	良好	7/12	12/12	焼き歪
0630	D区西壁1層X63Y-60	皿	16.0	11.8	2.9			灰白色		多		良好	3/12	3/12	
0631	D区西壁1層X65Y-59	杯A	12.1	7.9	3.4			灰白色		少	少	良好	2/12	2/12	
0632	D区西壁1層No.23	杯B	(12.3)	6.9	3.3			灰黄色			少	良好	3/12	12/12	ヘラ
0633	D区西壁1層No.158	蓋	15.2		1.5			灰色	灰褐色		多	良好	12/12		亀裂
0634	D区西壁1層No.160	杯A	13.4	10.5	3.5			褐灰色		少	少	良	8/12	8/12	
0635	D区西壁1層No.171	杯B	11.0	6.4	3.6			暗灰色			多	良好	6/12	12/12	外釉
0636	D区西壁2層	杯B	12.0		3.2			灰色			少	良好	3/12	7/12	
0637	D区西壁2層No.15	蓋	14.8		1.9			灰白色		少	少	不良	3/12		ヘラ
0638	D区西壁2層No.41	鉢	(44.8)				(33.2)	灰色			多	良好	1/12		
0639	D区西壁3層No.2	杯A	12.0	7.6	3.2			灰色			少	良好	2/12	6/12	
0640	D区西壁3層No.34	杯B	14.4	9.4	3.9			灰褐色			多	良好	9/12	12/12	溶着
0641	D区西壁3層No.59	蓋	14.0		1.6			灰色		少	少	良好	6/12		ヘラ
0642	D区西壁3層No.60	杯B	13.0	8.7	4.2			黄灰色			多	良好	4/12	4/12	
0643	D区西壁3層No.61	杯A	13.0	7.5	3.7			鈍い橙色			少	良	6/12	6/12	
0644	D区西壁3層No.73	杯A	13.2	7.0	4.2			灰白色			少	不良	12/12	12/12	
0645	D区西壁3層下部No.22	甕	(19.4)				(15.0)	灰色			少	良好	2/12		
0646	D区西壁3層下部No.3	甕	(21.4)				(21.1)	灰色			多	良好	1/12		口縁釉、窯糞
0647	D区西壁3層下部No.6	甕	(54.4)					褐灰色		少	少	良	1/12		波状紋
0648	D区西壁3層下部No.6	甕	(47.4)					鈍黄橙色		少	少	不良	1/12		
0649	D区西壁3層下部No.10	杯	18.0					灰白色		少	少	不良	6/12		体部沈潜有
0650	D区西壁3層下部No.16	杯A	13.6	8.9	3.6			灰白色		少	少	不良	12/12	12/12	ほぼ完形亀裂
0651	D区西壁3層下部No.29	杯A	12.8	8.8	3.3			浅黄橙色		少	少	良好	4/12	6/12	
0652	D区西壁3層下部No.30	蓋	15.2		2.5			灰黄色			少	良好	10/12		
0653	D区西壁3層下部No.31	甕	(21.3)				(19.6)	灰色			少	良好	3/12		暗灰色口縁
0654	D区西壁3層下部No.34	杯A	13.2		3.1			灰色		少	少	良好	12/12	12/12	完形亀裂
0655	D区西壁3層下部No.34	蓋	12.0		2.2			灰白色		少	少	良好	5/12		
0656	D区西壁3層下部No.38	杯A	13.5	7.9	4.2			淡黄色		少	少	不良	12/12	12/12	
0657	D区西壁3層下部No.51	杯A	13.5	9.5	3.3			灰色			少	良好	12/12	12/12	完形亀裂
0658	D区西壁3層下部No.88	杯B	14.4	9.6	4.3			鈍い黄橙色		少	多	良好	12/12	12/12	完形亀裂
0659	D区灰145層No.158	壺	14.0				14.8	灰色			少	良好	3/12		
0660	D区灰a 152層X67Y-58	杯A	13.0	9.0	3.0			淡黄色			少	不良	3/12	6/12	
0661	D区灰a 152層X67Y-58	杯B	18.0	10.9	5.8			灰白色	灰白色		多	良好	3/12	1/12	
0662	D区灰a 152層X68Y-60	杯C	12.0	6.8	3.9			灰白色			少	不良	1/12		杯C
0663	D区灰a 152層X67Y-59	蓋	16.0		2.8			灰白色			多	良好	3/12		
0664	D区灰a 152層X68Y-60	蓋	16.0		2.8			灰白色			少	良好	2/12		
0665	D区灰a152層X67Y-59	壺	15.6				14.7	灰色	灰色		少	良好	1/12		
0666	D区灰a 3号17～19層	壺蓋						灰色	灰色	少	少		4/12		穿孔、外自然釉
0667	D区灰a-f 15層	蓋	(13.7)		2.7			灰色	褐色	小石	少	不良	4/12		X63Y-60
0668	D区灰a-f 144層	高杯A	10.1	8.2	5.8			赤褐色		少	少	良好	1/12	6/12	
0669	D区灰a-fベルト155層	杯A	12.6	7.8	2.9			褐灰色		少	少	不良	12/12	12/12	生焼
0670	D区灰a-fベルト155層	杯B	(13.8)	6.5	4.6			灰色			少	良好	8/12	11/12	体部に稜あり
0671	D区灰a-fベルト155層	杯B	13.7	7.0	4.1			褐灰色	灰色	少	少	良	7/12	7/12	
0672	D区灰a-fベルト155層	蓋	(16.5)		2.9			灰黄色			少	良	3/12		
0673	D区灰a-fベルト155層	甕	(23.6)				(21.2)	灰色			少	良好	1/12		
0674	D区灰a上層No.16	甕	(46.0)				(36.6)	暗灰色			少	良好	1/12		
0675	D区灰a上層No.28	杯B	13.2	7.9	4.0			黄灰色		少	少	良好	5/12	6/12	142層
0676	D区灰a上層No.29	蓋	14.2		3.0			黄白色			少	良好	8/12		142層
0677	D区灰a上層No.35	杯B	12.0	8.1	3.8			灰白色			少	良好	3/12	6/12	灰d 63層
0678	D区灰a上層No.36	杯A	13.0		3.1			灰白色		少	少	不良	4/12	4/12	灰d 63層
0679	D区灰a上層No.39	蓋	14.0		2.8			灰白色		少	少	良好	6/12		灰d 63層
0680	D区灰a粘土層上部6	蓋	15.3		1.5			灰色		少	多	良	11/12		亀裂
0681	D区灰a粘土層上部2	杯B	15.6	10.4	4.2			灰白色			多	良好	4/12	4/12	

須恵器観察表 (13)

①:口径 ②:底径 ③:器高 ④:胴部最大径 ⑤:頸部最小径 (cm)

番号	出土位置	器種	①	②	③	④	⑤	外色	内色	礫	砂	焼成	口遺	底遺	その他
0682	D区灰a粘土層上部3	杯B	14.0	10.2	4.3			灰白色			多	良好	3/12	3/12	
0683	D区灰b 132層X69Y-59	杯C	12.0					暗灰色			少	良好	1/12		
0684	D区灰c 63層	杯A	11.6	7.2	3.0			灰色		少	少	良好	4/12	4/12	
0685	D区灰c 63層	狭口壺	(10.2)			(15.4)		暗灰色	灰褐色	少	少	良好	7/12		内一部釉
0686	D区灰d 144層No.94	杯A	13.6	8.2	3.6			灰白色		多	少	良好	12/12	12/12	完形亀裂
0687	D区灰d 53層	杯A		8.6				灰色			少	良好	3/12	5/12	表裏ヘラ
0688	D区灰d 53層	平瓶	4.3					灰色			少	良好	12/12		口縁部のみ
0689	D区灰e a-fベルト13層	杯A	(12.8)	(8.6)	3.0			灰黄色			多	良	5/12	5/12	ヘラ
0690	D区灰e 126層	杯B	(12.1)	(7.3)	3.4			灰色			多	良好	3/12	4/12	
0691	D区灰e 中層No.158	杯A	13.4	7.0	4.9			灰白色		少	少	不良	7/12	10/12	
0692	D区灰f138層X64Y-55	蓋	(17.7)		3.6			褐灰色		少	多	不良	2/12		
0693	D区灰f 138層X64Y-55	杯B	(13.4)	7.3	3.6			鈍肌色			少	不良	5/12	12/12	生焼
0694	D区灰f 138層X64Y-56	杯B	14.0	8.3	3.7			灰白色			少	良	3/12	3/12	
0695	D区灰f 138層X65Y-56	杯A	14.0	9.3	2.9			灰色			少	良好	3/12	3/12	
0696	D区灰f138層X65Y-56	杯A	13.0	8.4	2.9			灰白色		少	少	不良	1/12	2/12	
0697	D区灰f 139層X63Y-58	蓋	14.0		3.0			灰白色		少	少	不良	5/12		
0698	D区灰f 139層X63Y-58	蓋	12.2		2.7			灰色			少	良好	6/12		
0699	D区灰f 139層X63Y-58	杯B	11.0	7.9	3.4			灰白色		少	少	良好	3/12	7/12	
0700	D区灰f 139層X64Y-56	壺	(12.9)				(12.9)	灰色			多	良好	3/12		
0701	D区灰f 139層X64Y-56	杯B	15.6	10.3	4.9			灰白色		少	少	良好	2/12	2/12	
0702	D区灰f 139層X64Y-56	杯A	16.8	12.2	3.1			灰白色			少	不良	3/12	3/12	
0703	D区灰f 139層X65Y-56	杯B	13.3	4.3	9.0			灰白色		少	少	良好	2/12	1/12	
0704	D区灰f 139層X65Y-58	蓋	14.0		2.8			灰白色			少	良好	4/12		
0705	D区灰f 139層No.13	杯B	(14.1)	(9.2)	4.1			灰黄色			少	不良	4/12	5/12	
0706	D区灰f 139層No.14	杯A	(13.7)	(10.7)	3.3			灰色			少	良好	2/12	4/12	
0707	D区灰f 139層No.14	甕	(23.8)				(22.5)	灰色			少	良好	1/12		
0708	D区灰f 139層No.16	長頸瓶		7.2		13.0		青灰色			少	良好		12/12	
0709	D区灰f 139層No.18	杯B		(10.2)				黄灰色			少	不良		9/12	生焼
0710	D区灰f 139層No.20	甕					(22.0)	灰色			多	良好			口内外釉
0711	D区灰f 139層No.37	水瓶		6.2		8.9		黄灰色			少	不良		12/12	
0712	D区灰f 139層No.54	杯B	16.0	10.7	5.4			黄灰色		少	少	良好	2/12	1/12	SD01下層
0713	D区灰f 139層No.56	杯A	13.0	7.6	3.0			灰白色		少	少	良好	2/12	3/12	
0714	D区灰f 139層No.57	横瓶	(10.8)				(9.0)	暗灰色			多	良好	4/12		口内外釉
0715	D区灰f 144層X65Y-58	蓋	20.0		4.0			鈍い橙色	鈍い橙色		少	良好	5/12		環状摘み、突帯
0716	D区灰f 下層No.1	短頸壺	10.2				10.8	灰黄色釉	灰白色	少		良好	5/12		溶着
0717	D区灰f 下層No.5	杯A	12.8	9.7	3.0			灰色		少	少	良好	6/12	6/12	
0718	D区灰f 最下層No.7	杯蓋	15.6		3.2			鈍い黄橙色		少	少	良好	3/12		内面砂溶着
0719	D区灰f 最下層No.9	杯B	14.4	9.7	3.9			灰白色			少	良好	5/12	6/12	
0720	D区灰f 最下層No.10	杯B	13.8	9.7	4.1			黄灰色	灰白色		少	良	4/12	9/12	
0721	D区灰f 最下層No.11	杯A	12.0	8.5	3.1			灰白色		多	多	良好	3/12	4/12	
0722	D区灰f 最下層No.12	甕	18.9			19.9	17.7	灰色	黄灰色		少	良好	1/12	3/12	土師還元
0723	D区灰f 最下層No.13	甕	36.2					灰色			少	良好	1/12		
0724	D区灰f 最下層No.20	狭口壺	12.4				12.7	暗緑色	黄灰色		少	良好	2/12		空気入、自然釉
0725	D区灰f 最下層No.21	杯B	16.4	10.8	6.5			淡黄色		少		不良	2/12	2/12	
0726	D区灰g 48層X69Y-55	杯A	12.8	8.4	2.9			灰色		少	少	良好	4/12	5/12	
0727	D区灰g 70層X68Y-57	壺蓋						灰色			少	良	2/12		穿孔
0728	D区灰g 115層X69Y-55	小型壺	5.6	5.3	4.6	7.8	5.4	上部灰色	底黄白色		少	不良	3/12	1/12	「國」のヘラ文字
0729	D区灰g 139層X67Y-57	杯C	10.7					暗灰色			少	良好	1/12		
0730	D区灰g 144層X66Y-55	杯A	(12.5)	7.3	3.5			灰色		多	少	良好	1/12	7/12	意図的割
0731	D区灰g 144·146層	杯B	(11.9)	6.7	3.3			灰色		少		良好	3/12	6/12	X66Y-55
0732	D区灰g 144·146層	蓋	(16.2)		2.5			褐灰色			少	良好	4/12		X66Y-55
0733	D区灰g 150層X70Y-55	杯A	13.8	9.0	3.3			浅橙色			少	不良	7/12	7/12	
0734	D区灰g 150層X70Y-56	蓋	15.8		2.0			灰白色			少	良好	4/12		
0735	D区灰g 150層X70Y-56	甕	(18.2)				(17.1)	灰色			少	良好	4/12		
0736	D区灰g-f 150層	甕	(16.2)				(14.7)	灰色			少	良好	2/12		X68Y-55
0737	D区灰g-fベルト138層	蓋	(15.6)		3.5			暗灰色			少	良好	1/12		X67Y-55
0738	D区灰g-fベルト138層	四耳壺	(21.8)				(21.0)	灰色			少	良好	1/12以下		X67Y-55

須恵器観察表 (14)

①:口径 ②:底径 ③:器高 ④:胴部最大径 ⑤:頸部最小径 (cm)

番号	出土位置	器種	①	②	③	④	⑤	外色	内色	礫	砂	焼成	口遺	底遺	その他
0739	D区灰g - fﾍﾞﾙﾄ144層40	壷	12.0				12.5	黄灰色			少	良好	3/12		
0740	D区灰 h 13層	杯蓋	(8.6)					灰色		少	少	良好			「恵□」のヘラ
0741	D区灰 h 13層No.3	杯蓋	15.4		1.6			灰色		少	少	良好	9/12		焼歪み亀裂
0742	D区灰 h 13層No.14	杯A	13.0	7.8	3.4			灰白色			少	良好	3/12	4/12	
0743	D区灰 h 13層No.18	杯B	14.6	10.6	4.4			灰白色		少	少	良好	2/12	6/12	
0744	D区灰 h 156層No.59	長胴壺	18.6				15.6	暗灰褐色			少	良	6/12		
0745	D区灰 h 156層No.67	横瓶	(13.0)				(9.5)	褐灰色			少	不良	3/12		
0746	D区灰 h 156層No.71	杯A	13.6	8.7	4.6			灰白色	明褐灰色	少	少	不良	5/12	6/12	
0747	D区灰 h 4層No.11	杯A	12.4	8.0	3.9			鈍い橙色		少	少	良好	12/12	12/12	完形亀裂
0748	D区灰 h 4層No.12	狭口壺	8.2	8.0	18.5	16.6	8.6	灰色			少	良好	2/12	7/12	ﾍﾗ
0749	D区灰 h 4層No.28	杯B	13.8	9.8	4.2			灰白色		少	少	不良	9/12	11/12	
0750	D区灰 h 4層No.71	杯B	15.2	11.9	5.9			灰色		多	多	良好	9/12	12/12	
0751	D区灰 h 4層No.76	杯B	12.4	8.9	3.1			黄灰色		少	少	良好	9/12	9/12	
0752	D区灰h4層No.107	甕	(22.0)				(18.4)	灰色		多		良好	2/12		
0753	D区灰 h 4層No.121	蓋	15.6		2.8			淡黄色		少	少	不良	5/12		
0754	D区灰h4層No.140	甕	17.8			28.9	16.0	鈍い黄橙色		多		良好	12/12		
0755	D区灰 h 4層No.165	杯A	12.6	9.6	3.2			灰色			少	良好	8/12	11/12	亀裂
0756	D区灰 h 中・下層	杯C	12.6	8.4	4.1			灰黄褐色			少	不良	1/12	1/12	X66Y-57
0757	D区灰 h 西壁3層	浅甕	38.7			41.5	37.0	灰色			少	良好	2/12		X63Y-60環状把手付
0758	D区灰 h 西壁3層	甕						灰色			少	良好			X63Y-60 ﾍﾗ
0759	D区灰 h 西壁3層	杯C	11.6	8.9				灰褐色		少	多	不良	2/12	5/2	X64Y-61
0760	D区灰h灰a-fﾍﾞ13層	杯B	(13.8)	(7.8)	3.6			灰色			少	良好	3/12	7/12	X65Y-61
0761	D区灰h灰a-fﾍﾞ13層	蓋	(16.0)		2.6			黒灰色			少	良好	4/12		X65Y-61
0762	D区灰 i 45層X66Y-53	杯A	12.8	9.0	3.3			灰色		少	少	良好	4/12	5/12	
0763	D区灰 i 45層X66Y-53	杯B	12.6	7.9	3.8			灰黄色		多	多	良好	6/12	7/12	
0764	D区灰 i 45層X66Y-53	広口壺	(14.8)				(11.8)	灰色			少	良	3/12		内外自然釉
0765	D区灰 i 144・145層72	杯B	13.8	10.2	4.1			灰白色		少	多	良好	9/12	12/12	
0766	D区灰 i 144・145層47	杯A	13.0	7.7	3.7			灰褐色		少	少	良好	10/12	12/12	
0767	D区灰 i 50層X69Y-54	杯A	12.4	9.8	3.3			灰白色		少	多	不良	12/12	12/12	
0768	D区灰 k No.1	長胴瓶	(17.0)				(13.0)	暗灰色			多	良好	2/12		
0769	D区灰 k 中・下層	仏鉢	17.0			17.4		灰白色			少	不良	1/12		X69Y-56
0770	D区灰 k 下層X66Y-56	硯	14.6					灰色			少	良好	1/12		
0771	D区灰 k 下層No.25	杯蓋	13.9					灰色		少	少	良好	12/12		ﾍﾗ、焼歪み
0772	D区灰 k 下層No.28	平瓶	5.6			14.5	4.6	灰色		少	少	良好	12/12		
0773	D区灰l149層No.20	杯蓋						灰白色			少	良好	0/12		穿孔
0774	D区灰l156層X65Y-59	杯B	14.2		4.2			灰白色		少	少	良好	4/12	4/12	
0775	D区灰 l 中層No.68	杯B	8.0	8.1	4.5			黄灰色			少	良好	3/12	6/12	ﾍﾗ
0776	D区灰 l 中層No.69	杯A	12.8	7.9	3.3			黄灰色		少	多	良好	5/12	6/12	ﾍﾗ
0777	D区灰 l 中層No.111	杯B	13.4	8.6	4.1			褐灰色			多	良好	10/12	12/12	空気入り
0778	D区灰 l 中層No.155	杯蓋	19.0		2.1			灰色			少	良好	1/12		
0779	D区灰 l 中層No.156	杯B	13.0	7.9	4.2			灰白色		少	少	不良	6/12	12/12	
0780	D区灰 l 中層No.157	杯A	12.0	7.9	3.3			灰白色		少	少	不良	6/12	12/12	亀裂
0781	D区灰 l 中層No.177	杯A	11.8	5.4	3.5			黄灰色			少	良好	6/12	11/12	
0782	D区灰 l 中層No.195	甕口	(47.3)				(41.5)	灰色			少	良好	1/12		外窯糞
0783	D区灰 l 中層No.241	杯蓋	14.2		1.7			灰色		少	少	良好	6/12		
0784	D区灰 l 中層No.249	杯蓋	15.0		2.8			灰色			少	良好	6/12		
0785	D区灰l下層X65Y-58	杯C	13.5	10.9	2.9			灰色			少	良好	1/12	1/12	
0786	D区灰 l 下層No.31	蓋	(14.0)		3.6			暗灰色			少	良好	3/12		
0787	D区灰 l 下層No.31	蓋	(16.2)		2.9			暗灰色			少	良好	3/12		
0788	D区灰 l 下層No31	横瓶	(10.0)				(9.7)	灰色			少	良好	4/12		自然釉
0789	D区灰 l 下層No.37	横瓶	11.5				9.6	灰色			少	良好	6/12		自然釉
0790	D区灰 l 下層No.41	長頸壺				10.9	4.7	灰色			少	良好			
0791	D区灰 l 下層No.43	杯B	11.4	8.3	3.5			褐灰色			少	良好	9/12	12/12	ﾍﾗ？
0792	D区灰 l 下層No.64	横瓶	(10.2)				(10.2)	灰色			少	良好	3/12		自然釉
0793	D区灰lNo.100	瓶	(14.3)				(6.7)	灰色			多	良好	1/12		口縁内外自然釉
0794	D区灰mNo.30	短頸壺	(10.6)				(11.2)	灰色			少	良好	1/12		
0795	D区灰m 154層No.41	甕	(57.4)					褐暗灰色	黒灰色		少	良好	2/12		

須恵器観察表 (15)

①:口径 ②:底径 ③:器高 ④:胴部最大径 ⑤:頸部最小径 (cm)

番号	出土位置	器種	①	②	③	④	⑤	外色	内色	礫	砂	焼成	口遺	底遺	その他
0796	D区灰m154層No.42	横瓶	(10.6)				(9.0)	灰褐色		少		良好	5/12		内外釉、ﾜﾚ
0797	D区灰m154層No.48	短頸球胴壺	7.4	10.5	12.1	19.1	8.6	灰黄色			少	良好	12/12	12/12	外釉、窯糞
0798	D区灰m154層No.52	甕	(45.4)				(33.3)	灰色			多	良	1/12		
0799	D区灰m下層No.10	壺蓋	10.8		4.3			灰色	灰色		少	良好	2/12	12/12	
0800	D区灰m下層No.39	杯B	14.6	9.4	6.3			灰色			少	良好	4/12	6/12	
0801	D区X66Y-55Z16.229	杯B	14.2	11.2	4.3			灰白色		少	少	良好	1/12	5/12	
0802	D区X67Y-53Z16.239	鍋形鉢	25.2			24.3	24.2	褐灰色			多	良好	1/12		
0803	D区X68Y-53Z16.258	高杯						灰色			少	良好		4/12	脚部沈線高杯Bか
0804	D区X68Y-57Z15.900	壺	4.2					灰褐色			少	良好	8/12		ﾐﾆﾁｭｱ
0805	D区X68Y-57黄色土	杯C	12.0	7.1				灰色			少	良好	2/12		
0806	D区X70Y-55Z16.119	杯C	12.1	8.8	4.2			黄灰色			少	不良	3/12	6/12	
0807	D区東断割X72Y-53	杯C	13.4	9.9	4.0			灰色		多	少	良好	4/12	5/12	
0808	D区東断割X72Y-53	蓋			3.9			灰色		多	少	良好			頂部に突帯、二重沈線
0809	D区X73Y-57断割り	横瓶	(9.9)				(8.6)	灰色			少	良好	3/12		自然釉、窯糞
0810	X74Y-54中央断割り	甕	(15.7)				(24.6)	灰色		小石	多	良好	4/12		
0811	X74Y-54中央断割り	甕						灰色				良好			体部内面ﾍﾗ
0812	A区2号ﾍﾞﾙﾄ最下層7	杯B	18.0	12.0	6.6			灰色	淡灰褐色		少	良	4/12	6/12	底部回転ﾍﾗ削り
0813	A区灰e13層	槽形鉢	30.0	19.2	9.3			灰色			少	良好	3/12	2/12	杯B器形の特殊品
0814	D区西壁灰層	杯C	11.0	3.6	7.0			灰色			多	良好	2/12	8/12	
0815	D区灰h 156層No.49	杯B	21.0	6.6	14.6										
0816	D区灰l 149層No.19	Ⅲ A	17.2	2.2	13.6			淡黄灰色			多	不良	3/12	3/12	底部回転ﾍﾗ削り

土師器観察表 (1)

①:口径 ②:底径 ③:器高 ④:胴部最大径 ⑤:頸部最小径 (cm)

番号	出土位置	器種	①	②	③	④	⑤	外色	内色	礫	砂	焼成	口遺	底遺	その他
0001	A-Bﾍﾞﾙﾄ2層No.194	壺	4.9	3.3	3.8	5.1		淡黄褐色			少	良好	11/12	12/12	穿孔ﾐﾆﾁｭｱ
0002	A-Bﾍﾞﾙﾄ4層X85Y-57	鉢	18.8					黄灰色			少	良好	1/12		片口
0003	A-Bﾍﾞﾙﾄ7層No.212	甕	15.8		13.2	15.8	14.7	浅黄橙色			少	良好	2/12		14220と接合
0004	A-Bﾍﾞﾙﾄ22層No.31	甕	21.9				18.9	浅黄橙色			少	良好	2/12		
0005	A-Bﾍﾞﾙﾄ39層No.41	甕	13.3			15.4	11.6	黄褐色		少	少	不良	12/12		
0006	A-Bﾍﾞﾙﾄ39層X75Y-55	仏鉢	14.9			15.9		灰白色			少	良好	1/12		
0007	C-Dﾍﾞﾙﾄ中X65Y-51	仏鉢	13.5			14.0		浅黄橙色			少	良好	1/12		
0008	A-Dﾍﾞﾙﾄ79層上部	椀		7.3					黒色			良好		7/12	X73Y-57、内黒
0009	A区2号ﾍﾞﾙﾄ71層	甕	(19.0)				(15.8)	肌色		少	多	不良	3/12		X72Y-60
0010	A区2号灰No.40	甕	(30.0)			(29.7)	(25.9)	黄橙色		少	少	良	4/12		
0011	A区2号灰No.48	鍋形鉢	(31.5)					鈍い黄橙		多		良	2/12		
0012	A区2号灰c上層No.17	甕	(12.8)		11.5	(13.6)	(11.4)	橙色		小石	少	良	3/12	3/12	内ﾍﾗ
0013	A区灰c中層X74Y-61	甕	15.4				13.7	浅黄橙色			多	良好	5/12		
0014	A区2号灰e9層	甕	(18.8)				(16.3)	明橙色			少	良	1/12		X80Y-57
0015	A区2号灰e上面No.283	甑						鈍黄橙色		少	少	良			把手付
0016	A区2号灰e上面No.293	甕	13.4		15.7	16.4	12.2	淡橙色			少	良好	2/12		
0017	A区2号灰e中層No.42	甕	20.8			22.2	23.5	浅黄橙色		多	多	良好	6/12		
0018	A区2号灰e中層No.42	甕	12.8		(12.6)	13.7	11.5	浅黄橙色		少	少	良	10/12		
0019	A区2号灰e中層No.61	甕		4.0		21.8		浅黄橙色			少	良好	7/12		
0020	A区灰e中層No.72	甕	13.4	5.5	11.0	13.0	12.2	浅黄橙色			少	良好	3/12	10/12	平底
0021	A区2号灰e中層No.91	仏鉢	12.8			13.8		淡黄色		少	多	良好	4/12		
0022	A区2号灰e中層No.111	甑		15.7				鈍い黄褐色		少	少	良好		2/12	
0023	A区灰e中層②	甕	(13.1)			(14.0)	(12.2)	黄褐色		少	少	良	2/12		X77Y-58
0024	A区灰e下層	鉢	(34.6)			(32.1)	(31.6)	明橙色			少	良	2/12		X76Y-59
0025	A区灰e最下層No.50	鉢	(25.2)				22.0	灰白色		多		不良	2/12		把手付、格子叩
0026	A区灰e最下層No.113	鍋	(35.6)					淡黄色		多		不良	2/12		
0027	A区灰e最下層	小鉢	11.3		6.8	10.1	10.3	淡黄橙色			多	良	6/12	12/12	
0028	A区SD02ﾍﾞﾙﾄ（南北）	鉢	13.5					浅黄橙色			多	良好	1/12		
0029	A区P06西半部	甕	16.6					浅黄橙色			少	良好	1/12		
0030	B区6層X79Y-54	甑	19.0				17.1	淡黄色		少	少	良好	2/12		
0031	B区a-bﾍﾞﾙﾄNo.5	甕	(23.0)				19.3	鈍い黄橙			少	良	1/12		
0032	B区灰a-bﾍﾞﾙﾄ中7層	甕	14.6			15.3	13.4	浅黄橙色			少	良好	2/12	12/12	
0033	B区a、b No.36	甕	22.0				19.4	浅黄橙色			少	良好	2/12		
0034	B区c52、118層	甕	20.3			21.0	18.1	浅黄橙色			多	良好	7/12		

土師器観察表 (2)

①:口径 ②:底径 ③:器高 ④:胴部最大径 ⑤:頸部最小径 (cm)

番号	出土位置	器種	①	②	③	④	⑤	外色	内色	礫	砂	焼成	口遺	底遺	その他
0035	B区 c 52、118層	甕	19.3				16.1	浅黄橙色			多	良好	2/12		
0036	B区 c 52、118層	鍋	34.9			32.3	32.2	浅黄橙色		少	多	良好	1/12		
0037	B区 c 52、118層	甕	19.8				17.1	浅黄橙色		少	少	良好	3/12		
0038	B区 c 52、118層	甕	13.9		13.0	14.3	12.4	鈍い黄橙色			少	良好	12/12		ほぼ完形
0039	B区 c 141層X76Y-53	鉢	21.9					黄色味のある灰白色			少	良好	1/12		
0040	B区 c 141層X76Y-53	鉢	18.8					黄白色			少	良好	1/12		
0041	B区 c X77 Y-50	甕	12.5			12.2	11.1	浅黄橙色		少	少	良好	2/12		暗褐色粘土中
0042	B区SD01灰 a	鉢	(18.5)	9.8	10.3	17.1	16.7	淡黄灰色			少	良	3/12	6/12	
0043	B区SX03 灰b層	甕	(19.2)			(18.9)	(17.4)	淡黄褐色			多	良	1/12		
0044	B区SX15No.14	甕	17.0		15.3	16.5	15.2	明浅黄橙色			少	良好	5/12	12/12	
0045	B区SX19 X84Y-49	甑	20.4					鈍い黄褐色			多	良好	2/12		口縁部穿孔
0046	B区SX21 No.4	鍋	(38.8)					灰白色				不良	1/12		
0047	B区X84Y-44Z16.494	高杯						鈍黄橙色		少	多	良好	12/12		杯部内面黒色
0048	C区52層 No.37	甕	(24.6)			(25.7)	(22.4)	茶黄灰色			少	良	1/12		
0049	C区52層 No.41	鉢	(38.8)			(36.8)	(36.3)	黄褐色			多	良好	1/12		
0050	C区52層 No42	甑	(12.9)					黄橙色		少	少	良	4/12		
0051	C区52層 No.44	甕	12.8	3.7	11.2	13.5	11.8	黄橙色		少	少	良	9/12	12/12	剥離
0052	C区52層 No.45	甕	(13.4)	4.9	13.0	(14.2)	(12.0)	明橙色		少	少	良	4/12	7/12	
0053	C区52層 No47	甑	(26.0)			(23.9)	(25.0)	黄橙色			多	良	6/12		
0054	C区SK01 2層No.15	括れ鉢	31.4	13.0	19.1	30.4	29.2	淡黄色		少	少	良好	9/12		把手付
0055	C区SK01 45層No.81	括れ鉢	(27.7)			(24.9)	(24.1)	褐灰色			少	良	1/12		把手付
0056	C区SK01 45層No.12	甕	(13.0)		9.5		11.6	鈍い黄橙色				不良	2/12		
0057	C区SK01 45層No.65	括れ鉢	(23.0)				21.5	灰白色		多		不良	2/12		
0058	C区SK01 175層No.6	甕	(20.8)			22.2	18.8	鈍い黄橙色		多		不良	3/12		篦
0059	C区SK01 175層No.14	鉢	(34.4)				(32.0)	黄橙色		少	少	良	1/12		
0060	C区SK01 175層No.35	円筒形土器		10.2		12.2		浅黄橙色	灰黄褐色		少	良好	7/12	1/12	剥離
0061	C区SK01 175層No.39	甕	18.7				16.2	鈍い黄橙色	灰黄褐色		少	良好	2/12		
0062	C区SK01 中層No.3	括れ鉢	(33.0)	(15.0)	13.6		30.2	浅黄橙色		多		良	4/12		把手付
0063	C区SK01中層No.8	甕	12.9		11.5	13.1	16.0	浅黄橙色			少	良好	2/12	12/12	
0064	C区SK01 中層No.9	甕	(11.5)			12.1	10.8	褐灰色			少	良	2/12		篦
0065	C区SK01中層No.37	筒形土器	12.4			15.8	12.5	浅黄橙色			少	良好	9/12		断面四角
0066	C区SK01中層X67Y-49	甑	17.2					灰白色			多	良好	2/12		
0067	C区SK01c黒色土	筒形土器						浅黄橙色(外面黒斑)		少	少	良好	1/12		断面四角
0068	C区SK01黄色土層19	筒形土器						浅黄橙色			少	良好		1/12	断面四角
0069	C区SK01黄色土層19	筒形土器		12.8				浅黄橙色			少	良好	5/12		断面四角
0070	C区SK01黄色土層24	筒形土器	13.9					淡黄橙色		少	少	良好	2/12		断面四角
0071	C区SK09 50層No.2	鍋形鉢	(40.4)			(36.7)	(35.8)	黄褐色			少	良	1/12		
0072	C区SK09 50層No.9	括れ鉢	(34.0)					浅黄橙色		多		不良	5/12		
0073	C区SK09 50層No.54	甑	(22.6)					浅黄橙色		多		不良	2/12		
0074	C区SK09 上層X72Y-52	甕				14.2		鈍黄褐色		少		良		12/12	黒斑有
0075	C区黒褐色土X73Y-48	円筒形土器						黄灰色		少	多	良			
0076	C区 X73Y-48Z16.006	円筒形土器	10.5					淡黄褐色		多	多	良好	7/12		
0077	D区1号 X68Y-53	甑	(16.7)					黄褐色		少	少	良	1/12		
0078	D区灰 d 53層X71Y-56	甑						橙色			少	良好	1/12		
0079	D区灰 f 139層No.60	甕	(15.0)			(15.7)	(13.3)	鈍肌色		少	少	良	2/12		
0080	D区灰 f 西壁1層	仏鉢	18.4			19.2		淡黄色			多	良好	3/12		
0081	D区灰 g 144・146層	鉢	(37.1)			(34.2)	(33.9)	明黄褐色			多	良	1/12		X67Y-57
0082	D区灰h13層No.13	甕	(20.1)				17.6	黄灰色		多		良	3/12		
0083	D区灰 k 下層No.76	甕		8.9				淡黄色			少	良好		1/12	
0084	D区灰 l No.169	甕	11.4	4.3	9.5	11.6	10.7	浅黄橙色			多	良好	6/12	12/12	
0085	D区灰 l 下層No.11	仏鉢	17.3		2.8	18.2		黄褐色				良	2/12		
0086	D区西壁1層X63Y-60	甕	13.9		13.0	15.3	12.8	灰白色			少	良好	6/12		
0087	B区 b 24層X83Y-55	窯道具		10.2				灰白色			少	良好		11/12	手づくね
0088	B区SX08上面	窯道具	10.0					淡黄灰色			少	良好		6/12	
0089	C区SX01下層No.25	窯道具		9.3				灰白色			少	良好		6/12	穿孔対面２ヶ所
0090	D区灰 l 下層No.40	有孔円板	6.7		1.2			鈍い橙色			多	良好	12/12		

瓦観察表 (1)

①:瓦当直径 ②:瓦当内区径 ③:丸・平瓦厚さ ④:中房径 ,(cm) ⑤:残存花弁数⑥:丸・平瓦凹面1ｃｍ当りの経糸・緯糸数（本）

番号	出土位置	器種	①	②	③	④	⑤	⑥	外色	内色	礫	砂	焼成	その他
0001	A区灰ｃ西ベルト2層	軒丸	(15.7)	(12.5)	(1.3)	(4.9)	3		褐灰色			少	良	
0002	A区灰ｃ下層No.55	丸			1.3				灰色			少	良好	
0003	A区灰原上面	平			1.2			10·9	灰色			多	良好	X74Y-61、焼台
0004	A区2号灰ｅ上面	軒丸	(16.0)	(12.8)		4.3	8		灰白色			少	不良	
0005	A区灰ｅ上面No.325	軒丸	14.6	11.0	1.7	3.9	8		灰色	黄灰色		少	良好	
0006	A区灰ｅ下層No.151	軒丸	15.0	11.5	1.2	3.6	8	9·9	灰褐色			少	良	
0007	A区灰ｅ下層No.235	軒丸	(16.0)	(12.4)	1.6	3.6	6	10·9	淡黄褐色			少	不良	丸瓦端部凸面1回削り
0008	A区東断割り	丸			1.1			10·10	灰色	褐灰色		少	良	X76Y-55
0009	B区SX03 b区上層	軒丸		(12.7)	(1.6)	3.9	7		灰黄褐色			少	良	
0010	B区SX03 b区上層	軒丸	(14.8)	(13.2)	1.6		4		灰黄色			少	良	
0011	B区SX04	丸			1.9				黒灰色			少	良	
0012	B区灰ａ土管No,3	丸			2.1			9·9	灰色		多		良好	凸面縄叩ﾅﾃﾞ消
0013	B区灰ｃ123層	平			2.1			9·10	灰色		多	多	良好	1.5cm大の石含む
0014	D区1号2操・3操間	丸			1.4			10·11	灰褐色			少	良好	2次被熱
0015	D区1号3操下	丸			1.4			8·9	灰色			多	良好	
0016	D区1号3操下	丸			1.6			9·9	灰色			少	良好	断面黄色
0017	D区1号灰ｃ127層	平			2.0			9·8	灰色			多	良好	X71Y-59
0018	D区45層上部	軒丸	(16.4)	(13.6)	2.0	4.2	3		淡黄灰色			少	不良	X67Y-55
0019	D区灰ｆ139層No.49	丸			1.3				褐灰色			少	良好	断面に自然釉
0020	D区灰ｈ4層No.140	平			1.8			8·9	灰白色	淡黄白色			不良	凸面縄叩一部ﾅﾃﾞ消
0021	D区灰ｈ156層No.30	丸			1.0				灰白色	暗赤色		多	良	
0022	D区灰ｋ下層No.93	軒丸	(16.4)	(13.2)		4.3	8		灰白色			少	不良	
0023	D区灰ｍ	軒丸	(15.2)	(12.0)			3		黄灰色		少	少	良	
0024	D区西壁3層No.25	軒丸	(16.4)	(13.2)			3		淡黄色			少	不良	
0025	D区西壁3層No.46	丸			1.6			10·9	灰色			多	良好	
0026	D区東断割り	軒丸	(15.8)	(12.9)		4.0	5		灰白色			少	良	X70Y－53　花弁に鎬
0027	X68Y-55	軒丸	(16.4)	(13.0)			3		灰白色			少	不良	
0028	X69Y-57	軒丸	(14.8)	(11.8)			4		灰色			少	良	
0029	X71Y-64	丸			1.5				灰褐色			少	良	
0030	X72Y-56	軒丸	(15.2)	(12.6)	1.6	4.4	8	9·9	黄灰色			少	良	
0031	X73Y-47	軒丸	(15.2)	(12.6)		(4.1)	4		灰白色			少	不良	
0032	X73Y-63	丸			1.4				灰黄色			少	良好	
0033	X74Y-52	軒丸	(16.2)	(13.2)			3		灰白色			少	不良	
0034	X74Y-52	平			1.7				黄灰色			少	不良	
0035	X74Y-56	軒丸	(16.2)	(13.6)	1.3		3		灰白色			少	不良	
0036	X74Y-57	軒丸	(15.8)	(12.5)		4.0	4		灰白色			少	不良	
0037	X74Y-67	軒丸	(16.0)	(13.4)	2.1	4.3	5	7·7	灰白色			少	不良	A区2号灰Ｃと接、凸面削
0038	X75Y-46	軒丸	(15.2)	(12.4)			2	9·8	黄灰色			少	良	
0039	X75Y-53	軒丸	(16.4)	(13.2)			3		灰白色			少	不良	
0040	X75Y-56	軒丸+丸			1.5			9·10	灰黄色			少	良	丸瓦端凸凹面2回削り
0041	X75Y-58	軒丸	(15.0)	(12.0)		4.0	3		褐灰色			少	良	
0042	X75Y-61	軒丸	(15.0)			4.1	8		褐灰色			少	良	
0043	X76Y-55	軒丸	16.0	13.0		4.3	7		灰白色			少	不良	
0044	X76Y-55	丸			1.7			10·9	淡黄白色			少	不良	凹面粘土板切り離し痕
0045	X76Y-59	軒丸	(15.0)	(12.4)		3.8	8		褐灰色			少	良	
0046	X77Y-47	軒丸		(12.0)		4.1	7		暗灰黄色			少	良	
0047	X77Y-57	丸			1.5			11·9	黄灰色			少	不良	
0048	X77Y-63	軒丸	(15.0)	(12.0)	1.3	4.1	4		灰黄色			少	良	
0049	X78Y-58	軒丸					8		灰白色			少	不良	
0050	X78Y-62	軒丸	(15.4)	(12.8)			4		灰黄褐色		少	少	良	
0051	X78Y-62	軒丸	(15.6)	(13.4)		(4.6)	4		灰白色			少	不良	
0052	X79Y-50	軒丸	(15.0)	(12.4)		4.2	8		灰黄褐色		少	少	良	瓦当面離れ砂少量
0053	X79Y-51	軒丸	16.2	13.0	1.5	4.4	8	9·8	灰白色			少	不良	
0054	X79Y-52	丸			1.7			10·9	褐灰色			少	良	端部面取り
0055	X79Y-52	軒丸	(16.0)	(13.2)		4.2	5		灰白色			少	不良	X86Y-53と接合
0056	X79Y-55	軒丸+丸	(14.8)				2	9·10	灰黄色			少	良	
0057	X79Y-56	軒丸	(15.6)	(13.0)			3		灰白色			少	不良	

瓦観察表 (2)

①:瓦当直径 ②:瓦当内区径 ③:丸・平瓦厚さ ④:中房径 ,(cm) ⑤:残存花弁数⑥:丸・平瓦凹面1ｃｍ当りの経糸・緯糸数（本）

番号	出土位置	器種	①	②	③	④	⑤	⑥	外色	内色	礫	砂	焼成	その他
0058	X80Y-56	丸			1.5			9·9	淡灰褐色			少	良	
0059	X80Y-61	軒丸	(15.0)	(12.2)			3		浅黄色			少	不良	
0060	X80Y-67	軒丸	(15.8)	(13.0)		4.0	8		灰黄色			少	不良	
0061	X81Y-48	軒丸	(15.5)	(12.2)		4.1	5		褐灰色			少	良	
0062	X81Y-56	軒丸	(16.4)	(13.8)			3		淡黄色			少	不良	
0063	X81Y-57	軒丸				(4.2)	8		黄白色			少	不良	
0064	X81Y-57	軒丸	(16.0)	(14.0)		4.4	8		灰白色			少	不良	
0065	X81Y-57	軒丸	(15.5)	(12.8)			2		淡黄色			少	不良	
0066	X81Y-58	丸			1.4			11·10	褐黄色			少	良	
0067	X81Y-59	軒丸	15.1	12.2	1.6	4.0	8		灰黄褐色			少	良	
0068	X81Y-62	軒丸					2		淡黄色			少	不良	
0069	X81Y-64、X81Y-63	丸			1.6			9·8	灰色			多	良好	2地点接合
0070	X81Y-67	軒丸			1.4		2		黄褐色			少	不良	
0071	X81Y-68	軒丸	(16.0)	(13.0)		4.3	4		灰黄色			少	不良	
0072	X81Y-68	軒丸	(15.0)		1.4			9·9	黄白色			少	不良	丸瓦部28.4cm
0073	X82Y-44	軒丸	(15.6)	(12.8)	1.4		2	9·9	淡黄色			少	不良	
0074	X82Y-57	軒丸	(15.2)	(12.0)		4.0	8		褐灰色			少	良	
0075	X82Y-57	軒丸	(15.2)	(12.6)			2		鈍黄橙色			少	良	
0076	X82Y-58	軒丸	16.2	13.2		4.2	8		淡黄色			少	不良	
0077	X82Y-59	軒丸	(16.0)	(13.2)			3		灰白色			少	不良	
0078	X82Y-63	丸			1.8				灰色			少	良好	
0079	X82Y-65、X85Y-46	軒丸	14.8	12.6	1.2		4	10·9	黄褐色			少	良	花弁鎬有り
0080	X83Y-53	軒丸	(15.4)	(12.2)		4.1	4		褐灰色			少	良	
0081	X83Y-54	軒丸	15.7	13.6	1.7	4.2	8		浅黄色			少	不良	丸瓦先端凸部1回削り
0082	X83Y-56	軒丸	16.0	13.2		4.4	8	11·11	灰白色		少	少	良	
0083	X83Y-57	軒丸	(14.6)	(12.6)	1.1		2		灰黄色			少	良	
0084	X83Y-58	軒丸	(15.6)	(12.8)			2	10·9	灰褐色			少	良	
0085	X83Y-59	軒丸	(15.4)	(12.4)			1	10·9	灰黄色			少	不良	丸瓦先端面に布目
0086	X83Y-64	軒丸	(15.8)	(13.0)			3		灰白色			少	不良	
0087	X83Y-65	軒丸	(16.0)				3		灰白色			少	不良	X80Y-62と接合
0088	X83Y-65	軒丸	(16.2)	(13.0)		4.1	5		浅黄色		少	少	良	
0089	X84Y-55	軒丸	(16.0)	(12.8)		4.1	5		淡黄色			少	不良	
0090	X84Y-59	軒丸	(16.0)	(13.6)			2		灰白色			少	不良	
0091	X84Y-59	軒丸	15.6	12.4		4.0	6		黄灰色			少	良	
0092	X84Y-62	軒丸	(15.4)	(12.6)		3.8	3		灰白色			少	不良	
0093	X85Y-44	軒丸	(14.8)	(11.8)	1.7		2		灰黄褐色		少	少	良	
0094	X85Y-47	軒丸	(15.0)	(12.0)			3		黄灰色			少	良	
0095	X85Y-50	軒丸	(16.0)	(13.4)	1.6		2		黄白色			少	不良	生焼け
0096	X85Y-50	軒丸	(16.2)	(13.2)	1.3		2		灰白色			少	不良	
0097	X85Y-50	軒丸	(16.0)	(12.8)		4.3	8		淡黄色			少	不良	
0098	X85Y-51	丸			1.5			9·10	淡褐色			少	不良	凹面粘土板切り離し痕
0099	X85Y-51	軒丸	(15.2)	(12.6)		4.1	7		淡黄色			少	不良	
0100	X85Y-52	丸			2.0			9·9	灰色		少	多	良好	
0101	X85Y-52	丸			1.9			9·9	灰黄色		少	少	良	
0102	X85Y-56	丸			1.5			9·9	灰色			少	良好	
0103	X85Y-58	軒丸	(16.2)	(13.0)		4.3	6		灰黄色			少	不良	
0104	X87Y-54	軒丸	(14.7)		1.5			10·9	灰褐色			少	良	凸面先端部1回削り
0105	X88Y-51	軒丸					3		浅黄色			少	不良	
0106	排土中	軒丸	(15.0)		1.5			10·9	灰褐色			少	良	凸面先端部1回削り
0107	排土中	軒丸					3		浅黄橙色			少	不良	

土錘観察表 (1)

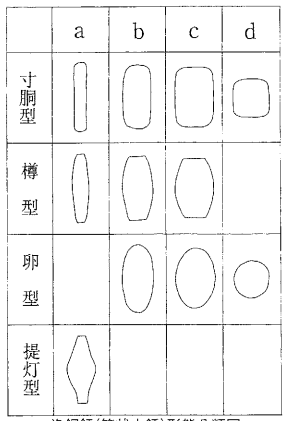
①:長さ ②:幅 ③:孔径 ④:重さ（g） ⑤:残存状況（完存:10）

番号	出土位置	形態	①	②	③	④	⑤	色	焼成	その他
0001	A-Bﾍﾞﾙﾄ22層No.72	樽c	7.7	4.2	1.2		7			
0002	A-Bﾍﾞﾙﾄ24層	寸胴c		(3.5)	(1.5)		4			X82Y-56
0003	A-Bﾍﾞﾙﾄ25層	樽c	6.0	3.8	1.4	75	10			X83Y-56
0004	A-Bﾍﾞﾙﾄ27·28層	樽c	6.1	3.8	1.4	70	10	灰色	還元	X84Y-56
0005	A-Bﾍﾞﾙﾄ2層	樽c	5.7	3.7	1.2	68	10			
0006	A-Bﾍﾞﾙﾄ39層No.10	樽c	6.1	2.0	1.5		7			
0007	C-Dﾍﾞﾙﾄ12層	樽c	3.9	3.8	1.4		7			X69Y-53
0008	C-Dﾍﾞﾙﾄ42·50·52層	樽c	4.8		1.4		6			
0009	C-Dﾍﾞﾙﾄ45層	樽c	4.6	3.1	1.1	35	10			X65Y-51
0010	A-Dﾍﾞﾙﾄ中層No.24	樽c	6.3	3.4	(1.1)		6			
0011	B-Cﾍﾞﾙﾄ39層	樽c	4.8	(3.4)	(1.2)		4			X76Y-47
0012	A区	寸胴c	4.6	3.2	1.0	43	10			X74Y-61
0013	A区	樽b	5.7	2.8	1.2	38	10			X82Y-60
0014	A区	樽c	5.7	3.8	1.4		9			X74Y-61
0015	A区	樽c	5.8	3.8	1.3		8			X80Y-59
0016	A区	樽c	5.8	3.8	1.2		6			X77Y-60
0017	A区	樽c	6.8	4.0	1.3		9			X76Y-67
0018	A区	樽c	6.9	4.0	1.3	105	10			X84Y-60
0019	A区	寸胴c	7.3	4.1	1.5	105	10			X76Y-67
0020	A区25層崩落土	樽c	4.4	3.5	1.1		6			
0021	A区2号7層	寸胴c	4.0	1.7	1.5	20	10			X73Y-65
0022	A区2号ﾍﾞﾙﾄ76層	寸胴c	4.9	3.3	1.1		5			
0023	A区2号ﾍﾞﾙﾄ北最下層	樽c	6.4	3.6	1.5	60	10			X73Y-60
0024	A区2号灰b7層No.28	寸胴c	6.0	4.1	1.3	106	10			
0025	A区2号灰c上層No.10	寸胴c	4.6	3.2	1.1		5			
0026	A区灰c最下層No.65	樽c	6.4	4.1	1.3		8			
0027	A区灰c-dﾍﾞﾙﾄ5層	寸胴c	6.8	2.4	1.3		8			X72Y-59
0028	A区灰c-dﾍﾞﾙﾄNo.4	樽c	4.5	3.4	1.2		8			
0029	A区2号灰e No.13	樽c	6.5	3.7	1.2		8			
0030	A区灰e4層上面	樽c	5.8	3.5	1.0		4			B区X79Y-51と接合
0031	A区灰e13層	樽c	5.7	3.5	1.3		9			X77Y-57
0032	A区灰e13層	樽c	4.5	3.4	1.5		9			X77Y-57
0033	A区灰e13層	樽c	6.4	1.6	1.1		8			X78Y-57
0034	A区灰e13層	樽c	(5.6)	3.3	1.2		7			
0035	A区灰e140層	樽b	6.0	2.9	1.2	35	10			X77Y-60
0036	A区灰e上層	樽c	6.8	4.5	1.5		9			
0037	A区灰e上層	樽c	4.5		(0.8)		7			X77Y-57
0038	A区灰e中層No.45	樽c	6.4	3.9	1.0	68	10			
0039	A区灰e中層	樽c	5.4	3.4	1.3	44	10			X78Y-59
0040	A区灰e中層②	樽c	5.2	(3.5)	(1.5)		4			
0041	A区灰e中·下層	樽c	5.5	3.5	1.4		9			X79Y-60
0042	A区灰e下層	樽c	6.4	3.6	1.5	68	10			X77Y-56
0043	A区灰e下層No.17	樽c	6.1	3.9	1.5	75	10			
0044	A区灰e最下層	樽c	7.8				4			X77Y-59
0045	A区灰e黄色土中	樽c	5.9	3.6	1.3		7			X78Y-59
0046	A区灰e-fﾍﾞﾙﾄ2層	樽c	5.6	3.6	1.2	62	10			X80Y-60
0047	A区灰e-fﾍﾞﾙﾄ3層	寸胴c	6.4	3.3	1.1	60	10			灰f上層X80Y-59と接合
0048	A区灰f4層	樽c	5.9	3.7	1.4	78	10			窯糞付着
0049	A区灰f6層	樽c	6.2	3.8	1.4		8			
0050	A区灰f7層	寸胴c	5.0	3.6	1.3		9			X82Y-59
0051	A区灰f最下層No.149	寸胴c	5.7	3.8	1.5		7			
0052	A区灰f最下層No.163	樽c	6.1	3.6	1.4	75	10	灰色	還元	
0053	A区灰f	樽c	6.4	(3.4)			4			X81Y-60
0054	A区SK02	樽c	3.3	3.1	1.3	20	10			
0055	A区SK07-a	樽c	5.6	(3.5)	1.2		6			
0056	A区X84Y-60Z15.989	樽c	6.9		1.2		5			
0057	A区X84Y-60Z16.009	樽c	5.0	3.8	(1.4)		5			

土錘観察表 (2)

①:長さ ②:幅 ③:孔径 ④:重さ（g） ⑤:残存状況（完存:10）

番号	出土位置	形態	①	②	③	④	⑤	色	焼成	その他
0058	A区上面	樽c	5.8				3			X77Y-61
0059	A区東断割り	樽c	5.0	(3.1)	1.2		6			X81Y-56
0060	A区東断割り	樽c	5.7	2.5	0.9		5			X83Y-56
0061	A区東断割り	樽c	5.8	3.9	1.4		6			X80Y-56
0062	A区東断割り	樽c	6.0	3.5	1.2		8			X83Y-62
0063	B区	樽c	5.7	3.8	1.4	28	10			X81Y-44
0064	B区	樽c	5.8	3.5	1.2	62	10			X80Y-55
0065	B区	樽c	5.9	(3.6)	(1.5)		3			X85Y-50
0066	B区	樽c	6.4		(1.2)		4			X79Y-55
0067	B区	寸胴b	6.5	3.0	1.3	60	10	灰色	還元	X83Y-52
0068	B区	樽b	6.6	3.2	1.2		7			X80Y-52
0069	B区	樽c	7.2	3.7	1.3		7			X83Y-52
0070	B区5層	樽c	6.3	3.5	1.3	68	10			X85Y-54
0071	B区7層No.72	樽c	5.7	3.5	1.3	50	10			
0072	B区a 136層	樽c	5.6	(3.6)	(1.1)		4			X85Y-55
0073	B区a-bﾍﾞﾙﾄ4層No.38	樽c	5.0	3.1	1.1	39	10			
0074	B区a-bﾍﾞﾙﾄ136層	樽c	6.8	4.2	1.2	103	10			X85Y-55
0075	B区b 24層	樽c	7.0	3.8	1.3		7			X83Y-55
0076	B区c123層	寸胴c	6.2	3.3	1.4		6			B区c88層と接合
0077	B区SK09中層No.6	樽c	6.0	3.5	1.2		9			
0078	B区SX09上層No.121	樽c	4.4	3.6	1.5		9			
0079	B区SX15No.15	樽c	4.9	3.1	1.1	33	10			
0080	B区北側調査用側溝	樽c	5.3		(1.2)		3			X87Y-52
0081	C区52層No.29	樽c	5.1	3.5	1.4	47	10			
0082	C区52層	樽c	5.5	(3.4)	1.3		7			
0083	C区SK01上層	樽c	4.9	3.8	1.3	50	10			X68Y-51
0084	D区	寸胴c	4.8	(3.2)	(1.1)		5			X66Y-62
0085	D区	樽c	6.1		(0.9)		4			X67Y-51
0086	D区70層No.19	樽c	6.9	(3.8)	1.4		7			SD01下層
0087	D区70層No.55	樽c	6.9	4.1	1.3	89	10			SD01下層
0088	D区SD01下層	樽b	7.2	3.5	1.2		8			X67Y-56
0089	D区灰e中層No.124	樽c	6.1	3.5	1.2	57	10			
0090	D区灰f 139層/灰e下層	樽c	6.9	3.5	1.1		7			X64Y-56/X66Y-58
0091	D区灰g-fﾍﾞﾙﾄ145層	樽c	6.8	3.5	1.1		8			X65Y-55
0092	D区灰h西壁3層	樽c	6.4	3.4	1.0		6			X63Y-62
0093	D区灰h西壁3層下部	樽c	5.3	3.4	1.1		8			X65Y-61
0094	D区灰k中·下層	樽c	5.8	3.4	1.1	57	10			X70Y-55/X68Y-52
0095	D区灰k下層	寸胴c	4.9	3.3	1.4	52	10			
0096	D区灰l No.98	樽c	6.1	3.1	1.0	58		灰色	還元	
0097	D区東断割り	樽c	6.4	3.4	1.2		5			X72Y-53
0098	排土中	樽c	(4.4)	(3.3)	(1.4)		4			ﾍﾗ



漁網錘(管状土錘)形態分類図

（細辻2001より）

ⅲ）附編

1．口縁部計測法による栃谷南遺跡出土須恵器小考

廣瀬　直樹

はじめに

筆者は、栃谷南遺跡の平成10年度発掘終了後、整理作業中の須恵器を計測した。遺物は膨大な量であり、整理作業の途中ということもあって全体量からするとほんの一部を計測したにすぎない。しかし、計測では器種の選択などの操作を行っていないため全体の様相をある程度明らかにしうる資料だと考え、今回計測結果をグラフ化し分析を試みた。

計測には口縁部計測法を用いた（以下、提示する個体数は口縁部計測法による　）。計測した須恵器は4581破片、口縁部562.6個体分である。１号窯と２号窯は並行して操業しており、灰原も複雑に折り重なった状態で、計測時には窯ごとに分離することできなかったため、一括して分析を行った。

器種構成（第１・２図）

器種組成比の算出にあたり、杯Ｂは蓋と身の個体数のうち多いほうの数値を採用した。口縁部のみでは識別しにくい杯Ａ、杯Ｂ身においては、識別可能なものの数値を識別できた杯Ａと杯Ｂ身の比率で配分する方法をとった。杯Ｂと球胴短頸壺においては蓋と身の多いほうの数値を採用した。

計測で確認した器種は、杯Ｂ蓋・身、杯Ａ、杯C、ⅢＡ、ⅢＢ、高杯、鉄鉢、槽形鉢、括れ鉢、鉢、甕、横瓶、平瓶、狭口壺、短頸球胴壺、広口壺、広口瓶、長頸瓶、小壺、長甕、鍋、小型甕、硯、土馬、土錘の25器種である。器種構成比は、食膳具が91.3％、煮炊具が1.3％、貯蔵具が7.5％となる。食膳具は杯Ａと杯Ｂがほぼ等量で大半を占め、その他の食膳具としては金属器模倣の杯Ｃ、高杯、Ⅲ類などが少量見られる。煮炊具は長甕、鍋が主体となる。貯蔵具では、甕・球胴短頸壺・横瓶がまとまった量確認でき、甕が23.2％、球胴短頸壺が22.0％、横瓶が22.8％となる。

法量分布（第３・４・５図）

杯ＡはⅠ．口径10㎝前後のもの、Ⅱ．口径12～15㎝のもの、Ⅲ．口径15㎝以上のものの３種に分化する。Ⅱが大半を占め、口径は12～13㎝に集中する。Ⅰ、Ⅲはごく少量である。

杯Ｂ蓋はⅠ．口径　10～11㎝のもの、Ⅱ．口径13㎝～17㎝のもの、Ⅲ．口径18㎝前後のもの、Ⅳ．口径20㎝前後のものの4種類に分化し、それぞれ杯Ｂ身の分化に対応している。主体となるのはⅡであり、口径のピークは14～15㎝に存在する。

杯Ｂ身はⅠ：口径　10㎝前後のもの、Ⅱ：口径11㎝～15㎝のもの、Ⅲａ：口径15㎝以上器高５㎝以上のもの、Ⅲｂ：口径15㎝以上器高５㎝以下のもの、Ⅳ：口径20㎝以上のものの５種に分化する。主体となるのはⅡであり、口径のピークは13～14㎝に存在する。分化は多様であるが、高低二種に分化するのは口径15㎝以上のⅢのみである。また、Ⅲ・Ⅳといった大型のものは比較的規格性に乏しく、法量にばらつきが見られる。

以上のように杯類では、特に杯Ｂ身で分化に多様性が見られるが、それぞれ一法量に集中しており、全体としては主体となる法量への集約化の傾向があると考える。８世紀第２四半期から第３四半期にかけて杯類は口径が縮小し、多様だった法量が集約していく。婦負郡、射水郡でも同様で、婦負郡古沢窯を例とすると口径のピークは杯Ａが13㎝から12㎝へ、杯Ｂ蓋が16㎝から14㎝へ、杯Ｂ身が14㎝から13㎝へと縮小する（富山大学人文学部考古学研究室1989）。その様相と比較すると、栃谷南遺跡の杯類の口径に縮小化の傾向を見ることができる。

箆記号（第６図）

箆記号を持つ須恵器は、今回計測した須恵器全体で４種80例を確認した。箆記号が施される器種は杯Ａ、杯Ｂ蓋、杯Ｂ身が大多数を占める。箆記号は「－」「＝」「×」「＃」の４種である。以下器種ごとにその内訳を示す。

杯Ａ952片（121.6個体）のうち、30片で箆記号を確認した。内訳は、「－」が10点、「＝」が13点、「×」が６点、破片のため種類不明のものが１点である。箆記号は底部内外面に施されるが、そのうち底部内面が主体となる。底部内面に施される箆記号は３種それぞれが一定量存在するが、「＝」の割合が高い。底部外面に施される箆記号は底部内面と異なり「－」が主体となる。

杯Ｂ蓋1069片（166.1個体）のうち、17片で箆記号を確認した。内訳は、「－」が３点、「×」が12点、「＃」が１点、破片のため種類不明のものが１点である。箆記号は基本的に内面に施されるが、外面に箆記号「×」が施されたものが１点ある。箆記号の種類は「×」が主体となる。

杯Ｂ身　831片（100.4個体）のうち、33片で箆記号を確認した。内訳は、「－」が8点、「＝」が７点、「×」が17点、破片のため種類不明のものが１点である。箆記号は主として底部内外面に施され、杯Ａ同様底部内面が主体となる。その他、１点のみ体部外面に箆記号「×」を持つものがある。箆記号の種類は杯Ａとは異なり、底部内面では「×」が、底部内面では「＝」が主体となる。

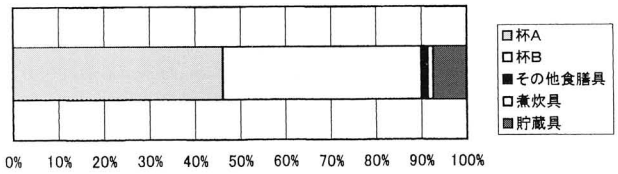
杯類以外の器種としては、底外面に箆記号「×」が施された有台の狭口壺1点を確認した。

器種によってある程度箆記号の使い分けがなされていると考えられ、杯Ｂ蓋・身が「×」を主体とし、杯Ａが「－」「＝」を主体とする。箆記号の記入率を、仮に口縁部計測法による総個体数と箆記号を確認した破片数との比率で表すと、杯Ａ16.6％、杯Ｂ蓋10.2％、杯Ｂ身20.4％となる。口縁部計測法による個体数は実際の個体数より少なく表されるため数値をそのまま捉えることはできないが、杯Ｂ蓋の記入率がやや低く、杯Ａと杯Ｂ身はほぼ同様の率で記入されていると考えられる。８世紀第２四半期に比定される婦負郡の古沢２号窯では杯類の34.8％、８世紀第３四半期に比定される古沢Ｉ号窯では杯類の4.1％に箆記号が記入されており、８世紀中頃に箆記号の記入率が大きく変化しているが（宇野隆夫1994ｂ）、栃谷南遺跡では杯類の記入率が約16％となり、ほぼ両者の中間の値である。古沢２号窯では10個に１個、古沢１号窯では100個に１個程度の割合で記入されたと想定されており、それを参考にすると栃谷南遺跡では50個に１個程度の記入であったといえようか。

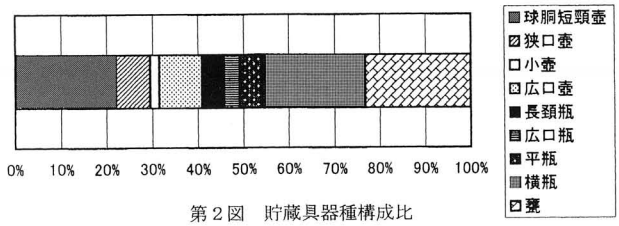
まとめ

以上のように本稿では、器種構成は杯類を中心とする食膳具が９割以上を占めること、貯蔵具では、甕・球胴短頸壺・横瓶が生産の主体となること、杯類は法量分化に多様性を持つが、一法量への集約化の傾向がみられること、杯類の口径のピークは縮小化の傾向が見られること、箆記号は器種による使い分けがされ、比較的記入率が高いことなどの結果を得た。これらの点から推察するに、栃谷南遺跡の様相は８世紀第２四半期から第３四半期への変化の過程に位置づけられると考えられる。

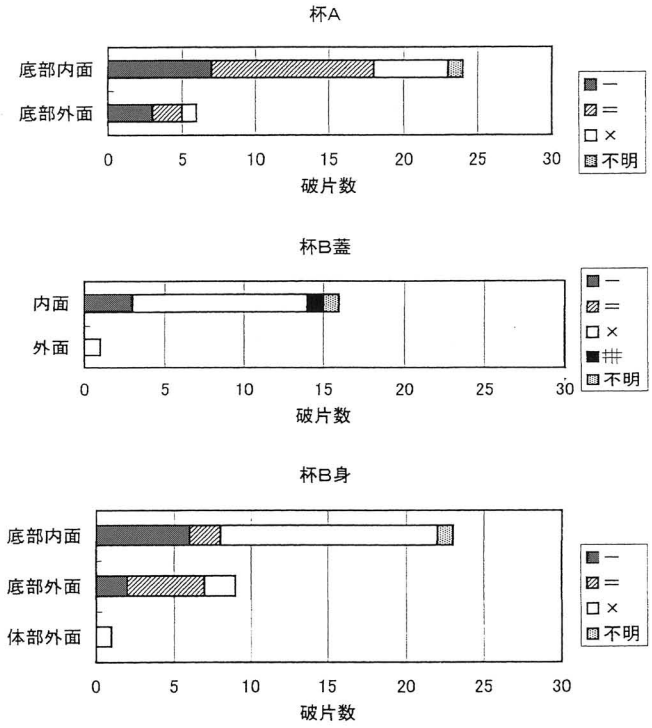
駆け足であったが、栃谷南遺跡の須恵器について口縁部計測法を用いた考察を行った。ほとんど計測結果を羅列するだけにとどまり、また、窯ごと、層位ごとの考察を行っていないため、不十分な点も多い。栃谷南遺跡は８世紀中頃という須恵器生産のひとつの画期を知る上で重要な意味をもつ遺跡であり、今後さらに婦負郡・射水郡の須恵器窯の様相と微細に比較していくことが課題といえる。



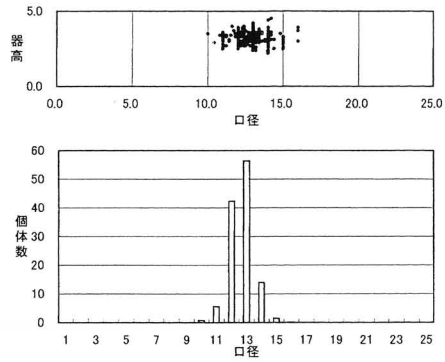
第１図　器種構成比



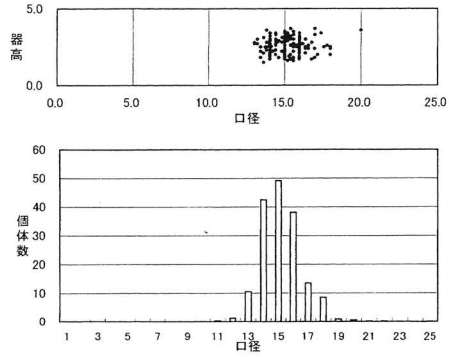
第２図　貯蔵具器種構成比



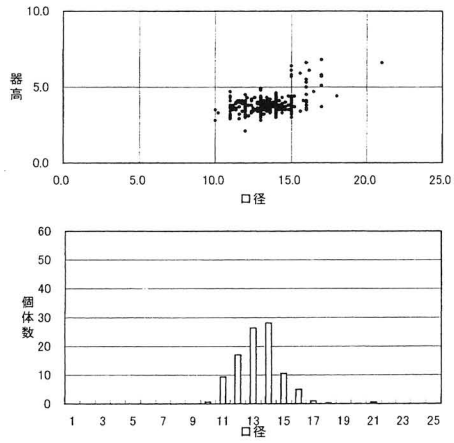
第６図　篦記号の内訳



第３図　杯Ａ法量分布



第４図　杯Ｂ蓋法量分布



第５図　杯Ｂ身法量分布

参考・引用文献

池野正男 1987 「射水丘陵における８世紀後半の須恵器窯跡」 『大境 第11号』 富山考古学会

池野正男 1994 「射水丘陵における８世紀中頃の画期」 『北陸古代土器研究 第４号』 北陸古代土器研究会

宇野隆夫 1991 『律令社会の考古学的研究 北陸を舞台として』 桂書房

宇野隆夫 1994 「越中婦負郡の古代窯業生産－8 世紀中頃の画期をめぐって－」 『北陸古代土器研究 第４号』 北陸古代土器研究会

北野博司 1994 「総論」 『北陸古代土器研究 第４号』 北陸古代土器研究会

北野博司 1999 「須恵器貯蔵具の器種分類案」 『須恵器貯蔵具を考えるⅠ つぼとかめ』北陸古代土器研究第８号 北陸古代土器研究会

小杉町教育委員会 1991 『上野南遺跡群発掘調査報告』

大門町教育委員会 1986 『石名山窯跡発掘調査報告』

武田健次郎・青山　晃・内田亜紀子 1999 「越中における須恵器貯蔵具の様相」 須恵器貯蔵具を考えるⅠ つぼとかめ』 北陸古代土器研究第８号 北陸古代土器研究会

田嶋明人 1988「古代土器編年軸の設定」『シンポジウム 北陸の古代土器研究の現状と課題 報告編』 石川考古学研究会・北陸古代土器研究会

富山市教育委員会 1998 『発掘速報展 ‘98 栃谷南遺跡』

富山市教育委員会 1999 『栃谷南遺跡』 富山市内遺跡発掘調査概要Ⅲ

富山大学人文学部考古学研究室 1989 『越中上末窯』富山大学考古学研究報告第３冊

北陸古代手工業生産史研究会 1989 『北陸の古代手工業生産』

2．古代婦負郡の「郷」擬定と栃谷南遺跡の位置

藤田　富士夫

はじめに

栃谷南遺跡は土製権衡の出土などから官窯的性格を有するとされている。調査担当者によれば、同一窯跡を巧みに造りかえて８世紀第２四半期から第３四半期まで操業が維持継続されているところに特色があるという。官窯的性格といった場合に、その所属が射水郡か婦負郡かは重要な意味をもつ。栃谷南遺跡の位置は大局的にみれば、婦負郡と越中国府を有する射水郡との境界域にある。ただし、天保９（1838)年の「婦負郡上新川郡之内村々組分繪圖」（新湊市立博物館蔵）など近世の繪圖では、婦負郡域に含まれる。

ところで、近世の領域がそのまま古代まで溯るかどうか、さらには境界近くの村落は時代の変遷とともに揺れ動くことがあることに留意しなければならない。現在の富山市呉羽町、北代、八町一帯は、古代の射水郡寒江郷の系譜を引くと考えられるが、近世では当地域が富山藩領と加賀藩領との境界域となったことが関係して、富山藩領婦負郡寒江郷となっている。

本稿では、このような事情を汲みながら、古代婦負郡の郷地を擬定するとともに栃谷南遺跡の位置の意義について試考を呈しようとするものである。

地域表象と擬定古代道

先に、私は越中国新川郡に存在した東大寺領大薮荘・丈部荘の現地比定を検討し、古代勢力の地域表象としての古墳が古代道路敷設の目印となっているとした（藤田　2001ａ・2001ｂ年)。あわせて郡域の「郷道」の存在を推考し、『和名類聚抄』の新川郡の郷名の記載順は、ミチの経路順によっていることを論じた。この視点は、古代郷域を擬定する際に有効であると考えている。

婦負郡の古墳時代王権の一大拠点は、婦中町長沢地域にある。ここには前方後方墳である王塚古墳（国指定史跡）や勅使塚古墳（県指定史跡)、向野塚（前方後方形墳丘墓)、五ツ塚古墳群（円墳)、六治古塚（四隅突出墳）などが営まれている（婦中町史　1997年・大野　2002年)。県域でも有数のこれらの古墳は地域表象としての役割を十分に担っていると思われる。

これらの古墳を目印とする古代官道の候補として、今日、婦負平野を北東－南西に斜行線を描いて走る国道359号線がある。この幹道は、婦中町鵜坂から長澤地区まで整った斜行道を示す。婦負平野の南西端に位置する長澤地区で、東西に走る県道小杉・婦中線（31号線）と交差して斜行道の整美さは薄くなる。けれども、その放線の先は勅使塚古墳や王塚古墳に一直線に向かっている。この両古墳を代表とする長沢地域の墳墓群が、古代婦負郡の地域表象であったとみることができる。あわせて長沢地域が国道359号線と県道31号線とが合流することでも示されているように交通の要衝にある。この国道と県道の２路線が古代道路の遺風であるとすれば、その沿線に婦負郡の古代郷域が存在していた可能性が浮かび上がってくる。

中村太一氏は、奈良盆地に残存する斜方位直線道路について、このような「道路体系が始まる画期を推古九（601）年に置くことができる」とし、外国使節の入京と関係づけている（中村　2000年)。奈良盆地の状況をそのまま越中国の一角に援用することには異論があろう。しかし、私はさきに越中国新川郡の東大寺領荘園・丈部荘の検討から、斜方位直線道が越中国では「郷道」として計画的に敷設された可能性が高いことを考察した（藤田 2001ｂ年)。これを援用し、婦負平野を斜行して貫走する国道359号線に官道・郷道的性格を看取するものである。

婦負郡の郷地の擬定

次に、古代婦負郡の郷名を見てみよう。『和名類聚抄』（高山寺本）には次の通り記載されている。

「婦負郡 高野 小子知比左古 大山於保夜 菅田須加太 日理 川合 大桑 高嶋 罡本」

婦負郡の郷の比定について、これまでいくらかの試みが行われている（森田柿園『越中史徴』など）。それらの比定は、地名の類似からランダムに想定されており、論拠の薄いものが多いようだ。先行研究による比定地については『婦中町史 通史編』（婦中町 1996,年）などで整理されている。

さて、①藤井一二氏は、『和名類聚抄』に記載の郷名順は現実の位置関係を反映しているとする（藤井1988年）。②『和名類聚抄』の記載順について「ある程度の規則性が、存したと想定される見解がある。まず、各郡の筆頭にくる郷が、郡家所在郷である可能性が高い」（『婦中町史 通史編』164頁）とする研究がある。これらの指摘を準用し、次に③想定古代道の経路に従って、①・②を用いて婦負郡郷地の所在領域を考察してみたい。

高野郷

『和名類聚抄』の婦負郡郷の筆頭は「高野郷」である。それは近接する駅路（白城駅＝富山市西二俣の地域に擬定・藤田　2000年）や越中国府の位置関係から、婦負郡の起点にあると考えられる。射水郡小杉町黒河から南東走して婦中町へと至る県道31号線は、まず境野新扇状地を通る。

この辺りは、旧扇状地の扇央部で、まさに「野」にふさわしい地勢を有する。このことは、地名にも表われている。旧の婦負郡古澤村から池多村一帯に「野」地名の集落が集中している。北野、境野新、西野が地図に記されている。ほかに字名では古澤字上東野、杉谷字上野山畑、西押川字小野、北押川字向野、平岡字野下などがあり、境野新の一帯は「総野」とも称されている。杉谷字上野山畑あたりは「鷹の山」と呼ばれており、殿様が鷹狩りをしたところとする伝承を残している。伝承の由来は明らかではないが、これは“高野山”が転訛した可能性はないだろうか。また、杉谷には「高野」姓が多く見られ、中老田の専稱寺の杉谷門徒41戸のうち高野が10戸でもっとも多く、次いで「高林」姓が７戸となっている（杉谷自治 1977年）。このように、「野」の呼称は「境野新扇状地」に集中している。当地には呉羽山丘陵山麓のなだらかな起伏が展開しており景観的にも「野」の風景が展開している。高野郷は、この一帯に比定されよう。

小子郷

高野郷の次に記載されているのは小子郷である。県道31号線を推定高野郷域から南進すると長澤に至る。ここには、先述したように王塚・勅使塚など県域でも中核的な古墳が営まれており、二本榎Ⅱ遺跡（平岡窯跡）［７世紀末葉］や小長沢御坊立窯跡［８世紀］、新町Ⅱ遺跡の中核集落［９世紀］などの古代遺跡が在る。当地には王塚古墳・勅使塚古墳を直接的に表象する古代勢力が存在していたとみてよいだろう。その勢力を小子郷を構成する共同体に擬定するものである。

「小子郷」の名称は、古代職業部民である小子部に由来すると見られている。『日本書紀』雄略天皇６年条、『日本霊異記』上巻第１話に小子部の伴造小子部連の祖蜾蠃の話が見える。蚕を集めるように命じられたのに誤って嬰児を集めたので蜾蠃に自ら養育させたという。小子部は宮門の警備や宮中の雑務をつかさどった。藤原宮や平城宮に小子部門の名称がみえ、宮内省主殿寮の殿部に子部があって、火炬小子・火炬少女を管理したのはこれらの遺制であるとされる（森 2000年）。

全国の郷名で、「小子」の名称は婦負郡が唯一で、その比定地については『越中史徴』などで、近世の田中郷小川子村（婦中町）とされている。しかし、古代職業部民である小子部に由来する郷名は、県域有数の古墳勢力が形成されている長澤の地こそがふさわしいと思われる。

ちなみに、当地には開拓者六治古伝承がある。文化８年（1811)成立の『喚起泉達録』『肯構泉達録』に収録されている。それは山田川流域の長沢山（篠山）は貞治古が開発したとされ、その長子に六治

古、次男に村治古、三男に貞児古、末子に羽根児古がいるとされる。村治古は小沼（駒見）に、羽根児古は羽根村に居住し、それぞれの村の開発者とされている。長沢の地には六治古がいて、黍・稗を作り、妻は稲の栽培を思いたち六治古に農具牛馬を購入させたという。この伝承は、長沢一帯の地主的耕作者としての若林家の祖先伝説としてだけ語られているだけであるとし、この伝承をもって地域の中世以前の歴史を反映しているとみなすことは危険であるとされている（久保 1996年）。けだし、六治古の「古」は、小子（知比左古）の「コ」と通じていて、この伝承が小子に由来するとすれば貴重な伝承となる。久保氏の指摘を念頭に置きつつも、ここに留意しておきたい。

大山郷

郷名の語意が示す通り、大きな山の景観を有する地域に比定できよう。県道31号線沿いで、大山と見なすことができるのは、婦中町富崎の背後に展開する富崎台地がふさわしい。このことから大山郷を、富崎、河原町地域を中心に想定している。

菅田郷

大山郷に南接して存在したであろう。赤江川流域にそった近世千里村を中心として澤田、森田、大坪森田、三田、奥田三俣、下新田といった「田」を称する地域名が集中する。菅田郷の名は、今日残っていないが、「田」を共通呼称する地域の中にかって「菅田郷」が経営されていた可能性が大きいと思っている。

日理郷

語意から、川の渡り場が想定される。高日附を中心とする井田川中流左岸には奈良・平安時代、中世の大遺跡である南部Ⅰ遺跡が営まれていて、井田川の渡河を象徴する郷名にふさわしい位置を成している。

川合郷

語意から見て、河川の合流地点に想定できよう。木本秀樹氏は、候補地として「井田川と山田川の合流点である旧為成郷麦島村や長沢郷羽根村（現婦中町麦島・羽根）付近も地形的に想定される地域ではある」（木本 1996年）としている。これに賛意を表したい。

大桑郷・高嶋郷・罡本郷

この三つの郷は、旧速星村から旧鵜坂村にかけての国道359号線沿いに存在したであろう。旧鵜坂村には上田嶋、嶋田、下宮ケ嶋のように「嶋」を称する地名が集まる。ここには、共通語意をもつ「高嶋郷」が比定できるかもしれない。また本郷川沿いに西本郷、東本郷があるが「罡本郷」の名残とすれば面白いが、言葉の綾の謗りはまぬがれない。今後に期するところが大である。ただ、鵜坂の地には古代の遺物を出土している鵜坂Ⅰ遺跡があって、それらの郷のいずれかに該当すると思われる。

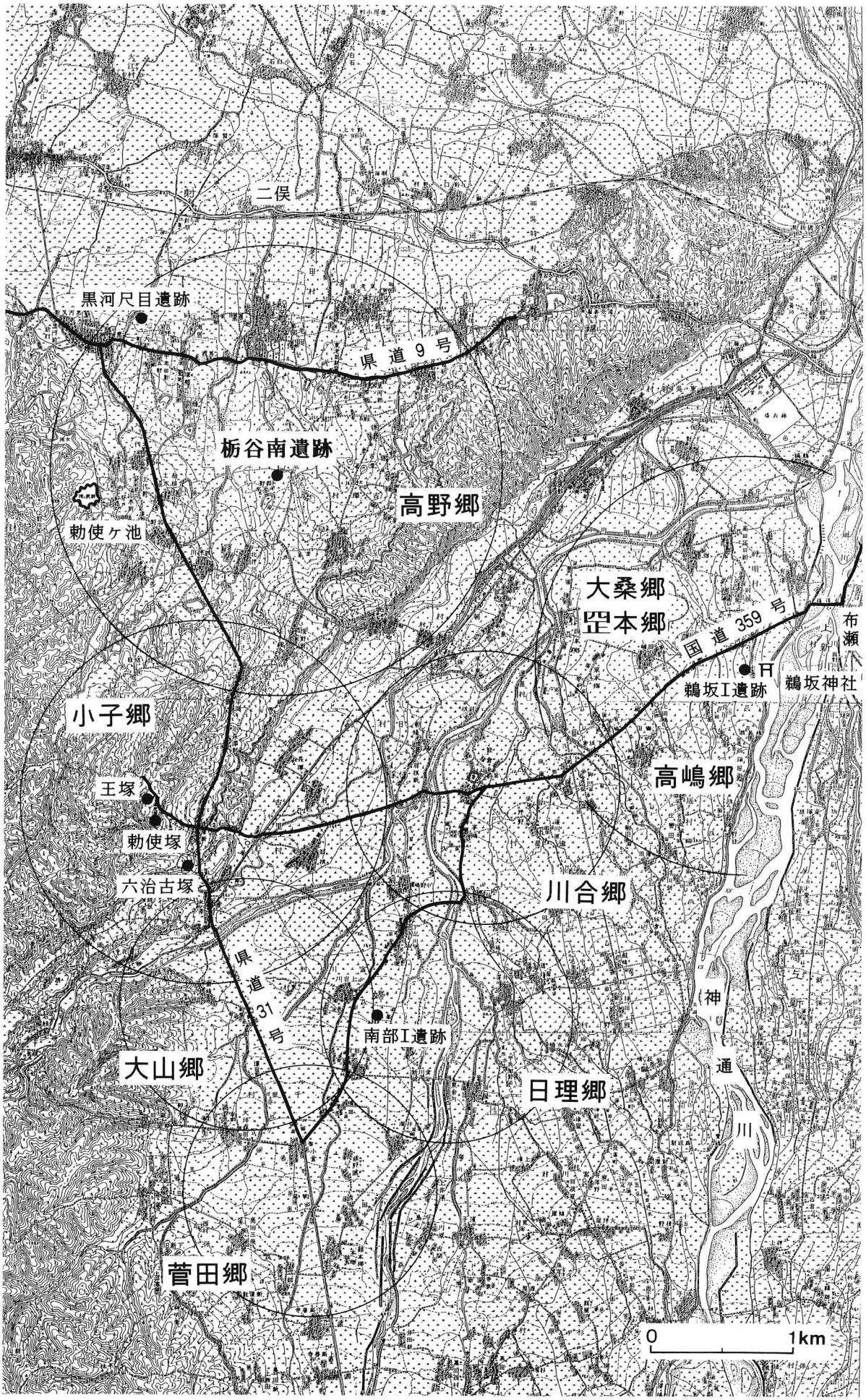
大伴家持の渡河

国道359号線は有沢橋へと通じ、そこで神通川を渡河する。古代においてもこの辺りに渡河地点があったと推測できる。対岸に布瀬や下黒瀬といった「瀬」地名が認められる。『万葉集』で大伴家持が婦負郡の河川の渡河に関して、「鵜坂川渡る瀬多み…」（巻17－4046）や「婦負川の早き瀬ごとに…」（巻17－4047）の「瀬」は、この辺りの浅瀬を指すと思われる。

『和名類聚抄』の婦負郡９郷は、今日の婦負郡域にアウトランダムに広域に分散していたのではなく、官道、郷道のミチ順に従って営郷されていたと思われる。このような視点から郷域の比定についての見直しが行わなければならないであろう。

おわりに

古代婦負郡の領域の始まりについて考えるとき、『和名類聚抄』の「各郡の筆頭にくる郷が、郡家



第1図　婦負郡の想定古代道路体系と郷地　—明治43年「迅速図」使用—

所在郷である可能性が高い」（『婦中町史　通史編』164頁）とする指摘がある。これに準拠すれば、婦負郡の郡家所在郷は「高野郷」となる。高野郷想定地は境野新扇状地が展開する領域にあって、旧池多村・古澤村を含む範囲となる。史料的にも栃谷村は近世古澤村にあり、婦負郡長澤郷に属している。栃谷南遺跡は、官窯の性格をもつことからも郡家を有する高野郷に帰属するであろう。

ところで、高野郷の郡家の候補遺跡について旧池多村・古澤村では未だ不明である。一方、射水郡小杉町黒河に所在する黒河尺目遺跡では、８世紀後半から９世紀前半の竪穴状土坑をはじめ、掘立柱建物跡４棟などが発掘されていて中核的遺跡の様相を呈している（上田・三島　2001年）。出土品には、蛋白石製の石帯があり官衙的性格がうかがえる。当地は射水郡の最端域に位置し、婦負郡の入口部に相当する。黒河は、古代から交通の要衝の位置を占めている。栃谷南遺跡の年代は、黒河尺目遺跡よりも四半世紀ほど古いので直接的な対比はできないが、黒河尺目遺跡の周辺が政治的に重要な地域であったのは間違いないだろう。婦負郡の郡家の所在の検討に黒河尺目遺跡は欠かせない。

いずれにしろ、栃谷南遺跡は古代婦負郡高野郷に属するであろう。高野郷には郡家が所在していた可能性が大きいので、窯業経営には郡司の直接的関与があったものと思われる。かって栃谷地区は婦負郡長沢郷（推定小子郷を含む）に属していたことにも暗示されているように、王塚古墳・勅使塚古墳を表象とする小子郷との親近性の強い地域であるようだ。ちなみに栃谷南遺跡の位置は、境野新扇状地すなわち高野郷の地理的中心にあり、黒河尺目遺跡や婦負郡の地域表象である王塚古墳・勅使塚古墳、そして推定白城駅をほぼ３km圏内に置いている。栃谷南遺跡が官窯として設置され長期にわたって操業された歴史的背景として、このような遺跡や地理的位置が深く関わっていると思われる。

古代越中国には、礪波、射水、婦負、新川の4郡が置かれていた。これまでの史料では婦負郡以外の郡を本貫地とする官人は散見できるが、婦負郡出身の官人は知られていない。しかし、これをもって婦負勢力が他郡に比して弱勢であったとはいえない。

平城宮から婦負郡の銘のある木簡や墨書土器が出土していて（昭和41年度平城宮第32次補足調査、平城宮第43次発掘調査）、都に出仕した下級官人に婦負郡の出身者がいたことが指摘されている（木本 1996年）。しかも、越中国では婦負郡以外の郡からの出仕は確認されていない。下級官人とはいえ都への出仕は、地域の名門の血筋を引く豪族の子弟から選任された可能性が高いだろう。古墳時代以来の、「小子部」との関わりで示唆される婦負の力がこのような面に現れていると思われる。

大伴家持が天平20年（748）春、出挙のため国内を巡行し、「婦負郡の鵜坂川（巻17－4046）や婦負川（巻17－4047）」を渡った際に歌を二題詠んでいる。これなども、婦負勢力に対する配慮であろうし、途中、地域表象としての古墳へも礼を尽くしたであろう。また、越中国奈良時代の東大寺領荘園は、礪波、射水、新川郡には野占されたが、婦負郡だけは設定されなかった。これについても、古墳時代以来の婦負勢力の伝統力の故に野占が見送られたのではないだろうかと想像している。

（余録・勅使道の呼称）

婦中町長沢集落の背後の丘陵上に勅使塚古墳（県指定史跡）がある。伝説があって、「上古各願寺を北叡山とて勅願なるを、能州天平寺の衆徒攻破り押領せし頃、偶ま勅使ありしを、衆徒謀りて之を殺す。其の塚なりと云う」（森田 1979年）とある。もちろん勅使塚古墳は古墳時代の築造であって、各願寺勅使と時代が合わない。また、天保九年（1838）の「婦負郡上新川郡之内村々組分繪圖」（新湊市博物館蔵）に、山本新近くの射水郡境に「勅使堤」が表記されている。同堤は、明治43年測量の迅速図『呉羽村』には「勅使ヶ池」と記されていて、今日も勅使の呼称が継続している。さらに『越中史徴』（438頁）には射水郡の黒川村にも勅使塚のあることが記され、「勅使塚　黒川村。太閤山土居之内に勅使塚とて少し高處に、松・杉各一株猶存すと。古墟考にいへり」とあって、『越中史徴』

では、天正十三年の豊太閤宿陣の時、この地へ勅使が下向したことによると推考している。射水郡小杉町下条にはいわゆる「勅使街道」があり、水戸田は宿場であったとされている（伊藤　2002年）。この勅使街道は水戸田から黒河へ通じる、県道９号線を指す。

このように、当地とその周辺に「勅使」の呼称を４か所にわたって知ることが出来る。　それらには、各願寺伝承や太閤宿陣に伴う勅使が推考されているが、いずれも後世、名称の説明として成立した可能性がある。これらの「勅使」呼称地は、小杉町水戸田から黒河までの県道富山・戸出・小矢部線（県道９号線）の「正方位計画道路」及び黒河で南東へ分岐する県道小杉・婦中線（県道31号線）の「斜方位直線道路」に沿って在る。このルートに沿って「勅使」称があるのは、このルートがいつの世にか勅使道として機能していたことを暗示している。

中村太一氏は、駅路関係地名として「勅使道」が地名として残る場合があることを指摘している（中村　2001年）。群馬県立歴史博物館での講演で、それは大分県の宇佐八幡への道にみられ、勅使の通る道として由来したものだろうとされた。これを援用すれば、前述ルートが古代幹道としての性格にふさわしいものと推考される。勅使地名の由来について、史家に教えを乞いたいと思っている。

※以上、冗長な駄文を重ねてしまった。史学の正当な方法から逸脱し、想像でもって記述を進めた個所も多いと思うが、これまで明確でなかった婦負郡域の郷域比定の論議についていくらかでも資するところがあれば幸いである。

参考文献

伊藤　曙覧　2002年　『小杉町の地名』小杉町民図書館編・小杉町教育委員会

上田　尚美・三島　道子　2001年　「Ⅳ　主要地方道小杉婦中線関連遺跡発掘調査」『埋蔵文化財調査概要』財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

大野　英子　2002年　「文化財レポート　富山県婦中町千坊山遺跡群」『日本歴史』４月号（第647号）吉川弘文館

木本　秀樹　1996年　「第二節　律令制下の婦負郡」『婦中町史　通史編』婦中町

久保　尚文　1996年　「第二節　源平争乱と鎌倉幕府」『婦中町史　通史編』婦中町

杉谷自治振興会　1977年　『杉谷の里　歴史と風土』

中村　太一　2000年　『日本の古代道路を探す』平凡社

中村　太一　2001年　「日本古代の駅制と駅路」『古代のみち―たんけん　東山道路―』群馬県立歴史博物館

藤井　一二　1988年　「国指定史跡「じょうべのま遺跡」と寺領荘園」『日本海地域史研究』第８輯　文献出版

藤田富士夫　2000年　「古代北陸道を復元する」『考古学フォーラム　奈良時代の高岡を語る』資料　高岡市立二上公民館

藤田富士夫　2001ａ年　「東大寺領越中国荘園「丈部荘」の現地比定と若干の考察」『富山史壇』135・136号合併号　越中史壇会

藤田富士夫　2001ｂ年　「附編・１　古代の表象としての若王子塚古墳」『富山市水橋金広・中馬場遺跡発掘調査報告書』富山市教育委員会

婦中町史編纂委員会　1996年　『婦中町史　通史編』婦中町

婦中町史編纂委員会　1997年　『婦中町史　資料編』婦中町

森　　公章　2000年　「小子部」『日本歴史大事典』２　小学館

森田　柿園　1979年　『越中史徴』第二版　富山新聞社

iv）自然科学分析

1. 高岡市周辺の遺跡から出土した須恵器・瓦の蛍光X線分析

大谷女子大学教授　三辻　利一

国府Ⅰ遺跡から出土した瓦の分析データから説明する。分析データは表１にまとめられている。両分布図を図１に示す。K-Ca分布図では縄目瓦の大部分を包含するようにしてA領域を描いてある。また、Rb-Sr分布図では格子目瓦の大部分を包含するようにしてB領域を描いた。図１をみると、縄目瓦の胎土と格子目瓦の胎土は若干、異なることがわかる。このことは両方の瓦は別場所で作られた可能性があることを示唆している。今後の研究の参考になるデータである。

図２には美野下遺跡および東木津遺跡出土須恵器の両分布図を示す。両遺跡の須恵器は同じ位置に分布しており、同じ産地の製品であることを示している。美野下遺跡の須恵器はRb-Sr分布図をみると、２群に分かれることがわかる。Ca、Sr量が少ない群をA群とし、逆に、Ca、Sr量が多い試料群をB群とした。前者は富山県西部地域の製品と推定される。また、後者は富山県東部地域の製品と推定される。美野下遺跡には主として、西部地域の製品が供給されていたが、東部地域の製品も供給されていたことがわかる。東木津遺跡へは西部地域の製品のみが供給されていた。８～９世紀代には富山県内には多くの須恵器窯があり、いくつかの群に分類しているが、当面は西部地域と東部地域に二分して産地推定のデータを集積するほうがよいようにおもわれる。西部地域の製品が東部地域の遺跡からどの程度出土するか、また、東部地域の製品が西部地域の遺跡からどの程度出土するかが当面の問題である。

図３には栃谷南遺跡の粘土と窯壁の分析結果を示す。窯壁は灰釉が付着したりして、Ca、Sr量が著しく変動する場合がある。大きくずれる２点の窯壁試料を除くと、粘土も窯壁も両分布図上で類似した位置に分布しており、同じ化学的指紋をもつことを示している。この粘土が少なくとも、窯壁の材料になった可能性はあることがわかる。他の土器の分析結果とも比較すれば、この粘土がどの程度、土器の素材として広く活用されたかがわかるはずである。

図１　国府Ⅰ遺跡出土瓦の両分布図

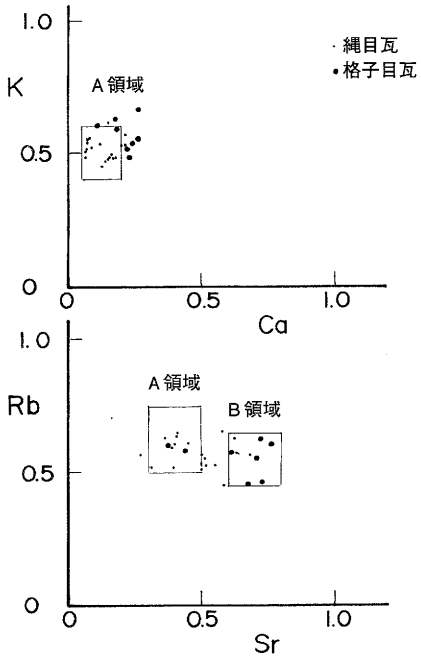


図2　美野下遺跡および東木津遺跡出土須恵器の両分布図

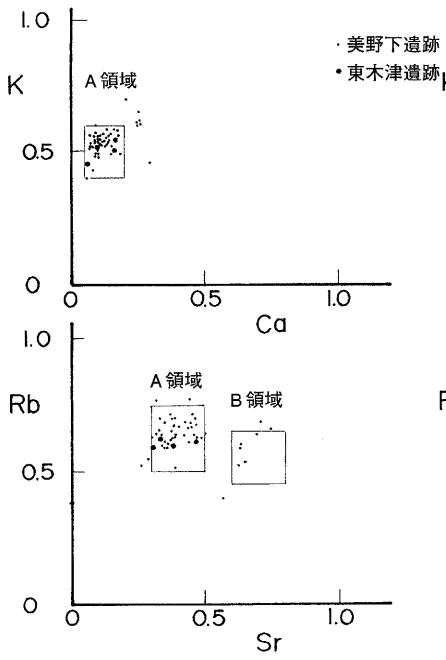
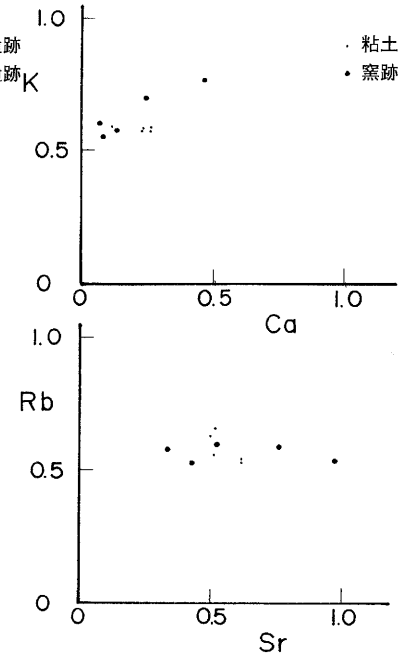


図3　栃谷南遺跡出土粘土および窯壁の両分布図



2．栃谷南遺跡における地中レーダ探査

富山大学大学院人文科学研究科2年　岸田　　徹
富山大学理学部教授　酒井　英男

はじめに

栃谷南遺跡一帯は、過去の土地改良事業により造成を受け、現在では平坦な水田となっている。遺跡自体も、その造成時に削平を受けているが、過去の谷筋に沿って削平を免れた遺構が存在している可能性も考えられた。今回の探査の目的は、試掘調査に先立ち、谷地形を確認することを第一の目的とし、その中で異常応答地点を捉え、遺構の存在を推定することとした。

探査の概要

探査は2001年11月23～26日の４日間を予定していたが、降雨により散発的に行うこととなった。探査方法は、地中構造を捉えるのに適した地中レーダ探査を採用した。使用した機器はカナダSensor & Software社のPulseEKKO1000、アンテナ周波数は225MHzである。探査区は４つの地区に分割して設定した。それぞれの地区名は第１図のとおりである。

結果の解析は、電磁波の反射による擬似的断面図（Profile図）と、一定深度でのレーダ波の反射強弱を平面図化するTime-Slice法にて行った。なお探査深度を求めるため、地中の電磁波の伝播速度を測定するＣＭＰ探査を実施した（Annan and Cosway, 1992）。その結果NW区、SW区の土壌における電磁波の伝播速度は0.047m/nsと推定できた。本探査ではこれらを利用して探査深度を設定した。

それぞれの探査地区における測線間隔は、SW区は１m間隔、NW区、NE区は２m間隔、SE区は５m間隔（最後３m間隔）で、走査方向はすべて東西方向である。

探査の結果

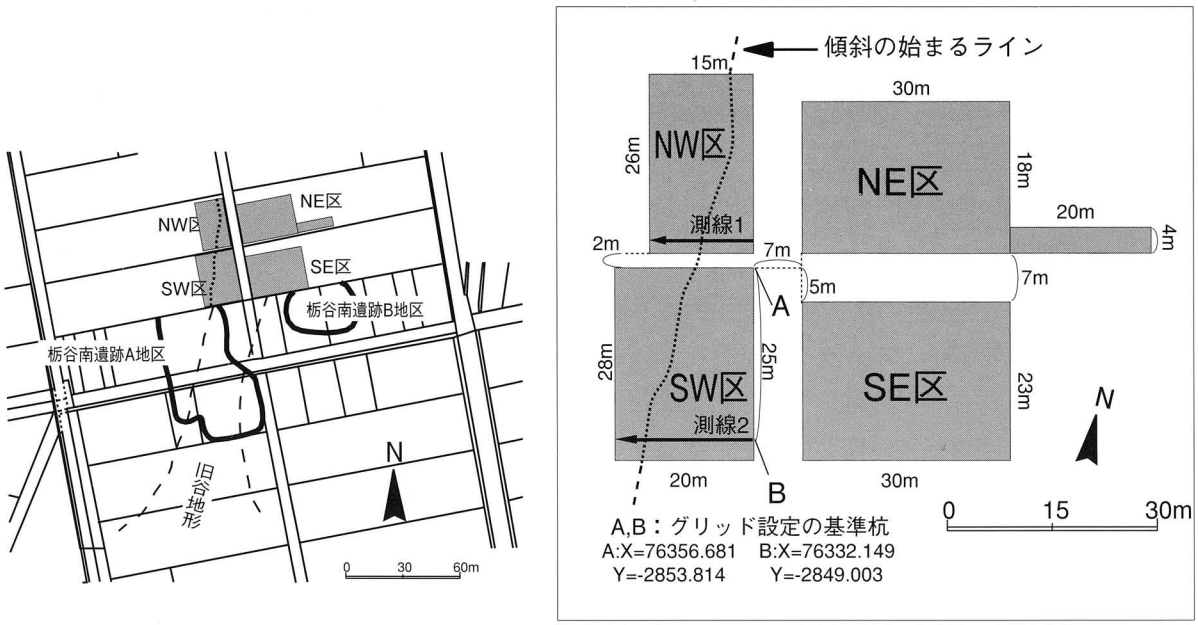
代表的な探査結果を第２図に示す。NW区・SW区とも西から東に緩やかに傾斜する構造が見られた。これが造成によって埋め立てられた際、削平されずに残った谷地形を捉えたものであろう。この構造は地表下約50cm以内より始まり探査できた範囲では深さ２m近くまで続いている。この東下がりの傾斜が始まる地点をもとに現存する谷筋を復元した（第１図に点線で示す）。また60nsの深さ（地表下約1.4m）にも何らかの土層構造が見られるが、粘土地山層下の礫層かとも考えられる。

NE区・SE区では谷地形を捉えた明確な応答を得られなかった。その原因としては、NW区・SW区は畑であったのに対しNE、SE区は水田であったため土壌の含水率が高く、電磁波が減衰し地中深くまで入っていかなかったためであろうと思われる。

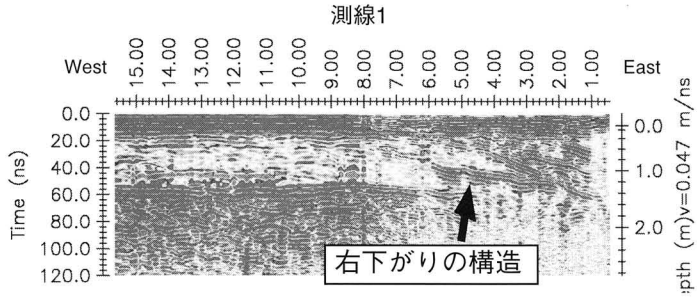
次に、SW区のTime-Slice図が第３図である。今回、他の地区では測線間隔が２m以上であったので、Time-Slice図は作成しなかった。何箇所かの異常応答が確認できる。AおよびB地点の応答はその範囲も比較的大きく、ある程度の深度までその応答が続くため、何らかの遺構を捉えている可能性が高いと思われる。

参考文献

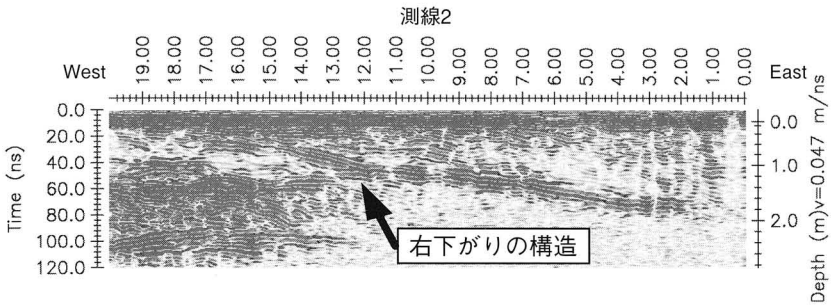
・富山市教育委員会　1999　『栃谷南遺跡』富山市内遺跡発掘調査概要Ⅲ
・Annan, A.P. and Cosway, S.W. Ground penetrating radar survey design, Annual Meeting of SAGEEP,　1-12 (1992).



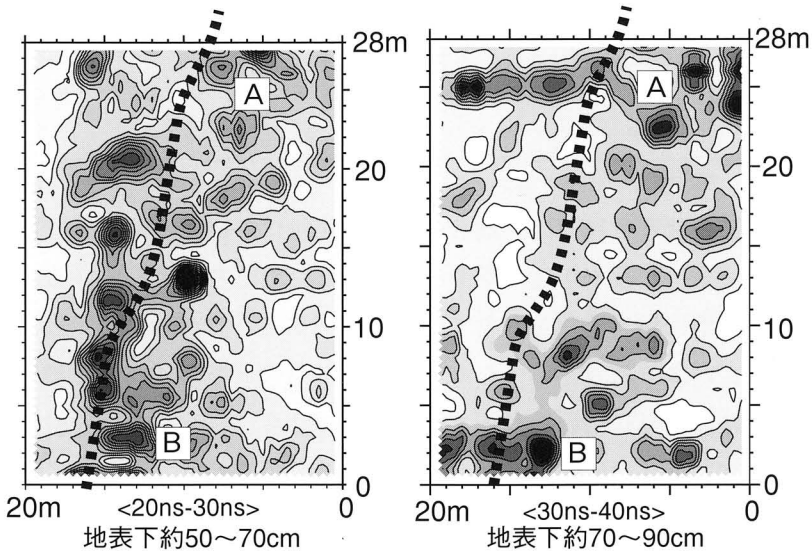
第１図　栃谷南遺跡レーダ探査範囲



第2-1図
NW地区におけるProfile図
（pulseEKKO1000,225MHz）



第2-2図
SW地区におけるProfile図
（pulseEKKO1000,225MHz）



第3図（右図）SW地区Time-Slice図
（黒色が応答の強い地点を示す。破線は探査結果による傾斜の始まるライン）

3．栃谷南遺跡の自然科学分析(1)

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

栃谷南遺跡では、奈良時代の窯跡、灰原、粘土採掘穴、井戸跡、小穴群などが検出されている。窯跡からは、須恵器や瓦等が出土しており、これらの焼成を行っていたことが推定される。いずれも、発掘調査所見から複数回の操業が行われていたことが推定されている（富山市教育委員会，1999）。これらの窯跡や灰原では、焼成時の燃料材の一部と考えられる炭化材が大量に出土している。

本報告では、これらの炭化材について、加速器質量分析計による放射性炭素年代測定を行い、各遺構の使用時期、灰原の堆積時期を明らかにすると共に、炭化材と出土した木製品の樹種同定を行い、用材選択に関する資料を得る。なお、出土した銅製品のＸ線分析については稿を改めて報告する。

1．放射性炭素年代測定

(1) 試料

試料は、１～３号窯跡の各層やＤ区西壁から採取した炭化材11点である。各試料の詳細は、測定結果と共に表１に記す。

(2) 分析方法

測定は、株式会社地球科学研究所を通じて、米国ベータ社で行った。

(3) 結果

測定結果を表１に示す。表中の測定年代および同位体補正年代は、A.D.1950年を基点とする年代（B.P.）であり、誤差は標準偏差１σに相当する年代である。また、半減期はLIBBYの5568年を用いている。なお、$^{13}C/^{12}C$の値は、試料炭素の$^{13}C/^{12}C$原子比を質量分析器で測定し、標準にPDBを用いて同様に算出した値である。

各窯の試料は、いずれも６～７世紀の年代を示し、７世紀後半を示す試料がやや多い傾向が窺える。

表１　放射性炭素年代測定結果

地区	遺構名	出土位置	番号	試料の質	測定年代	$^{13}C/^{12}C$(0/00)	同位体補正年代	Code No.
A区	２号窯	１４層		炭化材	1280±50	−24.6	1290±50	Beta−140594
		灰ａ　６層	2	炭化材	1440±50	−26.8	1410±50	Beta−140595
		灰ｂ　11層		炭化材	1250±50	−24.2	1260±50	Beta−140596
		灰ｂ　７層		炭化材	1310±50	−26.0	1290±50	Beta−140597
D区	１号窯	灰ｄ　最下層	21	炭化材	1440±50	−25.6	1430±50	Beta−140598
		ベルト　12・14層		炭化材	1300±50	−24.8	1300±50	Beta−140599
		ベルト　28層		炭化材	1250±50	−25.0	1250±50	Beta−140600
	３号窯	21・22・23層		炭化材	1290±50	−23.8	1310±50	Beta−140601
		24層		炭化材	1280±50	−26.0	1260±50	Beta−140602
	西　壁	１層		炭化材	1370±50	−26.4	1350±50	Beta−140603
		２層	844	炭化材	1300±50	−24.8	1300±50	Beta−140604

(4) 考察

発掘調査所見では、栃谷南遺跡の窯跡は白鳳期の御亭角廃寺が造営された後、越中国分寺が造営されるまでの数十年間の期間に営まれていたと考えられている。この時期は、文献記録などからは８世紀前半に相当するとされている。今回測定された試料の年代は、この所見に比べると数10～100年ほど古いようにみえる。しかし、１）放射性炭素年代は測定値の誤差をみてもわかるように100年以下の時期区分に用いられるような精度ではないこと、２）放射性炭素年代を単純に暦年代に読み替えることはできないことの２つがあげられる。このうち、１）については、「放射性炭素年代測定は新しい試料ほど測定の精度（信頼度）が落ちる」ように思えてしまう。しかし、技術的な測定精度は、試

料の新・旧の程度よりも試料の状態（量、汚染度など）による影響の方がはるかに大きい。2）については、過去における宇宙線の強度が一定ではないために過去の大気中のCO_2における^{14}Cの濃度が一定でないことに起因する。放射性炭素年代を暦年代に補正する試みが樹木の年輪の測定などにより古くから行われているが、補正データが複数あることといずれも国外における測定データであることおよび補正されたデータにしても結局は年代誤差幅を伴うことなどから、暦年補正が今回のような詳細な年代推定に有効であるとはいえない。

以上のことと今回の試料の年代が示す年代幅が比較的まとまっていることを考慮すれば、今回の測定結果は、発掘調査所見を支持するものとして評価できる。

2．炭化材の樹種同定

(1) 試料

試料は、1～3号窯、D区西壁等から採取された炭化材39点と、調査区中央北端の包含層上部（X 86Y-55）から出土した透彫り木製品1点である。炭化材の多くは一括採取されたものであり、接合関係の不明な炭化材が多数入っている。そのため、一括試料については、無作為に複数点を選択した。その結果、合計点数は167点となる。

(2) 方法

炭化材は、木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の特徴を観察し、種類を同定する。

木製品は、実体顕微鏡で表面を観察し、木材組織の特徴からの同定を試みた。

(3) 結果

樹種同定結果を表2に示す。保存が悪い試料については、観察できた範囲での結果を記した。その他の試料は、全て広葉樹材で、10種類（クマシデ属イヌシデ節・コナラ属コナラ亜属クヌギ節・コナラ属コナラ亜属コナラ節・モクレン属・アジサイ属・サクラ属・ヌルデ・カエデ属・エゴノキ属・ムラサキシキブ属）に同定された。各種類の主な解剖学的特徴を以下に記す。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節（*Quercus subgen. Lepidobalanys sect. Cerris*）**ブナ科**

環孔材で、孔圏部は1～2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら放射状に配列する。道管は単穿孔を有し。壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節（*Quercus subgen. Lepidobalanys sect. Prinus*）**ブナ科**

環孔材で、孔圏部は1～2列、孔圏部で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・モクレン属（*Magnolia*）**モクレン科**

散孔材で、管壁厚は中庸～薄く、横断面では角張った楕円形～多角形、単独および2～4個が放射方向に複合して散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は階段状～対列状に配列する。放射組織は異性Ⅱ型、1～2細胞幅、1～40細胞高。

表2　樹種同定結果

地　区	遺構名	出土位置	座標 X	座標 Y	座標 Z	番号	試料の質	点数	樹　種
A　区	2号窯	14層					炭化材	2	コナラ属コナラ亜属クヌギ節(1)
									クマシデ属イヌシデ節(1)
		23層	73	−63	15.850		炭化材	15	クマシデ属イヌシデ節(15)
		23層	73	−63	15.850		炭化材	20	アジサイ属(15)
									広葉樹(2)
									サクラ属(3)
		5層				18	炭化材	1	クリ(1)
		灰a　4層				3	炭化材	1	広葉樹(1)
		灰a　5層					炭化材	2	コナラ属コナラ亜属クヌギ節(1)
									クマシデ属イヌシデ節(1)
		灰a　6層				2	炭化材	1	クマシデ属イヌシデ節(1)
		灰b　11層					炭化材	8	コナラ属コナラ亜属クヌギ節(1)
									カエデ属(3)
									クマシデ属イヌシデ節(4)
		灰b　7層					炭化材	6	クマシデ属イヌシデ節(1)
									コナラ属コナラ亜属クヌギ節(2)
									モクレン属(2)
									カエデ属(1)
		灰c　63層上層				1	炭化材	1	アジサイ属(1)
		灰c　72層	74	−58	15.730	6	炭化材	1	サクラ属(1)
		ベルト6層	73	−63	15.799		炭化材	5	アジサイ属(4)
									広葉樹(1)
		ベルト6層(前低部)	73	−63	15.790	26	炭化材	1	クマシデ属イヌシデ節(1)
D　区	1号窯	灰b　132層				5	炭化材	1	コナラ属コナラ亜属コナラ節(1)
		灰b　70層				4	炭化材	1	サクラ属(1)
		灰b　最下層	71	−59	15.297	21	炭化材	1	コナラ属コナラ亜属コナラ節(1)
		ベルト　12・14層	71	−54	15.764		炭化材	12	クマシデ属イヌシデ節(4)
									カエデ属(5)
									クリ(2)
									広葉樹（散孔材）(1)
		ベルト　12・14層	71	−54	15.764		炭化材	8	コナラ属コナラ亜属クヌギ節(1)
									クリ(2)
									クマシデ属イヌシデ節(4)
									サクラ属(2)
		ベルト　27・30層	71	−56	15.441	14	炭化材	1	クマシデ属イヌシデ節(1)
		ベルト　28層	71	−60	15.519		炭化材	10	サクラ属(10)
	3号窯	21・22・23層	66.81	60.44	15.787		炭化材	8	コナラ属コナラ亜属クヌギ節(8)
		24層	66.56	59.50	15.687		炭化材1	6	クマシデ属イヌシデ節(2)
									コナラ属コナラ亜属クヌギ節(1)
									広葉樹(1)
									ヌルデ(1)
									カエデ属(1)
							炭化材2	5	広葉樹(5)
							炭化材3	4	コナラ属コナラ亜属クヌギ節(1)
									カエデ属(3)
	西　壁	1層					炭化材	10	カエデ属(6)
									ヌルデ(3)
									アジサイ属(1)
		2層				844	炭化材	20	エゴノキ属(6)
									カエデ属(8)
									クリ(1)
									コナラ属コナラ亜属クヌギ節(2)
									サクラ属(1)
									クマシデ属イヌシデ節(1)
									広葉樹（散孔材）(1)
		灰a　152層	67	−59	15.700	8	炭化材	1	クマシデ属イヌシデ節？(1)
		灰a　153層	69	−60	15.665	10	炭化材	1	モクレン属(1)
		灰a−fm　156層	65.61	−60.83	15.895	23	炭化材	1	コナラ属コナラ亜属コナラ節(1)
		灰b　15層	71	−55	16.557	11	炭化材	1	モクレン属(1)
		灰　f　西壁　3層	65	−59	15.915	9	炭化材	1	カエデ属(1)
		SX11　土器だまり	70	−54	15.775	12	炭化材	1	サクラ属(1)
		B−C　ベルト中	75	−52	16.061	15	炭化材	1	コナラ属コナラ亜属コナラ節(1)
		B−C　ベルト中	74	−53	15.779	16	炭化材	1	クマシデ属イヌシデ節(1)
		A−D　ベルト中	71	−63	16.179	19	炭化材	1	サクラ属(1)
		A−B　ベルト中	80.62	56.27	15.420	25	炭化材	1	クリ(1)
		記入なし	107.708	−69.806		27	炭化材	1	クリ(1)
		記入なし	107.602	−67.761		78	炭化材（丸材）	3	ヌルデ(1)
									ムラサキジキブ属(1)
									エゴノキ属(1)
							炭化材（半丸）	1	クリ(1)
		非破壊で樹種同定	86	−55	16.789		木製品	1	広葉樹

・クマシデ属イヌシデ節（*Carpinus subgen. Euarpinus sp.*）　　カバノキ科

散孔材で、管孔は放射方向に2～10個が複合して散在し、年輪界付近で径を減ずる。道管は単穿孔を有し、壁孔は対列状～交互状に配列する。放射組織は異性ＩＩＩ型、1～3細胞幅、1～40細胞高のものと集合放射組織がある。

・サクラ属（*Prunus*）バラ科

散孔材で、管壁厚は中庸、横断面では角張った楕円形、単独または２～８個が複合して散在し、晩材部へ向かって管径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性Ⅲ型、１～４細胞幅、１～30細胞高。

・ヌルデ（*Rhus javanica L.*）ウルシ科ウルシ属

試料は年輪界付近で割れている。年輪界には翌年の道管が僅かに残っており、その道管径の変化から環孔材と判断できる。小道管は、２～３個が複合して散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性Ⅲ～Ⅱ型、１～３細胞幅、１～20細胞高。特に上下に連結する。

・カエデ属（*Acer*）カエデ科

散孔材で管壁は薄く、横断面では角張った楕円形、単独および２～３個が複合して散在し、晩材部へ向かって管径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は対列～交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、１～５細胞幅、１～30細胞高。細胞壁の厚さが異なる２種類の木繊維が木口面において不規則な紋様をなす。

・アジサイ属（*Hydrangea*）ユキノシタ科

散孔材で、小型の道管がほぼ単独で年輪界に一様に散在する。道管は階段穿孔を有し、壁孔は階段状に配列する。放射組織は異性Ⅰ型、１～２細胞幅、１～30細胞高。単列部が時に上下に連結する。

・エゴノキ属（*Stttyrax*）エゴノキ科

散孔材で、横断面では楕円形、単独または２～４個が複合して散在し、年輪界付近で管径を減ずる。道管はる道管は階段穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性Ⅱ型、１～３細胞幅、１～20細胞高。

・ムラサキシキブ属（*Callicarpa*）クマツヅラ科

散孔材で、横断面は多角形、管孔は単独および２～３個が複合して散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性Ⅱ～Ⅰ型、１～３細胞幅、１～20細胞高。

(4) 考察

窯跡等から出土した炭化材には、クヌギ節、コナラ節、イヌシデ節などが比較的多く利用されているが、合計で10種類が確認されており、様々な種類が利用されていたことがうかがえる。炭化材が出土した窯は合計３基あるが、出土した炭化材の種類構成に大きな違いは認められない。このことから、いずれの窯でも基本的には同様の用材選択が行われていたことが推定される。また、各窯では、複数回の操業が行われていたことが確認されている（富山市教育委員会，1999）。しかし、層位による種類構成の違いも明確ではなく、ほぼ同様の用材選択が継続されたと考えられる。

本地域では、太閤山周辺の製鉄遺跡から出土した燃料材や、小杉町椎土遺跡の炭窯から出土した炭化材の樹種同定が行われている（島地・林，1983ａ，1983ｂ，1984；林，1988）。これらの結果を見ると、針葉樹が多い結果も見られるが、基本的には多くの広葉樹で構成されている結果が得られている。このような利用状況は、今回の結果とも一致しており、同様の用材選択が行われていたことが推定される。広葉樹材が多い背景には、環減炎を
得るためには堅い材質の木材の方が適しているため、材質を考慮した用材選択が行われたことが考えられる。

一方、透彫り木製品は、実体顕微鏡による観察で、道管部分に泥が入ったために白い斑点となり、散在している様子が見られた。針葉樹は道管を持たないことから、試料は広葉樹と判断できる。道管の散在状況から、いわゆる散孔材の道管配列を有する種類と考えられるが、同定には至らなかった。

透彫り木製品は、その形状から東大寺不空羂索観音像の台座などに見られる、「対葉花文」と呼ばれる透彫りであり、小型の木彫仏の台座や宝冠に付くものと考えられている。仏像やその関連の部材について行われた調査では、飛鳥時代の仏像にはクスノキが圧倒的に多いが、奈良時代頃から針葉樹のカヤが多く利用されるようになる（金子ほか，1998）。また、今回と同様に彫刻が施された弧文円板が、奈良県纏向遺跡や東大阪市宮ノ下遺跡で出土しているが、いずれもクスノキに同定されている（嶋倉，1976；パリノ・サーヴェイ株式会社，1996）。このような利用の背景には、クスノキが香木であるために、白檀などの代用として利用されたとの指摘がある。これらのことを考慮すれば、今回の透彫り木製品が国産であった場合にはクスノキの可能性がある。

引用文献

林　昭三（1988）椎土遺跡出土木炭の樹種．「椎土遺跡・塚越貝坪遺跡発掘調査概要」，p 41—48，小杉町教育委員会。

金子啓明・岩佐光晴・納城修一・藤井智之（1998）日本古代における木彫像の樹種と用材観十七・八世紀を中心に、MUSEUM（東京国立博物館研究誌）、555，p．3—53．

小原二郎（1972）木の文化、217 p．，鹿島出版会

パリノ・サーヴェイ株式会社（1996）出土木製品の樹種。「宮ノ下遺跡第１次発掘調査報告書—第１分冊—」，p 113—138，東大阪市教育委員会・財団法人東大阪市文化財協会。

島地　謙・林　昭三（1983 a）出土木炭の樹種。「県民公園太閤山ランド内遺跡群調査報告書(2)」，p 57—61，富山県教育委員会

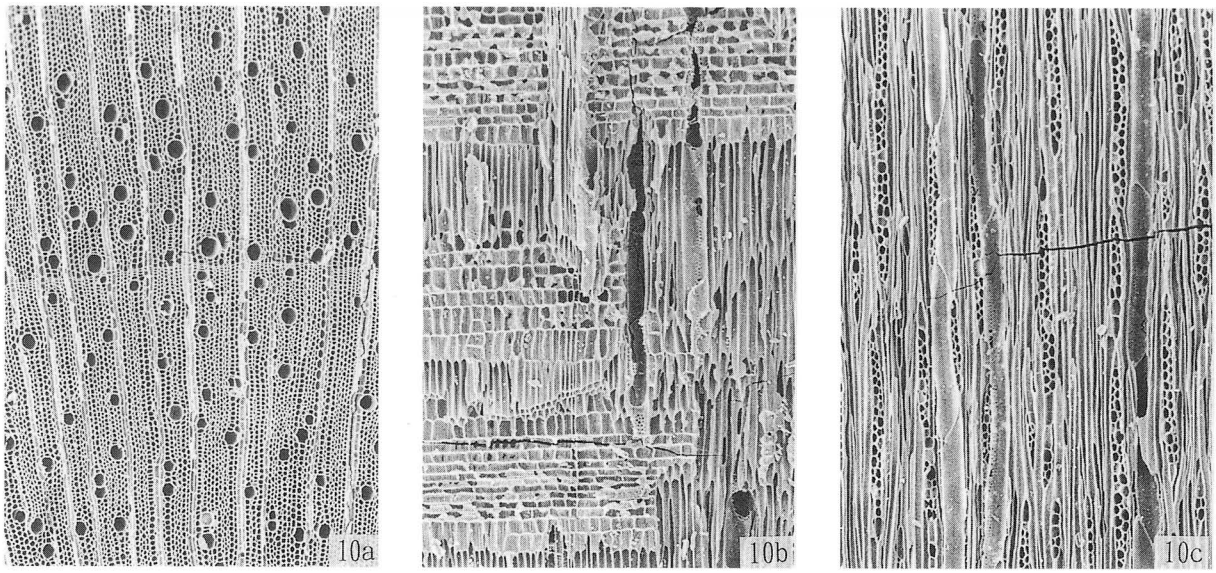
島地　謙・林　昭三（1983 b）出土木炭の樹種。「都市計画街路　七美・太閤山・高岡線内遺跡群発掘調査概要」，p 68—76，富山県教育委員会

島地　謙・林　昭三（1984）出土木炭の樹種識別。「都市計画街路　七美・太閤山・高岡線内遺跡群発掘調査概要(2)」，p 34—35，富山県教育委員会

嶋倉巳三郎（1976）木製品の材質。「纏向　奈良県櫻井市纏向遺跡の調査」，p 394—412，櫻井市教育委員会

富山市教育委員会（1999）栃谷南遺跡．34 p

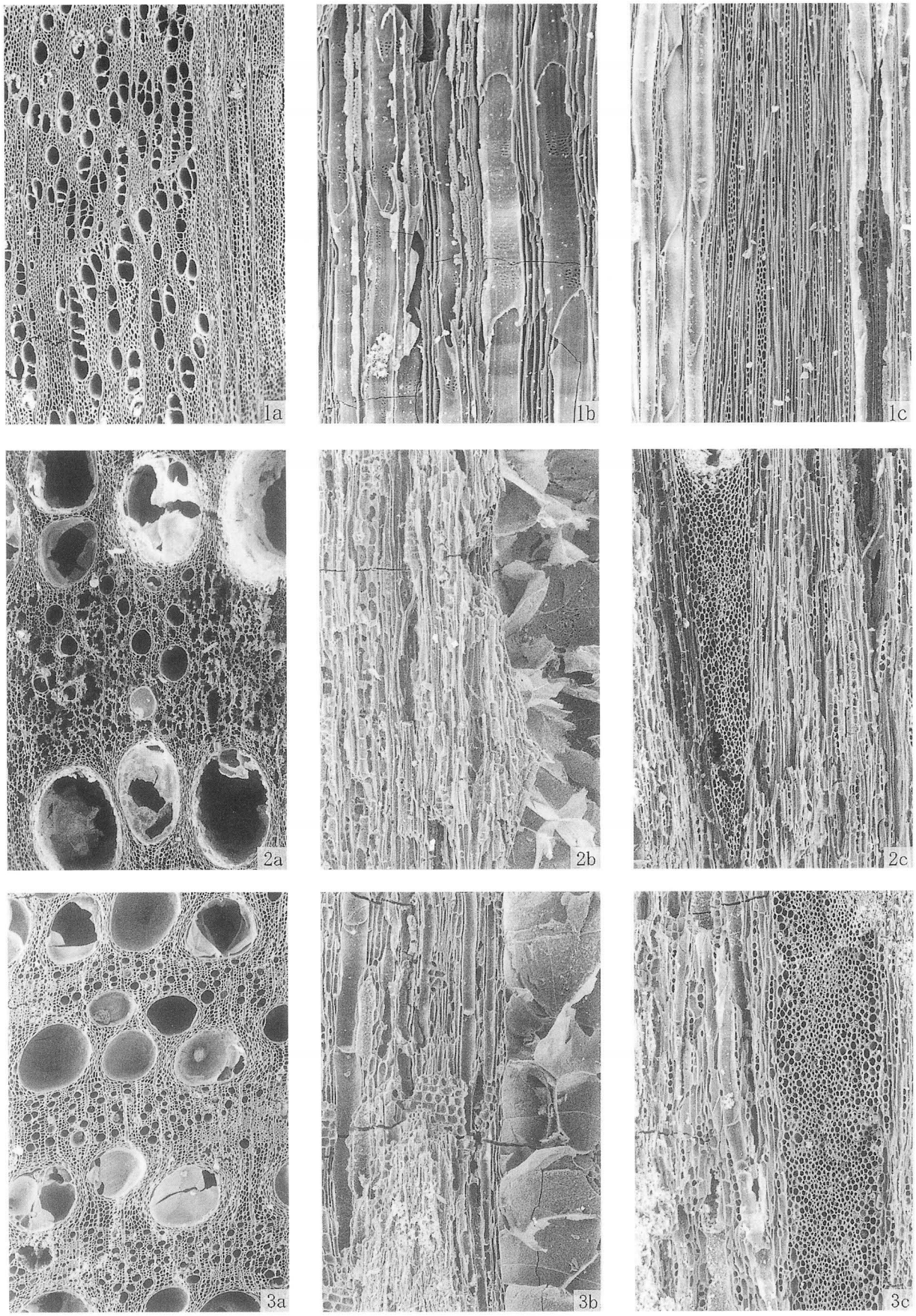
図版４　炭化材(4)



10．ムラサキジキブ属（試料番号78）
　a：木口，b：柾目，c：板目

200μm：a
200μm：b，c

図版１　炭化材(1)



１．クマシデ属イヌシデ節（灰ａ1522層No.８）
２．コナラ属コナラ亜属クヌギ節（１号窯ベルト12—14層）
３．コナラ属コナラ亜属コナラ節（１号窯灰ｂ132層No.５）
　ａ：木口，ｂ：柾目，ｃ：板目

200μｍ：ａ
200μｍ：ｂ，ｃ